

あなたも聖書を理解できます！

すべてはどのように始まったか：

創世記 1 – 1 1 章

ボブ・アトリー
聖書解釈学教授
(聖書解釈)

学習ガイド注釈シリーズ
旧約聖書, Vol. 1A

バイブルレッシンインターナショナル, マーシャル, テキサス州

Copyright©2001 by Bible Lesson International, Marshall, Texas (Revised 2006, 2008, 2009) All rights reserved. 出版元の許可文書なしに本書の一部をいかなる方法あるいは手段を用いても複製してはならない。

Bible Lesson International
P.O. Box 1289
Marshall, TX 75671-1289
1-800-785-1005

ISBN 978-892691-26-2

この注解書で主に用いられた聖書は:

New American Standard Bible (Update, 1995)
Copyright©1960, 1962, 1963, 1968, 1971, 1972, 1973, 1975, 1977, 1995 by
The Lockman Foundation
P.O. Box 2279
La Habra, CA 90632-2279

分割された段落、短い説明のための要約、選択された聖句の出典は:

1. The New King James Version, Copyright©1979, 1980, 1982 by Thomas Nelson, Inc. 許可を得て使用。All rights reserved.
2. The New Revised Standard Version of the Bible, Copyright©1989 by the Division of Christian Education of National Council of the Churches of Christ in the U.S.A. 許可を得て使用。All rights reserved.
3. Today's English Version は著作権所有者の許可を得て使用した。The American Bible Society, Copyright©1966, 1971 許可を得て使用。All rights reserved.
4. The New Jerusalem Bible, Copyright©1990 by Darton, Longman & Todd, Ltd. and Doubleday, a division of Bantam Doubleday Dell Publishing Group, Inc. 許可を得て使用。All rights reserved.

1995 年改訂版 The New American Standard Bible

読みやすくするために:

1. “thee’ s”や”thou’ s”等の古英語を含む聖句は現代英語に更新されている。
2. 過去20年間に意味の変化によって理解できるようになった語句は現代英語に更新されている。
3. “And”で始まる文はしばしば、古代語と英語との文体の違いを認識したうえで、より適切な英語に訳し直されている。元のギリシャ語とヘブル語は必ずしも英語に正確に対応していないので、多くの場合元のギリシャ語とヘブル語の“または”に正確に対応する現代英語が語句の置換に用いられている。その他の場合、元の言語中の語がそのように訳されるべきときには、“And”は文脈の解釈上“そして”あるいは“しかし”のような異なる語に訳されている。

以前より正確にするために:

1. 旧約聖書の最古かつ最良のギリシャ語原典の最近の研究が見直され、いくつかの聖句は原典によりはるかに忠実に新たに訳し直されている。
2. 対照聖句は比較され見直されている。
3. 意味の幅の広い動詞はいくつかの聖句中で、文脈内でより適切な意味に訳し直されている。

The NASB についてさらに:

1. 改訂版 The NASB の訳された内容はそれほど大きくは変化していない。The NASB の初版は時代の変化によく対応し、翻訳内容の変更の程度は The NASB の編集者の定めた基準を認めたとうえで最小限度に留まりつづけている。
2. 改訂版 The NASB は、元のギリシャ語とヘブル語を文字通りに妥協することなく訳するという The NASB の伝統を継承している。文脈中の語句の意味の変化はロックマン財団の Fourfold Aim の定めた厳しい判断基準の範囲内に留まりつづけている。
3. 改訂版 The NASB の出版に貢献した翻訳者と監修者は、聖書の言語や神学の博士号あるいはその他の上級学位を持つ保守的な聖書学者達である。彼らは様々な特定の教派の教義的背景を代表している。

伝統の継承:

The NASB の初版は聖書の最も正確な英訳本であるという評価を得ています。最近の他の訳本は時々正確さと読みやすさにおいて批判的コメントを受けていますが、細部まで注意深く読もうとする読者のなかで読み終わった後にこれらの訳本が一貫して意味不明であることに気付く人はいません。時々文字通りに訳されていますが、初版の内容を頻繁に言い換えようとするので、しばしば少しばかり読み易くなっており、そのために原典への忠実性が犠牲にされています。言い換えはそれ自体悪いことではありません。なぜなら翻訳者が理解し解釈した通りに聖句の意味を明らかにできるからです。

しかし、言い換えは所詮聖書の注解であり、翻訳にすぎません。最新版 The NASB は、真の聖書翻訳物であるという The NASB の伝統を保持し、原典が実際に語っている内容を明らかにします—単に翻訳者がそうだと信じて疑わないことではなく。

—ロックマン財団

本書を

長年このミニストリーにおいて
私達とともに主に忠実に仕える
私達の事務局スタッフに捧げる。

Lee Ann Malone

Sallie Hayes

Mildred Strange

Vernon Odom

Melaney Dudley

Ruth Hoffman

Kelli Croley

Sandy Orr

Dianne Turner

Bill Wells

Henry and Pat Bergenon

Jeff Day

Steven and Faith Smith

目次

この注解書中で用いられている専門用語の出典の簡単な説明	i
聖書の解釈に影響を与えるヘブル語の動詞活用形の簡単な定義	iii
この注解書中で用いられている略語	xi
著者からの言葉: この注解書はどのようにあなたの役に立つことができるか?	xii
聖書を有意義に読むための手引き: 立証可能な真実への個人的探求	xv
注解:	
創世記の研究における緒言	1
創世記への導入	3
創世記 1: 1-2: 3	15
創世記 2: 4-25	49
創世記 3: 1-24	63
創世記 4: 1-26	84
創世記 5 章	94
創世記 6: 1-22	99
創世記 7 章	116
創世記 8: 1-22	120
創世記 9: 1-29	125
創世記 10: 1-32	136
創世記 11: 1-32	146
補遺: 学説についてのコメント	153

特別なトピックの表

地球の年齢と形成、創世記 1 章、緒言	17
<i>Yom</i> 、創世記 1: 5	30
天然資源、創世記 1: 24-2: 3 の文脈的考察	37
礼拝、創世記 2: 3	44
神の名、創世記 2: 4	51
墮落後の新しい契約による神学的発展、創世記 3 章	66
蛇、創世記 3: 1	67
個人的悪、創世記 3: 1	69
なぜ神はアダムとイブに動物の皮の衣服を着させたのか、創世記 3: 21	78
“ <i>Olam</i> (永遠)”、創世記 3: 22	79
ケルビム、創世記 3: 24	80
“知る”、創世記 4: 1	85
創世記 6 章中の“神の息子達”、創世記 6: 2	99
長身で怪力の戦士あるいは人々のグループに対応して用いられている用語、創世記 6: 4	103
義、創世記 6: 9	106
契約、創世記 6: 18	112
ワインと強い飲み物、創世記 9: 21	128
人種主義、創世記 9: 25	131

“聖書を理解できる”旧約聖書注解シリーズ中で用いられている専門用語の出典の簡単な説明

I. 辞書

古代ヘブル語の訳出に有用な優れた辞書が数点ある。

- A. *Hebrew and English Lexicon of the Old Testament* Francis Brown, S.R.Driver, Charles A. Briggs 共編。William Gesenius 編のドイツ語—ヘブル語辞書に基づく。**BDB の略語で知られている。**
- B. *The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament* Ludwig Koehler, Walter Baumgartner 共編、M.E.J.Richardson 翻訳。**KB の略語で知られている。**
- C. *A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament* William L. Holladay 編であり、上記のドイツ語—ヘブル語辞書に基づく。
- D. Willem A. Van Gemeren 編 *The new International Dictionary of the Old Testament Theology and Exegesis* の神学用語研究の新しい5つの巻。**NIDOTTE の略語で知られている。**

また、「逐語」訳および”dynamic equivalent”訳によるいくつかの英語訳聖書(NASB, NKJV, NRSV, TEV, NJB)の読解に有用な多数の辞書がある(例えば Gordon Fee, Douglas Stuart 共著 *How to Read the Bible For All its Worth* 28-44 ページ)。

II. 文法

文法の確認は通常、4つの巻からなる John Joseph Owen 編”*Analytical Key to the Old Testament*”に基づいて行っている。再チェックには Benjamin Davidson 編”*Analytical Hebrew and Chaldee Lexicon of the Old Testament*”を使用している。

「あなたも聖書を理解できる」シリーズの旧約聖書の巻の大半で用いられている文法とシンタックス(統語法)の確認に有用な他の文献には、合衆国聖書協会編「翻訳者のための手引き」がある。それらの表題は「～ハンドブック」である。

III. 原典

私は(マソラ[訳者注: ヘブル語聖書の伝統的本文]の母音点と解説ではなく)ヘブル語原典の子音の啓示に頼っている。手で書き写された古代の原典が全てそうであるように、いくつか疑問のある文章がある。これは通常、以下の理由による。

- A. *Hapax legomena* (ヘブル語の旧約聖書の中でただ一度用いられている単語)
- B. 熟語(文字通りの意味が失なわれている語句)
- C. 歴史的な不確定性(古代世界に関する情報の欠如)
- D. ヘブル語の限られた語彙のセム語の多義的性質

- E. 古代のヘブル語の原典を手で書き写した、後の時代の書記に関する問題
- F. エジプトで訓練され、自分達の手で書き写した原典を自由に更新して、自分達の時代に完全に適応させ読みやすくしたヘブル人書記(NIDOTTE の 52~54 ページ)

マソラ原典の伝統から外れたヘブル語の単語と原典がいくつかある。

- A. サマリア五書(訳者注: サマリア人が唯一の正典とするヘブル語古書体のモーセ五書校訂本)
 - B. 死海写本[文書](訳者注: 死海北西部 Qumran の洞窟などで発見された旧約聖書その他を含む古写本の総称)
 - C. 後の時代の硬貨、書簡、オストラコン(記述に使われた未焼成の陶器の破片[訳者注: 古代ギリシャの陶片裁判に用いられた文字の刻まれた石灰岩の陶片])
- しかしそれら旧約聖書原典の大部分には、ギリシャ語の新約聖書原典にあるような原稿集が存在しない。マソラ原典(紀元 900 年代)の信頼性について十分かつ簡潔に解説した記事には NIDOTTE 第一巻の 51~67 ページの Bruce K. Waltke による“The Reliability of the Old Testament Text”がある。

ヘブル語原典は、レニングラード古写本(紀元 1009 年)に基づく、ドイツ聖書協会編 *Biblia Hebraica Stuttgartensia*(1997 年出版)を用いている。古写本(ギリシャ語のセプトウアギンタ[訳者注: 七十人訳聖書。ギリシャ語訳旧約聖書。紀元前 3 世紀にエジプト王 Ptolemy Philadelphus の命により Alexandria で 70 人のユダヤ人が 70 日間で完訳したと伝えられる。]、アラム語のタルグム[訳者注: アラム語訳旧約聖書]、シリア語のペシッタ[訳者注: シリア語訳公認聖書]、ラテン語のウルガタ[訳者注: 紀元 405 年完訳のラテン語訳聖書。ローマカトリック教会で用いる。])は、(訳された)ヘブル語が時代を経るうちに不明瞭で混乱を招いてきていないか調査している。

聖書の解釈に影響を与えるヘブル語の動詞活用形の簡単な定義

I. ヘブル語の歴史的変化の簡単な説明

ヘブル語は南西アジアの言語のセム(セム)語族の一つの言語である。(現代の学者たちによって与えられた)その名はノアの息子シムに由来する(創世記 5: 32 と 6: 10 を参照)。シムの子孫は創世記 10: 21-31 に列挙されているようにアラブ人、ヘブル人、シリア人、アラム人、そしてアッシリア人である。事実、セム語はハムの家系に列挙された国々(創世記 10: 6-14 を参照)、カナン、フェニキア、そしてエチオピアで使用されている。

ヘブル語はこれらセム語系言語の北西語族の一つの言語である。現代の学者たちはこの古代語のグループの資料を以下から得ている。

- A. アモリ人の記録(アッカド語の文献 *Mari Tablets*: 紀元前 18 世紀)
- B. カナン人の記録(ウガリット語[訳者注: ヘブル語と密接な関係にあるセム語族の死語で、楔型文字で知られる]の文献 *Ras Shamra Tablets*: 紀元前 15 世紀)
- C. カナン人の記録(カナン語系アッカド語の文献 *Amarna Letters*: 紀元前 14 世紀)
- D. フェニキア人の記録(フェニキア語のアルファベットを用いたヘブル語)
- E. モアブ人の記録(メシャ石、紀元前 840 年)
- F. アラム人の記録(創世記 31: 47[2語]、エレミヤ 10: 11、ダニエル 2: 4 前半-6 と 7: 28、エズラ 4: 8~6: 18 と 7: 12-26 で用いられ、紀元 1 世紀にパレスチナでユダヤ人により話されたベルシャ帝国の公用語)

ヘブル語はイザヤ 19: 18 で「カナンの唇」と呼ばれている。最初に「ヘブル語」と呼ばれたのは紀元前 180 年頃に書かれた伝道者の書(ベン・シラクの知恵)の冒頭(と他のいくつかの書、*Anchor Bible Dictionary* 第 4 巻 250 ページ冒頭を参照)中であつた。ヘブル語はモアブ語およびウガリット語と最も密接に関係している。聖書以外の原典でみられる古代ヘブル語の例は以下の通りである。

- 1. 紀元前 925 年のゲゼル暦(学童の書き記したもの)
- 2. 紀元前 705 年のシロアムの碑文(地下道に書き記されたもの)
- 3. 紀元前 770 年のサマリアのオストラコン(陶器の破片上に書き記された納税記録)
- 4. 紀元前 587 年のラチッシュ書簡(戦時通信)
- 5. マカベア(マカバイ)家[訳者注: ユダヤの祭司 Judas Maccabaeus の一家。紀元前 168 年にヘレニズム化とシリアの支配に対する反乱を指導。紀元前 142~63 年に王としてパレスチナを統治。]の硬貨と印章
- 6. いくつかの死海写本[文書]
- 7. 多数の碑文(ABD[*Anchor Bible Dictionary*]第 4 巻 203 ページ冒頭の「言語[ヘブル語]」を参照)

ヘブル語は、全てのセム語と同じように、3つの子音(三子音幹)で構成される単語で特徴

づけられる。ヘブル語は語尾屈折の言語である。3つの子音幹は基本的な単語の意味を表し、接頭辞、接尾辞、あるいは単語の中間に挿入される接辞は統語的機能を果たす(母音は後で加える。Sue Green 著 *Linguistic Analysis of Biblical Hebrew* 46~49 ページを参照)。

ヘブル語の語彙は散文と詩の違いを表現している。単語の意味は民族的語源(言語学的起源ではない)と関連している。言葉の役割と音の役割が極めて一般的である(*paronomasia*)。

II. 叙述相

A. 動詞

通常予想される語順は動詞、代名詞、主語(修飾語を伴う)、目的語(修飾語を伴う)である。基本的な非鍵形動詞は完了形で男性形かつ単数形の *Qal* である。これはヘブル語およびアラム語の辞書の(語の)配列様式である。

動詞は以下の事柄を示すために語尾が屈折する。

1. 数 単数形、複数形、両数形
2. 性 男性形、女性形(中性形なし)
3. 法 直説法、仮定法、命令法(現代の西洋の言語における用語との類似性と現実の品詞の機能との関連を考慮してこのような呼び方をした)
4. 時制(相)
 - a. 完了形は完了、すなわち動作の開始、継続、終了を示す。通常この形は過去の動作すなわち起こりつつあることに対して用いられていた。

J. Wash Watts 著 *A Survey of Syntax in the Hebrew Old Testament* によれば:

「完了形で記述される一つの事柄全体も確実であると考えられる。未完了形(訳者注: 半過去形)は可能な、望ましい、あるいは予想される状態を表現しているが、完了形はそれを事実、現実、そして確実な事柄として表現する(36 ページ)。」

S.R.Driver 著 *A Treatise on the Use of the Tenses in Hebrew* によれば:

「完了形は未来に確かに起こる動作の完了を示すために用いられるが、事実起こりつつあることとして言い表すことのできる、そのような変えられない意志の決定に依存すると考えられている。従って、特に神の御意志、お約束、ご命令は頻繁に完了時制で表現される(17 ページ。例えば預言的完了形)。」

Robert B. Chisholm Jr. 著 *From Exegesis to Exposition* ではこの動詞形がこのように定義されている:

「…全体として外部からある状況を見る。それ(完了形)は単なる事実、すなわち動作なのか状態(存在するものまたは心の状態を含む)なのかを表現する。動作の表現に用いられる場合、完了形はしばしば話し手の修辭法的観点(

事実上あるいは現実に完了しているかいないか)に基づいて完了した動作を表現する。完了形は過去、現在、未来のある動作または状態を表現できる。上述のように、翻訳者がどのように完了形を英語のような時制指向の言語に翻訳するかに影響する時間枠は文脈から決められなければならない(86 ページ)。」

- b. 未完了形(訳者注: 半過去形)は進行中の(未完了の、反復する、継続する、または不確かな[起こりうる])動作、しばしば最終目的に向かって行われつつある動作を示す。通常この動詞形は現在と未来の動作について用いられる。

J. Wash Watts 著 *A Survey of Syntax in the Hebrew Old Testament* によれば:

「全ての未完了形は(動作が)未完了の状態を表す。それらの動作は反復され、進行中で、不確かである(起こりうる)。換言すれば、部分的に進行中で確実である。全ての場合それらの動作はある意味部分的すなわち未完了である(55 ページ)。」

Robert B. Chisholm Jr. 著 *From Exegesis to Exposition* によれば:

「未完了形の本質を単なる概念に貶めてしまうことは難しい。なぜなら相と法の両方の概念を含むからである。時々、未完了形は直説法的に用いられて客観的な動作を表現する。その他に未完了形は、仮定的で不確かで起こりうる動作の他に、より主観的な動作を表現する(89 ページ)。」

- c. 挿入される *waw* は動詞をその直前の動詞(群)と連結する。
- d. 命令形は話し手の意志と、聞き手の起こす可能性のある動作に基づく。
- e. 古代ヘブル語ではより長い文脈だけが著者の意図する時間指向性を決めることができた。

- B. 7つの主な語尾屈折形とそれらの基本的意味。事実これらの動詞形は文脈中で互いに結びついて機能するので、分離されてはならない。

1. *Qal* (*Kal*) 全7主要語尾屈折形の中で最も一般的で基本的な動詞形。単なる動作と状態を示す。動作や状態の詳細は説明しない。
2. *Niphal* *Qal* に次いで一般的な動詞形。通常受動態で用いられるが、この動詞形は二義的で再帰動詞としても機能する。この動詞形も、動作や状態の詳細は説明しない。
3. *Piel* この動詞形は能動態であり、動作の状態への変化を表現する。*Qal* 語幹の基本的意味は状態へと発展あるいは拡張されている。
4. *Pual* この動詞形は *Piel* の受動態である。しばしば分詞によって表現される。
5. *Hithpael* 再帰動詞として機能する、二義的な語幹である。*Piel* 語幹に対する反復的あるいは継続的動作を表現する。稀に存在する受動形は *Hothpael* と呼ばれる。

6. *Hiphil Piel*とは対照的な使役動詞語幹の能動態である。任意の意味を示す側面 *v* を持つが、通常は動作の原因を述べる。ドイツのヘブル語文法学者エルンスト・イエニは、*Hiphil*がある状態になろうとする出来事がどのように起こるかを示すのに対して、*Piel*はその出来事自体を示すと信じていた。

7. *Hophal Hiphil*の受動形である。この最後に挙げた2つの語幹はこれら7つの中で最も使用頻度が低い。

上記事項の大半は、Bruce K. Waltke, M.O.O' Connor 共編 *An Introduction to Biblical Hebrew Syntax* の 343~452 ページを元に述べた。

作用と原因の表。ヘブル語の動詞の体系を理解する手がかりのひとつは、動詞間の態の関係を調べることである。語幹のなかには他と対照的な関係にあるものがある(例えば *Qal* と *Niphal*, *Piel* と *Hiphil*)。

下の表では動詞語幹の示す動作の原因とともに基本的機能の可視化を試みている。

態あるいは主語	二次的作用なし	能動的二次的作用あり	受動的二次的作用あり
能動態	<i>Qal</i>	<i>Hiphil</i>	<i>Piel</i>
中間的受動態	<i>Niphal</i>	<i>Hophal</i>	<i>Pual</i>
再帰動詞的 (二義的)	<i>Niphal</i>	<i>Hiphil</i>	<i>Hithpael</i>

この表はアッカド語の最新の研究成果で明らかとなった動詞の体系についての非常に有意義な議論に基づいて作成された(Bruce K. Waltke, M.O.O' Connor 共編 *An Introduction to Biblical Hebrew Syntax* の 354~359 ページを参照)。

R.H.Kennett 著 *A Short Account of the Hebrew Tenses* は必要とされる警告を与えている。

「私は、学生がヘブル語の動詞について主に感じている困難が、動詞がヘブル人自身の精神に伝える意味を彼らが把握することにあるということにいつも気付かされている。つまり彼らには、各ヘブル語の時制をラテン語や英語の数多い動詞形の中の通常翻訳可能な特定の時制に同等に対応させる傾向がある。その結果彼らは、旧約聖書の中で用いられている言語に生命と活力を与える、これらの小さな隠れた意味の多くに気付くことができない。

ヘブル語の動詞の使用における困難は厳密にはこのような観点に基づいている。つまり、私達とは全く異なり、ヘブル人達は動作を第一に考慮したので、私達が第一に考慮する時間、すなわち「時制」という言葉そのものの示す意味は彼らにとっては二番目に重要なことなのである。従って学生にとって大切なことは、各ヘブル語時制の翻訳に使用可能なラテン語あるいは英語の動詞形ではなく、むしろそれ自体がヘブル人の精神を表しているように、各動作の側面をはっきりと把握するべきであるということである。

ヘブル語の動詞に対して用いられている「時制」という用語名は誤解を招いている。いわゆる

ヘブル語の「時制」は時間ではなく単にある動作の状態を表現しているのである。確かに、名詞と動詞の両方に「状態」という用語を適用する際に生じる混同がなかったら、「時制」より「状態」を用いたほうがはるかによいだろう。ヘブル語には全く存在しない限定(時間の可視化)を用いないでヘブル語の動詞を英語に翻訳することはできないということをいつも覚えておかなければならない。古代ヘブル人達は動作を過去形、現在形、未来形の出来事としてではなく、単に完了形、すなわち完結した出来事、あるいは未完了形、すなわち進行中の出来事として考えた。私達が、あるヘブル語の時制が英語の完了形、過去完了形、未来形に対応しているというときは、ヘブル人達はその時制を完了形、過去完了形、未来形として考えたという意味ではなく、単にその時制が英語でそのように翻訳されるに違いないということの意味するのである。動作の時間をヘブル人達はいかなる動詞形によっても表現しようとしなかった。」(緒言と1ページ)。

第二の有意義な警告として、Sue Groom 著 *Linguistic Analysis of Biblical Hebrew* は私達に以下のことを思い出させてくれる。

「現代の学者達による、絶滅した古代のある言語とセム語領域との意味関係の再構築が単に彼ら(訳者注: セム語族とその周辺の語族)自身の直観、つまり母語を反セム語映しているかどうか、あるいはそれらの言語領域が古典ヘブル語中に存在するかどうかを知ることはできない。」(128ページ)

C. 態(現代西洋言語における用語と単に類似した用語名)

1. 起こった、あるいは起こりつつある(命令形)動作または状態に対しては通常は完了時制あるいは分詞を用いる(全ての分詞は命令形)。

2. 起こるであろう、起こる可能性がある(仮定法)動作または状態に対しては

a. 以下の点に注意して未完了時制を用いる。

(1) 激励・鼓舞を表す動詞形(hを加えた形)。通常は願望、要求、あるいは自己鼓舞を表現する一人称未完了形。

(2) 命令形(内部変化)。通常は要求、許可、忠告あるいは助言を表現する三人称未完了形(否定文では二人称)。

b. *lu*あるいは*lu'e*を伴う完了時制を用いる。

これらの文構造はコイネギリシャ語の第2類条件文に類似している。誤った記述[または発言](条件節)は誤った結論(帰結節)を導く。

c. *lu*を伴う未完了時制を用いる。

この仮定的用法は文脈、*lu*、および未来の(動作または状態の)志向で特徴づけられる。

J. Wash Watts 著 *A Survey of Syntax in the Hebrew Old Testament* の創世記 13: 16、申命記 1: 12、第一列王記 13: 8、詩篇 24: 3、イザヤ 1: 18 についての解説に数例がある(76~77 ページを参照)。

D. *Waw* 会話体、結果を示す品詞、関係詞。この独特なヘブル語(カナン語)の統語的特徴は長年大きな混乱をもたらしてきた。この語は、しばしば類型(様式)に基づく様々な用途で用いられている。混乱が生じた理由は、(研究の)初期の学者達がヨーロッパの人々であり、彼ら自身の言語で(ヘブル語の)解釈を試みたことにある。解釈が難しいとわかると彼らはその問題を「想像上の」古代語であるヘブル語のせいにした。ヨーロッパの言語には動詞に基づく時制(時間)がある。用途と文法的意味のいくつかは完了形あるいは未完了形の動詞語幹に付加される文字 *WAW* で特定された。このことにより動作の表現方法が変化した。

1. 歴史的語法では動詞群は互いに標準的な様式で連鎖している。
2. *waw* 接頭辞は前述の動詞(群)と特定の関係を示す。
3. より長い文脈は常に動詞鎖の理解の手がかりとなる。セム語動詞は単独では分析できない。

J. Wash Watts 著 *A Survey of Syntax in the Hebrew Old Testament* は完了形あるいは未完了形の前での *waw* の使用についてのヘブル語の特殊性を述べている(52~53 ページ)。完了形の基本的概念は過去であるが、*waw* の付加によりしばしばその時間的側面が未来まで拡張される。このことは現在と未来を基本的概念とする未完了形についても確かに言えることであり、*waw* の付加によってその時間的側面は過去まで拡張される。この普通ではない時間の推移は、その時制自体の基本的意味の変化ではなく、*waw* の付加によって説明されるものである。*waw* 完了形は予言においてよく機能し、*waw* 未完了形は語法においてよく機能する(54, 68 ページ)。

Watts はさらに自分の定義を続けている。

waw 接続詞と *waw* 結果指示詞(訳者注: 結果を示す品詞)の根本的相違により、以下に示す解釈が可能とされている:

1. *waw* 接続詞は常に並列を示す。
2. *waw* 結果指示詞は常に結果を示す。これは継続的未完了形で用いられる唯一の *waw* の形である。その *waw* と連結した未完了形群間の関係は一時的結果、論理的結果、論理的原因、あるいは論理的対比である。全ての場合に一つの結果がある(103 ページ)。

E. 不定詞 2種類の不定詞がある。

1. 絶対不定詞 「劇的効果を示すために用いられる、はっきりとした、独立性をもつ、強烈な表現である。もちろん、主語的用法としてはしばしば動詞、つまり”である”という動詞として理解されるもの、を伴わないことがあるが、この語は明らかに単独で機能する。」(J. Wash Watts 著 *A Survey of Syntax in the Hebrew Old Testament* 92 ページ)

2. 構成不定詞 「前置詞、所有代名詞、そして構成関係によって文と文法的に関係する。」(J. Wash Watts 著 *A Survey of Syntax in the Hebrew Old Testament* 91 ページ)

J. Weingreen は自著 *A Practical Grammar for Classical Hebrew* で構成関係を以下のように述べている。

「2つ(あるいはそれ以上)の語が非常に密接に結びついて一つの複雑な概念を構成するとき、それぞれの語(群)は構成関係にあるといわれる。」(44 ページ)

F. 疑問代名詞

1. それらは常に文頭に現れる。
2. 解釈での重要事項
 - a. *ha* 答えを期待しない
 - b. *halo'* 著者は「はい」という答えを期待する

否定代名詞

1. それらは常に否定される語の前に現れる。
2. 最も一般的な否定代名詞は *lo'* である。
3. 用語 *'al* は不確かな言外の意味を含み、激励・鼓舞を表す動詞形と命令形とともに用いられる。
4. 用語 *lebhilti* は「・・・しないために」という意味であり、不定詞とともに用いられる。
5. 用語 *'en* は分詞とともに用いられる。

G. 条件文

1. コイネギリシャ語と基本的に並列対応する4種類の条件文がある。
 - a. 確かに起こりつつあること、あるいは実現しそうな考え(ギリシャ語では第一類)
 - b. 実現が不可能な、事実に反すること(第二類)
 - c. 起こりうる、あるいは可能性のあること(第三類)
 - d. 起こる可能性が低く、従って実現が疑わしいこと(第四類)
2. 文法マーカー
 - a. 真実あるいは現実の状態であることが確かであることに対しては常に直説法の完了形または未完了形を用いる。通常、条件節は以下に示す用語によって導入される。
 - (1) *'im*
 - (2) *ki*(あるいは *'asher*)
 - (3) *hin* あるいは *hinneh*
 - b. 事実に反する状態に対しては常に、導入分詞 *lu* または *lule* とともに完了相の動詞あるいは分詞を用いる。

- c. より可能性のある状態に対しては常に条件節の中で未完了形動詞あるいは分詞を用いる。通常 *'im* または *ki* が導入分詞として用いられる。
- d. 起こる可能性が低い状態に対しては条件節の中で仮定法未完了形を用いる。常に *'im* を導入分詞として用いる。

この注解書で用いられている略語

- AB** *Anchor Bible Commentaries* William Foxwell Albright、David Noel Freedman 共編
- ABD** *Anchor Bible Dictionary* (全6巻) David Noel Freedman 編
- ANOT** *Analytical Key to the Old Testament* John Joseph Owens 著
- ANET** *Ancient Near Eastern Texts* James B. Pritchard 著
- BDB** *Hebrew and English Lexicon of the Old Testament* F. Brown、S.R.Driver、C. A. Briggs 共編
- IDB** *The Interpreter's Dictionary of the Bible*(全4巻) George A. Buttrick 編
- ISBE** *International Standard Bible Encyclopedia*(全5巻) James Orr 編
- JB** Jerusalem Bible
- JPSOA** *The Holy Scriptures According to the Masoretic Text: A New Translation* (アメリカユダヤ出版会)
- KB** *The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament* Ludwig Koehler、Walter Baumgartner 共編
- LAM** *The Holy Bible From Ancient Eastern Manuscripts* (ベシツタ) George M. Lamsa 編
- LXX** セプトウアギンタ(ギリシャ語—英語) Zondervan 編、1970年
- MOF** *A New Translation of the Bible* James Moffatt 編
- MT** マソラのヘブル語原典
- NAB** New American Bible 原典
- NASB** New American Standard Bible
- NEB** New English Bible
- NET** NET 聖書: 新英語訳。Second Beta Edition
- NRSV** New Revised Standard Bible
- NIDOTTE** *The new International Dictionary of the Old Testament Theology and Exegesis* (全5巻) Willem A. Van Gemeren 編
- NIV** New International Version
- NJB** New Jerusalem Bible
- OTPG** *Old Testament Passing Guide* Todd S. Beall、William A. Banks、Colin Smith 共編
- REB** Revised English Bible
- RSV** Revised Standard Version
- SEPT** セプトウアギンタ(ギリシャ語—英語) Zondervan 編、1970年
- TEV** Today's English Version 合衆国聖書協会編
- YLT** *Young's Literal Translation of the Holy Bible* Robert Young 著
- ZPBE** *Zondervan Pictorial Bible Encyclopedia* (全5巻) Merrill C. Tenney 編

著者からの言葉: この注解書はどのようにあなたの役に立つことができるのか?

聖書的解釈は、神からのメッセージを理解してそれを私達の時代に適用することで、古代の、神の啓示を受けた(聖書の各書の)著者(の主張)を理解しようとする、合理的で霊的な過程である。

この霊的な過程は不可欠であるが、定義が難しい。それには神への(自分自身の)明け渡しと開放が含まれる。そこには(1)神への(2)神を知ることへの(3)神に仕えることへの飢え渇きがあるに違いない。この過程には祈り、告白、そして生活様式を変えることへの意欲が含まれる。聖霊は解釈の過程に不可欠であるが、誠実に神に従うクリスチャン達の間でなぜ聖書の理解が異なるのかは謎である。

合理的過程は(霊的な過程に比べて)説明がより容易である。私達は原典に忠実で公平でなければならず、個人的あるいは特定の教派への偏見に影響されてはいけない。私達は皆歴史的に条件づけられている。誰も客観的な、つまり中立的な解釈をしない。この注解書は、私達の偏見を克服する手助けとなるように構成された3つの解釈上の原則を含む、深い合理的過程を紹介している。

第一の原則

第一の原則は、その聖書の書の書かれた時代背景と著者の執筆の特別な歴史的動機に着目することである。原著者にはある目的と伝えるべきメッセージがあった。原典は私達に、古代の、神の啓示を受けた原著者が決して意図しなかったことを伝えることができない。彼(原著者)の意図—私達の歴史的、感情的、文化的、個人的、あるいは特定の教派への要求ではない—が大切である。適用は解釈の不可欠なパートナーであるが、正しい解釈は常に適用に先行してはいけない。各聖書原典は一つの、つまり唯一の意味をもつことは繰り返し強調されなければならない。この意味とは、聖書の原著者が聖霊のお導きを通して自分の生きた時代の人々に伝えたかったことである。この一つの意味は様々な文化や状況に広く適用することができる。これらの適用は原著者の真の意図とつながるに違いない。この理由から、この「学習の手引き」的な注解書は聖書の各書をを紹介することを目的として編集されている。

第二の原則

第二の原則は(聖書の各)書単位を区別することである。聖書の各書は単独の文書である。解釈する者には、一つの真実を他を排除することによって分離する権利はない。従って私達は(聖書の)個々の書単位を解釈する前に聖書の全ての書の(書かれた)目的を理解する努力をしなければならない。(聖書の各書単位の)個々の部分—章、段落、あるいは節—は全ての書単位の意味していないことを意味することはできない。解釈は全ての書単位から演繹的に行なわれるので

はなく、各書単位の個々の部分から帰納的に行なわれなければならない。従って、この「学習の手引き」的な注解書は学習者が段落によって各書単位の構造を理解するのを助けることを目的として編集されている。章と段落とを分け(て考え)ることは神の啓示によってすることではないが、私達が(聖書の[各書の]著者の)考えのまとまりを区別するのを助けてくれる。

段落レベル—文、節、句、あるいは単語のレベルではない—での解釈は聖書の[各書の]著者の意図する意味を理解するのに不可欠である。段落は単独のトピック、つまりテーマ(主題)あるいはトピックセンテンスとしばしば呼ばれる話題に基づく。段落中の各単語、句、節、そして文はこの単独のテーマといくらかは関連がある。それらはテーマ思想を限定し、拡張し、説明し、またはテーマに対して疑問を投げかける。正しい翻訳のために真に不可欠なことは、聖書の各書を構成する個々の書単位を通して段落ごとに原著者の考えを理解することである。この「学習の手引き」的な注解書は学習者が現代英語翻訳との比較によってそれを行うのを助けることを目的として編集されている。これらの(現代英語)翻訳は様々な翻訳シリーズの中から選ばれてきている:

1. 合衆国聖書協会のギリシャ語原典は改訂第4版(UBS⁴)である。この原典は現代の原典研究者達によって(現代英語に)書き換えられている。
2. The New King James Version(NKJV)は、テクトゥス・レセプトゥスとして知られるギリシャ語原典の伝統に基づく逐語訳である。その段落分割は他の翻訳より長い。これらのより長い文単位は学習者が単独のトピックを理解するのを助ける。
3. The New Revised Standard Version(NRSV)は修正逐語訳である。これは下記の2つの現代版(聖書)の中間的な翻訳形態である。その段落分割は個々の主題の区別に極めて有用である。
4. The Today's English Version(TEV)は合衆国聖書協会により出版された dynamic equivalent 訳である。これは、現代英語を読み、あるいは話す人々がギリシャ語原典を理解できるような聖書の翻訳を試みている。しばしば、特に福音の中で、NIVと同様に、主題によるよりはむしろ(聖書の)話し手(語り手)によって段落を分割している。解釈する者の目的からいうと、これは役に立たない。UBS⁴も TEV も同じ団体から出版されているのに段落分割の様式が異なるのは興味深い。
5. The Jerusalem Bible(JB)はフランスカトリック翻訳に基づく dynamic equivalent 訳である。これはヨーロッパ諸国の言語による訳と段落分割の様式を比較するのに非常に有用である。
6. この注解書の編集のために用いた聖書の現代英語訳は 1995 年更新の New American Standard Bible(NASB)である。逐語訳で、聖句を順番に解説している点はこの段落分割の様式に従っている。

第三の原則

第三の原則は、聖書のみことば、つまり聖句が持ちうる可能な最大範囲の意味(セム語領域)

を把握するために様々な訳の聖書を読むことである。しばしばギリシャ語の句や言葉は何通りにも理解されうる。これらの様々な訳によって聖書のみことばや聖句は何通りにも理解され、複数あるギリシャ語原典の区別や説明を助けている。これらは(翻訳の)原則には影響しないが、神の啓示を受けた古代の(聖書の)書き手によって書かれた原典に私達が戻ろうとするのを確実に助けてくれる。

この注解書は学習者に自分の(聖書の)解釈を確認する近道を示す。それは権威的にではなく、むしろ知識を提供して考えることを喚起するようになされる。しばしば、他の可能な解釈は私達が偏狭に、独断的に、そして特定の教派に偏重になりすぎないように助ける。解釈する者は、古代の原典がいかにあいまいかを認識するために、より広い解釈の視野を持つことが必要である。聖書を真実の源であると主張しているクリスチャンの間で(意見の)一致がほとんどみられないのは衝撃的なことである。

これらの原則は私が、自分を強いて古代の原典に格闘させることによって、自分の歴史的生いたちの多くを克服するのを助けてくれている。この注解書があなたを十分に祝福してくれるだろうことを私は希望する。

ボブ・アトリー

1996年6月27日

聖書を有意義に読むための手引き: 立証可能な真実への個人的探求

私達は真実を知ることができるだろうか？それはどこで見つかるだろうか？私達はそれを論理的に立証できるだろうか？最高の権威はあるのだろうか？私達の人生と私達の生きる世界とを導くことのできる絶対的存在はあるのだろうか？人生に意味はあるのだろうか？私達はなぜここにいるのだろうか？私達はどこに向かっているのだろうか？これらの疑問—全ての理性ある人々が熟考する疑問—は有史以来人間の知性につきまわってきた(伝道者の書 1: 13-18, 3: 9-11)。私は私の人生を支配する中心となるものについて個人的に探究したことを覚えている。主に家族の大多数の証言によれば、私は幼少期にキリストを信じた。大人になるにつれて、私自身と私の生きる世界についての疑問も又深まっていった。単なる文化的・宗教的なありきたりの知識は、本で読んで知ったり実際に体験した出来事に意味を与えなかった。それは混乱、探究、渴望の時であり、また私の生きた非情で厳しい世界に対面したときの絶望感であった。

これらの究極の疑問に対する答えは多くの人々によりなされているが、研究と熟考の後に私は彼らの答えが(1)自分の哲学[個人的信条]、(2)古代の神話、(3)個人的体験、あるいは(4)心理学的投射に基づくことに気付いた。私には、私の世界観、私の人生を支配する中心となるもの、私の生きる理由を確立するために、ある程度の立証、証拠、理性的信念が必要だった。

私はこれらを自らの聖書研究のなかに見出した。私はその信憑性を裏付ける証拠を探し始め、そしてそれが(1)考古学によって確定された、聖書の歴史的信頼性、(2)旧約聖書の預言の信頼性、(3)1600年間にわたってなされた聖書のメッセージの統一性、そして(4)聖書との出会いによって自らの人生が恒久的に変化した人々の個人的証しのなかにあると気付いた。キリスト教は信仰と信条とが一体化した(宗教)体系であり、人間の人生の複雑な疑問を取り扱うことができる。これが与える論理的枠組みだけでなく聖書的信仰の経験的側面も私に喜びの感情と感情の安定をもたらした。

私は、聖句を通して理解した通りに、私の人生を支配する中心はキリストであると自分は気付いていると考えた。それはわくわくする経験であり、感情の解放だった。しかしながら私は、時々同じ教派の複数の教会や(神)学校の間でさえ、この本(注解書)にどれほど多くの異なる解釈がなされ(激しく議論がなされる)かを考え始めたときの衝撃と痛みをまだ覚えている。聖書の啓示と信憑性を主張することは終りではなく、始まりにすぎない。聖句の中の多くの難解な文章の、それらを絶対視し信憑性を主張する人々によってなされた、様々で互いに対立する解釈を私はどのように立証しあるいは却下すればよいだろうか？(福音主義キリスト教は聖書の信憑性を主張するが、それが持つ意味には同意できない！)

この仕事は私の人生の最終目的となり、また信仰深い巡礼となった。私は、私のキリストへの信仰が私に大きな平安と喜びとをもたらしていることをわかっていた。私の心は、自分の(生きてきた)文化と互いに対立する宗教体系の教条(教義)主義と特定の教派への偏重による傲慢さとの相互関係の中心にある絶対的なものを渴望していた。古代の文献の正しい解釈を目的とする自ら

の研究の中で私は自分自身の歴史的、文化的、特定の教派への偏重による、そして経験に基づく偏見に気付いて驚いた。私はしばしば、自分自身の見識を広めるためだけのために聖書を読んでいたのだ。私は自分自身の(主張の)不安定さや不十分さを克服するなかで、他者に反論するための教義の(情報)源として聖書を利用していたのだ。このことに気付いてどんなに心を痛めたことか。

私は決して完全に客観的にはなれないが、聖書をより有意義に読むことはできる。私は自分の持つ偏見を明らかにして認めることによってなくしていくことができる。私はまだそれらを持ち続けているが、私自身の弱さと向き合い続けている。解釈する人はしばしば聖書をより有意義に読むことにおいて最悪の敵なのだ！

私が聖書研究において提唱している前提を、読者の皆さんと一緒に検証するためにいくつか挙げよう。

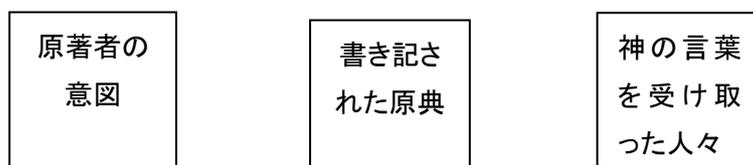
I. 前提

- (1) 私は聖書が唯一の真の神の唯一の自己啓示であると信じる。従って聖書は、特定の歴史背景の中にいる書き手を通して、元々の書き手でいらっしゃる神の御意志が現れるように翻訳されなければならない。
- (2) 私は聖書が一般の人—全ての人々—のために書かれたと信じる！神は御自身を、(私達の持つ)歴史的・文化的背景の範囲内ではっきりと私達に語りかける(ことができる)ように適応させられた。神は真実を隠されない—私達に理解を求めておられるのだ！従って聖書は、私達の今生きている時代の背景ではなく、その書かれた時代の背景を考慮して翻訳されなければならない。聖書は、最初にそれを読み聞きした人々が決して私達に伝えていないことを私達に伝えることができない。聖書は一般の人の心によって理解可能であり、人間の通常のコミュニケーションの形式と技術を利用している。
- (3) 私は聖書が首尾一貫したメッセージと目的を持っていると信じる。聖書には難解な、あるいは逆説的な文章はみられないが、それ自体は矛盾していない。従って、聖書を最もよく解釈するのは聖書自体なのだ。
- (4) 私は聖書の各文章(預言を含む)が、神の啓示を受けた原著者の意志に基づく一つの、そして唯一の意味を持っていると信じる。私達は決して原著者の意志をわかっているという絶対的な確信を持つことはできないが、それを示す多くの事柄を例示することはできる:
 - (a) 聖書のメッセージを表現するために選ばれたジャンル(文学様式)
 - (b) 聖書の記述から明らかとなった、聖書の書かれた時代の背景または特別の事情
 - (c) 各文章単位および聖書全体の文脈
 - (d) メッセージ全体に関係する、文章単位の文体デザイン(概要)
 - (e) メッセージ(の意味)を伝えるために用いられている特別な文法的特徴
 - (f) メッセージを表現するために選ばれた言葉

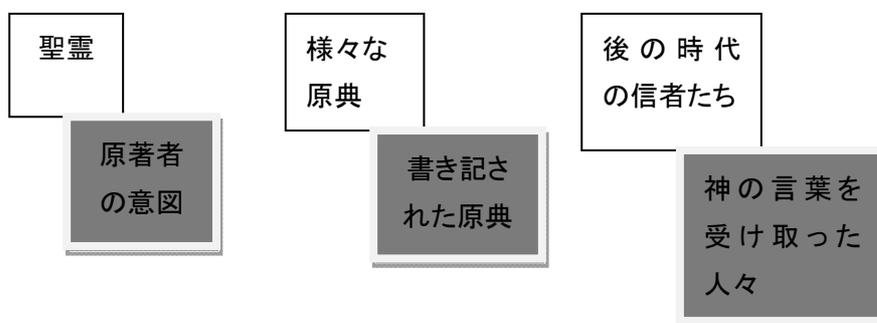
これらの分野の各々の研究が私達の文章研究の目的となっている。有意義な聖書の読み方についての方法論を説明する前に、かなり多くの解釈の逸脱の原因となっていて、その結果避けるべきだといえる、今日用いられているいくつかの不適切な方法について述べよう。

II. 不適切な方法

- (1) 聖書の各書の文脈を無視して、各文、節、あるいは語でさえも、真実ではない、原著者の意志とは無関係な内容の文あるいはより長い文を書くために用いること。これはしばしば「文脈偽装」と呼ばれる。
- (2) 聖書の各書の歴史的背景を、原典からの裏付けがほとんどまたは全くない、推定上の歴史的背景に置き換えて無視すること。
- (3) 聖書の各書の歴史的背景を無視して、主に現代のクリスチャン達の書いた(読者の)地元の新聞の朝刊を読むときと同じように聖書を読むこと。
- (4) 神の言葉を最初に聞いた人々および原著者の意志とは全く無関係な哲学的あるいは神学的メッセージとして原典を寓話(寓意)[訳者注: たとえ話]的に解釈して、聖書の各書の歴史的背景を無視すること。
- (5) 原典のメッセージを、原著者の目的と語られたメッセージとは無関係な、(読者)自身の神学体系、大切にしている教義、あるいは現世的な内容のものに置き換えて無視すること。この現象はしばしば、話し手が自身の権威を示す目的で、聖書を読み始めた後に起こる。これはしばしば「読者応答」(「文脈が私に示す意味」)的解釈と呼ばれる。人間の書いた文章には少なくとも3つの関連する構成要素がある:



過去には、様々な読解技術が3つの構成要素の1つに集中していた。しかし、聖書特有の啓示を真に言い表すためには、(上記の)図を修正するほうがより適切だろう。



事実(これらの)3つの構成要素は解釈のプロセスに含まなければならない。立証の目的のために、私の解釈においてははじめの2つの構成要素、つまり原著者の意図と原典に注目する。私はおそらく(今後もずっと)今までに見てきた悪習、つまり(1)原典を寓話(寓意)的あるいは精神的な意味に解釈すること、そして(2)「読者応答」(「文脈が私に示す意味」)的解釈、に反応していただく。悪習は(解釈の)各段階で起こる可能性がある。私達は自身の動機、偏見、技術、そして適用についていつも確認していかなければならない。しかし、もし解釈に範囲や制限や基準がないなら、私達はどのようにそれらを確認すればよいただろうか？ここに、可能な正しい解釈の範囲を制限するいくつかの基準を私に与えてくれる、原著者の意図と原典の文構造がある。

これらの不適切な読解技術に注目した上で、どのようにすれば、ある程度(そうする)根拠があり一貫性を持った、聖書の有意義な読み方と正しい解釈の仕方ができるだろうか？

Ⅲ. 聖書を有意義に読むことのできる方法

この点に関して、私は特定のジャンル(文章の種類)を解釈する独特の技術ではなく、聖書の原典の全てのタイプに対して有効な、一般的な聖書解釈の原則について述べたいと思う。ジャンルに特化した(聖書の)読み方を解説した本としては、Zondervan から出版された、Gordon Fee と Douglas Stuart 共著の *How to Read The Bible For All Its Worth* が良い。

私の方法論は主に、4つの個人的な読書のサイクルを通して聖霊に聖書を啓蒙化していただいている読者を対象としている。この方法論では聖霊、聖書の原典、そして読者が第一に重要であり、これらは二回にはされない。また、この方法論は読者が過度に注釈者に影響されるのを防いでいる。私はこのように言われているのをよく聞いている:「聖書は注釈書に多くの光を投げかける。」この言葉は学習参考書(訳者注:ここでは注釈書)をけなすつもりで言われるコメントではなく、むしろそれら(注釈書)を適切なタイミングで用いてほしいという切実な願いをこめたコメントである。

私達は自分達の行う原典自体の解釈について裏付けができなければならない。6つの分野が最低限度それ(原典自体の解釈)を立証している:

- (1) 歴史的背景
- (2) 文脈
- (3) 文法的構造(統語法)
- (4) 現代語(で)の用法
- (5) 関連の並列する文章
- (6) ジャンル

私達は自分達の行う解釈について理由と論理とを述べ、そして説明できる必要がある。聖書は私達にとって信仰と実践の唯一の源である。悲しいことに、クリスチャンはしばしば、聖書の教えあるいは主張に同意しない。

4つの読書のサイクルは以下に示す解釈上の洞察(見識)を与えることを意図している:

(1) 第1の読書サイクル

- (a) その(聖書の)書をまず一通り読みなさい。そしてその書を他の訳、できれば他の翻訳理論に基づいた訳による本で再び読みなさい。
 - (i) 逐語訳(NKJV、NASB、NRSV)
 - (ii) dynamic equivalent(TEV、NJB)
 - (iii) 言い換え(リビングバイブル、拡大版聖書)
- (b) その書全体の(書かれた)主な目的を探求しなさい。その書のテーマを明らかにしなさい。
- (c) (可能であれば)その書全体の主な目的つまりテーマをはっきりと表現している文章単位、章、段落、あるいは文を抜粋しなさい。
- (d) その書の主な文学上のジャンル(類型)を明らかにしなさい。
 - (i) 旧約聖書
 - 1) ヘブル語の物語
 - 2) ヘブル語の詩(知恵の文学、詩篇)
 - 3) ヘブル語の預言(散文、詩)
 - 4) 法典
 - (ii) 新約聖書
 - 1) 物語(福音書、使徒行伝)
 - 2) 寓話[たとえ話](福音書)
 - 3) 書簡
 - 4) 黙示文学

(2) 第2の読書のサイクル

- (a) その書全体を再び読み、主なトピックつまり主題を明らかにしなさい。
- (b) 主なトピックを要約し、その内容を簡単に短く述べなさい。
- (c) その書全体の(書かれた)主な目的についての(あなたの)コメントと大体の要約を学習参考書を用いて確認しなさい。

(3) 第3の読書のサイクル

- (a) その書全体を再び読み、その聖書の書自体から歴史的背景と書かれた特殊な状況を明らかにしなさい。
- (b) その聖書の書に言及されている歴史的な事柄を列記しなさい。
 - (i) 著者
 - (ii) 日付
 - (iii) 神の言葉を受け取る人々
 - (iv) その聖書の書が書かれた特別な理由

- (v) 聖書のその書が書かれた目的に関連する文化的背景
 - (vi) 歴史上の人々と出来事についての参考文献
- (c) あなたが解釈しようとしている聖書のその書の部分の(内容の理解の)ために、歴史的背景と書かれた特殊な状況についてあなたが要約したもの[(a)で行った]を段落レベルまで拡大させなさい。文章単位を常に明らかにし要約しなさい。これはいくつかの章あるいは段落の形にしなさい。これはあなたが原著者の論理と文章デザインに従うことを可能にする。
- (d) 要約した歴史的背景を学習参考書を用いて確認しなさい。
- (4) 第4の読書のサイクル
- (a) その特別な文章単位の箇所をいくつかの訳で再び読みなさい。
 - (i) 逐語訳(NKJV、NASB、NRSV)
 - (ii) dynamic equivalent(TEV、NJB)
 - (iii) 言い換え(リビングバイブル、拡大版聖書)
 - (b) 文あるいは文法の構造を探しなさい。
 - (i) エペソ 1: 6,12,13 の反復聖句
 - (ii) ローマ 8: 31 の反復される文法構造
 - (iii) 互いに対照的な概念たち
 - (c) 以下に示す事柄を列記しなさい。
 - (i) 重要な用語
 - (ii) 見慣れない用語
 - (iii) 重要な文法構造
 - (iv) 特に難しい単語、節、そして文
 - (d) 関連のある並列文を探しなさい。
 - (i) 以下に示す文献を用いて、最も明確に(聖書のその書の)主題を表している文を探しなさい。
 - a) 「体系的神学」の本
 - b) 参照聖書
 - c) コンコードダンス
 - (ii) 主題の中で、ありえる逆説的な対を探しなさい。聖書的真実の多くは論理的な対に表れている。というのは、教派間の衝突の多くが聖書的な(訳者注: 聖書の解釈者間の)緊張に伴う原典の原文偽装に由来するからだ。聖書の全ての書は神の啓示によって書かれたものなので、私達は解釈において霊的なバランスを保つために神からの完全なメッセージを聖書の中に探し出さなければならない。
 - (iii) 同じ書、同じ著者、あるいは同じジャンルの中に並列文を探しなさい。聖書はそれ自身の最良の解釈者である。なぜなら、聖書は一人の著者、つまり聖霊によ

って書かれているからである。

(e) 歴史的背景と聖書のその書が書かれた特殊な状況を学習参考書(以下に示すもの)を用いて確認しなさい。

(i) スタディバイブル

(ii) 聖書百科事典、聖書ハンドブック、聖書辞典

(iii) 聖書入門書

(iv) 聖書注解書(この点においてあなたの学習では、過去あるいは現在のあなたの所属する信仰共同体[行っている教会やクリスチャンの仲間・友人のグループなど]に手助けや指導を頼みなさい)

IV. 聖書解釈の応用

この点について、(今までの聖書学習の)応用に話題を移す。今までは聖書原典をその書かれた状況に応じて理解することに時間をかけてきたので、次にそれを生活そして文化に応用していかなければならない。私は(この聖書学習の)聖書的意義を「聖書の原著者が自分の生きた時代の人々に語ったことを理解してその真実を私達の生きる時代に応用すること」と定義する。

応用は原著者の意図の時間的・論理的解釈の後に行なわれなければならない。私達は、聖書のみことばがその書かれた時代の人々に語ったことが何かを知るまでは、それを自分達の生きる時代に応用することはできないのだ！聖書のみことばは、それが決して意味していない意味を持ってはいないのだ！

(第3の読書のサイクルにおいて)あなたがまとめた詳しい要約はあなたのガイドとなってくれるだろう。応用は単語レベルではなく段落レベルで行なわれるべきである。単語は文脈中でのみ意味を持ち、節は文脈中でのみ意味を持ち、文は文脈中でのみ意味を持つ。解釈のプロセスに関わっている、神の啓示を受けた人だけが原著者なのだ。私達はただ、聖霊の啓蒙によって彼の導きに従っているだけである。しかし啓蒙は啓示ではない。「…と主が言われた」と言うためには、私達は原著者の意図を忠実に守らなければならない。応用は、聖書全体の書かれた意図、特定の文章単位、そして段落レベルの(原著者の)考えの発展に特に関係するものでなければならない。

私達の生きる時代の問題を聖書に解釈させてはいけない：聖書に語らせるのだ！このことで私達は原典から原則を導きだすことを求められるだろう。もし原典が原則を裏付けているならこれは正しいことである。(だが)不幸にも多くの場合、その原則は原典の(はっきり述べている)原則ではなく、「私達の(正しいと思っている)」原則なのだ。

聖書を応用するときには、(預言の中の言葉は別として)一つの、そして唯一の意味が特定の聖書原典について有効であることを覚えておくことが大切である。その意味は原著者が自分の生きた時代の人々に危機感あるいは必要を感じて語った意図と関連がある。この一つの意味から多方面への応用が可能である。それらの応用は神の言葉を受け取る人々の必要に基づくものだろうが、しかしそれは原著者の(聖書のみことばを解釈して確信した)意味と関連がなければなら

ない。

V. 解釈の霊的側面

今まで私は解釈と応用に関わる論理的プロセスについて述べてきた。ここでは私は解釈の霊的側面について簡単に述べることにする。以下に示すチェックリストはとて私の役に立っている:

- (1) 聖霊の助けを求めて祈りなさい(I コリント 1: 26-2: 16 を参照)。
- (2) (自分にも他者にも)分かっている罪からの個人的赦しと清めを求めて祈りなさい(I ヨハネ 1: 9 を参照)
- (3) 神を知りたいという、より大きな願いのために祈りなさい(詩篇 19: 7-14、42: 1 以下、119: 1 以下を参照)
- (4) どんな新しい見識もすぐあなた自身の生活に応用しなさい。
- (5) 謙虚で教えられやすい者でありなさい。

論理的プロセスと聖霊の導きとの間でバランスを保つことはとても難しい。以下に示す引用文は私が両者のバランスを保つのを助けてくれている:

- (1) James W. Sire 著 *Scripture Twisting* の 17-18 ページより:

「啓蒙は霊的に選ばれた者の心にだけでなく、神の人々の心にも来る。聖書的キリスト教にはカリスマ的指導者(権威者)階級も、啓蒙家も、(聖書のみことばを)全て正しく解釈できる人々もない。だから、聖霊は特別な知恵の賜物と知識と霊的識別力を下さる一方で、これらの賜物を持つクリスチャンに御自分のお言葉を単に権威的に解釈させようとはなさらない。権威あるものとして存在する聖書を参照するだけではなく、神が特別な能力を与えられた人々にも意見を聞くことによって学び、判断し、そして見分ける(認識あるいは識別する)ことは神の人々一人一人の責任である。要約すると、私が聖書全体について行っている仮定は、聖書は全ての人に対する神の真の啓示であり、その語る全ての事柄は私達にとって最高の権威あることであり、全体的に見て謎はなく、あらゆる文化圏の一般の人々に十分に理解されるべきものである、ということである。」

- (2) Bernard Ramm 著 *Protestant Biblical Interpretation* の 75 ページにあるキルケゴールについての記述:

キルケゴールによれば、聖書の文法的、辞書的、歴史的研究は聖書を正しく(有意義に)読むための準備として必要であった。「聖書を**神の言葉**として読むためには、心で、口に出して、わくわくして、(神への)熱烈な期待をもって、そして神と会話しながら読まなければならない。ぼんやりして、注意を払わず、学者や専門家と同じように聖書を読むことは、聖書を神の言葉として読むことにはならない。ラブレターを読むのと同じように聖書を読めば、それが聖書を神の言葉として読むことになるのである。」

- (3) H. H. Rowley 著 *The Relevance of the Bible* の 19 ページより:

「完全にではなく、ただ単に知的に理解するだけでは、聖書の持つ価値の全てを自分の

ものとすることはできない。聖書はそのように理解されることをひどく嫌っている。なぜならそれ(単に知的に理解[するような読み方を]しないこと)が完全な理解に不可欠だからである。そうではなく、完全に理解[するような読み方を]したいのなら、靈的価値を靈的に理解できるような読み方をしなければならない。だから、靈的な理解のためには知的な注意深さ以上の何かが必要である。靈的なことは靈的に見分けられ(認識あるいは識別され)るので、聖書を学習する者には、もし科学的研究を超えて神からのより豊かな恵みを聖書の全ての書から最大限受け取ることを目的とした研究がしたいなら、霊を受け入れようとする態度と、自分が従うべき神を見出そうとする熱意が求められる。」

VI. この注解書の方法

The Study Guide Commentary はあなたの解釈手順を以下に示す方法で助けることができるように編集されている:

- (1) 聖書の各書に(それが書かれた)歴史的背景の短い要約を導入する。「第3の読書サイクル」を終えたらこの情報(要約)を確認しなさい。
- (2) 各章の冒頭に文脈に関する洞察(見識)を述べる。これは、文章単位がどのように構成されているかをあなたが理解するのを助けてくれるだろう。
- (3) いくつかの現代訳聖書を用いて、各章の冒頭あるいは主な文章単位に段落分けをし、見出し(短い説明文)をつける:
 - (a) 1995年改訂 The New American Standard Bible (NASB)
 - (b) The New King James Version (NKJV)
 - (c) The New Revised Standard Version (NRSV)
 - (d) Today's English Version (TEV)
 - (e) The New Jerusalem Bible (NJB)

段落分けは神の啓示により行うことではない。それは文脈から確認されなければならない。他の翻訳理論や神学的観点に基づく聖書といくつかの現代訳聖書を比較することによって私達は原著者の考えの構成の仕方の予想される形を分析することができる。各段落は一つの大きな真実を含んでいる。これは「トピックセンテンス」あるいは「原典の中心的概念」と呼ばれてきた。この独特の考えは正しい歴史的かつ文法的解釈の鍵である。一つの段落の範囲内で解釈したり、その内容を説教したり教えたりすることは決してすべきでない! また、各段落はその周囲の段落と関連があるということを覚えておきなさい。このような理由で、(聖書の)書全体の段落レベルでの要約はとても重要なのである。私達は、神の啓示を受けた原著者により語られている主題の論理の流れに従うことができなければならない。

- (4) 注解の記述の内容は聖句を順に解釈する方式に従っている。これは私達を原著者の考えに従わせている。注解の記述の内容はいくつかの分野から情報を与えている:

- (a) 文脈
 - (b) 歴史的、文化的見識
 - (c) 文法についての情報
 - (d) 単語についての研究成果
 - (e) 関連する並列文
- (5) この注解書のトピックのいくつかにおいては、引用される The New American Standard Bible (1995 年改訂) の原文がいくつかの他の現代訳聖書によって補足されるだろう:
- (a) The New King James Version (NKJV): 「テクストゥス・レセプトゥス」の原典に従っている。
 - (b) The New Revised Standard Version (NRSV): The National Council of Churches of the Revised Standard Version 編の逐語訳改訂聖書である。
 - (c) Today's English Version (TEV): アメリカ合衆国聖書協会編の dynamic equivalent 訳聖書である。
 - (d) The New Jerusalem Bible (NJB): フランスカトリックの dynamic equivalent 訳に基づく英訳聖書である。
- (6) ギリシャ語が読めない人々のために、いくつかの英訳聖書を比較すると原典中の問題を明らかにするのを助けることができる:
- (a) 数タイプある原典
 - (b) 単語の別の意味
 - (c) 文法的に難解な原典と(文章)構造
 - (d) (意味が)あいまいな原典中の文
- 英訳聖書はこれらの問題を解決できないが、これらの問題が確実に、より詳しくより徹底的に研究されるように促す。
- (7) 各章の締めくくりとして、その章の主な解釈上の問題に注目させることを意図した、関連する議論のための問いを与える。

創世記の研究における緒言

A. 創世記 1～11 章は現代西洋科学とどのように関係があるのか？

1. 全面的に対立している
2. 全て(の理論)に同じ意見を持っている
3. 類似点

科学は研究方法である。それは現代の(起こっている)現象であるが、新しい知識という点では常に変化している。創造主としての神と救い主としての神は「2つの書」、つまり自然(自然の啓示;詩篇 19: 1-6 を参照)と聖句(特別な啓示;詩篇 19: 7-11 を参照)によって一緒にされている。神は両方を書かれた！それらは(互いに)異なる意見を持っている。

B. 創世記 1～11 章は現代の歴史とどのように関係があるのか？

1. 東洋と西洋では文学のジャンルが異なる。真か偽かではなく、正しいか誤りかではなく、異なるのだ。創世記 1～11 章は前史(人類の歴史が始まる前の時代)について書かれたものである。非常に神学的であるが、何かが隠されている(短い文学的パターン)。文学ジャンルの中に隠され、歴史劇の中に隠され、歴史の終わり(つまり黙示)として隠されている。
2. キリスト教はユダヤ教と同様に歴史に基づく宗教である。歴史上の出来事から成り立っている。しかし、いくつかの出来事(つまり創世記 1～11 章)は私達の理解を超えているので、それらは人間に理解できる方法(つまり順応[適合])で伝えられている。これはその出来事の信憑性を否定するための方法ではなく、それらの神学的目的を強調するための方法である。聖書は創造ではなく再創造(救い)に注目しようとしている。
3. 創世記は参照聖句の「歴史的」枠の内部に組み込まれている。私達は(創世記 1～11 章と) 12 章で始まる世俗の歴史(つまりヌチ銘板とマリ銘板)との明確な関連について述べる事ができる。しかし、1～3 章は歴史的にもジャンルのにも特定できない。

C. 創世記 1～11 章は文学とどのように関係があるのか？

1. メソポタミア地方で発見された原典には 1～2 章、3 章、6～9 章に並列文が見られる。しばしば術語(専門用語)、詳細、あらすじが類似している。しかし、聖書の一神教的性格と人間尊重の精神は独特である。
2. 聖書を文学として研究することは少なくとも2つの点で危険である。
 - a. 文学として見れば聖書は神話的で全く歴史的ではない。
 - b. 文学として見れば聖書は文学的ではなく、理解できる言語で書かれておらず、東洋文学のジャンルに属さず、劇的でたとえ話的な出来事は記されていない。
神は人間の言語(つまり隠喩[比喩]、類似語、否定語)を用いて特定の時代と文化に御自

身を現わされた。そのことは真実であり信憑性があるが、排他的な事柄ではない。

3. 創造は進歩的啓示の真実である。創世記 1～2 章は(正しく聖書を理解するために)基礎的であるが、詩篇と新約聖書も正しい観点(で聖書を理解する)のために不可欠である。これら3つの文献は各々、創造の方法と目的を神学的に理解した内容を付け加えている。

D. 私達はどのように創世記 1～11 章を解釈するのか？

1. どのように全てが始まり、そして終わったのかが隠されている(創世記 1～11 章と黙示録、つまり、私達はガラスを通して暗闇を見ている)。
2. 私達には、神に応答していただく必要のある、そして聖書を理解するための全ての真実がある。しかし、私達には排他的な、文学的な、完全な真実はない。私達には神学的に選択され解釈された出来事がある。
3. 私達は以下に示す事柄を通して創世記 1～11 章を見ていかなければならない:
 - a. 文学上のジャンル
 - b. 神学的に強調されていること
 - c. 歴史上の出来事
 - d. 現代の西洋の科学・文化・偏見
4. 墮落した人間は全て聖書の前に立ち(つまり神の黙示)、そしてそれによって裁かれる。そのことを理解することは私達の精神的能力を超えているが、私達は聖書に正しく応答できるようになるために聖書を理解できなければならない。信者達の聖書の解釈の仕方は様々である(なかにはあまりよく解釈できない人々もいる)が、全員が自分達の理解した真実に対して責任を持っている。聖書は神(の存在)を明らかにする;聖書は(神への)人間の反逆を明らかにする;聖書は神による救いを明らかにする。私達にとっての永遠は、創造がどのようにいつ起こったかや創世記 1～11 章の出来事ではなくこれらの真実と関係がある。これらの真実は主に**どなたが**、そして**なぜ**全てを創造されたのかを表しているものであり、そのことは非常に重要なことである。

神は私達皆を憐れみ給う(そして主イエスも)！

創世記への導入

I. 書名

- A. ヘブル語(つまりマソラ原典)ではこの書の名前は冒頭に出てくる言葉 *beresith* である。この言葉の意味は「初めに」あるいは「始まりの最中に」である。
- B. ギリシャ語聖書(つまりセプトゥアギンタ訳)によれば、この書の名前は *Genesis* である。その言葉は「始まり」あるいは「起源」を意味し、創世記 2: 4 前半から採られた。この言葉は、バビロニアのくさび形文字を用いた書記達(が記したもの)と同様な様々な神学的伝記と関連する、原著者の用いた重要な「要約句」つまり奥付(おくづけ: [訳者注] 書物の終りにつける、著者名等を記載した部分)であると言ってもよい。この重要な要約句は導入部としてではなく、総括(要約)としての役割をする。

II. 正典認証

- A. この書は、「トーラ」、換言すれば「教義」つまり「神の教え」と呼ばれるヘブル語の正典の最初の章の最初の書である。
- B. セプトゥアギンタの中のこの章は(モーセ)五書として知られている。
- C. それは英語では時々「モーセの五書」と呼ばれている。
- D. 創世記から申命記までの書は、神の創造に関してモーセが自らの生涯を通じて継続的に執筆(あるいは編集)した書集である。

III. ジャンル—創世記は主に神学的・歴史的物語であるが、他のタイプの文学的ジャンルも含んでいる。

- A. 歴史劇—例えば 1: 1-3
- B. 詩—例えば 2: 23、4: 2、8: 22
- C. 預言—例えば 3: 15、49: 1 以下(詩的でもある)

IV. 著作に関する事柄

- A. 聖書自体は(旧約聖書の多くの書でそうであるように)著者の名を明らかにしていない。創世記には、エズラ書やネヘミヤ書のように、「私」で始まる章、あるいは使徒行伝のように「私達」で始まる章はない。間違いなく神が著者なのだ!
- B. ユダヤ人の伝統
 - 1. 古代ユダヤ人の作家達はモーセがそれ(創世記)を書いたと言っている。
 - a. Ben Sirah 著 *Ecclesiasticus* 紀元前 185 年頃に書かれた。
 - b. The *Baha Bathra* 14b タルムードの一部

- c. エジプトのアレキサンドリアのフィロ ユダヤ人思想家 紀元前 20 年頃から紀元 42 年まで存命
 - d. フラビウス・ジョセフス ユダヤ人歴史家 紀元 37 年頃から 70 年まで存命
2. これはモーセへの啓示であった。
- a. モーセが人々のために書いたといわれている:
 - (1) 出エジプト記 17: 14
 - (2) 出エジプト記 24: 4,7
 - (3) 出エジプト記 37: 27,28
 - (4) 民数記 33: 2
 - (5) 申命記 31: 9,22,24-26
 - b. 神がモーセを通して人々に語られたといわれている:
 - (1) 申命記 5: 4-5,22
 - (2) 申命記 6: 1
 - (3) 申命記 10: 1
 - c. モーセが人々にトーラの言葉を語ったといわれている:
 - (1) 申命記 1: 1,3
 - (2) 申命記 5: 1
 - (3) 申命記 27: 1
 - (4) 申命記 29: 2
 - (5) 申命記 31: 1,30
 - (6) 申命記 32: 44
 - (7) 申命記 33: 1
3. 旧約聖書の著者達はモーセのこの書(創世記)について記している:
- a. ヨシヤ記 8: 31
 - b. 第二列王記 14: 6
 - c. エズラ記 6: 18
 - d. ネヘミヤ記 8: 1;13: 1-2
 - e. 第二歴代誌 25: 4;34: 12;35: 12
 - f. ダニエル書 9: 11
 - g. マラキ書 4: 4

C. クリスチャンの伝統

- 1. イエスはモーセが人々に語ったトーラからの言葉を引用されている。
 - a. マタイの福音書 8: 4;19: 8
 - b. マルコの福音書 1: 44;7: 10;10: 5;12: 26
 - c. ルカの福音書 5: 14;16: 31;20: 37;24: 27,44

- d. ヨハネの福音書 5: 46-47;7: 19;23
- 2. 他の新約聖書の著者達はモーセが人々に語ったトーラからの言葉を引用している。
 - a. ルカの福音書 2: 22
 - b. 使徒行伝 3: 22;13: 39;15: 1,15-21;26: 22;28: 23
 - c. ローマ人への手紙 10: 5,19
 - d. コリント人への手紙第一 9: 9
 - e. コリント人への手紙第二 3: 15
 - f. ヘブル人への手紙 10: 28
 - g. 黙示録 15: 3
- 3. 最も初期の教会指導者達はモーセが(創世記の)著作者であることを受け入れていた。しかし、イレネアウス、アレキサンドリアのクレメント、オリゲン、テルトゥリアンは皆、創世記の現在の正典としての形態とモーセの関係について疑問を抱いていた(本書 5 ページの D.2 を参照)。

C. 現代の学識

1. 明らかに編集の都合で(見かけ上、古文書を現代の読者により理解しやすくするために。これはエジプトの書記に特徴的な作業である。)トーラに付け加えられた事柄が見られる:
 - a. 創世記 12: 6;13: 7;14: 14;21: 34;32: 32;36: 31;47: 11
 - b. 出エジプト記 11: 3;16: 36
 - c. 民数記 12: 3;13: 22;15: 22-23;21: 14-15;32: 33 以下
 - d. 申命記 3: 14;34: 6
 - e. 古代の書記は高度な訓練と教育を受けていた。しかし、彼らの技術は国によって異なっていた:
 - (1)メソポタミアでは、書記達は(書き記す内容について)何も変更しないよう注意しており、また仕事(書き記した内容)の精度をチェックしていた。ここに、紀元前 1400 年代前半頃の古代サマリアの書記の脚注がある:「書き記した内容は最初から最後まで完璧であり、書き写され、改訂され、比較され、そして署名によって確認された。」
 - (2)エジプトでは書記達は現代の読者のために自由に古代の原典を改訂していた。クムランの書記達(つまり死海写本の著者達)はこのやり方に倣っていた。
2. 19世紀の学者達(Graff と Wellhausen)は、トーラは様々な時代の多くの原典から構成される複合文書であると立証した。この理論は以下に示す事柄に基づいている:

- a. 神の他の(呼び)名
 - b. 原典中の明らかな二重語(姉妹語: [訳者注]ある言語に違う経路で入ってきた同じ語源の2つ以上の語の1つ)
 - c. それら構成原典の文学形態
 - d. それら構成原典の神学
3. 推定される原典と(それらが書かれた)年代:
- a. J 原典(南イスラエル由来の YHWH の使用) 紀元前 950 年
 - b. E 原典(北イスラエル由来の *Elohim* の使用) 紀元前 850 年
 - c. JE 混合 紀元前 750 年
 - d. D 原典(第二列王記 22: 8 の「律法の書」。主の神殿の改修中にヨシヤの行った改革のさなかに発見された書で、申命記の中にある書と推測された。ヨシヤの時代のある無名の祭司によって、彼の改革を支持するために書かれた。) 紀元前 621 年
 - e. P 原典(祭司によって書き直された旧約聖書。特に儀式と決まりごとについて書かれたもの) 紀元前 400 年
 - f. 明らかに編集の都合でトーラに付け加えられた事柄が見られる。ユダヤ人はそれが以下に示す人々によるものと主張している:
 - (1) 書かれた時代の祭司長(あるいは彼の家族の一員)
 - (2) 預言者エレミヤ
 - (3) 書記エズラ—エズラス書[訳者注: プロテスタントでは旧約聖書外典の2書で、ローマカトリックでは旧約聖書正典の2書(エズラ記とネヘミヤ書)]によれば、紀元前 586 年のエルサレム陥落時に原典が破壊されたためにエズラはそれを書き直している。
 - g. しかし、J.E.D.P 理論はトーラから得られている証拠よりも私達の現代文学の理論と分類についてさらに述べている(R. K. Harrison 著 *Introduction to the Old Testament* 495-541 ページと *Tyndale's Commentaries* 「レビ記」15-25 ページ)。
 - h. ヘブル語文献の特徴
 - (1) 創世記1章と2章に見られるような二重語はヘブル語では一般的に見られる。通常は、特定の文献(つまり十戒と the Holiness Code)に倣って一般的に記述される。これは真実を強調したり、(預言者などの)口で語られた神の言葉を思い出せるようにするための方法であったのかもしれない。
 - (2) 古代のユダヤ教の指導者達は、神の最も一般的な二つの名は神学的に重要であるといっている:
 - (a) YHWH—神が救い主としてイスラエルに関係を持たれたときの契約

名(詩篇 19: 7-14;103 を参照)

(b) *Elohim* —地上の全ての生きるものの創造主であり提供者であり扶養者でいらっしやる神(詩篇 19: 1-6;104 を参照)。

(c) 他の近東地域の古代の原典では崇拜の対象としての神を言い表すのにいくつかの名が用いられている。

(3) 様々な文体や語彙が特定の(ジャンルの)文学作品の中に見られることは、近東地域の聖書的ではない文献に一般的に見られる(R. K. Harrison 著 *Introduction to the Old Testament* 522-526 ページを参照)。

E. 近東地域の古代の文献から明らかになったことは、モーセが創世記を書くためにくさび形文字で書かれた文書あるいはメソポタミア様式の(家父長の)口述の伝統を用いたことを示唆している。このことは神の啓示の減少を示唆する手段ではなく、創世記の文字通りの現象を説明する試みである(P. J. Wiseman 著 *New Discoveries in Babylonia about Genesis* を参照)。創世記 37 章冒頭の文体、文型、語彙に見られる顕著なエジプトの影響は、モーセが、エジプトとメソポタミアの両方におけるユダヤ人の歴史についての文献と口述の伝統を用いたことを示していると思われる。モーセは正式な教育の全てをエジプトで受けたのだ!(モーセ)五書の書かれた正確な年代は明らかにされていない。モーセは書記を雇ったり、書かれた文書や(家父長の)口述の伝統を用いたのかもしれないが、私はモーセが五書の大部分を編集して書いたと信じる。彼の書いたものは後の時代の書記達によって改訂されている。旧約聖書のこれらの最初の数書の歴史的重要性と信憑性は現代の考古学によって描写されている。

F. サムエルの指導のもとに(第一サムエル 10: 25 を参照)同時期に五書のそれぞれの

書を書き記した(イスラエルの様々な地域出身の)書記がいたことを主張する理論が現れている。この理論は E. Robertson 著 *The Old Testament Problem* によって最初に提唱された。

V. 年代

A. 創世記は宇宙の創造からアブラハムの家族(の生きた時代)までの時代を網羅している。時代に関する世俗の文献からアブラハムの生きた年代を特定することは可能である。そのおよその年代は紀元前 2000 年、つまりイエス・キリストのご誕生の前の 2000 年間である。このことの根拠は以下に示すことである:

1. (ヨブのように)家族に対して祭司の役割を果たした父親であった。
2. (家畜の)群れや集団に従う遊牧生活をしていた。
3. この時代のセム族の人々の移住

- B. 創世記 1-11 章の初期の出来事は真の歴史上の出来事(たぶん歴史劇)であるが、現在得られている情報から年代を特定することは不可能である。
1. 私は個人的に、地球の年齢が数十億歳であること(つまり宇宙が 146 億歳で地球が 46 億歳であること)を受け入れるようになった(Hugh Ross 著 *Creation and Time and The Genesis Question* を参照)。
 2. しかし私はまた、かなり後の時代にアダムとエバが特別に創造されたことを信じている。創世記は数タイプの「歴史的」枠組みで構成されているが、その歴史的側面は冒頭(つまり創世記 1~3 章)において不明瞭だと私には思われる。アダムとエバの子供達はメソポタミアで生活を始めた(つまり創世記 4 章)。もしこの枠組みが維持されていればアダムは現代人(*Homo sapiens*)であり、もはや原始人(*Homo erectus*)ではない。もしこのことが真実なら、神によるかなり後の時代の特別な創造とともに、原人(訳者注: ヒト科の、人類に似た動物)の進化論的発達(*Tyndale's Old Testament Commentaries* の Kidner 著「創世記」と、Fazale Rana と Hugh Ross 共著の *Who Was Adam?* を参照)。もあるに違いない。私はこのような考え方には完全には満足していないが、これは現在私が聖書と科学の理解のためにできる最善の考察だ。
 3. 創世記を研究するときには、神の人々を(1)第一列王記 6: 1 によれば紀元前 1445 年に、あるいは(2)現代考古学の示す証拠によれば紀元前 1290 年にエジプトから連れ出したモーセによって歴史上の出来事が記録されていることを覚えておかなければならない。従って、口述の伝統、未知の書き記された文献、あるいは直接の神の啓示によってモーセは、「どのように」と「いつ」ではなく「誰が」と「なぜ」に焦点を当てて「どのように全てが始まったのか」を記録したのだ!
 4. 私はこの注解書(創世記 1~11 章)を 2001 年に書いた。私は主に創世記 1 章と私自身の(生まれ育った)西洋の文化との関係と格闘した。John H. Walton の新刊 *The Lost World of Genesis One*, IVP (2009 年)は私が私自身の存在背景によってどのような影響を受けたかを知るのを助けてくれている。正しい聖書解釈学は原著者の意図(を知ること)から始まると私は信じるが、私にとって自らの聖書解釈学の理論が実践に優ることは明らかである。この Walton の著書は、創世記 1 章を宇宙の物質的起源ではなく機能的起源と関係する記述として考えることにおいてパラダイムシフト(方法論的転換)である。本当に目から鱗の落ちる思いがする。そのように考えることがこの非常に重要な原典を、科学対信仰、古い地球対新しい地球、種の進化対種の創造といった論争に決着をつけるものとして見ていくための新たな方法であると私は確信している。私はこの本をぜひともあなたがたにお勧めする!

VI. 歴史的背景を裏づける文献

A. 聖書の他の書

1. 創造—詩篇 8 章、19 章、33 章、50 章、104 章、148 章、そして新約聖書(ヨハネの福音書 1: 3、I コリント 8: 6、コロサイ 1: 16、ヘブル 1: 2 を参照)

2. アブラハムの時代—ヨブ

B. 考古学の文献

1. 創世記 1～11 章の文化的背景を反映している並列文で知られている最古のものは、北部シリアにある、紀元前 2500 年頃のものとして推定される、アッカド語で書かれた、エブラのくさび形文字の碑文である。

2. 創造

a. 創造に最も関連したメソポタミアの文献 *Enuma Elish* は、(1) NIV スタディバイブルによれば紀元前 1900～1700 年頃に、あるいは(2) John H. Walton 著 *Ancient Israelite Literature in Its Cultural Context* の 21 ページによれば紀元前 1000 年頃に書かれたと推定される。これはニネベのアシュルバニパル図書館で発見され、他の写本も他の場所数か所で発見されている。マルデュクがアッカド語で創造について書き示した 7 つのくさび形文字の碑文がある。

(1) 神 *Apsu*(新鮮な水—男性)と *Tiamat*(塩水—女性)には、言うことをきかない、そして騒がしい子供達がいた。この二人の神は子供達を静ませようとした。

(2) *Ea*と *Damkina* の子供の一 *Marduk*(新興都市バビロンの最高神)は *Tiamat* を打ち負かした。彼は *Tiamat* の体から大地と大空をつくった。

(3) *Ea* は、*Apsu* の死後に *Tiamat* の夫となった、(*Marduk* に)打ち負かされたもう一人の神 *Kingu* から人間をつくった。人間は *Kingu* の血から生まれた。

(4) *Marduk* はバビロニアの神々の中で最高神とされた。

b. 「The Creation Seal(創造の紋章)」はくさび形文字の碑文で、裸の男と女が実のなる木のそばに立っていて、蛇がその木の幹に巻き付き、そしてまるで話しかけているように女の肩の上の方にいる様子が絵に描かれている。

Wheaton College の考古学の保守的な(考え方を持つ)教授 Alfred J. Hoerth は、この紋章は現代では売春に関連のある事柄に解釈されると言っている。これは、過去の人工物が人や時代によってどのように様々な解釈されるかを示す良い例である。この特別な証拠は再評価されるべきである。

4. 創造と洪水—*The Atrahasis Epic* は、(真の神に比べて)より劣る神々が過重労働に対して起こした反逆と、これらのより劣る神々の神性を表現するための 7 組の人間の夫婦の(泥、血、そして唾液からの)創造とを記録している。人類は(1)過剰数となったために、そして(2)騒動を起こしたために滅ぼされた。人口は疫病、二度の飢饉、そして最後に *Enlil* の計画した洪水によって減少した。*Atrahasis* は一隻の船を建造して動物達を載せ、洪水から救った。これらの主な出来事は創世記 1～8 章に同じ順序で見られる。このくさび形文字の碑文は *Enuma Elish* とほぼ同時代に

書かれたと推定される。

4. ノアの洪水

a. ニップルにある、*Eridu Genesis* と呼ばれるサマリアの碑文は紀元前 1600 年頃に書かれたと推定され、*Ziusudra* と起こりつつあった洪水について語っている。

(1) 水の神 *Enka* は *Ziusudra* に洪水の到来を警告した。

(2) 王であり祭司でもあった *Ziusudra* はこの啓示を信じ、一隻の巨大な箱船を建造して、全ての種類の生き物をそれの中に收容した。

(3) 洪水は7日間続いた。

(4) *Ziusudra* は船の窓を開き、乾いた地が現れているかどうか確かめるために数羽の鳥を放った。

(5) 彼は又、船を去るときに一頭の雄牛と羊をいけにえとして捧げた。

b. *Gilgamesh Epic* として知られている、4つのサマリアの碑文で構成されるバビロニアの食物についての文献は、くさび形文字で書かれたアッカド語版のそれがかなり後の時代(紀元前 1900~1700 年頃)のものであるにもかかわらず、紀元前 2500~2400 年頃に書かれたと推定されている。これは、洪水時の生存者であり、*Gilgamesh* の語り手であり、*Uruk* の王である *Utnapishtim* がどのように大洪水を生き延びて永遠の命を得たかについて語っている。

(1) 水の神 *Ea* は洪水の到来を警告し、*Utnapishtim* (*Ziusudra* のバビロニアでの呼び名) に一隻の船を建造するよう語った。

(2) *Utnapishtim* と彼の家族は、選ばれた傷の治療用の薬草とともに洪水を生き延びた。

(3) 洪水は7日間続いた。

(4) 船は北ペルシャのニシル山の山頂にたどり着き、そこにとどまった。

(5) 彼は、乾いた地が現れているかどうか確かめるために3種類の鳥を放った。

5. 古代の食物についての記述のあるメソポタミアの文献は全て同じ文献から引用されている。(文献中に出てくる人物の) 名前はしばしば異なっているが、筋書きは同じである。一つ例を挙げると、*Ziusudra*、*Atrahasis*、そして *Utnapishtim* は全て同じ人間の王を表している。

6. 創世記の冒頭の出来事に対応している並列文は、人類の離散前(創世記 1~11 章)に神から与えられた知識と経験を述べていると説明することができる。これらの真に歴史的で主要な記録は、洪水に関して現在世界中で普遍的に見られる物語に巧みに作りあげられ、神話化されてきている。創造(創世記 1、2章)と洪水(創世記 6~9 章)だけでなく人間と天使の集団(創世記 6 章)についても同じことが言える。

7. 家父長の日(中型ブロンズ碑文)

a. マリ碑文—くさび形文字で書かれたアッカド語の公文書(アンモナイト文化)と私文

書。紀元前 1700 年頃に書かれたと推定される。

- b. ヌチ碑文—ある部族(ホライト文化あるいはハリアン文化)についてアッカド語で書かれたくさび形文字の古文書。ニネベの南東約 100 マイルの地点にあり、紀元前 1500~1300 年頃に書かれたと推定される。部族と仕事の手順について記録している。さらに詳細な情報を得たいなら、John H. Walton 著 *Ancient Israelite Literature in Its Cultural Context* の 52 ページから 58 ページを読みなさい。
- c. アララク碑文—北シリアにある、紀元前 2000 年頃に書かれたと推定される、くさび形文字の古文書。
- d. 創世記に見られるいくつかの名前、例えばセレグ、ペレグ、テラ、ナホルがマリ碑文では地名として記録されている。聖書中の他の人物の名前、例えばアブラハム、イサク、ヤコブ、ラバン、ヨセフも一般的に見られる。このことは、聖書中の名前がこの時代と場所に合っていることを示している。

8. 「比較史料編纂研究によれば、ヒッタイト人と古代ヘブル人が最も正確に、客観的に、そして忠実に近東地域の歴史を記録したことが明らかになっている。」R. K. Harrison 著 *Biblical Criticism* 5 ページ

- 9. 考古学は聖書の歴史的重要性を確立するのに非常に有用であることが明らかになっている。しかし、一言注意が必要である。以下に示す理由から、考古学は絶対に信用できるガイドであるとはいえない:
 - a. (研究)初期の発掘技術の稚拙さ
 - b. 発見された人工物に対する様々な、非常に主観的な解釈
 - c. (木の環や陶器から推定され作成されているとは言っても)公認されていない古代近東地域の年表

C. エジプトで発見された、創造に関する文献は John H. Walton 著 *Ancient Israelite Literature in Its Cultural Context* (Mississippi 州 Grand Rapids の Zondervan 社、1990 年刊)の 23~24 ページと 32~34 ページに見ることができる。

- 1. エジプトで発見された文献によれば、創造は組織的ではない混沌とした原始時代の水から始まった。創造は混沌とした水から発達した構造(丘)として目に見えるものとなった。
- 2. エジプトのメンフィスで発見された文献によれば、創造はプタの語った言葉によって起こった。
- 3. エジプトの各主要都市はそれぞれ、自分達の守護神を尊重する独自の伝統を持っていた。

D. John H. Walton は自らの新刊 *The Lost World of Genesis One*, IVP (2009 年)で古代近東地域の神信仰と新しい光の中の宇宙との関係を示している。彼は、その関係は、「自然」

と「超自然」の融合について古代近東の全地域で一致した、文化に関する、書記の意見ではない、一般の人々の意見だと主張している(そして私はその主張に賛同している)。全ての文化がこの一般的観点を持っている。イスラエルの文化は独自の一神教であるだけでなく様々な文化的観点を持っている。

VII. 文章単位(文脈)

A. モーセの句「～の世代」(*toledoth*)の使用に基づく概要

1. 天と地の起源、1: 1～2: 3
2. 人間の起源、2: 4～4: 26
3. アダムの世代、5: 1～6: 8
4. ノアの世代、6: 9～9: 17
5. ノアの息子達の世代、10: 1～11: 9
6. シェムの世代、11: 10～26
7. テラ(アブラハム)の世代、11: 27～25: 11
8. イシュマエルの世代、25: 12～18
9. イサクの世代、25: 19～35: 29
10. エサウの世代、36: 1～8
11. エサウの息子達の世代、36: 9～43
12. ヤコブの世代、37: 1～50: 26

(1. ～11. はメソポタミア様式の文体だが 12. はエジプト様式の文体である。)

B. 神学的概要

1. 人間のための、そして人間の創造、1～2 章
2. 人類と被造物の墮落、3 章
3. 墮落の結果、4～11 章
 - a. カインとその家族に及んだ悪
 - b. セスとその家族に及んだ悪
 - c. 全ての人に及んだ悪
 - d. 大洪水
 - e. ノアの家族にも及んだ悪
 - f. 反逆を続けた人類;バベルの塔
 - g. 神による人類の分散
4. 全ての人間のための一人の人(3: 15)、12～50 章(ローマ人への手紙 5: 12～21)
 - a. アブラハム(12: 1～3)、11: 27～23: 20
 - b. イサク、24: 1～26: 35
 - c. ヤコブ、27: 1～36: 4

(1)ユダ(メシア[救い主]の家系)

(2)ヨセフ(二重に地を受け継いだ)、37: 1～50: 26

VIII. 主な真実(事実)

A. どのようにして全てが始まったのか？

1. 全ては神から始まった(創世記 1～2章)。聖書の世界観はではなく一神教である。聖書は創造が「どのように」行なわれたかではなく「誰が」創造したかを重要視する。その(創造についての)表現は短いが非常に力強い。聖書の神学は、言葉や(登場人物達の)活動のパターンやトピックの一部が他のメソポタミアの文献にも見られるが、全体的にその(書かれた)時代に特有のものである。
2. 神は人間との親しい交わりを望まれた。創造は神が人間との親しい交わりをなさる場のひとつにすぎない。これは「触れ合いのある惑星」である(C. S. Lewis の著書を参照)。
3. 創世記 1 章、2～4章、11～12章を無視して聖書の他の部分を理解することはできない。
4. 人間は信仰によって、神の御意志について理解している内容に応答しなければならない。

B. 世界はなぜこんなに悪くて不公平なのか？世界は「とても良かった」(1: 31)が、アダムとエバが罪を犯した(創世記 3 章、ローマ 3: 9～18 と 23 節、ローマ 5: 17～21 を参照)。明らかにその結果はとても悪いものであった:

1. カインがアベルを殺した(4 章)
2. レメクの復讐(4: 23)
3. 無法国家(6: 1～4)
4. 人間の悪(6: 5 と 11～12 節、8: 21)
5. ノアの泥酔(9 章)
6. バベルの塔(11 章)
7. ウルの多神崇拜(11 章)

C. 神はどのように世直しなさるおつもりなのか？

1. メシア(救い主)が**全ての**人のために来られる(3: 15)
2. 神は**全ての**人を召すために一人の人を召される(創世記 12: 1～3 と出エジプト記 19: 5～6、ローマ 5: 12～21 を参照)
3. 神は墮落した人類(アダム、エバ、カイン、ノア、アブラハム、ユダヤ人、異邦人)とともに働こうとされる。そして恵みによって以下に示すものが与えられる。
 - a. 約束
 - b. 契約(無条件のものと条件付のもの)
 - c. いけにえ
 - d. 礼拝

第一読書サイクル(xix ページを見よ)

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)その聖書の書全体を一通り読みなさい。書全体の中心テーマをあなた自身の言葉で述べなさい。

1. 書全体のテーマ
2. 文学(ジャンル)のタイプ

第二読書サイクル(xix ページを見よ)

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

その聖書の書全体をもう一度一通り読みなさい。主題を要約し、その主題を一文で表現しなさい。

1. 第一の文章単位の主題
2. 第二の文章単位の主題
3. 第三の文章単位の主題
4. 第四の文章単位の主題
5. (以下同様)

創世記1: 1～2: 3

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
創造	創造の歴史	創造の話	創造の話	世界の創造
(1: 1～2: 3)	(1: 2～2: 7)	(1: 1～2: 4 前半)	(1: 1～2: 4 前半)	
1: 1～5	1: 1～5	1: 1～5	1: 1～5	1: 1～2
				1: 3～5
1: 6～8	1: 6～8	1: 6～8	1: 6～8	1: 6～8
1: 9～13	1: 9～13	1: 9～13	1: 9～13	1: 9～10
				1: 11～13
1: 14～19	1: 14～19	1: 14～19	1: 14～19	1: 14～19
1: 20～23	1: 20～23	1: 20～23	1: 20～23	1: 20～23
1: 24～25	1: 24～25	1: 24～25	1: 24～25	1: 24～25
1: 26～31	1: 26～28	1: 26～31	1: 26～2: 4 前半	1: 26～27
	(27)			1: 28～31
男と女の創造	1: 29～31			
2: 1～3	2: 1～3	2: 1～3		2: 1～3
	2: 4～7	2: 4 前半		2: 4 前半

第三読書サイクル(xix ～xx ページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

*神の啓示により行うことではないとはいえ、段落分割は原著者の意図を理解し従うために重要なことである。各現代語訳聖書は第一章を分割し要約している。各訳聖書はトピックを独自の方法で要約している。(聖書の)原文を読むときにはどの訳の聖書が主題と聖句分割について自分が理解したことと合うかを自分自身に問いなさい。

各章をまず読んで、そしてその主題(段落)を明らかにしなければならない。それから自分が理解したことを現代語訳聖書の間で比較しなさい。原著者の論理と主張に従うことによって彼(原著者)の意図を理解するときのみ私達は本当に聖書を理解できるのである。原著者だけが神の啓示を受けている—読者には(聖書の)メッセージを変えたりあるいは修正する権利はない。聖書の読者には神の啓示の示す真理を自分の(生きている)時代と生活に適用する責任があるのだ。

全ての専門用語と略語の完全な説明は補遺1、2、3、そして4にあることを忘れてはならない。

緒言

A. 創世記1～11章の研究は以下に示す理由で難しい:

1. 私達は皆自分達自身の(生まれ育った)文化と特定の教派の教えに影響を受けている。
2. 現代のいくつかの精神的圧迫が意識的に、そして無意識に私達の「起源」観に影響を与えている。
 - a. 現代考古学(メソポタミアの並列文)
 - b. 現代科学(現在ある理論)
 - c. 解釈の歴史
 - (1)ユダヤ教
 - (2)初期教会
3. 聖書冒頭のこの文章単位は歴史として表現されているが、いくつかの事柄が解釈者を驚かせている。
 - a. メソポタミアの並列文
 - b. 東洋の文筆技術(創造に関する2つの明らかな記述)
 - c. 異常な出来事
 - (1)「あばら骨(肋骨)」から創られた女
 - (2)言葉を話す蛇
 - (3)全ての動物のつがい(オスとメスの組)を載せて一年間も漂流した船
 - (4)天使と人間の混血
 - (5)人間の寿命の長さ
 - d. いくつかの言葉が主要な(登場)人物の名前(の命名)に役割を果たしている(K.3を参照)。
4. クリスチャンは、新約聖書がキリストについて創世記1、2章をどのように解釈しているかを

覚えておく必要がある。彼(イエス・キリスト)は創造における父なる神の代理者であられ(ヨハネ 1: 3 と 10 節、I コリント 8: 6、ヘブル 1: 2 を参照)、そして目に見える王国と目に見えない

王国の代理統治者でいらっしゃる(コロサイ 1: 16)。この新しい啓示は創世記1～3章の文字通りの解釈に注意する必要があることを示している。三位一体は創造に関係があるのだ。

1. 創世記 1: 1 の父なる神
2. 創世記 1: 2 の聖霊であられる神
3. 新約聖書中の進歩的啓示による神の息子であられる神

これは創世記 1: 26、5: 1 と 3 節、9: 6 の重複する記述を説明しうる。

B. 創世記1～11章は科学的な文書ではないが、いくつかの点で現代科学と調和する記述が見られる(創造の順番と地層)。この箇所は反科学的ではなく前科学的である。この箇所は以下に示す真理を表している:

1. 地球的観点から(この惑星上の観測者としての人間)
2. 現象学的観点から(つまり五感; 観測者としての人間に対しての物事の現れ方)

この箇所は長年にわたり多くの文化で真理の具現者として機能してきた。この箇所は出来事について特別な説明をしないで現代科学的文化に対して真理を表している。

C. この箇所は驚くほどに簡潔で、美しい文体で書かれていて、そして芸術的に構成されている。

1. 分かれる物事
2. 発展する物事
3. 混沌から、生物でいっぱいの子供(活動する)惑星へ

D. この箇所を理解するための鍵は以下に示す事柄の中にある。

1. それの属する(文学)ジャンル
2. それの書かれた時代との関係(John H. Walton 著 *The Lost World of Genesis One* を見よ)
3. それの構成
4. それの一神教主義
5. それの神学的目的

解釈は以下に示す点でバランスがとれていなければならない。

1. 聖句の解釈
2. 全ての聖句の体系的理解
3. ジャンルの特殊性

この箇所は活動するもの(生物)の起源(「そしてそれは良かった」、1: 31 を参照)とこれらの墮落(3章を参照)を明記している。多くの点でキリストに関する出来事は新しい創造であり、イエスは新しいアダムである(ローマ 5: 12～21 を参照)。新しい時代は究極的にはエデンの園の回復と、神と動物との親しい交わりであると言える(創世記1～2章と黙示録21～22章

を比較せよ)。

- E. この章の示している大いなる真理は、どのように、あるいはいつ(創造がなされたか)ではなく、**誰が、そしてなぜ**(創造したか)なのだ！
- F. 創世記は排他的な知識ではなく真の知識を反映している。それは古代(メソポタミア)の思想形態によって私達に与えられるが、誤りのない神学的真理である。それは書かれた時代に関連があるが、全体的に独特(な内容)である。その語る内容は表現し難いが本当のことである。基本的にこの書は世界像(どのように、そしていつ)ではなく世界観(誰が、そしてなぜ)である。
- G. 創世記1～3章なしには聖書を理解することはできない。話が(1)罪から救いへ、そして(2)人間からイスラエルへいかに速く進むかに気付きなさい。創造は、全世界の救いの目的のために神がイスラエルについて選択された、完全であるが一時的な事柄として書き記されている(創世記 3: 15 と 12: 3 と 22: 18、出エジプト記 19: 5～6、ヨハネ 3: 16、使徒行伝 3: 25、ガラテヤ 3: 8、I テモテ 2: 4、II ペテロ 3: 9 を参照)。
- H. 「啓示と黙示の目的は何か？」という問いに対するあなたの答えは、あなたの創世記1章の理解の仕方に影響するだろう。あなたがその目的を創造についての事実を伝えるものとして理解するなら、あなたはそれ(創世記1章)の一面(つまり計画された真実)[だけ]を理解することになる)だろう。あなたがそれを神と人間と罪についての一般的真理を伝えるものとして理解するなら、多分あなたはそれを神学的に(つまり典型的な方法で)理解するだろう。しかし、あなたがその本質的な目的を神と人類の間の関係の確立として理解するなら、多分あなたはそれを他の方法で(つまり実存主義的に)理解するだろう。
- I. 創世記のこの箇所は確かに神学的である。出エジプト記に見られる(神の人々の)災難がエジプトの自然の神々に及ぶ YHWH の力を表していたように、創世記1、2章はメソポタミアの星の神々に及ぶ YHWH の力を表していると考えられる。その主題は神である。神だけが御自身の目的のためにそれをなさるのである。
- J. 私は自分の無知に驚く！私は自分が生まれてから現在に至るまで置かれてきた歴史的、文化的、そして(キリスト教の)教派的環境にぞっとする！私達は何と力強い神に仕えているのだろうか！私達に(反逆しているときでさえ)手を差し伸べてくださるとは神は何とすごいお方なのだろうか！聖書には愛と力、つまり恵みと正義とがバランスよく語られている。私達が(聖書を)知れば知るほど私達は自分の無知を知るのだ！
- K. ここに、創世記のこの箇所の本質的研究に有用な書をいくつか紹介しよう:
1. 現代科学の概要に沿って解釈された創世記1、2章
 - a. Bernard Ramm 著 *The Christian View of Science and Scripture* (科学的にも神学的にも良書)
 - b. Hugh Ross 著 *Creation and Time and The Genesis Question* (科学的には良書であるが神学的には物足りない)

- c. Harry Peo、Jimmy Davis 共著 *Science and Faith: An Evangelical Dialog* (大変有用である)
 - d. Darrel R. Falk 著 *Coming to Peace with Science: Bridging the Worlds Between Faith and Biology* (有神論的進化論の福音主義的研究)
 - e. Francis Collins 著 *The Language of God*
 - f. Fazale Rana、Hugh Ross 共著 *Who Was Adam?*
2. 古代近東地域で発見された並列文の概要に沿って解釈された創世記1、2章
- a. R. K. Harrison 著 *Introduction to the Old Testament and Old Testament Time*
 - b. John H. Walton 著 *Ancient Israelite Literature in Its Cultural Context*
 - c. K. A. Kitchen 著 *Ancient Orient and Old Testament*
 - d. Edwin M. Yamauchi 著 *The Stones and the Scriptures*
3. Lasor、Hubbard、Bush 共著の *Old Testament Survey* で述べられている神学に沿って解釈された創世記1、2章
- a. 「文学的な工夫は使用されている名前にも見られる。ある人物の名前とその人物の役割との一致はいくつかの例で顕著に見られる。アダムは『人類』を意味し、エバは『命(を与える女性)』である。確かに、物語の著者が主要な登場人物を人類や命と名づけるとき、何かが意図されたある程度の真実性をもって伝わるのだ！同様にカインは『(金属の)鍛造工』を意味する。エノクは『献身、奉獻』という言葉に結びつく(4: 17、5: 18)。ユバルは角笛やトランペットと関係がある(4: 21)。カインは神の懲らしめにより *n~d*、つまり *Nod* の地に行って住む『放浪者』となった。*Nod* は明らかに同じヘブル語を起源として派生した名前であり、従って *Nod* の地とは放浪の地という意味になるのだ！このことは著者が芸術家や物語の語り手として文学的な工夫や人工物を用いて書いていることを示唆する。読者は著者が(文中の登場人物の名前に与えた)文学的意味から教えようとしていることを発見する努力をするべきである。」72 ページ
 - b. 創世記1～11章の神学的暗示:
 「*創世記1～11章の暗示*。創世記1～11章に見られる文筆技術と文学形態の認識と文学的背景の把握は真実、つまり描写された事実の『結果主義』への挑戦とはならない。読者はこの聖書箇所を神話と考える必要はない;しかし、この箇所は現代の感覚でいう目撃、つまり客観的報告における『歴史』ではない。むしろこの箇所は、大部分が象徴的で絵のように生き生きした文学ジャンルにおいて描写された出来事についての神学的真理を伝えるものである。これは創世記1～11章が歴史的に間違っただけを伝えていると言っているのではない。この箇所が意図的に客観的記述を含んでいる場合にだけ、その結論が導かれる。すでに見直されている明白な証拠はそのようなことが(原著者の)意図ではないことを示している。一方、これらの章が教える真理に客観的根拠がないという見方は間違いである。これらは根本的真理を主張してい

る: 神による万物の創造; 最初の男と女の創造への神の特別な介入; 人種の統一; 人間を含む創造された世界の新鮮な良さ; 最初の夫婦の(神への)非服従を通した罪の侵入; 墮落と墮落後のはびこる罪。これらの真理の全ては事実であり、それらの確実性は事実が真実であることを暗示している。換言すれば、この聖書箇所(の)の著者はこのような文学的伝統を用いて、時間と人物の設定および経験に基づいた歴史的類似性がなく、そのため象徴のみを用いて記述できる特殊な大昔の出来事を記述している。同じ問題は終りの時についても起こっている: ここでは、該当する内容(終りの時)の著者は黙示録のなかで難解な比喩的表現(描写)を適用し、黙示(啓示)という文学的人工物を用いている。」74 ページ

- g. 創世記1~10章で一種類の言語が話されたというのがもし事実なら(Samuel Noel Kramer 著 *The Babel of Tongues: A Sumerian Version*, アメリカ東洋学会誌 88 巻 108~111 ページを参照)、その言語はヘブル語ではないことが明言される必要がある。従って、全てのヘブル語劇はモーセの時代あるいは家父長の口伝の伝統に由来する。このことは創世記1~11章の文学的性質を立証している。

4. 私はここで個人的コメントを述べたい。私は、聖書を愛し又その価値を認める(正しく理解する)人々を愛し又感謝する。私は、聖書のメッセージをただお一人の真の神からの啓示的で権威のあるメッセージと解釈する人々に大変感謝している。聖句を学ぶ私達は皆心で神を礼拝し栄光をたたえようと試みている(マタイ 22: 37 を参照)。私達が各々一人の信仰者として自分のやり方で聖書を学んでいるという事実は不信仰あるいは反逆を意味するのではなく、真摯な態度による献身行為であり、また神の真理を私達の生活に取り入れるための理解の試みである。創世記1~11章の研究を進めていくにつれて、私はこの箇所が黙示録と同様に、真実であるが文学的であり、文字通りの解釈はなされるべきではないことを理解した。私の聖書解釈の鍵は個人的な哲学つまり聖書解釈の枠組みのようなものを原典全体にわたって適用することではなく、神の啓示を受けた原著者に自身の意図を完全に表現させることである。原典それ自体がその象徴的で比喩的な性質に手がかりを与える場合に、ある文章の一節を取り上げてその意味を文字通りに解釈しようとすることは、私にとって神のメッセージに自らの偏見を押しつけることになる。ジャンル(文学類型)は「どのように全てが始まったのか」と「どのように全てが終わるのか」の神学的理解の鍵である。私は、様々な理由、通常は人(性)格のタイプや(受けた)専門的訓練(の内容)によって、聖書が事実古代の東洋の書物であることを考慮した上でこれを現代の文字通りの西洋の書物同様に解釈する人々の誠意と積極性に感謝している。私は、私が個人的に公表していない前提のもとに創世記1~11章を研究している人々の存在を神に感謝している。なぜなら私には、彼らが私達と似た人(性)格と観点を持つ人々を、神の書を愛し信頼し自分達の生活に適用できるように助け、励まし、導いてくれるであろうことがわかるからである!しかし、私は創世記1~11章あ

るいは黙示録を文字通りに解釈すべきだという意見には、たとえそれが *Creation*

Research Society(つまり「若い地球」を主張する団体)の見解であろうと、Hugh Ross が自著 *Reasons to Believe* の中で述べた意見(つまり「古い地球」の主張)であろうと賛成しない。私にとってこの聖書箇所は創造の「どのように」と「いつ」ではなく「だれ(偉大なお方)が」と「なぜ」を強調している一節である。私は、創造の本質的局面的研究における現代科学の誠実さを認めている。私は「自然主義」(つまり全ての生物は自然の過程に従って偶然に成長するという考え方)を受け入れないが、確かにそのような過程が実在して私達の生きる世界と宇宙のなりたちを説明しうることは理解している。神がそのような過程を支配され用いておられると私は考える。しかし自然の過程は古今の生物の多様性と複雑性を説明しない。現在現実に見られていることを本当に理解するためには、私には現代科学の論理的モデルと創世記1~11章の神学的モデルが必要である。創世記1~11章は聖書の他の部分の理解のために神学的に必要なが、古代の文学的で簡潔な東洋の著作物であり、文字通りの現代西洋の著作物ではない。

聖書の各書は確かに歴史物語である。聖句には文字通りの解釈がなされている箇所がある: アブラハムの召命、エジプト脱出、処女降誕、カルバリ(イエス・キリストの十字架上の受難)、復活がある: 次に来るであろう永遠の王国がある。問題は現実ではなくジャンルであり、また解釈の個人的好みではなく原著者の意図である。人は皆嘘つきで神は真実なるお方であることを認めよう(ローマ 3: 4 を参照)!!!

特別なトピック: 地球の年齢と形成

I. この研究分野は、主題についての合理的な考察を究めてゆくためにつくられたに違いない、いくつかの仮定のために片寄っている。それらの仮定は主に、宇宙論者や地質学者や関連の科学の研究者達によって、神学的理解と解釈に似せて表現された様々な意見を評価することを目的としてつくられたに違いない。

II. 科学に対する仮定は以下に示すようなものである:

- A. 現代の地球について記録および測定されている変化(つまり物理学的、化学的、生物学的な変化)の速度は過去においても一定である(斉一観論、「現在は過去を知るための鍵である」)
- B. 放射分析による年代決定(絶対年代決定と呼ばれる)は地球と宇宙に起こった出来事の年代決定のための年代決定学的手がかりであり、いくつかの仮定によって問題が生じている:
 - 1. 岩石の本来の組成(つまり不安定な原子の元素中の親元素と娘元素の関係)
 - 2. これらの元素の正確な半減期
 - 3. 温度も試料中の親元素と娘元素の含有比に影響する(つまり岩石試料の形成時間と火山のマグマ室の温度)。
 - 4. 放射性同位元素の創造の本来の起源とタイミング(時期)ははっきりしていない。現代の

理論によれば、二次的あるいは三次的に誕生した星の中で熱核反応によってより重い元素が創造され、超新星によって拡散する。

- C. 地質学の6つの前提的な(岩石の堆積の: 地層の重なり方の)順序の原則(相対年代決定と呼ばれる)は化石学に影響する:
1. 堆積岩の自然な堆積の順序における重畳(重ね上げ: 積み重なり)の法則; 上にある床層はより新しく、下に広がる層はより古い。
 2. 基準層位の原則—岩石は初期にはほぼ水平な平原の中で堆積してゆく。
 3. 横断と切断の関係の原則—岩石が断層によって切断あるいは分断される場合、その岩石は断層より古いに違いない。
 4. 包含の原則—互いに隣接する岩石集合体、つまり地層では通常、一方の層には(上述の)仮定1で述べた上層に埋め込まれた下層の断片が存在する。
 5. 相関の原則—よく似た組成を持つが(互いに)異なる地域に由来する岩石は、(それらに含まれている)類似の化石を用いて(地層の)形成年代がほぼ同時期であることを示すことができない場合には、同時代のものである(同時期に堆積した)と推定されているに違いない。
 6. 化石遷移の原則—化石となった生物は、はっきりした決定可能な順序で互いに遷移する:
 - a. 遍在する化石
 - b. 地質学的年代が短期間に限られている

III. 科学者達の意見

- A. 大半の科学者達は、真の科学は周知の事実と例外とを相関づけて検証可能な理論を構築することを目標とする研究方法の一つであることを認めている。事象の中にはそれら自体が検証不可能なものもある。
- B. この分野における科学的な前提についての科学者達の意見
1. 「その原則(つまり斉一観論)は文字通りに解釈されすぎるべきではない。過去の地質学的過程が現在のものと同じであったと言うことは、それらが常に同じ重要性を持ち、正確に同じ速さで進んだということを示唆していない。」(Tarbuck と Lutgens 共著 *Earth Science* 第6版 262 ページ)
 2. 「鉱物がその形成期間中ずっと閉じた系の中にある場合にのみ、正確な放射分析データを得ることができるということを認めることが大切である; つまり、親あるいは娘同位体の追加も損失も起こらなかったのだからデータの修正は不可能である。」(*Earth Science* 第6版 276 ページ)
 3. 「私達はこの斉一観が自然について自分達の立てた仮定であり、論理的に証明された法則というよりは原則であることを強調しようと急ぐ。」(Dott と Balten 共著 *Evolution of the Earth* 第4版 44 ページ)
 4. 「壊変定数は放射壊変速度を特徴づけ、同位体関連のデータと対応する放射性同位元

素の正確にはわかっていない寿命との関係に影響する。その結果、 $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$ を用いる方法のような、いくつかの最も正確な年代決定方法の精度はその正確性よりも一段階あるいはもっと劣るかもしれない。」(Renne, Ludwig, Karner の *Science Progress* 2000 年版の 83 巻の 1 の 107 ページにある記事”Progress and challenges in geochronology”)

5. 「科学の教育を受けていない人々は、放射分析による年代決定のいかなる方法も、試料中の問題の(含まれていることが予想される)元素が半減期に近い寿命を持つ場合にのみ信頼できることを理解しないかもしれない。」(Hugh Ross 著 *Reasons to Believe* ニューズレター)

IV. 仮定は科学界に特有ではなく明らかに宗教界にも存在する

- A. 人類は、自らの感覚的経験を相関づけ感情的な安定をもたらす、統一的な原理つまりモデルにおぼれてしまっている。科学ではこの統一的な原理が「進化論」となっている。
1. Theodosius Dobzhansky, “Changing man”, *Science* 115 巻 409~415 ページ「進化とは無生物から生物を生み出し、動物から人間を生み出し、そして未来においても注目すべきことをやり続けるであろう過程である。」
 2. Brian J. Alters と Sandra M. Alters 共著 *Defining Evolution* 104 ページ「進化論は全ての生物科学の基本概念である...進化論は説明のための枠組みであり、統一的な理論である。それは、ちょうど原子論が化学の研究に不可欠であるのと同様に、生物学の研究に不可欠である。」
- B. 多くの保守的なクリスチャン達にとって統一的な理論(つまり解釈)は創世記1~3章の文字通りの解釈になっている。これは「若い地球」を主張する人々(*Creation Research Society* は地球の年齢を約1万歳としている)と「古い地球」を主張する人々(*Reasons to Believe*によれば、現代地質学では地球の年齢は46億歳と考えられる)にとって真実である。人の聖句の解釈は、他の全ての人々がそれ(後述のレンズ)を通して聖句を見て評価するためのレンズとなる。人は主観的な仮定を批判(非難)することはできない。なぜなら人間の知識の全てはある程度前提的だからである。しかし、人の立てた前提の評価はそれ(前提)が述べている「真実」を正しく評価するために不可欠である。
- C. 原理主義的キリスト教はその中心的問題が聖書解釈の方法論になるとそれ自体を「科学的」議論で表現しようとする。これは、「現代進化論的科学」が前提的ではないこと、あるいはその結論が直感的な世界観によって導かれることを暗示するためではない。私達はその両方に十分に注意し又それらを分析的に見なければならぬ。その両方に証拠があるようである。私は自分がどちらの見方に自然に、感情的に、あるいは(受けた)教育(の影響)上おぼれているか(つまり自己実現的仮定)を自身に問わなければならない。

V. 個人的結論

A. 私は神学者であり科学者ではないので、私にとって出来るだけ多くの現代の斉一観論の書籍を読み知識を吸収することは不可欠であった。私は個人的には「進化論」ではなく「自然主義」(Carl Sagan によって一般的となった定義の一つに「宇宙は過去も、現在も、そして未来も全てそのままの姿であったし、全てそのままの姿であり、そして全てそのままの姿であるだろう」というものがある)に興奮している。

私はこれが偏見であることを認めるが、私の統一的な理論は超自然主義であり特殊創造論であるから、私は進化論を否定しないし、それによって脅威を感じることはない。私の基本的観点は、ある目的のためにその(万物誕生の)過程を始められ指揮されるお一人の神がおられるということである。私にとって「知的デザイン」は合理的な理論となっている(M. J. Behe 著 *Darwin's Black Box* と William A. Demski 著 *Mere Creation: Science, Faith, and Intelligent Design* を参照)。それは私に個人的痛みと混乱をもたらす、進化論の「でたらめさ(無原則性: 無作為性)」であり自然主義の「無行為者性」である。過程は明らかに人生の一部である。私は、自分が評価なしに満足しうることを受け入れていないことを確信しなければならない。私は自らの立てた仮定を明確なものにしようと試みてきた:

1. 創世記1~3章(およびこの内容に関しては黙示録の大半)を、神の啓示を受けたその原著者は文字通りに解釈しようとしていない。「どのようにして全てが始まったのか」と「どのようにして全てが終わるのか」は文学ジャンルの中に隠されている(そしてそれは墮落した人類のために違いない)。
2. 進化は明らかにある段階にある(「水平的進化」、「小進化」、「種内の進化」)が、この惑星上の生物あるいは宇宙の拡張についての単なる統一的な理論ではない。ここに謎がある! 私は、「どなたが」「なぜ」全てを創造したかを語る聖書(つまり特別な啓示)と、発展中のモデルと理論に基づいて「どのように」「いつ」全てが創造されたかを語る自然(つまり自然の啓示)、換言すれば現代の科学研究に個人的に満足している。
3. 「有神論的進化論」の究極の真実性でさえ、私に自らの立てた信仰上のいかなる仮定をも捨てさせることはできないだろう。Darrel R. Falk 著 *Coming to Peace with Science: Bridging the World's Between Faith and Biology* と Francis S. Collins 著 *The Language of God* を参照せよ。私には(あなたがたと同じように)自らの立てた信仰上の仮定があるのだ! 私の世界観は聖書的キリスト教である。私の世界像は増大し変化してゆく(聖書の)理解である。

B. 地球の「真の」年齢は、以下に示す事柄を例外として、私の神学上の問題ではない:

1. 宇宙の物質の構成に関する明白な「ビッグバン」概念。宇宙のはじまりは進化論的発達(つまり自然主義)に必要な無限の時間の(存在の)可能性を制限しているらしい

と主張する。

2. 化石の記録のはじまりと終わりは、進化論的变化は急激に起こり(多分、神の進行中の創造の御業なのだろう)、必ずしも長時間にわたる漸次的変化ではないことを主張する「断続的平衡」を暗示している可能性がある。
3. 古い地球と(比較的)最近の人間の特別な創造は、私が聖書の研究と考古学と現代の科学からもっと多くのことを理解するまで受け入れることにした前提的モデルである。これら一連の事柄は私の偏見を表している(しかし私達は皆そうした偏見を持っている)。
4. 科学は私にとって敵でもなく救い主でもない! 知識の増大するこの時代に生きるとはとてもわくわくすることだ! 聖書解釈によって知識を得る信仰者となることはとても心地よいことだ! 信仰と理由、つまり聖書と科学を信用性と統合することは素晴らしい可能性を秘めている。

VI. 地球の年齢についての現代の仮定

- A. 月の岩石と隕石の放射分析による年代決定はどちらも(結論が)46億歳で一致している。それらはこの太陽系の惑星上の岩石と同じ成分を含んでいるので、太陽とその関連の惑星、彗星、小惑星はこの年代に形成されたと推測される。地球上の最古の岩石は放射分析により38億歳と推測されている。
- B. 最初の人間の夫婦(*Homo sapiens*)の超自然的創造の年代はより数万倍、多分4万倍難しい問題である。Fazale Rana と Hugh Ross 共著の *Who Was Adam?* を参照せよ。

時間は年代順の時間枠で創造された私達にとって唯一の問題である。神は時間の経過に影響されない。私は、地球とその(表面の)環境は神が御自分の最高の創造物、つまり神が御自分のお姿に似せて創造された人間と親しい交わりを持たれるための「場所」を作るという特別な目的のために創造されたのだと信じている。これらの信念を形あるものとした唯一の文献は、神の啓示により書かれた聖書である。私はそれに固執し、現代科学から得た知識によって神の創造の能力の本質的局面的理解を深めたいのだ!

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 1: 1-5

¹はじめに神は天と地を創造された。²地は形がなく空虚で、闇が海の表面にあり、神の霊が水の表面上を動いていた。³そして神は言われた「光よあれ」;すると光があった。⁴神は光をご覧になり、これを良いものと思われた;そして神は光と闇とを分けられた。⁵神は光を昼、闇を夜と呼ばれた。そして夕方があり、朝があった。これが第一日であった。

1: 1「はじめに」 *Bereshith*(BDB912)はこの書のヘブル語のタイトルである。ここではセプトウアギンタ訳の聖書の *Genesis* を採用した。これは歴史のはじまりであって神のご活動のはじまりではない(マタイ 25: 34、ヨハネ 17: 5 と 25 節、エペソ 1: 4、テトス 1: 2、Ⅱテモテ 1: 9、Ⅰペテロ 1: 19-20、黙示録 13: 8 を参照)。R. K. Harrison はこの箇所は「はじまりの途上で」と訳されるべきだと言っている(*Introduction to the Old Testament* 542 ページ脚注 3)。John H. Walton は自著 *The Lost World of Genesis One* でこの箇所は一区切りの時間を導入していると言っている。

「神」 *Elohim*(BDB43)は古代中東地域における神の一般名 *E*(BDB42)の複数形である。イスラエルの神を指す場合、この動詞は通常(6つの例外があるが)単数形である。ユダヤ教の律法学者達は、この動詞は地球という惑星上の全ての命あるものの創造主であり与え主であり維持者である神を言い表していると言っている(詩篇 19: 1-6 と 104 篇を参照)。(創世記)第一章の中にこの語が何度使われているかに注目しなさい。

私はこの聖句が独立した節であると言信じる: Ibn Ezra は、この聖句は従属節で第2節が強調されていると言っており、一方 Rashi は、第2節は挿入節で第3節が強調されていると言っている。現代の天命を受けた注解者達は、第1節は自分達の見方(間隙理論)を裏付けるための従属節であると言っている。(その説には)神の起源についての説明がないことに注目しなさい。その説は、神は物事を創造されたがすでに存在していた物事は創造されなかったことを強調して主張している(ギリシャ人の宇宙論)。 *Enuma Elish*(バビロニアの創造についての記述)では、ギリシャ人の思想と同様に、霊(良いもの)と物事(悪いもの)はともに永遠である。聖書は神の起源について取り扱っておらず明らかにしていない。神はいつも存在しておられる(詩篇 90: 2 を参照)。確かにここに謎がある。人類は単純に神の完全性を把握できないのだ!

この聖句についての議論は神学的に重要である。アメリカユダヤ出版会は創世記 1: 1 を一つの時制を持つ節として訳している:「神が天と地の創造を始められたとき、地は形がなく空虚であった...」。この訳は結局、ギリシャ人の宇宙論のように神と物事はともに永遠であることを表しているようである(*Encyclopedia Judaica* 第 5 巻 1059 ページ中の「創造論と宇宙論」を参照)。サマリア人の創造についての記述 *Enuma Elish* は「はじめに... のとき」で始まる。特別なトピック「2: 4 における神の名」を見なさい。

「創造された」 *Bara*(1: 1、21 節、27 節、2: 3、4 節を参照)は神の創造の活動を言い表すために排他的に用いられるヘブル語の動詞である(BDB135、KB153、*Qal*完了形)。その基本的意味は切断により創り出すことである。神は御自身以外の万物を御意志によって存在するようにされた。詩篇 33: 6 と 9 節、ヘブル 11: 3、Ⅱペテロ 3: 5 には神の語られた御言葉(*fiat*)による無(*ex nihilo*)からの創造(宇宙論)の記述がある。しかし水が創造されたとは決して言われていない(創世記 1: 2 を参照)。ギリシャ哲学(グノーシス主義)とメソポタミア哲学は「霊」と「もの」の間の永遠の二元性を強調する。*bara*の意味することが何であれ、それは神の活動と目的とを強調している。

聖書は創造には始点があると主張する。21世紀の科学はこれを「ビッグバン」として特徴づけて

いるようである。自然主義は今では時間の無限の逆行を主張できない。しかし、創世記1章が物事の物質的な始まりではなく、活力ある大地の始まりについて語っているのは確かなようである (John H. Walton 著 *The Lost World of Genesis One*)。

「天」「天」(BDB1029)という単語はいくつかの意味で用いられているようである: (1)8節と20節にあるように地球の大気を指している; (2)宇宙全体(つまり全ての物質の存在)を指しているかもしれない; 全ての目に見えるもの(物質)と目に見えないもの(天使および神の王座としての天)。もし(3)が真実ならコロサイ 1: 16にも同じことが語られている。もし真実でないなら創世記1章はこの惑星の創造のみを強調していることになる。聖書は地球中心の観点(つまりこの惑星上の観測者が見た創造)を強調している。創世記1章は宇宙(つまり太陽、月、星、銀河)の創造を語り、創世記2~3章はこの惑星と人類の創造を強調していると主張する人々もいるだろう。2~4章が文章単位を形成しているので、これは確かにありえる。両者(つまり創世記1章と2~4章)で創造は地球中心である(つまり地球が強調されている)。

「地球」この用語(BDB75)は特定の土地、国、あるいは惑星全体を指しているようである。創世記1章は明らかに地球中心である(15節を参照)。これはこの章の神学的目的に合うが、科学ではない。聖書は神学的目的を記述する言語で書かれていることを覚えておきなさい。それは反科学的ではなく、前科学的である。

1: 2 「地球は... だった」この動詞(BDB224、KB243、*Qal*完了形)はごくまれに「... となった」と訳されることがある。文法上および文脈上は「... だった」が好ましい。あなたの(つまり神の定めによる至福千年前の)二つの墮落(間隙理論)の前提的神学が原典の解釈に影響を与えるのを黙認してはならない。

NASB	「形が無く、そして空虚な」
NKJV	「形が無く、そして空虚な」
NRSV と NJB	「形の無い空虚」
TEV	「形が無く、そして荒涼とした」
NIV	「形が無く、そして何もない」
REV	「広く荒涼とした」
SEPT	「目に見えず、そして何もない」
JPSOA	「形が無く、そして空虚な」

これらの2つの用語は BDB1062、KB1688-1690 と BDB96、KB111 に見られる。これは水だけを暗示するのだろうか? 地球は継続的に(つまり最初からあったパンゲアと呼ばれる一つの大陸がいくつかの大陸になった)変化する形態(つまりテクトニック[地殻構造]プレート)である。ここでも地球の年齢が問題である。これらの単語はエレミヤ 4: 23 にも現れる。これらはソマリアとバビロニアの創造についての記事の中で神話的な意味で用いられている。この創造についての記述は神が

居住に適した地球に対して進行的な過程を用いられたことを示している(イザヤ 45: 18 を参照)。これらの単語は、物質の始まりではなく、未発達で秩序立った機能をしていない体系の状態を記述している(John H. Walton 著 *The Lost World of Genesis One* 49 ページ)。それは人類(の誕生)について準備ができていない状態だ!

「闇」この用語(BDB365)は悪ではなく本来は混沌を表す。神は光を命名されたのと同じように5節で闇と命名された。これら2つの用語は、聖書中でしばしば聖霊の真実性を示すために用いられるが、ここでは本来の物理的状态を表している。

「海」この用語のヘブル語名は *tehom*(BDB1062#3, KB1690-91)である。これと類似するが異なるセム語幹がソマリアとバビロニアの創造神話の中で、混沌の怪物であり神々の母であり Apsu の妻である *Tiamat* に擬人化されている。彼女は自分の産んだ神々の中でより劣る者達を殺そうとした。Marduk は彼女を殺した。*Enuma Elish* と呼ばれるバビロニアの創世記によれば、Marduk は彼女の体から天と地とを形造った。ヘブル人達は水が創造のときにはじめからあったものだとしている(詩篇 24: 1、104: 6、Ⅱペテロ 3: 5 を参照)。それ(水)は創造されたとは決して言われてはいない。しかしそのヘブル語の用語は女性形ではなく男性形であり、従って語源的には Tiamat と関連はない。

擬人化された水の混沌と相反する YHWH について述べた聖句が旧約聖書の中にある(詩篇 74: 13-14、89: 9-10、104: 6-7、イザヤ 51: 9-10 を参照)。しかしこれらは皆詩的で隠(比)喩的な聖句である。水は創造に不可欠の要素である(創世記 1: 2 前半と 6~7 節を参照)。

NASB、NKJV、TEV、NIV 「神の霊」

NRSV、JPSOA 「神からの風」

NJB 「神の風」

REV 「神の霊」

SEPT 「神の息」

この用語のヘブル語名 *ruach*(BDB924)とギリシャ語名 *pneuma*(ヨハネ 3: 5 と 8 節を参照)は「霊」、「息」あるいは「風」を意味している可能性がある。聖霊はしばしば創造と関連がある(創世記 1: 2、ヨブ 26: 13、詩篇 104: 29-30 と 174: 14-18 を参照)。旧約聖書は神と聖霊との関係を明確に定義していない。ヨブ 28: 26-28、詩篇 104: 24、箴言 3: 19 と 8: 22-23 では神は万物の創造のために知恵(女性名詞)を用いられた。新約聖書ではイエスは創造における神の代理人と言われている(ヨハネ 1: 1-3、Ⅰコリント 8: 6、コロサイ 1: 15-17、ヘブル 1: 2-3 を参照)。救いにおける場合と同様に、創造においても神格(神性)を持っておられる3名の方々全てが関与されている。創世記 1 章自体はいかなる二次的な根拠も強調していない。

NASB、TEV 「動いている」

NKJV、NIV 「浮遊している」

NRSV 「さっと動いた」

NJB 「さっと動いている」

この用語(BDB934、KB1219、*Piel*分詞)は「静かに覆う」あるいは「活発に動きながら浮遊している」という言外の意味を発展させたものである(JBを参照)。これは母鳥に関する単語である(出エジプト記 19: 4、申命記 32: 11、イザヤ 31: 5 と 40: 31、ホセア3章と 11: 4を参照)。これは、地球が卵から生まれたと主張するフェニキア人の宇宙論とは関連がなく、神の親としての積極的な世話を女性形で比喻した言葉であり、またこの初期の段階における神の創造の進展と関連があるのだ!

1: 3 「神は言われた」これはラテン語の単語 *fiat*(9 節、14 節、20 節、24 節、29 節、詩篇 33: 6、148: 5、Ⅱコリント 4: 6、ヘブル 11: 3を参照)を用いて語られた言葉による、創造の神学的概念である。これはしばしば、ラテン語の成句 *ex nihilo*(マカベア第二書 7: 28を参照)を用いて、神のご命令によって「存在するようにならなかったものはひとつもなかった」と記述されている。しかし、もしかすると創世記1章は物質本来の創造ではなく、もともと存在していたものの構成について書かれたものなのかもしれない(John H. Walton 著 *The Lost World of Genesis One* 54 ページ以降)。神の語られた言葉のこの力は以下に示す事柄の中にも見られる:

1. 家父長の祝福
2. 神御自身の成就された救いの御言葉(イザヤ 55: 6-13、特に 11 節)
3. ヨハネ 1: 1 中の「言葉」であられるイエス
4. 口に両刃の剣を帯びてこの世に戻ってこられるイエス(Ⅱテサロニケ 2: 8、ヘブル 4: 12、黙示録 1: 6、2: 12 と 16 節、19: 15 と 21 節を参照)。これはお考えと御言葉を通して表わされた神の御意志による創造の熟語的表現方法である。

「(…よ)あれ」これらは命令形である(3 節、6 節[2回]、9 節[形ではなく意味で2回]、11 節、14 節、20 節[形ではなく意味で2回]、22 節、24 節、26 節[形ではなく意味で]を参照)。

1: 4 「神は光をご覧になり、これを良いものとされた」(4 節、10 節、12 節、18 節、21 節、25 節、31 節)全ての被造物は良いものであった(1: 31を参照)。悪は本来の神の創造の一部ではなく、善から逸脱したものであった。「善」はここではおそらく「その目的に合った」(イザヤ 41: 7を参照)あるいは「本質的に欠陥のない」(BDB373)を意味すると考えられる。

「神は分けられた」この動詞(BDB95、KB110、*Hiphil* 未完了形)は神がどのように創造の御業を進められたかを特徴づけている。神は(すでに創造されたものを)分けられ(KJV)、新しいことを始められた(4 節、6 節、7 節、14 節、18 節を参照)。

「光」太陽はまだないことを思い出そう。時間の経過について独断的にならないように気をつけなさい(つまり、地球が一回転するのに要する時間は地球の歴史を通じて24時間で一定である)。

光(BDB21)は聖書では命、純潔、そして真理の象徴である(ヨブ 33: 30、詩篇 56: 13、112: 4、イザヤ 58: 8 と 10 節、59: 9、60: 1-3、ヨハネ 1: 5-9、Ⅱコリント 4: 6を参照)。黙示録 22: 5には太陽のない(訳者注: 太陽に由来しない)光についての記述がある。闇は神によって創造され(イザヤ

45: 7 を参照)そして名付けられ(5 節を参照)、神の支配力を表している(詩篇 74: 16、104: 20-23、139: 12 を参照)ことにも注目しよう。

John H. Walton は自著 *The Lost World of Genesis One* (55 ページ以降)で、4 節と 5 節の中のこの語は太陽の起源ではなく「光の時代」を意味していると主張している。

1: 5「神は呼ばれた」(8 節、10 節) この命名は神の所有権と支配力を表している。

「夕方があり、そして朝があった」この(言葉の)順序は、光の創造の前に闇が存在していたことを反映していると言えるかもしれない。ユダヤ教の指導者達はこれを、夕方から始まる時間のひとまとまりとしての一日と解釈していた。これは、新しい日が夕方から始まったという、イエスの言われた一日をも反映している。

「日」ヘブル語の用語 *yom*(BDB398)はある一定の長さを持つ時間に言及しているらしい(2: 4、5: 2、ルツ 1: 1、詩篇 50: 15、90: 4、伝道者の書 7: 14、イザヤ 4: 2、11: 2、ゼカリヤ 4: 10 を参照)が通常は 24 時間の一日(つまり出エジプト 20: 9-10)に言及している。

特別なトピック: YOM

yom(日)の意味の理論は John Harris 博士(東テキサスバプテスト大学クリスチャン研究部長兼旧約聖書教授)著の旧約聖書研究ノート I から採り適用した:

1. 文字通りの一日 24 時間理論

これは(本題に対する見方が)直接的な研究手段である(出エジプト 20: 9-11)。この研究手段から提起される疑問を以下に示す:

- a. 太陽が第4日まで創造されなかったのに、光は第1日にどのようにして存在していたのか?
- b. 全ての動物(特に世界のそれぞれの地域に固有の動物達)はどのようにして一日以内に名前を付けられたのか?

2. 日—時代理論

この理論は科学(特に地質学)と聖句との調和を試みている。この理論は、「日」は長さの点で「地質学的時代」であると述べている。それらの長さはどれも互いに異なっており、齊一観論的地質学で表現される様々な地層の形成に要する時間とほぼ同じである。科学者達は創世記1章全体の内容、つまり(水)蒸気と大量の水が陸と海の分離と生物の出現より先に存在したことを認めようとする。植物は動物より先に出現し、そして人類は最新で最も複雑な生物の形態を代表している。この研究手段から提起される疑問を以下に示す:

- a. 植物は太陽なしでどのようにして「時代」を生き延びたのか?
- b. もし虫や鳥が後の「時代」まで創造されなかったとしたら、植物の受粉はどのようにして起こったのか?

3. 時代—日交替理論

この理論での一日は事実上の 24 時間という期間であるが、それぞれの日は神の創造

の御業が進められた各々の時代によって分断されている。この研究手段から提起される疑問を以下に示す:

- a. 日一時代理論と同じ疑問が提起される。
- b. 原典の「日」が示す期間は 24 時間か、それとも時代か？

4. 進歩的創造—大異変理論

この理論は以下に示すようなことを述べている: 創世記 1: 1 と 1: 2 の間に、地質学的時代を含む、はっきり定義できない期間があった; この期間に、前史的生物が化石で示される順序で創造された; 約 20 万年前に超自然的大災害が起こってこの惑星上の大半の生物を死滅させ、多くの動物が絶滅した; そして創世記 1 章の日々が続いた。これらの日々は本来の創造よりむしろ再びなされた創造に言及している。

5. エデン唯一理論

この創造に関する理論は神の創造の御業とエデンの園の本質的側面にのみ言及している。

6. 間隙理論

創世記 1: 1 によれば、神は完全な世界を創造された。創世記 1: 2 によれば、悪魔(サタン)が世界の支配者とされ、そして反逆した。次に神が悪魔(サタン)と世界を徹底的な破壊によって裁かれた。数百年間、世界は放置され、地質学的時代が過ぎた。創世記 1: 3-2: 3 によれば、先史 4004 年頃、再創造のための 6 日間の文字通り 24 時間の日があった。Ussher 卿(紀元 1654 年)は人間の創造の起こった年代を計算し、それが先史約 4004 年頃と決定するために、創世記 5 章と 11 章の家系図を用いている。しかし、家系図は完全な年代順をない。

7. 聖週間理論

創世記の著者は文学上の道具として日と週の概念を用い、神の創造の御業についてのメッセージに挿入している。そのような文章構造は神の創造の御業の美しさと調和を表している。

8. 宇宙神殿のはじまり

これは John H. Walton 著 *The Lost World of Genesis One*, IVP(2009 年)による最近の見解であり、神の創造の 6 日間を物質的存在論ではなく「機能的」存在論で見ている。それら(神の創造の 6 日間)は神が人類の益となるように機能的宇宙を整えられた[つくられた(創造された)]ことを述べている。これは他の古代の宇宙論と調和している。例えば最初の 3 日間は神が「季節(つまり時間)」、「天侯(つまり穀物のため)」、そして食物を備えられたことを表しているようである。反復聖句「それは良かった」は機能性を示しているようである。

第 7 日は、神が完全に機能的でお住まいとなさるのに適した「宇宙神殿」に、正当な所有権保持者、支配者、監督者としてお入りになったことを述べているようである。創世記 1 章は物質の創造とは無関係で、神と人間が交わるのに機能的な場所への物質の配置と関係がある。

「日々」は近東地域の一般的世論を知るための文学的な手段となっている:

1. 「自然的」と「超自然的」の間に区別はない。
2. 神性は生物の特徴の全てに関係している。イスラエルの独自性はその一般的世界観ではな

く、以下に示す事柄である。

- a. その一神論
- b. 創造は神々のためではなく、人類のためであった。
- c. イスラエルの文献の中に神々と人間との間の争いは見られない。

イスラエルは創造に関する記述内容を他地域のものから借用せず、(代わりに)それらの地域の一般的世界観を紹介している。

NASB(改訂版)原典: 1: 6-8

「⁶そして神は言われた「水の真中に広い場所があり、水と水とを分けるようになれ」。⁷神は広い場所をつくれ、広い場所の下にある水と広い場所の上にある水とを分けられた。するとそのようになった。⁸そして神は広い場所を天と呼ばれた。そして夕方があり、朝があった。第二日。」

1: 6 この聖句には動詞「ある」(BDB224、KB243)を伴う2つの *Qal* 命令形(…せよ)が存在する。同じ(文)構造が 14 節と 22 節にある。

NASB、NET、JPSOA 「広い場所」

NKJV 「大空」

NRSV、TEV 「天空」

REV 「大空」

この用語(BDB956、KB1290)は、イザヤ 42: 5 にあるような、「(…を)槌で打って作ること」あるいは「(身体、手足などを)いっぱい伸ばすこと」を意味しているようである。この語は、空気の丸天井あるいは地球の表面に逆さに置いた(つまり伏せた)お椀として比喩的に表現された、地球の大気(1: 20 を参照)について言及している(イザヤ 40: 22 を参照)。

「水」新鮮な水(訳者注: ここでは真水と表記することにする)と塩水は聖書以外の創造の文献中では重要な用語であるが、聖書ではそれらは神に支配されている。創世記1章では塩水と真水とは区別されていない。大気中の水は地上の水と分けられている。創世記1章の研究により、神が地球を(御自分にとって)住みやすくする過程の一つとしていくつかのものを分けられた(闇と光を、上にある水と下にある水を、下にある水と乾いた地を、[地球上から]太陽の[見えている]時間と月の時間を)ことが明らかになっている。

「水を分けられた」神は混沌とした水を支配される(BDB95、KB110、*Hiphil* 分詞)。神はそれら水の中に境界を作られる(ヨブ 38: 8-11、詩篇 33: 6-7、イザヤ 40: 12 を参照)。

1: 7「するとそのようになった。」神の意図されることは全て過去に起こり、そして今も起こっている。

NASB(改訂版)原典: 1: 9-13

⁹そして神は言われた「天の下の水が一か所に集まり、乾いた地が現れるようになれ」。するとそのようになった。¹⁰神は乾いた地を大地と呼ばれ、そして水の集まりを海と呼ばれた。神はそれをご覧になり、それを良いものと思われた。¹¹そして神は言われた「大地に植物が芽生えるようになり、種をつける植物と、種を持つ果実を自世代後につける木が大地に芽生えるようになれ」。するとそのようになった。¹²大地は植物を芽生えさせ、種をつける植物と、種を持つ果実をつける木を芽生えさせた。神はそれをご覧になり、それを良いものと思われた。¹³夕方があり、朝があった。第三日。

1: 9-10 冒頭の2つの動詞(BDB876、KB1082とBDB906、KB1157)はどちらも命令形で用いられる *Niphal* 命令法動詞である。これは一つの大陸(つまりパンゲア)を意味しているのだろうか? 大地は絶えず形(つまりテクトニック[地殻構造]プレート)を変えている。ここでも地球の年齢が問題となる。神が全ての自然現象を支配しておられることにも注意しなさい。自然神はいないのだ!

1: 9「乾いた地が現れるようになれ」これはエジプトの宇宙論の最初の聖なる丘と類似している。古代近東地域全体に共通する世界観を反映する、これの他の例には泥からの人間の創造がある。これはメソポタミア、エジプト、イスラエルの創造関連の文献に一般的である。

1: 11-12 これは全ての植物の起源についての専門的記述を意味してはいない。3つのタイプの植物について言及しているようである: 草、穀類、果樹。動物は草と穀類を、人間は穀類と果樹を食べることになる。神は大地を、御自分の最大の創造物である人類との交わりとこれの養育の場として徐々に整えておられる。

植物の発達の順序についての現代科学の理論がいくつかある。科学者達の中には、これがまさにその通りの順序であると主張する人々もいるようだ。しかし、科学の理論は変化していくので私達は注意しなければならない。科学と考古学が物質について確証しているのでクリスチャン達は聖書を信じない。私達はキリストと聖書自体の(神の)啓示についての記述の中に平和を見出すことができるので、それを信じる。

1: 11「大地に植物が芽生えるようになれ」これは動詞「芽生える」(BDB205、KB223)の *Niphal* 命令形である。

「自世代後に」創造は、植物と動物と人間が一旦創造された後に殖えて子孫を残すことができるように計画される(12節、21節、24節、25節、6: 20、7: 14を参照)。神は生物を生殖能力を持つものとして創造された。このレベルで、環境変化のための進化が確かに長時間にわたって起こった(小進化つまり水平進化)。

神が人類を(1)段階的に、あるいは(2)アダムとイブを後の段階で完全に発達したものとして、創造された可能性があることを意味する進歩的創造の概念について(議論が)盛んになりつつある神学の分野がある(Bernard RammとHugh Rossの著書を参照)。

繁殖力を双子の神々として崇拝していた古代近東地域とは対照的に、これは性行為ではなく生命の源としての神を表している。多くの点でこの創造関連の文献は、出エジプト記に記されている災いがエジプトの神々を軽視することにつながったのと同じように、古代近東地域の神々(水、光と闇、天体、自然の力、そして豊穡の神々)を軽視している。唯一の創始者はただお一人の唯一の神でいらっしゃるのだ。

NASB(改訂版)原典: 1: 14-19

¹⁴そして神は言われた「天の大空の中に光があり、昼と夜とを分け、季節や日や年のしるしとなれ。¹⁵そして天の大空の中の光となって大地を照らせ」。するとそのようになった。¹⁶神は2つの大きな光を造られ、大きい方の光が昼を、小さい方の光が夜を治めるようにされた。神は星も造られた。¹⁷神はそれらを天の大空の中に置かれ、それらが大地を照らし、¹⁸昼と夜とを治め、そして光と闇とを分けるようにされた。神はそれをご覧になり、それを良いものと思われた。¹⁹夕方があり、朝があった。第四日。

1: 14「季節や日や年のしるしと」 天の光は祭日(18: 14、レビ記23章、申命記 31: 10 を参照)と、休息と労働と礼拝のサイクルの象徴となった(詩篇 104: 19-23 を参照)。太陽は暦とそれぞれの日を分けて時間の区切りとし、人間が全ての責任(つまり肉体的なもの、霊的なもの)を果たすのを助けるために創造された。

1: 16「2つの大きな光... 神は星も造られた。」 神は天体の創造者であられる(イザヤ 40: 26 を参照)。天体は崇拝(メソポタミアの星崇拝、申命記 4: 19、エゼキエル 8: 16 を参照)の対象となる神ではなく、本質的には奴隷である(詩篇 19: 1-6 を参照)。これは神学的な記述である！

1: 17-18 このヘブル語の並列構造は 14 節に加えて3つの目的を意味している。

NASB(改訂版)原典: 1: 20-23

²⁰そして神は言われた「生き物が水の中に群れて満ちるようになれ。そして鳥が天の大空の中で大地の上を飛ぶようになれ」。²¹神は大きな海の怪物と、水の中に満ちる全ての動く生き物、そして全ての翼ある鳥を造られた。神はそれをご覧になり、それを良いものと思われた。²²神はそれらを祝福して、言われた「産めよ、増えよ、海の水の中に満ちよ。鳥が大地の上で増えるようになれ」。²³夕方があり、朝があった。第五日。

1: 20-23 無脊椎動物はカンブリア紀に突然多くの種類が現れた。漸次的に発達したという身体的証拠はない。

20 節で用いられている動詞「群れる」(BDB1056、KB1655)と飛ぶ(BDB733、KB800)はどちらも命令形として用いられる命令法動詞である。

1: 20「生き物」 これと同じ語 *nephesh*(BDB659)は人間(2: 7 を参照)と動物(2: 19、レビ記 11: 46

と 24: 18 を参照)について用いられている。これはこの惑星に関連し依存する生命力を表している。

「鳥」 文字通りこれは「飛ぶもの」(BDB733)である。なぜなら申命記 14: 19～20 でこれが昆虫にも言及しているからである。

1: 21「造られた」 これは創世記 1: 1 の中にも出てくる用語 *bara*(BDB135、KB153、*Qal* 未完了形)である。これは神の創造を意味している。1: 24～25 で「人間と動物」は「造られた」と記されているが、これは以前に存在していたもの(つまり泥)から造られたことを意味する。しかし *bara* は 1: 27 で「人間」について用いられている(3回)。

この特別な用語は(1)1: 1 で宇宙(あるいは地球)について(2)1: 21 で海の生き物について(3)1: 27 で人類について用いられている。

NASB、NRSV、TEV、NJB 「大きな海の怪物」

NKJV、NIV 「大きな海の生き物」

LXX、KJV 「大きな鯨」

JB 「大海蛇」

これは *leviathan*(BDB1072、詩篇 104: 26 と 148: 7、ヨブ 41 章以降を参照)のことを言っているかもしれない。時々この語はイスラエルの敵と関連がある: (1)エジプト、イザヤ 51: 9、エゼキエル 29: 3 と 32: 2(時々「ラハブ」に言及する。詩篇 89: 10、イザヤ 51: 9 を参照)、そして(2)バビロン、エレミア 51: 34。しばしばこの語は宇宙の、または霊的な敵と関連がある: ヨブ 7: 12、詩篇 74: 13、イザヤ 27: 1。カナン人の創造関連の文献ではこの語は神とバアルとの戦いの記述に用いられているが、聖書ではこの語はただお一人の真の神のなされる良いものの創造の記述に用いられている。

「あらゆる翼ある鳥」 これには全ての飛ぶもの、鳥、そして昆虫が含まれる。

1: 22 植物が生殖能力を持つものとして造られたのと同じように、動物もそのように造られた。神はご自分の惑星が生き物で満ちることを望んでおられる(一連の *Qal* 命令形[と一種の命令形]、1: 28、9: 1 と 7 節を参照)。これはバベルの塔(創世記 10 章と 11 章を参照)の反逆問題(つまり[いくつかの部族に]分かれてこの惑星を満たすという意欲に欠けること)の一つである。

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. 科学はどのように聖書と関連しているか？
2. 真の質問は誰がなぜ創造したかであり、どのようにいつ創造がなされたかではない。もしこれが本当なら、私達は創世記1章から2章までをどのように解釈すべきだろうか？
3. 神は(私達が今見ている)現実の世界をどのように創造なさったのだろうか？もしこれが詩なら、私達は *fiat* や *ex nihilo* をどのように訳すべきだろうか？
4. 創世記1章の主な要旨は何か？
5. 聖書と他の創造関連の文献との類似点と相違点は何か？

有用な文献

- A. *Objectives Sustained* 著者: Phillip Johnson
- B. *Darwinism on Trial* 著者: Phillip Johnson
- C. *Creation and Time* 著者: Hugh Ross
- D. *Creator and the Cosmos* 著者: Hugh Ross
- E. *The Genesis Question* 著者: Hugh Ross
- F. *The Christian View of Science and Scripture* 著者: Bernard Ramm
- G. *The Scientific Enterprise and Christian Faith* 著者: Malcolm A. Jeeves
- H. *Coming to Peace with Science* 著者: Darrel R. Falk
- I. *The Language of God* 著者: Francis S. Collins
- J. *Who Was Adam?* 著者: Fazale Rana, Hugh Ross

創世記 1: 24-2: 3 の文脈の考察

導入

- A. 過去2世紀の間、旧約聖書学者達は、創世記にはそれぞれ別の著者による、それぞれ異なる神の名を用いた2通りの創造の記述があるとしばしば主張してきた。しかし、
 1. これはより特別な内容の記述に続く一般的な内容の記述の、典型的な東洋文学の様式であるかもしれない。
 2. 創世記 1: 1-2: 3 はこの惑星の創造の要約的記述であり、創世記 2: 4-25 は前者(創世記 1: 1-2: 3)の要約的記述であるかもしれない。
 3. これは神のご性格の別の面を反映しているかもしれない(つまりラビ教義によると)。
 - a. *Elohim* —全ての生命を与え維持される方
 - b. *YHWH* —救い主でありイスラエルの契約の神でいらっしゃる方
- B. 神が無から創造されたものと前もって創造されていたものとは区別されているようである。例えば、20節ではなく21節で神は水を創造されている。また、24節ではなく25節で神は大地を創造されている。聖アウグスチヌスはこの違いに気づき、創造の業には2通りあるとの仮説を

出した: (1)ものと霊の創出(2)それら(ものと霊)の組織化と多様化。

C. この段落は明らかに、人間は地上に棲む他の高等動物と同様であると教えている: (1)どちらも *nephesh* である(1: 24 と 2: 7); (2)どちらも第六日に創造された(1: 31); (3)どちらも大地から創造された(2: 19); (4)どちらも植物を食用とする(1: 29-30); (5)どちらも生殖能力がある。しかし、人間はまた神に似ている: (1)特別な創造物(1: 26 と 2: 7); (2)神のお姿に似せて造られた(1: 26); (3)支配権を持つ(1: 26 と 28 節)。

D. 創世記 1: 26「... しよう」(1: 26、3: 22、11: 7、19: 24、イザヤ 6: 8)は今までよく議論されている。7つの理論が提唱されてきている:

1. 神の複数形(しかし聖書あるいはラビ関連の文献の中に初期の例はない)
2. 神ご自身のお言葉と天使達の天の宮廷(I 列王記 22: 19)
3. 神の複数形とそれに関連した三位一体の前兆に関する指摘(3: 22、11: 7、イザヤ 6: 8 および 61: 14)。次のことに注意すべきである: (a)Elohim は複数形である(b)神のご性格は詩篇 2: 2、110: 1 と 4 節、ゼカリア 3: 8-9 と 11 節に述べられている。

E. 姿と類似性の意味に関する理論:

1. イレネウスとテルトゥリアン:
 - a. 姿—人間の肉体的側面
 - b. 類似性—人間の霊的側面
2. アレキサンドリアのクレメント、オリゲン、アタナシウス、ヒラリー、アンブローズ、聖アウグスティヌス、ダマスコのヨハネ
 - a. 姿—人間の非肉体的特徴
 - b. 類似性—神聖さあるいは道德性のようなものに発展する可能性はあるが、発展しなければ失なわれる人間の側面
3. スコラ哲学者(トマス・アキナス)
 - a. 姿—人類の理性的能力と自由(自然)
 - b. 類似性—墮落の際に失なわれた、生来の義と超自然的賜物
4. 改革者
 - a. 全て根本的に用語間のいかなる区別をも否定した(創世記 5: 1、9: 6)。
 - b. ルターとカルヴァンはどちらもこの概念を、異なる用語ではあるが同じ真理として表現した。
5. 私(訳者注: Bob Utley)はこれらの用語は私達の(1)人格(2)意識(3)言語能力(4)意志力、あるいは(5)道德性に言及していると思う。

F. 特別なトピック: 天然資源

特別なトピック: 天然資源

I. 導入

- A. 全ての創造は神と人類の愛しあう行為の背景あるいは段階である。

- B. それ(全ての創造)は墮落の中でなされた(創世記 3: 17、6: 1 以降、ローマ 8: 18-20 を参照)。また、それは終末論的救いの中でなされるだろう(イザヤ 11: 6-9、ローマ 8: 18-20、黙示録 21-22 章を参照)。
- C. 罪深く墮落した人類は自己中心的な放縦で自然環境を辱めている。以下は Edward Carpenter 著 *The Canon of Westminster* からの引用である。
「... 人間が地球規模で自分の周囲の宇宙—つまり神の創造されたもの—に対して情け容赦なく行う攻撃は、大気汚染、自然水路の汚染、土壌汚染、森林伐採、そしてこの気ままな破壊が長期間に及ぼす影響を無視することである。この攻撃は少しずつ無計画に行なわれている。自然の調和にはほとんど注意が払われていないので、結果としてある世代が次の世代に対してほとんど責任を感じない。」
- D. 私達が自分達の惑星を汚染し私的に利用した結果を報いとして受けているだけでなく、私達の子孫ははるかにより厳しい不可逆的な結果を報いとして受けるだろう。

II. 聖書の記述

A. 旧約聖書

1. 創世記 1-3 章

- a. 創造は、人類との交わりのために神により造られた特別な場所である(創世記 1: 1-25 を参照)。
- b. 創造は良いことである(創世記 1: 4、10 節、12 節、18 節、21 節、25 節を参照)。実に、とても良いことである(創世記 1: 31 を参照)。それは神の(存在の)証拠となることを意味する(詩篇 19: 1-16 を参照)。
- c. 人間は創造の究極の目的である(創世記 1: 26-27 を参照)。
- d. 人間は神のしもべとして支配権を行使する(ヘブル語で「踏む」)ように創造された(創世記 1: 28-30、詩篇 8: 3-8、ヘブル 2: 6-8 を参照)。神は創造者、維持者、救い主、そして創造主であられ、これからもずっとそうであられる(出エジプト記 19: 5、ヨブ 37-41 章、詩篇 24: 1-2、95: 3-5、102: 25、115: 15、121: 2、124: 8、134: 3、146: 6、イザヤ 37: 16 を参照)。
- e. 創造に対する人類の責任は創世記 2: 15「それ(訳者注: 大地)を耕し、保ち、守る」に見ることができる(レビ 25: 23、I 歴代誌 29: 14 を参照)。

2. 神は創造物、特に動物を愛される。

- a. 動物の正しい取り扱いのためのモーセの律法
- b. レビヤタンと遊ぶ YHWH(詩篇 104: 26 を参照)。
- c. 神は動物を愛される(ヨナ 4: 11 を参照)
- d. 自然の終末論的存在(イザヤ 11-6-9、黙示録 21-22 章を参照)

3. 自然はある程度ながら神の栄光をたたえている。

- a. 詩篇 19: 1-6
- b. 詩篇 29: 1-9

c. ヨブ 37-41 章

4. 自然は神がご自分の愛と契約への忠実さを示される方法の一つである。

a. 申命記 27-28 章、I 列王記 17 章

b. 預言の全て

B. 新約聖書

1. 神は創造主として見られている。ただお一人の創造主であり、三位一体の神である方がおられる(創世記 1: 1 の Elohim、創世記 1: 2 の聖霊、そして新約聖書のイエス)。全てのものは創造されている。

a. 使徒行伝 17: 24

b. ヘブル 11: 3

c. 黙示録 4: 11

2. イエスは神の創造の代行者であられる。

a. ヨハネ 1: 3 と 10 節

b. I コリント 8: 6

c. コロサイ 1: 16

d. ヘブル 1: 2

3. イエスはご自分の説教の中で間接的に神の自然への愛を語っておられる。

a. マタイ 6: 26 と 28-30 節; 空の鳥と野のゆり

b. マタイ 10: 29; すずめ

4. パウロは、全ての人間は神の創造について持っている自分の知識に責任を持っていると主張している(つまり自然の啓示。ローマ 1: 19-20、黙示録 21-22 章を参照)。

III. まとめ

A. 私達はこの自然の秩序につながっている!

B. 罪深い人類は神の自然の賜物を神からの他の全ての良い賜物と同じように悪用してきている。

D. この自然の秩序は一時的なものである。それは過ぎ去ろうとしている(II ペテロ 3: 7)。神は私達の世界を歴史の集合体の中へと動かされている。罪は自分の道を走るだろうが、神はその限界を決められている。創造物は救われるだろう(ローマ 8: 18-25 を参照)。

語句の研究

NASB(改訂版)原典: 1: 24-25

²⁴そして神は言われた「生き物が大地に生まれて殖えるようになれ。家畜と這うものと獣が大地に生まれて殖えるようになれ」。するとそのようになった。²⁵神は地の獣と家畜と全ての地を這う生き物を造られ、そしてそれらをご覧になり、良いものと思われた。

1: 24「そして神は言われた」 *Elohim*(BDB43)は(創世記)1章の中心的存在である、古代の複数形の神の名前である。その語源は明らかではない。ユダヤ教の指導者達は、その名前が、惑星地球上の全ての生命の創造者、提供者、そして維持者としての神を示していると言っている。複数形であることは 1: 26、3: 22、11: 7、そして申命記 6: 4-6 に出てくる一神教(Shema)の偉大な祈り手に見られる「一人」という語の複数形と関連づけて考えるときに神学的に重要となるようである。イスラエルの神について用いられるとき、この動詞はほとんど常に単数形である。旧約聖書における用語 *elohim* は(1)天使(詩篇 8: 5 を参照)、(2)人間の士師(訳者注: 古代イスラエルの裁判官・行政官)(出エジプト記 21: 6、22: 8 と 9 節、詩篇 82: 1 を参照)、あるいは(3)他の神々(出エジプト記 18: 11、20: 3、I サムエル詩篇 4: 8 を参照)。特別なトピック: 2: 4 における神の名前を見よ。「大地に...を生ませる」これ(BDB422、KB425)は *Hiphil* 命令形である。創世記1章では、神のお言葉により無から創造されたものと、神に創造されて殖える(子孫を残す)ものとは区別されている。20 節と 21 節、そして 24 節と 25 節を比較しなさい。

「生殖能力のある生き物」 24~25 節は、大きいものも小さいものも、家畜も野生のものも含めた地の動物について記している。用語「生き物」(BDB659 と 311)が創世記 2: 7 で人間に対して用いられている用語 *nephesh* に基づいていることに注意しなさい。人類の独自性が、「魂」の意味でしばしばギリシャ語に訳される用語 *nephesh* には見られないことは明らかである。

「這うもの」 文字通りこれは「すべるように動くもの」あるいは「滑走するもの」(BDB943)に言及している。これは 21 節で用いられている語「動くもの」と同じ語である。この語は、自分の足で歩かないかあるいは目立たないほど短い足を持つ全ての動物に言及しているようである。

「するとそのようになった」 神のお望みは現実となった！ 1: 7 節についての記述を見よ。

1: 25「そしてそれらをご覧になり、良いものと思われた」 神の創造物は良いもの(BDB373)であって、1: 31 では「とても良いもの」と言われている。これは、予め決められた目的(の達成)に十分であるという意味のヘブル語の熟語である可能性がある。神学的にはこの語はまた、神の創造物には本来罪はないことを言っているようである。罪は反逆の結果であって、創造の結果ではない。

NASB(改訂版)原典: 1: 26-31

²⁶そして神は言われた「我々の姿に似せて人を造ろう。そして人に海の魚と空の鳥と地上全ての家畜と地を這うあらゆる生き物を治めさせよう」。²⁷神はご自身のお姿に似せて人を創造された。男と女とを創造された。²⁸神は彼らを祝福されて、そして言われた「産み殖えて、地を満たし、そして地を支配し、海の魚と空の鳥と地上を動くあらゆる生き物を治めよ」。²⁹そして神は言われた「見よ、わたしはあなたがたに、全地上に生える、種をつけるあらゆる草と種を持つ実をつける木を与えよう。それがあなたがたの食べ物となる」。³⁰そして海の魚と空の鳥と地上を動くあらゆる生き物にはあらゆる緑色の草を食べ物として与えよう」。するとそのようになった。³¹神はご自分の創造された全てのものをご覧になった。そして見よ、それはとても良かった。夕方があり、朝があった。第六日。

1: 26「造ろう」この(品詞)形(BDB793、KB889)は *Qal* 未完了形であるが、激励や鼓舞の意で用いられる。複数形「我々」については多くの議論がなされてきた。Philo と Eben Ezra はそれを「神の複数形」と言っているが、この文法上の形はユダヤ文学史上かなり後の時代になるまで現れていない(NET 聖書はそれは動詞としては現れていないと言っている[5ページ])。Rashi はそれは天の宮廷(I 列王記 22: 19-23、ヨブ 1: 6-12、2: 1-6、イザヤ 6: 8)に言及していると言っているが、このことは天使が創造の一部であること、あるいは天使が神の姿に似ていることを意味しているとは思われない。他の見解はそれが三位一体の神の概念の始まりの形であると想定している。

メソポタミアの創造関連の記述では神々(通常はそれぞれの都市に特有である)はいつも互いに争っているという面白い事実があるが、ここではそれが一神教の証拠であるというだけでなく、数少ない複数形表現の中にさえ調和があって気まぐれな不満はないことを示している。

「人」これはヘブル語の単語「Adam」(BDB9)であり、明らかにヘブル語で大地を意味する用語 *adamah* に相当する(9 節を参照)。この用語は「赤さ(赤色であること)」も意味する。多くの学者達は、この用語がティグリス・ユーフラテス川渓谷の赤土の塊つまり泥から造られた人間に言及していると信じている(2: 7 節を参照)。創世記のこれらの冒頭の章でのみヘブル語の用語「Adam」は正しい名として用いられている。セプトゥアギンタはこの用語を、男あるいは女をさす一般名である(ギリシャ語の)単語 *anthropos* に訳して用いている(5: 2、6: 1 と5~7節、9: 56 を参照)。男あるいは夫を意味するより一般的なヘブル語の用語は *ish*(BDB35、2: 23 を参照、語源は不明)であり、女あるいは妻を意味するそのような語は *ishah*(BDB61)である。

この点について私が神学的に理解していることは、(歴史上)最初の夫婦の創造についての聖書の記述といくつかのタイプの二足歩行 *Homo erectus* の化石標本とを関連づけることは非常に難しいということである。これらの古代の墓所の中には、副葬品も含めて、明らかに死後についての信仰と関連していたものがある。私は種内の進化を不快には思わない。もしそれが真実なら、アダムとエバは(歴史上)最初の間人間達であり、創世記 1-11 章の歴史的な時間枠は急激に拡大するに違いない。

多分、神はかなり後の時代にアダムとエバを創造され(つまり進歩的創造論)、彼らを「現代」人(*Homo sapiens*)とされたのだろう。もしそうなら、彼らとメソポタミア文明との関係は、いつ文明が始まったかということとある程度関係のある、特別な創造(の概念)が必要となる。私はこれがこの時代における考察に過ぎないことを強調したい。大昔について知らない現代人はとても多い。ここでも、神学的に、「どのように」あるいは「いつ」ではなく「誰が」そして「なぜ」ということが重要なのだ!

「我々の姿に似せて」用語「姿」は 5: 1 と 3 節、9: 6 にも見られる。それはしばしば旧約聖書で偶像(KB1028 II)を言い表すために用いられる。その本来の語源は「切り刻んである形をつくる」である。姿(BDB853、KB1028#5)と類似性(BDB198)の正確な意味を明らかにするための解釈の歴史上数多くの議論がなされてきた。これと類似するギリシャ語の用語が人間を表す語として新約聖書の中に見られる(I コリント 11: 7、コロサイ 3: 10、エペソ 4: 24、ヤコブ 3: 9)。私の意見では、

それらは同意語であり、神と独自に関係する人間性の一部を言い表している。イエスの顕現(神が人間の姿となられたこと)は、アダムの中にあつた可能性があり、いつの日かイエス・キリストを通して表れるだろう人間性の大きさを表している。Fazale Rana と Hugh Ross 共著の *Who was Adam?* 79 ページを見よ。

「彼ら(アダムとエバ)に支配させよう」 これは文字通り「踏みつける」(BDB853、KB1190、命令法で用いられる *Qal* 未完了形)の意味である。これは人類の自然の支配を言い表す、意味の強い用語である(詩篇 8: 5-8 を参照)。これと同じ概念は 28 節にも見られる。2つの用語、26 節と 28 節の「支配する」と 28 節の「耕す」は本来の語源が同じであり、その意味は「...の上を歩く」あるいは「踏みつける」である。これらの動詞は難しい意味を持つように思えるが、神の統治のイメージを反映している。人類は神と関係を持っているので、創造された地球を支配している。彼ら(人類)は神の代表者として、神のご性格が反映されているものとして統治あるいは支配するように定められている。権力は神学的な用語ではないが、それ(統治権あるいは支配権)を(自分のために、あるいは他者の益のために)行使する方法である。

複数形に注意しなさい。これは男性と女性の相互支配を意味している(5: 23 を参照)。28 節の複数形の命令法にも注意しなさい。女の服従は3章の墮落の後にのみ起こっている。真の(本当にすべき)質問は「この服従はキリストによる新しい時代が始まった後も続いていますか?」である。

1: 27「神は...を造られた」 この節では用語 *bara*(BDB127)が3回(*Qal* 未完了形で1回、*Qal* 完了形で2回)用いられており、神の人間つまり男と女の創造を要約し強調する機能を果たしている。これは NRSV と NJB では詩として記されており、NIV の脚注ではそのようなものとして認められている。用語 *bara* は神の創造を表す語として旧約聖書でのみ用いられている。

「神ご自身のお姿に」 26 節の複数形がここでは単数形になっているのは非常に面白い。これは神の複数形の謎だけでなく神の単一性(三位一体性)をも含んだ事柄である。神のお姿(BDB853)は男でも女でも同じなのだ!

「神は男と女を造られた」 私達の性的特徴はこの惑星の必要と環境に関係がある。神は分け続けられている(1: 4 の記述を見よ)。ここで 2: 18 と 5: 2 の相互性に注意しなさい。私達の神のお姿は神と私達が独自に関係することを可能にしている。

1: 28「神は彼らを祝福された...産み殖えよ」 神の恵み(BDB138、KB159、*Piel* 未完了形)の一部は生殖である(申命記 7: 13 を参照)。この恵みは動物(22 節を参照)と人間(28 節、9: 1 と 7 節を参照)の上にあつた。メソポタミアの創造関連の記述では、過度の人口増加による騒音が、神が人間を絶滅するようにされた理由である。創世記の記述は人口増加を促している。反逆(創世記 10—11 章)の最初の行動のひとつが、分かれて地を満たすことに対する人類の消極的態度であつたというのは驚くべきことである。

「それ(大地)を耕せよ」 ヘブル語の原典中に「産み殖えよ」と並列する2つの命令形がある(3つの *Qal* 未完了形の組)。これによって人間の性と人間の支配が神のご意志となっている。

ヘブル語の動詞「耕す」(BDB461、KB460)と「支配する」(BDB921、KB1190)はどちらも否定的

な(つまり虐待を伴う支配)意味を含んでいる。この特殊な文脈はその意味が温和なものなのか攻撃的なものなのかを決めなければならない。

1: 29 植物界は3つの異なるグループに分けられる。食物連鎖は植物の光合成によって始まる。地上の動物は全て植物の奇跡に依存している。この聖句では、人間は穀物と果物を食物として与えられていて(2: 16、6: 21 を参照)、一方第3のグループである草は動物に与えられている。大洪水の後まで人間は肉を食べることを許されなかった(創世記 9: 3 を参照)。これはその年(訳者注: 大洪水のあった年)に作物の収穫が不可能であった事実と関連があるかもしれない。創世記 1章から世界的な食糧事情を推察することは神学的に適切ではない。

この記述はエデンの園とのみ関連があるともいえるかもしれない。死と肉食性の哺乳類(の存在)は、生物の化石が多数発見された 50 万年前のカンブリア紀の地層に関連する最古の化石に遡って(証明されて)いる。

1: 30「私はあらゆる緑色の草を食べ物として与えよう」 この発言の主張は、全ての生命は光合成の過程(つまり食物連鎖)に基づいているということである。

1: 31「それはとても良かった」 これは創造の非常に重要な結論である。なぜなら後の時代のギリシャのグノーシス主義思想では、物質は悪で霊は善だからである。(いくつかのメソポタミア原典と同様)このギリシャの思想体系では物質と霊は共に永遠であり、そのことによって地上の問題が全て説明される。しかしヘブル人の記述はそれと大きく異なっている。神だけが永遠であり、物質は神の目的により創造される。神の創造されたものに悪いものはなく、ただ「自由」があるのだ！「夕方があり、朝があった。第六日。」 第三日と同様に、第六日には2つの創造の業があり、従って6日間に8つの創造の業があることになる。ユダヤ教の指導者たちはこの聖句の「夕方と朝」に基づいて、夕方に新しい日が始まると主張している。

NASB(改訂版)原典: 2: 1-3

¹こうして天と地と、それらに棲む全てのものは完成した。²第七日までに神はそれまで行なわれていたご自分の業を完成され、そして第七日にそれまで行なわれていたご自分の業の全てから離れて休息された。³そして神は第七日を祝福され、聖別された。なぜならこの日に神はご自分の創造の業の全てから離れて休息されたからである。

2: 1「天」 ここではこの用語(BDB1029)は大地の上方の大気に言及している。いくつかの原典ではこれは大気のはるか上方の星でいっぱい为天(訳者注: 宇宙空間)に言及している。

「と地と、それらに棲む全てのものは完成した」 神の被造物(訳者注: 造られたもの。特に生物)は成熟に達した(BDB477、KB476、1 節は *Pual* 未完了形、2 節は *Piel* 未完了形)。そこで人間が住む(生活する)準備は整った。創造の各段階にはそれにふさわしい生き物(つまり「棲むもの」、BDB838)が生活する。これは特別に天使達の創造には言及していない(1: 1 がそれを含んでいない限り)。この聖句は生き物の創造を取り扱っている。

ヘブル語の用語「棲むもの」は、いくつかの文脈では(1)天の光(つまり太陽、月、天体、彗星、星座)に関連するメソポタミアの偶像崇拜(申命記 4: 19)あるいは(2)YHWHの天使の軍勢(ヨシュア 5: 14)に言及しているが、ここでは他の種類の造られた生き物に言及している。

「第七日までに神はご自分の業を完成された」これは非常に擬人的な表現であるが、神がお疲れになったとか、あるいは神が創造や人類への積極的関与を永久的にお止めになったという意味ではない。これは人類にとって、定期的に休息して礼拝する必要を示す基本的な(聖句の)様式の一つである。

「神は休息された」これは「安息」(BDB991、KB1407、*Qal* 未完了形、出エジプト記 20: 11 と 31: 12-17 を参照)と同じヘブル語の語幹である。申命記 5: 15 には安息について、出エジプト記 20: 8-11 にある神学的理由ではなく、もう一つの理由として社会学上の理由が述べられている。

この用語はいくつかの異なる意味で、特に新約聖書のヘブル 3: 7~4: 11 とそれらの箇所での詩篇 95: 7-11 の解釈において用いられている。ヘブル語ではこの「休息する」という用語は安息日の休息と約束された地と神(天)との交わりに対して適用されている。神は人類をご自分の特別な創造の例とされた。神と人類との絶え間ない交わりは言うまでもない、しかし文脈の中心的事柄である、創造の目的である。

「第七日」第一~六日は夕方から始まり朝で終わる(1: 31 を参照)が、第七日の朝については全く述べられていない。従って、ユダヤ教の指導者とヘブル人の新約聖書の著者(3: 7~4: 11)はこれを用いて、神のご休息は今でもあるという結論を出している(詩篇 95: 7-11 を参照)。

「そして神は第七日を祝福され、聖別された」用語「聖別された」は「聖なるものとされた」(BDB872、KB1073、*Piel* 未完了形)という意味である。この用語は、神が特別にお使いになるための何かを別におかれたという意味で用いられる。一番最初に神はご自身のためにある特別で不変の日と、親しく交わる相手として人間を造られた。これは全ての日が神に属するのではないという意味ではなく、ある一日が交わりと礼拝と賛美とそして活力を得るための休息のために特別にとっておかれるという意味である。

1週間が7日であることの起源は太古の昔の謎に覆い隠されている。私達は1ヶ月が月の相とどのように関係しているか、そして1年が季節の変化とどのように関係しているかを見ることができるが、1週間については何らはっきりした証拠がない。しかし、私達の知っている古代の文化は全てそれらの書かれた歴史が始まったときにそれについて知っていたようである。

特別なトピック: 礼拝

I. 導入

A. いくつかの重要な質問

1. 礼拝とは何か?
2. それはいつどのように始まったか?
3. その内容は何か?

4. 誰が参加するのか？
5. それはどこでいつ行なわれるか？

B. これらの質問は私達の研究の概要となるだろう。これらの質問には明確な答えがないが霊的な意味と歴史的進展はあるということを覚えておかなければならない。

II. 礼拝とは何か？

A. この英語の用語はサクソン語の用語「weorthscipe」に由来する。このサクソン語の用語は名誉と尊敬を受けるべき誰かについて述べる語であった。

B. 旧約聖書での主な用語には以下に示すものがある:

1. *'abodah* 「仕える」あるいは「働く」を意味するヘブル語幹 (BDB715) に由来する。通常は「神への奉仕」と訳される。
2. *Hishtawah* 「腰をかがめる」あるいは「身を伏せる」を意味するヘブル語幹 (BDB1005、出エジプト記 4: 31) に由来する。

C. 新約聖書での主な用語は以下に示すヘブル語の用語に由来する:

1. *'abodah* に対しては *latreia* が相当する。これは雇われた労働者奴隷の(身分の)状態を意味する。
2. *Hishtawah* に対しては *proskuneo* が相当する。これは「身を伏せる」、「あがめる」、あるいは「礼拝する」という意味である。

D. 礼拝が影響を与える2つの分野があることに注意しなさい。

1. 私達の尊敬の態度
2. 私達の生活様式に基づく行動

これら2つは共に大きな問題であり、他の大きな問題をもたらすこともある(申命記 11: 13 を参照)。

III. それ(礼拝)はいつどのように始まったか？

A. 旧約聖書は礼拝の起源について特に述べていないが、創世記の中にいくつか手がかりがある。

1. 創世記 2: 1-3 の神による安息日の制定は後に主要な週毎の礼拝日に発展する。創世記は、神がこの週という時間の一区切りに対しての御行為と御態度によって、人類の休息と礼拝についての前例を定められたと述べている。
2. 創世記 3: 21 で、墮落した夫婦が新しい環境を生き抜くことができるように、神が動物を殺して衣服を備えられたことによって、人類の必要のために動物を用いる場が定められたようであり、これが(後に)生贄(いけにえ)を捧げる行為へと発展したのだろう。
3. 創世記 4: 3以降のカインとアベルの生贄(いけにえ)を捧げる行為は一度限りの行事ではなく定期的に行なわれていたようである。これは野菜を捧げる行為をけなす文でも動物を生贄(いけにえ)として捧げる行為を強要する文でもなく、神に対して正しい態度を示す必要があることを実用的に述べた例である。これはある意味で神が御自分の受容と拒絶のご意志

を伝えられたことを示している。

4. 創世記 4: 25 以降にはセトのメシアに続く系図について述べられている。これは 26 節で神の契約名 YHWH が礼拝の場で公に呼ばれるようになったことに言及している(この文は出エジプト 6: 3 と調和[一致]していなければならない)。

5. 創世記 7: 2 でノアはきよい動物ときよくない動物の区別について述べている。これによって創世記 8: 20-21 での彼の生贄の捧げものの状態が定められた。このことは、はじめの頃(創世記に記された人類の歴史の初期)には生贄が正しく捧げられていたことを意味している。

6. アブラハムは生贄についてよく知っていた。そのことは創世記 12: 7 と 8 節、13: 18、22: 9 から明らかである。彼はそのことを踏まえて神のご臨在とお約束に応答した。言うまでもなく彼の子孫はそのようにし続けた。

7. ヨブ記には家父長による設定がある(つまり 2000)。ヨブ 1: 5 に見られるように、彼は生贄についてよく知っていた。

8. 聖書の記述は、生贄(を捧げる行為)が人類の神への畏れと敬意、そして神が明らかにされたこれの表現方法を明らかにしているようである。

- a. 十戒と神聖なしるし
- b. 幕屋の祭式

IV. その内容は何か？

A. 生贄を捧げる行為では人類の態度が重要であることは明らかである(創世記 4: 3 以降を参照)。この個人的な事柄は聖書的な信仰を示すことにおいて常に中心的な事柄となっている(申命記 6: 4-9、11: 13、30: 6、エレミヤ 31: 31-34、エゼキエル 36: 26-27、ローマ 2: 28-29、ガラテヤ 6: 15 を参照)。

B. しかし、人類の敬虔な態度はかなり初期の儀式の中に成文化されている。

1. きよめの儀式(罪の意識に関係する)
2. 奉仕の儀式(宴、生贄、賜物など)
3. 個人的礼拝の儀式(公の祈り、個人的祈り、賛美)

C. (礼拝の)内容について疑問を持つときには啓示の3つの出所に気付くことが重要である(エレミヤ 18: 18 を参照)。

1. モーセと祭式達(司祭達)
2. 知恵の文学の賢人達
3. 預言者達

これらは各々私達の礼拝についての理解を深めている。それぞれ礼拝の普遍的で根本的な面を集中的に取り扱っている。

1. 形式(出エジプト—民数記)
2. 生活様式(詩篇 40: 1 以降、ミカ 6: 6-8)

3. 動機 (I サムエル 15: 22、エレミヤ 7: 22-26、ホセア 6: 6)

- D. イエスは旧約聖書の礼拝様式に従われた。イエスは決して旧約聖書を軽視されなかった (マタイ 5: 17 以降を参照) が、紀元1世紀までに完成した口述の伝統は拒絶された。
- E. 初期教会は長年 (つまり紀元 90 年のユダヤ教指導者によるリバイバルと改革まで) ユダヤ主義を引き継ぎ、そして独自性を展開しはじめたが、ほとんどは礼拝堂の (建築) 様式においてであった。イエスの中心性、ご生涯、教え、十字架にかかられたこと、そして復活は旧約聖書の祭式に取って代わった。説教、洗礼、そして聖餐式はとても重要な行為となった。安息日は主日に取って代わられた。

V. 誰が参加するのか？

- A. 古代近東地域の家父長文化は人が宗教を含む生活領域の全てにおいて指導的役割を發揮する場を定めた。
- B. 家父長は、生贄を捧げる行為と宗教的指導の両方において家族の中で司祭を務めた (ヨブ 1: 5)。
- C. イスラエルでは司祭は公の地域的な礼拝の場で宗教的仕事を行っていた。一方、教父は私的な礼拝の場でこの仕事を行っていた。バビロニア追放 (紀元前 586 年) のときにユダヤ教の礼拝堂と指導者達は訓練と礼拝において中心的位置を占めるようになっていた。紀元 70 年の神殿破壊の後、パリサイ人が発展させたラビ教義的ユダヤ主義が中心となった。
- D. 教会においても家父長体制は維持されたが、女性の賜物と平等性が新たに強調された (I コリント 11: 5、ガラテヤ 3: 28、使徒行伝 21: 9、ローマ 16: 1、II テモテ 3: 11 を参照)。この平等性は創世記 1: 26-27 と 2: 18 に見られる。この平等性は創世記3章の反逆によってこわされるが、キリストを通して回復する。

子供達は常に両親を通して礼拝の場に参加しているが、聖書は大人向けの本である。

VI. それはどこでいつ行なわれるか？

- A. 創世記では人間は神と出会った場所をあげている。これらの場所は祭壇となる。ヨルダン川を渡った後いくつかの場所は発展する (ギルガル、ベテル、シェケム) が、契約の箱に関連して、エルサレムは神が住まわれる場所として特別に選ばれる (申命記を参照)。
- B. 農業時間は常に神の備えに対する人間の感謝の意を表してきた。他の特別な感情的必要、例えば赦しは特別な祭日 (つまりレビ記 16 章の贖いの日) の中で生じた。ユダヤ教は祭日を設定するようになった—過ぎ越しの祭、五旬節、そして幕屋 (レビ記 23 章を参照)。それはまた人々に特別な機会を与えた (エゼキエル 18 章を参照)。
- C. ユダヤ教の礼拝堂の発展により安息日礼拝の概念が形あるものとなった。(初期)教会はこれを主日 (週の最初の日) に変えたが、このことは明らかに、イエスが復活された後に日曜日の夕方に弟子達の前に繰り返し姿を現わされたことを象徴している。
- D. 当初、初期教会は日毎に集会をしていた (使徒行伝 2: 46) が、これはやがて週の間の日個人の礼拝と日曜日の集会での礼拝とになった。

VII. 結論

- A. 神の礼拝は人間が生み出したか定めたものではない。礼拝は(そうする)必要が感じられて行なわれる。
- B. 礼拝は神がどなたであるかということと神がキリストを通じて私達に何をしてくださったかということへの応答である。
- C. 礼拝には全ての人に参加する。それは形式でもあり態度でもある。それは公的でもあり私的でもある。それはスケジュール通り行なわれることもあり準備なしに行なわれることもある。
- D. 真の礼拝は個人的関係の発展したものである。
- E. 礼拝における最も有用な新約聖書の神学的箇所は多分ヨハネ 4: 19-26 である。

「造られた」 これは文字通り「造られている」である。神の創造の御業は続いている(BDB793 I、KB889、Qal 不定詞構造)。神は生き物を造られ成長するようにされた。反復聖句「産み殖えよ、そして地を満たせ」は神のご設計とご計画を反映している。神は生殖能力を持つ(子孫を残す)生き物(人間を含む)を造られた。まさにその行為(訳者注: 生殖)が変種を生んでいる。

創世記2: 4～25

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
男と女の創造	(1: 1～2: 7)	男と女の創造	エデンの園	天国、そして自由意志の試練
2: 4～9	神の園での生活	2: 4 後半～9	2: 4 後半～6 2: 7	2: 4 後半～7
	2: 8～9		2: 8～9	2: 8～9
2: 10～14	2: 10～14	2: 10～14	2: 10～14	2: 10～14
2: 15～17	2: 15～17	2: 15～17	2: 15～17	2: 15～17
2: 18～25	2: 18～25	2: 18～25	2: 18～20	2: 18～23
			2: 21～24	(23)
(23)	(23)	(23)	(23)	2: 24
			2: 25	2: 25

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

背景

A. 私は、旧約聖書のモーセ五書の各著者を擁護する、文献批判の J(YHWH)E(Elohim)D(申命記)P(司祭)理論を個人的に受け入れていない(本書の「創世記への導入」の項目「現代の学識」の D.を参照)。この話題についてさらに知りたければ Josh McDowell 著 *More Evidence that*

Demands a Verdict あるいは H.C.Leupold 著 *Exposition of Genesis, Vol.1* を読みなさい。

- B. 創世記 2: 4~25 は創世記 1: 1~2: 3 の内容を特に神学的に拡張したものである。これは一般的なヘブル文学の技法である。神学的に2章は3章の前置きの内容となっている。
- C. 創世記 1: 31 は神のご意志、「良いこと」、による私達の世界の始まりを象徴している。1: 1~2: 3 は一つの文学単位であるので、2: 1~3 は1章の一部と考えられるべきである。
- D. 神学的に 2: 4~25 は1章よりも3章と関連がある。それはイブの誘惑と罪の場面に、そのことが惑星(訳者注: 地球)全体に破滅的な結果をもたらしたことを付け加えている(ローマ 5: 12~21 と 8: 18~23 を参照)。

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 2: 4-9

⁴これが天と地の創造についての記録の全てである。主なる神が天と地とを造られたとき、⁵地の上にはまだ野の木がなく、野の草はまだ芽生えていなかった。神が地の上に雨をお送りにならなかったからである。また、大地を耕す人はいなかった。⁶しかし霧が大地から生まれ、大地の表面全てを潤した。⁷そして神は大地の塵から人を造られ、その鼻の孔に命の息を吹き入れられた。こうして人は生きるものとなった。⁸主なる神は東の方のエデンに園をつくれ、ご自分のお造りになった主を置かれた。⁹主なる神は、見るに好ましくまた食べるのに好ましいあらゆる木が大地から生えるようにされ、また園の中央に命の木と善悪の知識の木が生えるようにされた。

2: 4「これが記録である」 文字通りそれは「これらは(神により)生まれたものたち(BDB41 プラス 410)である」である。この聖句は著者が創世記を文学的単位に分割する方法を表している(5: 1、6: 9、10: 1、11: 10 と 27 節、25: 12 と 19 節、36: 1 と 8 節、37: 2 を参照。つまりこれは著者が自著を要約する方法を表している)。学者達の中にはそれをある節の導入とみなす者(つまり Derek Kidner)もいれば結論とみなす者(つまり R.K.Harrison と P.J.Wiseman)もいる。それはどちらにも機能する聖句のようだ。1: 1~2: 3 は宇宙の創造を取り扱い、2: 4-15 は3章および4章と文脈上関連のある人類の創造について特記していると考えられることもできる。

「日」 ヘブル語の用語 *yom*(BDB398)は通常24時間という時間の範囲を言い表すのに用いられる。しかし、それはより長い時間の範囲を比喩的に言い表すのにも用いられる(2: 4、5: 2、ルツ 1: 1、イザヤ 2: 11、12 節、17 節、4: 2、詩篇 90: 4 を参照)。多分、4節前半は副題の見出しで、後半で議論が始まるのだろう。1: 5 の特別なトピックを見よ。

「主なる神」 これは文字通り、神の最も一般的な2つの名を連結した YHWH Elohim である。これはそれらの名が一緒に使われた最初の事例である。現代の学者の多くは、これらの神の名を使用したことから創世記1章と2章の著者を推定している。しかし、ユダヤ教の指導者達は彼ら(著者達)が神のご性格に言及していると主張している。つまり(1)この惑星上の全ての生命を創造

され、与えられ、維持される方であられる Elohim(詩篇 19: 1-6 を参照)と(2)救い主であり契約を作られる神であられる YHWH(詩篇 19: 7-14 を参照)である。それは神学的に、今も生きておられる唯一の神を意味している。ユダヤ人は、神の名をみだりに唱えてはいけないという神のご命令に違反することを避けるために、この聖なる名を口にすることを恐れるようになった。そのため、彼らは原典(聖書)を大声で読むときはいつもヘブル語の用語 *Adon*(夫、所有者、主人、領主を意味する語)を代わりに用いた。このようなわけで YHWH を英語で主と訳するのである。

特別なトピック: 神に対する呼び名

A. *EI*

1. 多くの学者達がそれをアッカド語の語幹の「強いこと」あるいは「力強いこと」に由来すると信じているにもかかわらず、神に対する一般的な古代の呼び名である用語の本来の意味ははっきりしていない(創世記 17: 1、民数記 23: 19、申命記 7: 21、詩篇 50: 1 を参照)。
2. カナンのパンテオンでは崇高なる神は *EI* である(Ras Shamra 原典)。
3. 聖書では *EI* は通常は他の用語と混用されない。これらの組み合わせは神を特徴づける方法となった。
 - a. *EI-Elyon* (最も崇高なる神)、創世記 14: 18-22、申命記 32: 8、イザヤ 14: 14
 - b. *EI-Roi* (「見ておられる神」あるいは「ご自身を現わされる神」、創世記 16: 13
 - c. *EI-Shaddai* (「万能の神」あるいは「憐れみ深い神」または「山の神」、創世記 17: 1、35: 11、43: 14、49: 25、出エジプト 6: 3
 - d. *EI-Olam* (永遠におられる神)、創世記 21: 33。この用語は II サムエル 7: 13 と 16 節におけるダビデ王に対する神の約束と神学的に関連がある。
 - e. *EI-Berit* (「契約の神」、士師記 9: 46
4. *EI* は以下の用語群と同一視されている。
 - a. 詩篇 85: 8 とイザヤ 42: 5 における YHWH
 - b. 創世記 46: 3 における *Elohim*。ヨブ 5: 8 では「私は *EI* であり、あなたの父の *Elohim* である」。
 - c. 創世記 49: 25 における *Shaddai*
 - d. 出エジプト 34: 14、申命記 4: 24、5: 9、6: 15 における「嫉妬」
 - e. 申命記 4: 31 とネヘミヤ 9: 31 における「あわれみ」。申命記 7: 9、32: 4 における「忠実さ」。
 - f. 申命記 7: 21、10: 17 とネヘミヤ 1: 5、9: 32 とダニエル 9: 4 における「偉大で畏れ多い」
 - g. I サムエル 2: 3 における「知識」
 - h. II サムエル 22: 33 における「私の力強い避け所」
 - i. II サムエル 22: 48 における「私の復讐者」
 - j. イザヤ 5: 16 における「聖なる方」
 - k. イザヤ 10: 21 における「力」
 - l. イザヤ 12: 2 における「私の救い」

- m. エレミヤ 32: 18 における「偉大で力強い」
 - n. エレミヤ 51: 56 における「報い」
5. 旧約聖書に登場する神の主な名前の全ての組み合わせはヨシュア 22: 22 に見られる (*El*, *Elohim*, *YHWH*, 以下同様)。

B. *Elyon*

1. その本来の意味は「崇高な」、「高貴な」、「高く上げられた」である(創世記 40: 17、I 列王記 9: 8、II 列王記 18: 17、ネヘミヤ 3: 25、エレミヤ 20: 2 と 36: 10、詩篇 18: 13 を参照)
2. それは神の他のいくつかの呼び名と同じ意味で用いられる。
 - d. *Elohim* —詩篇 47: 1–2、73: 11、107: 11
 - e. *YHWH* —創世記 14: 22、II サムエル 22: 14
 - f. *El-Shaddai* —詩篇 91: 1 と 9 節
 - g. *El* —民数記 24: 16
 - h. *Elah* —ダニエル 2~6 章とエズラ 4~7 章でしばしば用いられ、ダニエル 3: 26、4: 2、5: 18 と 21 節に登場する *illair* (アラム語で「崇高なる」神を意味する用語) と関連がある。
3. それはしばしばイスラエル以外の民によって用いられる。
 - a. メルキゼデク、創世記 14: 18–22
 - b. バラム、民数記 24: 16
 - c. モーセ、申命記 32: 8 における国々についての発言
 - d. 新約聖書のルカの福音書: 異教徒に対する記述。ギリシャ語の相当語 *Hupsistos* を用いている(1: 32、35 節、76 節、6: 35、8: 28、使徒行伝 7: 48、16: 17 を参照)。

C. 主に詩の中で用いられる *Elohim*(複数形)、*Eloah*(単数形)

1. この用語は旧約聖書以外では見られない。
2. この語はイスラエルの神あるいは国々の神々を言い表すことができる(出エジプト 12: 12 と 20: 3 を参照)。アブラハムの家族は多くの神々を信じていた(ヨシュア 24: 2 を参照)。
3. 申命記 32: 8(LXX)、詩篇 8: 5、ヨブ 1: 6 と 38: 7 に見られるように、用語 *elohim* は他の霊的存在

(天使、悪魔)を言い表す場合にも用いられる。それは士師(訳者注: 古代イスラエルの裁判官・行政官)を言い表すこともある(出エジプト 21: 6 と詩篇 82: 6 を参照)。

4. 聖書ではそれは神の最初の呼び名である(創世記 1: 1 を参照)。創世記 2: 4 で *YHWH* と一緒

になるまではそれは排他的に用いられる。それは本来は(神学的に)、この惑星上の全ての生命を造り、維持され、与えられる方である神を言い表している(詩篇 104 篇を参照)。それは *El* と同意(義)語である(申命記 32: 15–19 を参照)。神の名の変化を別にすれば、詩篇 14 篇の *elohim* がちょうど詩篇 53 篇の *YHWH* と似ているのと同様に、それは *YHWH* とも並立できる。

5. 複数形でしかも他の神々を言い表すのにも用いられるにもかかわらず、この用語はしばしばイスラエルの神を言い表す。しかし通常は多神教的用法であることを表すために単数形の動詞を必要とする。
6. この用語はイスラエル以外の民の言葉の中に神の名前として見出される。
 - a. メルキゼデク、創世記 14: 18-22
 - b. バラム、民数記 24: 2
 - c. モーセ、国々についての発言、申命記 32: 8
7. イスラエルの多神教的な神の一般名が複数形なのは奇妙なことだ！ 確実性はないが、ここにいくつかの理論がある。
 - a. ヘブル語には多くの複数形があり、しばしば強調の目的で用いられる。「王の複数形」と呼ばれる、後の時代のヘブル語の文法の特徴はこれと密接に関連があり、そこでは複数形が概念を強調するために用いられている。
 - b. この語は、神が天で会われそして支配しておられる天使の集団を言い表しているかもしれない（I 列王記 22: 19-23、ヨブ 1: 6、詩篇 82: 1 と 89: 5 と 7 節を参照）。
 - c. この語が新約聖書にある三位一体の神の啓示を反映しているとみなすことも可能である。創世記 1: 1 では神は創造される。創世記 1: 2 では聖霊が満ちた状態となられ、そして新約聖書によればイエスは父なる神の代理者として創造の業をなさる方である（ヨハネ 1: 3 と 10 節、ローマ 11: 36、I コリント 8: 6、コロサイ 1: 15、ヘブル 1: 2 と 2: 10 を参照）。

D. YHWH

1. これは、契約をなさる神、つまり救い主でいらっしゃる神を反映する名前である！ 人間は契約を破るが、神はご自分のお言葉と(なされた)約束と契約に忠実でいらっしゃる(詩篇 103 篇を参照)。

この名前は創世記 2: 4 で初めて *Elohim* とともに登場した。創世記 1~2 章には創造についての記述は 2 度はないが、2 つのことが強調されている: (1) 宇宙(実体的)の創造主でいらっしゃる神、そして(2) 人間を特別に創造された神。創世記 2: 4 は人類の特権的地位と目的および罪の問題とその特別な地位に関連する反逆についての特別な啓示で始まる。
2. 創世記 4: 26 には「人間達が主の名(YHWH)を呼び始めた」と記されている。しかし、出エジプト 6: 3 によれば初期の契約の民(家父長達とその家族達)は神を *El-Shaddai* としてのみ知っていた。YHWH という名前は出エジプト 3: 13-16、特に 14 節にただ一度だけ説明されている。しかし、モーセの著書はしばしば(聖句中の)言葉を語源的にではなく一般的な言葉の原則で解釈している(創世記 17: 5、27: 36、29: 13-35 を参照)。この名前の意味についてのいくつかの理論がある(IDB の第 2 巻 409~411 ページより抜粋)。
 - a. アラビア語幹「熱烈な愛を示す」に由来。
 - b. アラビア語幹「吹く」(嵐の神でいらっしゃる神)に由来。

- c. ウガリット語(カナン語)幹「話す」に由来。
 - d. フェニキア碑文によれば、「維持する人」あるいは「設立する人」を意味する使役動詞の分詞
 - e. ヘブル語の *Qal* 形「いる人」あるいは「存在する人」(未来の意味では「いるだろう人」)に由来。
 - f. ヘブル語の *Hiphil* 形「存在させる人」に由来。
 - g. 「唯一生き続けている神」を意味するヘブル語幹「生きる」(例えば創世記 3: 20)に由来。
 - h. 出エジプト 3: 13-16 の文脈中で完了の意味で用いられている未完了形動詞。「私は以前にあったものであり続けるだろう」あるいは「私はいつもあり続けてきたものであり続けるだろう」(J. Wash Watts 著 *A Survey of Syntax in the Old Testament* 67 ページを参照)
- YHWH という名前の完全な形はしばしば略語あるいは可能な限り本来の形で表現される。
- (1) *Yah*(例えば Hallelu-yah)
 - (2) *Yahu*(名前。例えば Isaiah)
 - (3) *Yo*(名前。例えば Joel)
3. 後の時代のユダヤ教ではこの契約の名はとても神聖に(ヤハウエの四子音文字: [訳者注]ヘブル語で「神」を示す4字。YHWH などと翻字される)なったので、ユダヤ人は出エジプト 20: 7 と申命記 5: 11 と 6: 13 の命令に違反しないようにするためにその名を口にすることを恐れた。そこで彼らはその名のかわりに「所有者」、「主人」、「夫」、「主」を意味するヘブル語の用語 *adon* あるいは *adonai* (私の主)を使った。旧約聖書の原文を読んでいるときに文中に YHWH が出てくると彼らはそれを「主」(を意味するヘブル語の用語 *adon* あるいは *adonai*)と発音した。これが、英訳聖書において YHWH が Lord と表記される理由である。
4. *EI* と同様に、しばしば YHWH はイスラエルの契約の神のあるご性質を強調するために他の用語と一緒に用いられる。多くの可能な組み合わせの中から数例をここに挙げた。
- a. *YHWH - Yireh*(YHWH は備えられるだろう)、創世記 22: 14
 - b. *YHWH - Rophekha*(YHWH はあなたの癒し主)、出エジプト 15: 26
 - c. *YHWH - Nissi*(YHWH は私の旗)、出エジプト 17: 15
 - d. *YHWH - Meqaddishkem*(YHWH あなたを聖別される方)、出エジプト 31: 13
 - e. *YHWH - Shalom*(YHWH は平和)、士師記 6: 24
 - f. *YHWH - Sabaoth*(万軍の YHWH)、I サムエル 1: 3 と 11 節、4: 4、15: 2、しばしば預言者達の中で
 - g. *YHWH - Ro 'i* (YHWH は私の羊飼い)、詩篇 23: 1
 - h. *YHWH - Sidqenu*(YHWH は私達の義)、エレミヤ 23: 6
 - i. *YHWH - Shammah*(YHWH はおられる)、エゼキエル 48: 35

「地と天」これらの語の順番は1節と逆であるが、その理由は明らかではない。

2: 5「野の木」これは野生の植物のことを言っている(創世記 21: 15 とヨブ 30: 4 と 7 節を参照)。

「野の草」これは人が食用にする耕作植物のことを言っている。

2: 6「霧」これ(BDB15、KB11)は(1)洪水あるいは(2)地下水流を意味するアッカド語の用語である。これは多分、洪水(「かつて起こった」、BDB748、KB828、*Qal* 未完了形)により(植物に)水を与えることを意味している。これに対応するアラビア語の用語は、「霧」という訳語のもとになったもやである。濃い露ということもできる。

この語も単独でエデンの園の環境を反映している。地理学はアダムとエバの特別な創造のはるか前に地表の水に起こったことをはっきりと示しているようである。

2: 7「造られた」文字通りこれは「泥をこねる」(BDB427、KB428、*Qal* 未完了形、エレミヤ 18: 6 を参照)を意味する。これは人類に関する神の創造の業を言い表すために用いられる第3の用語である(「造る」、1: 26[BDB793、KB889];「造られた」、1: 27[BDB135、KB153]と「造られた」、2: 7)。新約聖書はイエスが神のかわりに創造の業をなされたことを明らかにしている(ヨハネ 1: 3、I コリント 8: 6、コロサイ 1: 16、ヘブル 1: 2 を参照)。

「地の塵から人を」人はヘブル語の用語 Adam(BDB9)であり、その意味は(1)用語「赤」(出エジプト 25: 5 と 28: 17、民数記 19: 2、イザヤ 63: 2、ゼカリヤ 1: 8 を参照)の語呂合わせ、あるいは(2)「地」(*adamah*、6 節を参照)で、多分「赤土の塊」をほのめかすもの、である。これは人間の未熟さと弱さを反映している。ここに人類の崇高な場所(神の姿に似せて造られたこと)と未熟で弱い実体との対立がある！動物は 19 節で同様に造られる。この聖句が塵からの人類の起源を言い表しているともみならず可能である(創世記 3: 19、詩篇 103 篇、伝道者の書 12: 7 を参照)。この聖句では人類は泥で神は陶器師として表現されている(イザヤ 29: 16 と 45: 9 と 64: 8、エレミヤ 18: 6、ローマ 9: 20-23 を参照)。

「命の息を... 吹き込まれた」動詞「吹き込まれた」(BDB655、KB708)は *Qal* 未完了形である。名詞「息」(BDB675)は神が人類の創造に特別な意図を持っておられたことを示している。しかし人間もこの惑星上の全ての動物と同じ身体機能(つまり呼吸すること、食べること、排泄すること、子孫を残すこと)を持っている。人間だけが神と関係することができる。しかし私達は生まれたときからこの惑星に拘束されている。ここに私達の性質(霊的・肉体的)の二面性がある。

「人は生きるものとなった」人間は *nephesh*(BDB659、KB711-13)となるが、家畜もそのようになる(1: 24 と 2: 19 を参照)。人間の独自性は神が造られ息を吹き込まれたことにある。人間達は霊を持たない。彼らが霊である！私達は霊と肉体の統合体である。死と復活の間の中間状態を除き、私達は常に肉体を持つだろう(I テサロニケ 4: 13-15 を参照)。

アダムは原始人だったのか、それとも現代人だったのだろうか？彼は他の大昔の原人(訳者注: ヒト科の動物; 人間に似た動物)とどのように関連があるのだろうか？20 万年前にカルメル山一帯に石器時代の人間がいた。アダムはいつ造られたのか？彼は(生物の)発達の最終段階なのか、それとも(神の)特別な創造の最初の産物なのか？

2: 8「園」この用語(BDB171)は周囲を囲まれた公園の意味で用いられている。セプトウアギンタ

はそれをペルシャ語の単語「楽園」と訳している。

「エデンの」ヘブル語では *Eden* は「大きな喜び」あるいは「幸福の地」(BDB727Ⅲ、KB792Ⅱ)を意味する。園がエデンと呼ばれるのではなく、園がエデン(という場所)にあるのだということに注意しなさい。これは明らかに地理上の位置であり、場所の名前である。関連するソマリア語の用語は「肥沃な平原」を意味すると考えられる。8節と10-14節はその正確な位置を意味する内容の事柄を非常に詳細に記述しているが、その地理上の位置はわかっていない。解説者の大半はそれが(1)現代のティグリス川とユーフラテス川の河口あるいは(2)これらの川の上流に位置している。

しかし、全ての川の名前は現代の地理に一致していない。大洪水によって地球がどのくらい変化したかは明らかではない。メソポタミアの文献と聖書の記述の類似点から論理的に園がメソポタミアにあるとすることもできるだろうが、これは単なる推測に過ぎない。Fazale Rana と Hugh Ross 共著の *Who Was Adam?* を見よ。

「命の木... 善悪の知識の木」この最後の節は括弧で括ってよい(NET 聖書 7 ページを参照)。創世記 3: 3 はただ一本の木があったことを意味しているが、一方で 3: 22 は2本の木があったことを意味している。古代近東地域の文献にはこの善悪の知識の木に相当する記述は見られない。この木は魔法の木ではなく、創造主なる神からの独立の方法を人間に教えたり、あるいは神と同じかまたは匹敵するくらいの知識と洞察力を得られることを最低限約束しているようである。これは罪の本質である。それ(この善悪の知識の木)がアダムを支配する方法をエバに教え、そして2人は成熟したものとして神に造られたことに違反したのだと考えることもできる。

NASB(改訂版)原典: 2: 10-14

¹⁰さて、一本の川がエデンから流れ出て園に水が与えられていた。そして川はそこから分れて4本の川となった。¹¹最初に出来た川の名はピションである。その川は金のある地ハビラ全土を流れる。¹²その地の金は良質で、ブデリウムとオニキス石がある。¹³2番目に出来た川の名はギホンである。その川はクシュの地全土を流れる。¹⁴3番目に出来た川の名はティグリスである。その川はアッシリアの東を流れる。そして4番目に出来た川の名はユーフラテスである。

2: 10「川(ここでは複数形)」これらは「支流」である(BDB625)。

2: 11「ピション」文字通りこれは「噴出」である(BDB810)。これは「ピサヌ」と呼ばれる、メソポタミア南部の古代の水路あるいは運河のことを言っているのかもしれない。

「流れる」これは文字通り「湾曲しながら流れる」を意味する(BDB685、KB738、*Qal* 活用分詞)。

「ハビラ」文字通りこれは「砂地」を意味する(BDB296)。10: 7によれば、これはエジプトにあるものではなく、クシュに隣接している。この用語は 10: 29 でアラビアの砂地を言い表すために再度用いられている。

2: 12「ブデリウム」これは多分、芳香のある木の樹脂である(BDB95)。この用語と次の用語(オ

ニキス石)の意味は明らかではない。学者の中にはこの用語は「真珠」と訳されるべきだと言う人々もいる(Helen Spurrell と James Moffatt の訳)。

「オニキス」 宝石を言い表す古代の用語は全て非常に不明瞭である(BDB995)。この石は最高位の司祭の胸板上にある12個の石の一つである(出エジプト 28: 9)。エデンの宝石はエゼキエル 28: 13 で比喩的に用いられている。

2: 13「ギホン」 文字通りこれは「泡」である(BDB161)。これは「グハナ」と呼ばれる、メソポタミア南部の古代の水路あるいは運河のことを言っているのかもしれない。

「クシュ」 この用語は旧約聖書で3通りに用いられている: (1)この聖句と 10: 6 以降ではカシュートからティグリス渓谷の東までの地域のことを言っている(2)ハバクク 3: 8 とⅡ歴代誌 14: 9 以降、16: 8、21: 16 ではアラビア北部のことを言っている(3)通常、アフリカ北部のエチオピアあるいはヌビアのことを言うのに用いられる(BDB468)。

2: 14「ティグリス」 これは文字通り「ヒデケル」である(BDB293)。

NASB、NKJV、NRSV、TEV 「アッシリア」

NJB 「アシュル」

JPSOA、NIV 「形が無く、そして荒涼とした」

この用語(BDB78)は(1)民(例えば民数記 24: 22 と 24 節、ホセア 12: 2 と 14: 4)あるいは(2)地(創世記 2: 14 と 10: 11、ホセア 5: 13 と 7: 11 と 8: 9 と 9: 3 と 10: 6 を参照)のことを言っているかもしれない。この文脈では(2)が最もよく意味的に一致している。

「ユーフラテス」 文字通りこれは「ペラス」である(BDB293)。それはしばしば「大河」と呼ばれる(創世記 15: 18、Ⅰ列王記 4: 21 と 24 節を参照)。

NASB(改訂版)原典: 2: 15-17

¹⁵そして主なる神はエデンの園に人を連れてきて、そこを耕し守るようにされた。¹⁶主なる神は人に命じて言われた「園にあるいかなる木からも自由に実を取って食べてよい。¹²しかし善悪の知識の木からは実を取って食べてはならない。食べたその日のうちに確実に死ぬからだ。」

2: 15「そこを耕し守るように」 墮落前には労働は人類の仕事であり、罪の結果ではない。用語「耕す」は「仕える」(BDB712、KB773、*Qal* 不定詞構造)を意味し、一方「守る」は「保護する」(BDB1036、KB1581、もうひとつの *Qal* 不定詞構造)である。これは人間の支配の責任の一部である。私達はこの惑星の(天然)資源に仕える者であるべきであり、搾取する者であるべきではない。

サマリアとバビロニアの神話では人類は常に神に仕える者として造られるが、聖書ではアダムとエバは神のお姿に似せて、被造物に対して支配権を持つ者として造られる。これは彼らがそうするように割り当てられた仕事であり、神の(感じられる)必要とは無関係である!

2: 16「園にあるいかなる木からも自由に実を取って食べてよい。」 これは同じ語幹(BDB37、

KB40)の *Qal* 未完了形と結びつく *Qal* 絶対不定詞であり、強調の意味で用いられる。神のご命令は重荷(負担)となるものではなかった。神はご自分の造られた最高のものの忠誠と服従の心を試されていたのだ(創世記 22: 1、出エジプト記 15: 22-25 と 16: 4 と 20: 20、申命記 8: 2 と 16 節と 13: 3、士師記 2: 22、Ⅱ 歴代誌 32: 31 を参照)。

2: 17「善悪の知識の木」 これは魔法の木ではない。その実には人間の脳を刺激するような秘密の実質成分は全く含まれていない。それは(神が与えられた)服従と信頼の心にたいする試練であった。

その木が(人間の心の)強さと弱さを表していることに注意しなさい。この惑星のこの天然資源から人間性が生み出したものに私は驚いた。人間は善悪という潜在的な性質を持つ恐れ多い被造物である。知識は責任をもたらすのだ。

「悪」これは「壊れる」あるいは「破滅する」(BDB948)を意味するヘブル語の用語 *ra* である。それは行動とその結果とを結びつける(Robert B. Girdlestone 著 *Synonyms of the Old Testament* を参照)。

「その日」エバとアダムが木の実を食べた後も生き続けたことから考えると、ここでは「日」を 24 時間ではなく、ある一区切りの期間である時間として用いている(BDB398)。

NASB 「あなたは確実に死ぬだろう」

NKJV 「あなたは確実に死ななければならない」

NRSV 「あなたは死ななければならない」

TEV 「あなたは同じ日に死ぬだろう」

NJB 「あなたは死ぬ運命にある」

これは、ヘブル語で強調を文法的に表現する方法である、絶対不定詞で同種対格の「死に向かっている」(BDB559、KB562)である。これは 16 節と同じである。この(文法)構造はいく通りかの訳し方が可能である(*Twenty-Six Translations of the Old Testament* を参照)。明らかにここでの死は霊的な死であり(エペソ 2: 1 を参照)、肉体の死をもたらす(創世記 5 章を参照)。聖書には 3 つの死の場面が記されている: (1) 霊的な死(2: 17 と 3: 1-7、イザヤ 59: 2、ローマ 5: 12-21 と 7: 10-11、エペソ 2: 1 と 5 節、コロサイ 2: 13 前半、ヤコブ 1: 15 を参照)(2) 肉体の死(創世記 5 章を参照)(3) 「第二の死」と呼ばれる永遠の死(黙示録 2: 11、20: 6 と 14 節、21: 8 を参照)。真の意味でこれは 3 つ全てを言い表している。

NASB(改訂版)原典: 2: 18-25

¹⁸そして主なる神は言われた「人が一人であるのはよくない。彼のためにふさわしい助ける者を造ろう」。¹⁹主なる神は地からあらゆる野の獣と空の鳥を造られ、それらを人のところに連れてこられて、人がそれらをどのように呼ぶかをご覧になった。そうして、人が生き物をどのように呼んでも、その呼び名がその生き物の名前となった。²⁰人は全ての家畜、空の鳥、あらゆる野の獣に名を与えたが、アダムにとってそれらは助ける者としてふさわしいものとはならなかった。²¹そこで主なる

神は人を深い眠りに落とされ、そして人は眠った。それから神は人のあばら骨の一本を取って、そこを肉でふさがれた。²²主なる神は人から取った一本のあばら骨から女を造られ、人のところに連れてこられた。

²³人は言った、

「これはまさに私の骨の骨、

私の肉の肉、

彼女は女と呼ばれるべきだ、

なぜなら彼女は人から取られたものだから。」

²⁴このようなわけで、人は父と母から離れて妻と一緒にいるべきであり、彼らは一つの体となるべきである。²⁵そして人とその妻はどちらも裸で、そのことを恥じなかった。

2: 18「人が一人であるのはよくない。」これは、旧約聖書のこれら冒頭の章の中で唯一「よくない」が用いられている箇所である。神は私達を、誰かを必要とし、時には神と以上の交わりを持つように造られたのだ！人は女との交わりなしには被造物を支配する役割を全うすることも、産み殖えて地を満たせとの神のご命令に完全に従うこともできなかった。

NASB 「彼のためにふさわしい助ける者」

NKJV 「彼に似た助ける者」

NRSV 「彼の配偶者となる助ける者」

TEV 「彼を助けるのにふさわしい仲間」

NJB 「助ける者」

これは「補う、あるいは完全にする者」(BDB740 I、KB811 I)を意味する。NET 聖書では「かけがえのない仲間」(8 ページ)とある。この用語はしばしば神の助けを言い表すのに用いられる(出エジプト記 18: 4、申命記 33: 4 と 7 節と 29 節、詩篇 33: 20 と 115: 9-11 と 121: 2 と 124: 8 と 146: 5 を参照)。1: 26-27 に見られるような男女間の成熟と 1: 28 の複数形の命令形に注意しなさい。服従(従順)は墮落後までではない(3: 16 を参照)。女の創造についてのこの特別な記述は古代近東文学の中では独特である。

Hard Sayings of the Bible の 92~94 ページに興味深い語の研究が見られる。そこで Walter Kaiser はその語の訳が「人に対する力(つまり強さ)」になると主張している。

2: 19「神はあらゆる獣を造られた」学者の中にはこれを取り上げて、彼らが第二の被造物と呼ぶアダムを造られた後に神は動物達を造られたのだと主張する者もいる(創世記 2: 4-25 を参照)。この動詞(BDB427、KB428、*Qal* 未完了形)は「造られていた(訳者注: 過去完了形)」と訳することができるかもしれない(NIV を参照)。このヘブル語の動詞の時間的要素(訳者注: 時制のことを言っていると思われる)は文脈による。東テキサスバプテスト大学の宗教学教授 Rich Johnson 博士はこの注解書の論評の中で私に以下のようなコメントを下さっている:

『この動詞の *waw* 転換を伴う未完了形の意味は単純過去時制である。それはヘブル語において

出来事の順序を構成する方法である。この種の一連の動詞は出来事を起こった順序に述べる。ここでは、翻訳に影響する解釈者の前提について言っている。ここでは、この聖句の誤訳を招くのは NIV の翻訳者の前提と 2: 8「さて、主なる神は園に植物を植えられていた．．．（訳者注：過去完了形）」である。NIV の翻訳者はこの章が 1 章と調和し、そしてヘブル人の物語の読解の通常の規則に反してその仮定につじつまを合わせているに違いないと確信している。ここで急に問題となるのは彼らがどこからその仮定を持ちだしたかということである。この動詞は KJV、ASV、ERV、RSV、NRSV、NASB、ESV、NEB、REB、NET、Young の逐語訳、ユダヤ出版協会訳、TANAKH、NAB、NJB では単純過去（時制）で訳されている。NIV ではそれらとは異なる訳し方がなされている。』
「人がそれらをどのように呼ぶかをご覧になる」動詞「呼ぶ」(BDB894、KB1128)は 19 節と 20 節で 3 回用いられている。名前はヘブル人にとって非常に重要であった。これは人間の動物に対する権限と支配権を示している。

これは(1)世界全体にいる様々な動物全て(2)動物の元々の初めの型(3)メソポタミアの動物のことを言っているのだろうか？

2: 21 この節は男と女、つまりアダムとエバの特別な関係を強調している(23 節を参照)。それは近親さと深い関係を表すヘブル語の熟語かもしれない。「あばら骨」に対応するヘブル語の単語は他の箇所では「わき腹」(BDB854、KB1030 I)と訳されている。

R. K. Harrison が自著 *Introduction to the Old Testament* の 555-556 ページで、「あばら骨」に対応するヘブル語の単語はここでは、神の御姿とご人格に似せて造られたアダムと類似する「人格の一面」を意味するのだと主張しているのは興味深い。

また、「あばら骨」がソマリアの創造の記述では女の創造の一部であり、*enki* という語から *nin-ki* という語が派生しているのも興味深い(D.J.Wiseman 著 *Illustrations from Biblical Archeology* を参照)。この文脈では「あばら骨」に対応するソマリア語の単語(つまり *ti*)には「生かす」と言う意味もある。エバは全ての生き物の母であるだろう(3: 20 を参照)。

モーセがかなり後の時代にこれらの章を書いている(編集している)ことを思い出さなければならぬ。これらはヘブル語の言葉遊びであるが、ヘブル語は(聖書を書くのに)用いられた元々の言語ではない。

2: 22「彼女を人のところに連れてこられた」ユダヤ教の指導者は神が最高の人として行動されたと言っている。

2: 23「女．．．人」この節は詩である。文字通りこれは *Ishah*(BDB35)である．．．*ish*(BDB35)は明らかに音遊び(特に「彼女の名前 *Ishah*」)である。アダムもエバに名前を与える(つまり少なくともエバが彼自身に似ていることを表している)。語源は明らかではない。通常 *adam* は人間を、*ish* は特定の人物のことを言う。

2: 24「父と母から離れる」この動詞(BDB736、KB806)は *Qal* 未完了形で、多分命令の意味で用いられる。家族は重要であるので、この聖書の冒頭の記述を読み返すべきだとのコメントがなされてきている。モーセは彼の生きた時代の家族の拡大に伴う生活状況の変化に家族単位の重要性

を反映させている。結婚は義理の家族に先行するのだ！

NASB 「くつつく」

NKJV 「加わる」

NRSV 「くつつく」

TEV 「ひとつになる」

NJB 「くつつくようになる」

これは忠誠さや深い関係(BDB179、KB209、*Qal*完了形、ルツ 1: 14、マタイ 19: 5-6、エペソ 5: 31を参照)を意味するヘブル語の熟語である。

「ひとつの体」これは結婚した夫婦の完全な合一と第一の関係を示す。「ひとつ」という単数形は2人の人が一緒になることを言い表している。

2: 25「どちらも裸で、そのことを恥じなかった」これは3章と調和するだろう。この節の意味は、アダムが彼自身、彼の配偶者、そして彼の神(BDB101、KB161、*Hithpolel*未完了形)に隠すことがなかったということである。従ってそれは純潔さを意味する熟語である。物事はすぐに変化するだろう！

人と女が裸であった(BDB736、形容詞)という事実は非常に制御された環境を意味する。これはそれ自体が、エデンの園は保護され、後に特別に創造された場所としてこの惑星の他の場所とは異なる場所となった(つまり進歩的創造論)、という見方をしているのかもしれない。

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. 創世記1章での神の創造物と神の造られたものとの間に違いはあるか？もしそうなら、これは何を意味するか？
2. 人はどのように動物と似ているか？人はどのように神と似ているか？
3. 女は神のお姿に似せて造られたのか、それともただアダムの姿に似せて造られたのか？
4. 人が被造物に服従し、そして支配する義務があることは何を意味するか？
5. 聖句「産み殖えよ」はどのように人口爆発と関係があるか？
6. 人が菜食者となることは神のご意志か？
7. 創世記 2: 2と3節に基づいて考えると、人が土曜日の代わりに日曜日に礼拝するのはふさわしくないか？
8. なぜ(創世記)1章と2章とは非常に似ていて、違いがないのか？

9. なぜアダム(の名)は正しい名と一般名との2通りで訳されているのか？
10. エデンの地理上の位置はなぜあまりにも正確に与えられているのか？
11. 聖書的な死の3つの型に名をつけなさい。
12. (創世記)18 節は性的存在である私達について何を言っているか？
13. 「助ける者」とは成熟を意味するのか？

創世記3: 1～24

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
カインとアベル	人の誘惑と墮落	誘惑の物語	人の非服従	墮落
3: 1～7	3: 1～8	3: 1～7	3: 1	3: 1～7
			3: 2～3	
			3: 4～5	
			3: 6～7	
3: 8～19		3: 8～19	3: 8～9	3: 8～13
			3: 10	
			3: 11	
			3: 12	
			3: 13a	
			3: 13b	
(14～16)	(14～16)	(14～16)	神の審判の宣言	
(17b～19)	(17b～19)	(17b～19)	3: 14～15	3: 14～16 (14～16)
3: 20～21	3: 20～24	3: 20～21	3: 20～21	3: 17～19 (17～19) 3: 20～24
			アダムとエバが 園を追放される	
3: 22～24		3: 22～24	3: 22～24	

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことで

はないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

導入

- A. 創世記3章は私達の住む世界の悪と苦難の問題の理解においてとても重要である。ユダヤ教の指導者の大多数が、悪と罪と人間の反逆についての議論にこの原典を用いていないことは驚くべきことである。
- B. 愛と慈みと恵みと親しみの神に対する人類の故意の(意図的な)反逆の影響は彼らの宗教的生活だけでなく彼ら自身の個性や家族の生活や世界観にまで及んできている。
人類に自由を与えるために神ご自身が個人的に支払われた高価な代価に注目しなさい。神のお喜びと創造の本来の目的は人間の反逆に劇的に(しかし永久的にはなく)影響を及ぼした。もし私達が神の良いご性質と与えてくださる愛とを確信するなら、人間(そしてもしかすると天使も)の反逆はその突然の不敬と自己中心性に見られるだろう。神の絶え間ない愛と救いの約束(3: 15を参照)もその優しいご性質の中でより大きくなるのだ!
- C. この章は他の古代近東の原典と共通する主題を持つにもかかわらず、その表現は二神教的ではなく一神教的である。

罪の起源と目的

- A. 聖書中の資料
1. 私はサタンが造られた目的を(1)神が意識的に造られたものに(神からの)独立と(神への)非難の機会を与えるため(ヨブ1~2章とゼカリア3章)、あるいは(2)創世記3章は神の創造物の中で(人類に)先行する天使の反逆または少なくとも神の人間に対する明らかな中傷があることを推定している、と神学的に仮定した。
 2. 人類は誘惑に影響される。
 3. 聖書は「罪」の起源あるいは目的について特別な議論はしていない。
 - a. 後の時代のユダヤ人の記述の中には罪が創世記3章から始まったと主張するものがある(サタンに、そして人間に)。
 - b. 他のユダヤ人の聖書の記述の中には罪が創世記6章から始まったと主張するものがある(「神の息子たち」に)。
 - c. イエスの時代の後に悪い教師達がユダヤ教とギリシャの思想とを結合させ、罪は実体あるもの(つまりギリシャのグノーシス[認識]主義思想)の中に潜在的にあると主張した(コロサイ、エペソ、I テモテ、II テモテ、テトスを参照)。

4. 悪には目的があり、従ってそれは存在しえないことは確かである。しかし、旧約聖書から新約聖書まで、悪とサタンは明らかに強調されている(A.B.Davidson 著 *The Theology of the OT* 300-306 ページを参照)。旧約聖書ではサタンは(多分この章以外では)神の敵ではないが、常に人間の敵である。ユダヤ教の指導者達は、悪い者は神の人類への愛と慈しみに対して嫉妬したのだと言っている。
 5. アダムの罪は全ての被造物に影響する(つまりこれはヘブル人の有体性の概念である。創世記 3: 14-24、ローマ 5: 12-21 と 8: 18-23 を参照)。
- B. 歴史的・神学的進展(L.Berkhof 著 *Systematic Theology* より抜粋)
1. ユダヤ教の指導者達は原罪(生まれながらの罪)を否定し、2つの概念(善対悪)のどちらかを選んでいいる。旧約聖書は創世記3章について徹底的には議論していない(ユダヤ教の指導者達もそうしていない)。
 2. イレネウス(紀元 130-202)はアダムの罪とその結果について議論した最初の教父である。アダムの罪を通じた人類の墮落についてのこの見方は西部教会(つまりアウグスティヌス)において有力となった。明らかにそれは、悪の問題が物質自体にあると断定するグノーシス主義(認識論)と対決するために用いられた。
 3. オリゲン(182-251)は、人は皆生まれながらに自分の意志で罪を犯すと主張した(プラトン主義)。
 4. 紀元3、4世紀のギリシャの教父達(東部教会)は私達の住む世界の悪の問題におけるアダムの立場を過小評価した。これはいかなる手がかりをも全く否定するペラギアス主義(原罪説を否定し自由意志を強調する思想)に発展した。
 1. ラテンの教父達(つまり西部教会)はアウグスティヌスに倣い、私達の住む世界の悪と罪と苦難の問題におけるアダムの立場を強調した。
 2. プロテスタントの改革運動の間に中心的改者達はアウグスティヌスに倣い、一方アルメニウスは原理主義的カルヴィニズムに対し擬ペラギアス主義的運動を発展させた。
 3. 哲学者達と神学者達は罪についてのいくつかの理論を提唱している:
 - a. カント 超感覚的領域にある未知の説明できない何か
 - b. ライプニッツ 物質宇宙にもともとある限界による
 - c. シュライアーマッハー 人間の感性による
 - d. リチュル 人間の無知による
 - e. パース 宿命の謎に関係する
 - f. ホワイトヘッド 罪はこの世界体系の中にもともとある。それは神と人間の両方を高めるように機能する。
 4. 聖書の主な強調点は罪と悪からの人類の救い、神が人間の姿になられたこと、そしてキリストを通じた神の愛である。罪の起源は全く議論されない。

特別なトピック: 新約聖書における墮落の神学的進展

1. ローマ 5: 12-21 のパウロの考察にはっきりと表現されているように、墮落は全ての人類に影響を与えた。ローマ 5: 12-21 は第二のアダムとしてのイエスについての考察である(I コリント 15: 21-22 と 45-49、ピリピ 2: 6-8 を参照)。そこでは個人の罪と集団の罪の神学的概念が強調されている。アダムから人類(そして被造物)へと墮落が及んだというパウロの考察は独特であり、彼の有体性観がユダヤ教の指導者達の教えと非常によく合致するとはいえ、彼の考察はユダヤ教の指導者達の見解とは異なる。そこには、エルサレムでガマリエルの下で教えられた真実を靈感の下で用いまた補う、パウロの能力が表れている(使徒行伝 22: 3 を参照)。

創世記3章に見られる原罪の原則はアウグスティヌスとカルヴァンによって発展した。それは、人間は罪深いものとして生まれると主張する。それを立証する旧約聖書中の原典としてしばしば詩篇 51: 5 と 58: 3 およびヨブ 15: 14 と 25: 4 が用いられる。人間は自身の選択と運命に対して道徳的および霊的に責任があるとするもうひとつの神学的見解は最初にユダヤ教の指導者達によって発展し、その後ペラギウスとアルミニウスによって教会内で発展した。彼らの見解を裏づける証拠が申命記 1: 39、イザヤ 7: 15、ヨナ 4: 11、ヨハネ 9: 41 と 15: 22 と 24 節、使徒行伝 17: 30、ローマ 4: 15 に見られる。この神学的見解の主張は、子供は道徳的責任を理解できる年齢(ユダヤ教の指導者達によればこれは男の子では13歳で女の子では12歳)までは無邪気であると言ってよいということだろう。

生まれつきの悪への傾向と道徳的責任を理解できる年齢とはどちらも事実であるとする中立的な見解がある！悪は集団のものであるばかりでなく、個人の悪と罪(神から離れた生活)へと発展する。人間の邪悪さは問題ではなく、いつ、つまり悪いものとして生まれるのか？、それとも後の人生で悪いものになるのか？が問題である。

2. 「新しい天と新しい地」は新約聖書の終末論のテーマとなる。

「新しい天と新しい地」この「新しい」に対応するギリシャ語の用語 *kainos* は順序立った時間ではなく質を強調する(2: 17、3: 12、5: 9、14: 3、21: 1 と 2 節と 5 節を参照)。これは旧約聖書のテーマであり、再び造られた地のことを言っている(イザヤ 11: 6-9 と 65: 17 と 66: 22、ローマ 8: 18-25、II ペテロ 3: 10 と 12 節を参照)。全ての信者はこの新しい王国(ピリピ 3: 20、エペソ 2: 19、ヘブル 12: 23 を参照)の民であり、この新しい被造物(II コリント 5: 17、ガラテヤ 6: 15、エペソ 4: 24 を参照)を共有している。これと並立する神学的概念は、ヘブル 11: 10 と 16 節と 12: 22 と 13: 14 の「人間の手で造られていない神の都市」であろう。

この新しい被造物は最初の被造物とは似ていないだろう。天は回復されたエデンの園だろう。神、人間、動物、そして全ての自然の被造物は再び交わり、そして喜ぶだろう！聖書のはじめには、園で神と人間と動物が完全な交わりを持っていたと記されている(創世記1~2章を参照)。聖書の終わりには、園のような設定された場所で神と人間と(黙示録 21、22 章を参照)、そして預言的暗示として動物(イザヤ 11: 6-8 と 65: 25 を参照)、が完全な交わりを持つと記されている。信者が天に行くことになるのではない；新しいエルサレムが天からやって来

て(黙示録 21: 2 を参照)、再び造られ聖められた地に来ることになるのである。神と人間とは再び一緒になる(創世記 3: 15、イザヤ 7: 14 と 8: 8 と 10 節、黙示録 21: 3 を参照)。

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 3: 1-7

¹さて、蛇は主なる神が造られたいかなる野の獣より悪賢かった。蛇は女に言った「確かに神は『あなたは園のいかなる木からも実を取って食べてはいけない』と言ったのか?」。²女は蛇に言った「私達は園の木から実を取って食べてよいのです。³しかし、園の真ん中にある木の实については、神は『その木から実を取って食べたりその実に触れてはいけない。さもなければあなたは死ぬだろう』と言われました」。⁴蛇は女に言った「あなたが死ぬことは絶対にないだろう! ⁵なぜなら神は、あなたがその木から実を取って食べた日にはあなたの目が開かれ、神のようになって善と悪を知るようになることを知っているからだ。⁶女が木を見るとその木の実は食べ物として良く、目に喜ばしく、そして人を賢くするのに望ましく思われたので、女はその木の实を取って食べ、そして夫にも実を与えた。夫はその実を食べた。⁷そして2人の目は開かれ、2人は自分達が裸であることを知った。そこで彼らはイチジクの葉を縫い合わせて腰周りを覆った。

3: 1「さて」 これは時間的な表現ではなく、創造の物語に新しい場면을導入するための単なる文学上の手法である。私達にはアダムと神がどのくらいの間一緒にいたのか、あるいはこの記述の前にアダムとエバと神がどのくらいの間一緒にいたのかわからない。

「蛇」 後述する特別なトピックを見よ。蛇はギルガメッシュ叙事詩においても、永遠の命を与える植物を盗むので敵である。

特別なトピック: 蛇

A. 用語「蛇」は *Nachash* である(BDB638)。それにはいくつかの語源が考えられる:

1. *Kal Stem* 「シューと音を出す」
2. *Piel Stem* 魔法あるいは占いにより「ささやく」
3. 4: 22 より 用語「青銅」と関連があると思われる「輝く」
4. アラビア語の語幹より 「しのび寄る」

B. この語にはある特定の蛇あるいは擬人化された実体をもつものを示す限定的な冠詞が存在する。

C. 蛇の現実性は以下に示す事柄によって強調されている:

1. それは神が造られた野の獣のひとつに挙げられている。
2. それは 3: 14 で文字通りの動物として罰せられている。
3. それは特に新約聖書の II コリント 11: 3 と I テモテ 2: 13-14 でそれとなく言われている。

- D. 蛇は特に以下に示す聖句の中でサタンと同一視されている:
1. 「知恵」に関する旧・新約聖書の記述。2: 23-24。「神は人を不死身のものとして造られた。 . . . それなのに悪魔の嫉妬によって死が世界にもたらされた。」
 2. イレネウス(紀元 130 頃-202)
 3. 黙示録 12: 9 と 20: 2
 4. このような同一視は旧約聖書自体にはなかった。なぜならそれは創世記3章について完全には述べていないからである。それは他の旧約聖書中の書にも述べられていないし、解釈されていない。
- E. なぜサタンの名は特につけられていないのだろうか? この聖句の強調したいことは超自然的な誘惑ではなく人類の責任である。ローマ1-3章には人間の罪深さが表れ、4-8章にはその影響が記されていて、サタンについては全く述べられていない。

「**悪賢い**」 この用語(BDB791、KB886)に関連していると考えられる2つのだけ(この用語は 2: 25 の「裸の」と意味がよく似ているように思われる)がある: (1)「悪賢い」あるいは「賢い」そして (2)分別のある(例えば箴言 1: 4、8: 5 と 12 節、12: 16 と 23 節、13: 16、14: 8 と 15 節と 18 節、22: 3、27: 12)。これは蛇に適用するのに否定的な意味の用語とは思われないが、その性質を簡単に認識するにはよい用語と思われる(マタイ 10: 16)。これが多分悪いものがこの獣を特に肉体化の対象として選んだ理由であろう。

「**あらゆる野の獣**」 これは蛇が多くの造られた動物の型のひとつにすぎないことを示している。

「**主なる神**」 最初の用語「主」は神の契約の名、YHWH、ヘブル語の動詞「ある」である(出エジプト 3: 14 を参照)。第二の用語「神」は古代近東地域で一般に神をさして言う用語 *EI* の複数形であるヘブル語の用語 *Elohim* である。ユダヤ教の指導者達は、YHWH は神の契約の恵みを表し、*Elohim* は創造主としての神を表すと言っている。特別なトピック: 2: 4 における神の名を見よ。

「**そして蛇は言った**」 ある特定の蛇についての多くの推測があった(個人の代名詞に注意)。私達は墮落前の人間と動物の関係を、親しかったに違いないと思っはいるものの、知らない。しかし、言葉を話すことは人間に表れた神のお姿の一部であり、従って通常は動物には見られないものだと私は確信している。この同じ交わりは終末論的設定において回復されることになっている(イザヤ 11: 6-11 を参照)。サタンが蛇に宿ったので、蛇の声は実はサタンの声だと私は確信している。エバが驚かなかったことは神学的に何と驚くべきことだろう!

「**女**」 サタンが用いた動詞が複数形であるにもかかわらず、エバがアダムから離れた理由については解説者の間で多くの推測があった。3: 6 はアダムが(蛇と女の)会話中ずっと(隣に)いたかもしれないことを意味している。解説者の中にはそれはエバが自己を追究するうえで象徴的であると主張している者もいる。また、エバが神の命令を直接に聞いていない(2: 16-17 を参照)ことを理由にサタンが彼女を誘惑したと信じている者もいる。これら全ては推測である。

「**確かに神は言ったのか**」 ユダヤ教の指導者達は、サタンは神の恵みを知らなかったので用語

YHWHを使ったはずがないと言っている。しかし、聖書中にはサタン性格の悪さが強調されているようである(A.B.Davidson 著 *The Theology of the Old Testament* 300-306 ページを参照)。

特別なトピック: 個人の悪

これは以下に示すいくつかの理由で非常に難解な話題である:

1. 旧約聖書は、神の第一の敵ではなく、YHWHのしもべの一人が人類(罪の贖いの)身代わりとなって人類の不義を告発したことを明らかにしている。
2. 個人的な第一の敵の概念はペルシャの宗教(ゾロアスター教[拝火教])の影響の下に種々の聖書(聖書外典の)文学の中で発展した。そしてこれはラビ達のユダヤ教に大きな影響を与えている。
3. 新約聖書は旧約聖書のテーマを驚くほどありのままの、しかし選択的なカテゴリーの中に発展させている。

もし私達が聖書神学の知見(それぞれ研究し要約した各書・各著者・各ジャンル)から悪の研究を試みるなら、全く異なる悪の側面が明らかになる。

しかし、もし私達が世界の宗教の、特に東洋の宗教の非聖書的あるいは聖書外典的知見から悪の研究を試みるなら、新約聖書から発展した理論の大半はペルシャの二神論とギリシャローマの神霊論の中に予め示されていることになる。

もし私達が前提として聖句(の解釈)を神の権威に委ねるなら、新約聖書から発展した理論は進歩的な啓示として見られるに違いない。クリスチャンはユダヤの民話や英国の文学(Dante や Milton)がその概念をさらに明確にすることを防がなければならない。啓示のこの領域には明らかに謎とあいまいさがある。神は悪の全ての特徴とその起源と目的が明らかにされないことを選ばれているが、その敗北は明らかにされているのだ!

旧約聖書ではサタンつまり告発者という用語は相異なる3つのグループと関連があるようだ:

1. 人間の告発者達— I サムエル 29: 4、II サムエル 19: 22、I 列王記 11: 14 と 20 節と 29 節、詩篇 109: 6
2. 天使の告発者達—民数記 22: 22-23、ゼカリヤ 3: 1
3. 悪魔の告発者達— I 歴代誌 21: 2、I 列王記 21: 21、ゼカリヤ 13: 2

すぐ後の時代の聖書外典では創世記3章の蛇はサタンとされている(知恵の書 2: 23-24とIIエノク 31: 3を参照)。また、さらに後の時代ではこれはユダヤ教の指導者達により考慮するか否かで意見が分かれている(*Sot* 9b と *Sanh.* 29aを参照)。創世記6章の「神の息子達」はIエノク 54: 6では天使達とされている。私はこれを、その神学的正確性を主張するためではなく、その発展の様子を示すために述べる。新約聖書ではこれらの旧約聖書の出来事が天使による個人化された悪の原因とされている(Iコリント 11: 3と黙示録 12: 9を参照)。

個人化された悪の起源は旧約聖書から明らかにすることは難しく、あるいは不可能である(個人の観点による)。この理由はイスラエルの強力な一神教的思想にある(I列王記 22: 20-22、伝道

者の書 7: 14、イザヤ 45: 7、アモス 3: 6 を参照)。全ての因果関係は YHWH に帰し、神御自身の独自性と御自身が第一の方でいらっしゃることを示している(イザヤ 43: 11、44: 6 と 8 節と 24 節、45: 5-6 と 14 節と 18 節と 21 節と 22 節)。

利用できる一連の情報は(1)ヨブ1~2章: サタンは神のご臨在の下に「神の息子達」(つまり天使達)の一人である(ゼカリヤ3章を参照)、あるいは(2)イザヤ14章とエゼキエル28章: 高慢な近東の王達(バビロンとツロ)がサタンのプライドの描写に用いられている(I テモテ 3: 6 を参照)、に注目している。私はこの研究上の注目点について複雑な感情を抱いている。エゼキエルはエデンの園の比喻を、ツロの王に対してはサタン(エゼキエル 28: 12-16)、そしてエジプトの王に対しては善悪の知恵の木(エゼキエル31章)、というように用いている。しかし、イザヤ14章、特に 12~14 節は天使の反乱をプライドを通して記述しているようである。もし神がサタンの特別な性質と起源を私達に明らかにしたいと思われるなら、これはそうするのに非常に遠回しな方法と場である。私達は、様々な聖書原典、著者、書、ジャンルの瑣末であいまいな部分を取り上げて、それらをパズルの断片として扱い、一つの神のパズルを完成させる組織神学の傾向に流されないように注意しなければならない。

Alfred Edersheim は自著 *The Life and Times of Jesus the Messiah* 第 2 巻補遺 X III (748~763 ページ) および X VI (770~776 ページ) の中でラビの広めるユダヤ教はペルシャの二神論と悪魔的推論に大きな影響を受けていると言っている。この分野においてユダヤ教の指導者達は真理の情報源として好ましくない。イエスはこの分野においてユダヤ教の教えとは根本的に異なる見解をお持ちである。私は、(神の)シナイ山上におけるモーセへの律法の授与への天使の介入と反対についてユダヤ教の指導者が抱いている概念は、YHWH と人類に敵対する主要な天使的存在の概念への扉を開いたと思う。イランの二神論における2人の崇高な神 *Ahura Mazda*(善の神) と *Angra Mainyu*(悪の神) は地上における優位性をめぐって、地上を戦場として戦った。この対決の結果、ユダヤ教の中に YHWH とサタンの二神論が発達したのかもしれない。

新約聖書の中にも確かに悪の個人化に関する進歩的啓示があるが、ユダヤ教の指導者達のそれよりは洗練されたものではない。この違いのよい例は「天における戦い」である。サタンの墮落は論理的に必要なだが、その詳細は(聖書中には)述べられていない。述べられるはずのことは黙示文学のジャンルの中に隠れている(黙示録 12: 4、7 節、12-13 節を参照)。サタンは敗北し追放されたが、未だ YHWH のしもべとして働いている(マタイ 4: 1、ルカ 22: 31-32、I コリント 5: 5、I テモテ 1: 20 を参照)。

この分野において私達は好奇心を抑えなければならない。個人的な誘惑と悪の力があるが、一方でただお一人の神がおられ、人類は自身の選択に対する責任がある。救いの前後に霊的戦いがある。勝利は三位一体の神の中だけにあり、またその方を通じてのみもたらされる。悪は敗北し続け、そして追放されるだろう!

「あなたは園のいかなる木からも実を取って食べてはいけない」 このヘブル語の聖句は非常に

特殊だが、疑問ではなく肯定と関係があるようである。蛇は単に、園の中心にある木について神が禁止された事柄について女と会話を始めている。

3: 2 エバは、神が他の全ての木々の実を食物として与えられたと言う(2: 16を参照)。しかし蛇はこのことを度外視して、善悪の知識の木について神が禁止されたことを強調する。

3: 3「しかし園の中心にある木からは実を」創世記 2: 9 から、園の中心には2本の木、つまり命の木と善悪の知識の木があることがわかる。明らかに適切な時機にこれら2本の木の実は人類に与えられることになっているが、実を恣意的に掘み取って食べたいという人類の自己主張により神のご計画は誤って理解される(ピリピ 2: 6-11 のイエスのなされた反応とは何と正反対なことか)。命の木は古代近東の創造の物語全てに共通しているが、善悪の知識の木は聖書独自のものである。木の実について魔法的なことは何もない。それは神のそのものの用いられ方であって、木の実自体の本質に固有のものは何もなく、それらのことがそのものを重要にしている。

「さもなくばあなたは死ぬだろう」この用語(BDB559、KB502)は3節と4節で3回用いられている。エバが死について何を理解していたのかは明らかではない。なぜなら(園内の)動物たちは死ななかつたからである。しかし、男と女には何かが理解できたのかもしれない。聖書には3種類の死が記されている: (1)創世記3章、イザヤ 59: 2、ローマ 7: 10-11、エペソ 2: 1、ヤコブ 1: 15に見られる霊的死(2)創世記5章に見られる肉体的死(3)人間の頑固さと(神への)反逆心の結果としての永遠の死(黙示録 2: 11、20: 6と14節、21: 8を参照)。

3: 4「蛇は女に言った『あなたが死ぬことは絶対にはないだろう!』」これは同じ語幹に由来する絶対不定詞であり、そして *Qal* 未完了形(BDB559、KB562)であり、強調のために用いられる。サタンは最初に神の真実性を攻撃した。ここではサタンは神のお言葉の真理を攻撃した。そして、5節においてサタンは神の人類に対する慈みと恵みを攻撃することになる。この聖句のヘブル語様式は衝撃的なほどに強調された様式である。サタンは神のお言葉を否定する。

3: 5「なぜなら神は、あなたがその木から実を取って食べた日にはあなたの目が開かれることを知っているからだ」サタンの言葉には限定された真実があったが、それは悲劇的な半真実であった(テス 1: 15を参照)。これは翻訳者が文字通り(比喩的に)「日」を「いつも」の意味で用いているからそのように解釈されるようである。文字通りヘブル語の成句は「そのとき」である。

動詞「開かれる」(BDB824、KB959、*Niphal* 完了形。7節を参照)は代理者、多分その木あるいは悪いものの力を意味している。

「神のようになるだろう」この神に対する語は用語 *Elohim* である。2: 4における特別なトピックを見よ。それはこの文脈中で神ご自身を言い表すために用いられ、そしてこのことによって多くの訳がこの聖句の解釈のために生まれた。しかし、この用語は天使にも使える(詩篇 8: 5と6節、82: 1と6節[ヘブル 2: 7中で引用]、97: 7を参照)。つまりそれは「霊的存在」(Iサムエル 28: 13を参照)を言う場合に使えるし、イスラエルの士師(出エジプト 21: 6と22: 8~9を参照)を言う場合に使える。これが天使、つまり神あるいは天の集団(3: 22を参照)と一緒にいる霊的存在のようになる約束だと考えるのがより論理的なようである。皮肉なことだが人類はすでに自分のものになっているもの

を神から掴んで取ろうとした。人間は天使よりも霊的に高い地位にある(ヘブル 1: 14 と 2: 14-16、I コリント 6: 3 を参照)。

3: 6「女が木を見るとその木の実を食べ物として良く、目に喜ばしく、そして人を賢くするのに望ましく思われた」 ここに私達は誘惑から実際の罪の行為への3段階の発展を見る。ユダヤ教の指導者達は、目と耳は魂の窓であり、それらを通して入るものは破滅的な行為を犯すまで私達の心の中で育つと言っている。

「そして夫にも実を与えた。夫はその実を食べた」 この節について今まで多くの推測がなされてきた。ユダヤ教の指導者達は、アダムは妻と絶対に別れたくなかったので(木の実を)食べたのだと主張している。Milton も自著 *Paradise Lost* の中でこれを主張している。しかし文脈から、エバは蛇が自分に対してとったのと同じ行動をとったのであり、それは彼女がすでに(木の実を)食べて死ななかったという経験上の証拠と合うようである。ユダヤ教の指導者達はさらに、蛇はエバにこれと同じ話術を使った、つまり蛇はエバに強制的に木の実に触れさせて「ほらご覧、死ななかっただろう」と言ったのだと主張している。多分はアダムにこう言ったのだ「ほらね、死んでないでしょ」。

3: 7「そして彼らは自分達が裸であることを知った」 今まで多くの解説者がこれを用いて誘惑の性的性質を主張している(II コリント 11: 3「蛇はエバを誘惑した」を参照)。ユダヤ教の指導者達はさらに、蛇はエバを性的に誘惑したと言っているが、これは原典読解上の偏見であるようだ。彼らの新たな知見は祝福ではなく、説得力に欠けた意見とみなされた(テトス 1: 15 を参照)。

「イチジクの葉を縫い合わせた」 エバがりんごを食べたという伝統的意見は高々推測に過ぎない。ユダヤ教の指導者達は、エバが衣服にするために葉を取った木と同じ木から取ったイチジクを食べたのだと言っている。しかし、「木の実」は私達にとってなじみのない古代の、あるいは他の種類の木の実である可能性がある。木の実の種類は問題ではない。

NASB(改訂版)原典: 3: 8-13

⁸その日の涼しさが感じられる頃、彼らは主なる神が園内を歩いておられる足音を聞いた。そして人とその妻は主なる神の御前から身を避け、園の木の間に隠れた。⁹すると主なる神は人を呼んで言われた「あなたはどこにいるのか」。¹⁰人は言った「あなた様の足音が聞こえたので私は自分が裸であることが恐ろしくなりました。それで身を隠しております」。¹¹すると神は言われた「あなたが裸であることを誰があなたに教えたのか。私が食べるなど命じた木の実を食べたのか」。¹²人は言った「私と一緒にいるようにとあなた様がお命じになりました女が木の実を取って私に与えたので、私はそれを食べました」。¹³すると主なる神は女に言われた「あなたは何ということをしたのだ」。女は言った「蛇に騙されて食べてしまいました」。

3: 8「彼らは主なる神が園内を歩いておられる足音を聞いた」 欽定訳(訳者注: King James Version つまり KJV)では「主なる神の御声」となっているが、このヘブル語の語は神が歩いておられる足音を意味する(BDB229、KB246、*Hithpael* 分詞)。このヘブル語の語と文脈の構造は、神と

最初の夫婦が会って交わるために日常行う行為であったことを意味しているようだ。これは、霊的存在であられ、肉体をお持ちでない神にとって非常に神人同形説(擬人論)的な聖句である。研究者の中には、神が最初の夫婦との交わりのために人間の姿をなされたのだと主張する者もいる。これは真実かもしれないが、御子(イエス)は三位一体の神の中でただお一人肉体をお持ちの方である。研究者の中には、新約聖書には御子が神の代理者として創造の業をなさる(ヨハネ 1: 3 と 10 節、I コリント 8: 6、コロサイ 1: 16、ヘブル 1: 2 を参照)こと、そしてしばしば神が本当におられることの証拠があること(つまり主の天使。例えば創世記 16: 7-13、22: 11-15、31: 11 と 15 節、48: 15-16、出エジプト 3: 2 と 4 節、13: 21、14: 19)が明記されているので、これは受肉前のキリストのことを言っているのかもしれないと推測する者もいる。

「その日の涼しさが感じられる頃」このヘブル語の成句は風を表す用語(BDB398)と関連がある。それは朝と夕方に吹く冷たい微風のことを言っている。

「人とその妻は主なる神の御前から身を避けた」この動詞(BDB285、KB284)は *Hithpael* 未完了形である。罪の(もたらす)悲劇は神と被造物の間の感情的および実体的別離の中にすでに見られる(詩篇 139 篇と黙示録 6: 16 を参照)。

3: 9「あなたはどこにいるのか」明らかにこれは神が情報を探しておられるのではなく、彼らに自分達のしたことを悟らせるために質問をなしているのである(11 節を参照)。旧約聖書中のこれらのタイプの修辞法的な(誇張した)質問は神のご性質の発展的側面を強調するのに用いられており、「オープン有神論」と呼ばれている(Clark Pennock 著 *The Most Moved Mover* を参照)。

3: 10「私は自分が裸であることが恐ろしくなりました」何という悲劇！アダムは自分を造られ自分を理解したいと思っておられる愛の神を恐れている。悪の強さはここに明らかに見られる。なぜなら人は未だに神から、自分自身から、自分の家族から、そして自然の秩序から隠れ続けているからである。彼が裸であるという事実は、目が開いた状態での神の意志に対する反逆という真の問題の隠匿に過ぎない。

3: 12「人は言った」ここに私達は、アダムがエバと神御自身を責めようとしているものの、彼自身にも責任があるという事実が強調されているのを見ることができる。数多くの言い訳のただ中にあり、またエバと神を責めようとしていても、人は自分自身の行動に責任がある。Flip Wilson の神学「悪魔が私にそうさせたのだ！」はもはや「文化的環境が私にそうさせたのだ！」や「遺伝的体質が私にそうさせたのだ！」などの言い訳に過ぎない。

3: 13「蛇に騙されて食べてしまいました」エバは直ちにアダムの発言に倣って言い訳をし始めた。用語「騙した」は「忘れようとさせた」(BDB674、KB728、*Hiphil* 完了形)という意味であると思われる。それは蛇の出すシューーという音(つまり *hissi'ani*)に対する擬音(声)語かもしれない。新約聖書の II コリント 11: 3 と I テモテ 2: 14 にはエバの行動についての記述がある。

創世記 3: 14-24 の文脈考察

導入

- A. この段落は 3: 1-12 と同様に私達の住む世界の罪、病、痛み、不正、そして悪の現在の状態を理解するのに重要である。これは神がそのようになることを意図された世界ではない。
- B. この段落、特に 15 節には、神の救いを意図されたご介入によって私達の住む世界がどのようになる予定なのかについての最初の言葉を見ることができる！それは墮落した反抗的な人間に対する神の大いなる救いの約束であり、「女」を通してもたらされる予定のものである。
- C. 神のご性質とお言葉に対する反逆の結果がはっきりと記されている！サタンは明らかに嘘つきとみられ、罪はアダムとエバと彼らの子どもたちの生活に完全に入り込んでいます。
- D. 男と女の関係は 16 節にはっきりと記されている（Ⅱテモテ 2: 9-15、エペソ 5: 22、コロサイ 3: 18、Ⅰペテロ 3: 1 を参照）。私達の住む世界のストレスに満ちた関係は（人間）生来の非常に意図的な不従順の直接の結果である。もし旧約聖書に原因があるなら、これがひとつの例となりうる。しかし、それらはまたキリストを通じた神の恵みの影響を受けている（Ⅰコリント 11: 11、ガラテヤ 3: 28 を参照）。
- E. ユダヤ教の指導者達は原罪を認めず、2つの「イェツアー」（意図）を仮定している。しかし、旧約聖書のヨブ 14: 4 と 15: 14 と 25: 4、そして詩篇 51: 5 のアダムの原罪についての記述、および新約聖書のローマ 5: 12-21 の古典的段落には内容の調和がみられるようである。

NASB(改訂版)原典: 3: 14-19

¹⁴主なる神は蛇に言われた「お前はこのようなことをしたので、全ての家畜よりも、そして野のあらゆる獣よりも呪われる。お前は地面を腹ばいになって動き、生涯ずっと塵を食べて生きるようになるだろう。¹⁵そこで私はお前と女が、またお前の子孫と女の子孫が互いに憎しみを抱くようにする。彼はお前の頭を傷つけ、お前は彼のかかとを傷つけるだろう」。¹⁶女に神は言われた「私はあなたの産みの痛み、子を産むときに感じる痛みを大いに増そう。そしてあなたの望みはあなたの夫のものとなり、彼はあなたを支配するだろう」。¹⁷そしてアダムに神は言われた「あなたがあなたの妻の声を聞き、私が『あなたはそれから実を取って食べてはいけない』とあなたに命じた木から実を取って食べたので、地はあなたのせいで呪われた。あなたは生涯ずっと苦勞して働いて食べ物を得るようになるだろう」。¹⁸いばらとあざみがあなたのために育ち、そしてあなたは野の植物を食べるようになるだろう。¹⁹あなたは地に還るまで自分の顔の汗によって食べ物を得る。なぜならあなたはそこから取られたからだ。あなたは塵なのだから塵に還るべきだ」。

3: 14「主なる神」 これは旧約聖書の中で神を表す2つの主な語 YHWH と Elohim の組み合わせである。2: 4 の記述を見よ。

「蛇に言われた」 神はアダムとエバになさったような質問を蛇にはされなかった。蛇は悪いものの道具として裁かれている。

「お前は全ての家畜よりも呪われる」 この動詞(BDB76、KB91)は *Qal* 受動態分詞である。これは

全ての家畜(牛、多分地の動物よりも広い意味)がすでに呪われていたという意味ではない。成句「より」は「全ての家畜以外で」の意味であろう。ユダヤ教の指導者達は、これは蛇の妊娠期間に対する家畜の妊娠期間を言い、タルムードでいう7年であると言っている。

「お前は地面を腹這いになって動くだろう」ヘブル人は腹這いになって動くものはいかなるものでもきよくないと考えていた(レビ記)。ユダヤ教の指導者達は、神は蛇を腹這いになって動くものとされるために足を切り落とされたと言っているが、多分これは、いつも存在していて、神が特別な目的のために用いられるときに新たな意味が付加される、創世記 9: 13 の虹のしるしと同様のものである。

「お前は塵を食べて生きるようになるだろう」これはイザヤ 65: 25 に暗示されている。これは実際に蛇を呪われる神のご性質であるようだ。この聖句は聖書における敗北と恥の比喩であるかもしれない(詩篇 79: 9、イザヤ 49: 23、ミカ 7: 17 を参照)。この節の未完了形はどちらも命令態で用いられている。

3: 15「そこで私は憎しみを置く」憎しみ(BDB33)は人と人の中で用いられる語である。これは、神の裁きが文字通りの蛇ではなくサタンに宣告されるという、裁かれる対象の変遷であるようだ(黙示録 12: 9、20: 2 を参照)。Vern S. Poythress の JETS 第 50.1 巻 87~103 ページへの寄稿“The Presence of God Qualifying our Notions of Grammatical-historical Interpretation : Genesis 3: 15 as a Test Case”を見よ。

「お前と女の間、またお前の子孫と女の子孫の間」この節について解説者達の間で多くの議論がなされてきた。より大きな聖書正典ではそれは悪いものの子供達(つまり「種」、BDB282) (マタイ 13: 38 とヨハネ 8: 44 を参照)とメシアの子供達(イレネウスを参照)のことを言っているようである。しかし次の節で単数形「彼」と「あなた」が用いられているので、それは来るべきメシアの救いの御業に象徴される、神と悪いものとの間の緊張のことを言っているようである(イレネウスを参照)。アダムとエバがこの結果を理解できなかったこと、そして多分モーセも、申命記 18: 18 の中で自分よりも偉大な預言者が来られることを知っていたにもかかわらずそれが理解できなかったことは明らかである。確かに人間の原著者にとっては未知で神性ある著者(聖霊)にとっては既知であるにもかかわらずそれは多分処女降誕を暗示していると私は思う。人は女の軽率さによって墮落してしまったので、聖霊によるメシアの超自然的な降誕における女の従順さを通して救われるだろう(イザヤ 7: 14、マタイ 1: 18-25、ルカ 1: 26-38 を参照。A Guide To Biblical Prophecy 78~80 ページを見よ)。ウルガタ聖書(訳者注: St. Jerome が4世紀末に訳した教会公認のラテン語訳聖書)は次の句の「彼」を「彼女」に変えている。これは文脈全体からみて不適切であるが、より重要な内容を適確に表しているかもしれない。

この預言がイエスの処女降誕によって歴史的に達成されるまでは完全には理解されないことと同様のことが創世記1章と2章の解釈についてもいえる。私達の地球についての長年の科学的研究が神の創造の御業の複雑さと相互関連性を示しているので、歴史が啓示の真実性を明らかにしているのだ! 神の御業には矛盾はなく、ただ人間の立場についてのより完全な知識があるだけ

なのだ！

NASB 「彼はお前の頭を傷つけるだろう」

NKJV 「彼はお前の頭を傷つけるだろう」

NRSV 「彼はお前の頭を打つだろう」

TEV 「彼女の子孫はお前の頭を砕くだろう」

NJB 「それはお前の頭を傷つけるだろう」

用語「傷つける」は「砕く」、「粉々にする」、「こすり取る」、「粉状に挽く」、「打つ」(BDB1003、KB1446、*Qal* 未完了形、2回使用、ヨブ 9: 17 を参照)の意味であるかもしれない。単数形個人代名詞に注意しなさい(ローマ 16: 20 を参照)。戦いは最終的に個人レベルになるだろう。

NASB 「そしてお前は彼のかかとを傷つけるだろう」

NKJV 「そしてお前は彼のかかとを傷つけるだろう」

NRSV 「そしてお前は彼のかかとを打つだろう」

TEV 「そしてお前は彼女の子孫のかかとを傷つけるだろう」

NJB 「そしてお前はそれのかかとを打つだろう」

同じ動詞(BDB1003、KB1446、*Qal* 未完了形)がここでも用いられるが、サタンが最悪の結末を迎えるのは明らかである。これは新約聖書の知見から理解すれば磔刑のことを言っているようだ。

3: 16「女に神は言われた」 ここには4つの要素があるようだ: (1)子を産むときの痛みの増大(*Hiphil* 絶対不定詞と同じ動詞の *Hiphil* 未完了形、BDB915、KB176) (2)育てきれないほど多くの子供(3)子育てに関わる問題(4)夫の支配。私達はこれらがどのようにエバの反逆に関係しているかを見ることができる: (a)彼女は独立したいと思っているが、今や(神にではなく)夫に全て依存している(b) 彼女は禁断の実に喜びと幸福を見たが、今や自らの日常生活に苦痛を感じている。新約聖書がこれを男と女の墮落した関係の神学的重要性として理解していることは明らかである(I テモテ 2: 9-15 を参照)。私達は、I コリント 11: 11 とガラテヤ 3: 28 にあるような、キリストにある自分、そしてエペソ 5: 22 とコロサイ 3: 18 と I ペテロ 3: 1 にあるような、ある意味でアダムのようにあり続ける自分との間につりあいをとれるようにしなければならない。

この点でヘブル語原典の中にいくつかの結論がある。ここで訳された用語「子を産むときの」には様々な表記がある。ヘブル語の子音は「産まれることが望まれている」の意味で、子供を誘惑する悪のことを言っているのだろう(*Hard Sayings of the Bible* の 90~99 ページを参照)。

「そしてあなたの望みはあなたの夫のものとなる」 このヘブル語の単語はここでは「欲望」あるいは「渴望」と訳される(BDB1003、KB1801)。Walter Kaiser はその語は「交替する」、多分「支配する」の意味である可能性があると主張している(創世記 4: 7 を参照)。エバは YHWH に背いた。彼女は、しばしば状況を利用して夫をそそのかし続けたので罰を受けた(*Hard Sayings of the Bible*, IVP の 97~98 ページを参照)。

「彼はあなたを支配するだろう」 この動詞(BDB605、KB647)は *Qal* 未完了形である。これは墮落

の結果と、多分男性の罪深い性質が究極に達することを意味しているのであろう。嫉妬、強姦、離婚、そして神なき支配は人類の性的衝動の特徴となっている。私達は動物のようになってしまったが、未だに性的欲望に加えてエゴの問題をかかえているのだ。

3: 17「あなたがあなたの妻の声を聞いたからだ」 アダムは神のお言葉に従うべきだったのに、妻の言葉に従い神の特別なご命令に背いた(2: 15-17を参照)。

「地はあなたのせいで呪われた」 この動詞(BDB76、KB91、*Qal* 受動態分詞)は祝福の反対を意味している。地はもはや自由かつ豊かに(人や動物の食べ物となるものを)産みださないだろう。現在の地球の姿は神の意図されたものではない。

単語「アダム」(*Adam*、BDB9)と単語「地」(*adama*、BDB9)には言葉の遊びがある。どちらも同じ語幹を持っている。私達はローマ 8: 18-23 に人類の墮落の結果と性質とを見ることができる。

これがエデンの園の外の自然の状態を反映しているという主張もある。反逆の後にアダムとエバは神の特別な場所から、狩人と収穫者の歯と爪の世界という現実へと送られた。

「あなたは生涯ずっと苦労して働いて食べ物を得るようになるだろう」 アダムは墮落前には園の番人としての仕事を与えられていて(2: 15を参照)、それが彼の支配権のしるしであったが、今や彼の仕事は骨の折れる、反復的で義務的で終わりのない(つまり「労苦」BDB781)となった。そして人類の労働により地から得られる産物はわずかとなった(18節を参照)。

動詞「食べる」がこれらの冒頭の章で用いられている回数に注意しなさい(2: 16と17節、3: 1と2節と3節と6節と11節と12節と13節と14節と17節[2回]と18節と19節と22節を参照)！それは豊かさや呪いとに關係している。

「あなたが地に還るまで、なぜならあなたはそこから取られたからだ」 これはアダムの墮落と霊的死(3章)と肉体の死(5章)とに直接に關係している。神は信賴できるお方である。神は彼らがそれらの結果の全てにおいて死を経験するだろうと言われたが、確かにそうなった！

「あなたは塵なのだ」(創世記 2: 7を参照)

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 3: 20-21

²⁰そして人はその妻の名をエバと呼んだ。なぜなら彼女は全ての生き物の母であったからである。

²¹主なる神はアダムとその妻のために動物の皮で衣服を造られ、彼らに着せられた。

3: 20「そして人はその妻の名をエバと呼んだ。なぜなら彼女は全ての生き物の母であったからである」 夫の妻に対する支配を象徴する行為は今や彼の妻の呼び方になっている。語源的には単語「エバ」(*hawwa*)と「生き物」(*haya*)はとてもよく似ているので、これは多分、一般的なヘブル人の言葉遊びである。アダム、エバ、カイン・ノッドの名に見られるこれらの言葉遊びはこれらの初期の文献の文章の性質を表している。彼女が、生命ではなく「生き物」を意味する「エバ」と呼ば

れるのは皮肉である。なぜなら彼女は他の生き物に死をもたらすからだ(訳者注: 食糧とするために収穫あるいは屠殺するから)。

3: 21 エデンの園の外で天候あるいは他の急激な変化が人間を待ちうけているかぎり人間はこの衣服を必要としたというのは尋常ではない。

人間の必要に応じて神が設定されたこの最初の死は明らかに、裁きの現実と結果とともに神の憐れみと恵みを示しているのだ。

以下の特別なトピックを見よ。

特別なトピック: 神がアダムとエバに動物の皮で造られた衣服を着せられた理由

- A. エデンの園の外での厳しい生活への備えとして
- B. 裸であることに対して彼らを感じた恥の気持ちを覆い隠されるため
- C. 人間の必要に応じて動物を用いることの合法性を示されるため
- D. 人間の備え(葉)と神の備え(皮)の違いを示されるため
- E. 彼ら自身の来るべき死を思い起こさせるため(創世記5章を参照)
- F. キリストが新しい衣服として私達に与えられた帰属する義の衣服による比喻を予め示されるため(ローマ 13: 14、ガラテヤ 3: 27、エペソ 4: 24、コロサイ 3: 8 と 10 節と 12 節と 14 節、ヤコブ 1: 21、I ペテロ 2: 1 を参照)
- G. 人間が墮落しても神は変わらず人間を愛され恵みを与え続けておられることを示されるため

NASB(改訂版)原典: 3: 22-24

²²そして主なる神は言われた「見よ、人は我々の一人のようになり、善悪を知った。そして今や、彼は手を伸ばして命の木から実を取って食べ、永遠に生きるようになるかもしれない。」—²³そこで主なる神は彼をエデンの園から追放され、彼がそこから取られたというその地を耕させるようにされた。²⁴そして神は人を追放され、エデンの園の東にケルビムとあらゆる方向に回る炎の剣を置いて、命の木に至る道を守るようにされた。

3: 22「見よ、人は我々の一人のようになった」創世記におけるこれらの複数形(1: 26、3: 22、11: 7 を参照)について今まで多くの議論があった。22 節は単数形で始まり、複数形に発展する。もし私達が聖句に聖句を解釈させるなら、これは明らかに三位一体の神のことを言っているのであり、神の複数形を呼び表すヘブル語の文法上の形のことを言っているのではない。しかし、それは(1)天使の集会(I 列王記 22: 19)(2)詩篇 110: 1 の神性を持つ2人の人(3)主の天使として知られる、神の受肉、のことを言っている可能性もある。一例として、出エジプト記 3: 2 と4節の燃える柴を見よ。

「命の木」我々(訳者注: 著者ら)は以前に、命の木は大半の古代近東地域の創造の記述によく出てくると述べた。ここでは人は除外されるが、それは神が嫉妬されたからではなく、人にとって現

在の墮落した状態のままに永遠に生きることは呪いとなるおそれがあるからである。

「永遠に生きる」以下の特別なトピックを見よ。

特別なトピック: 'OLAM(永遠)

これはとても一般的な(400回以上用いられている)用語 'olam(BDB761、KB798)である。これはある意味で時間の長さを表すために用いられ、それぞれ言い表している事柄の性質と関係しているに違いない。

A. 過ぎた時間(例のみを示す)

1. 「昔の英雄」 創世記 6: 4
2. 「山と丘」 創世記 49: 21
3. 「昔の世代」 申命記 32: 7
4. 「祖先」 ヨシュア 24: 2
5. 「昔の日々」 イザヤ 51: 9

B. 寿命の継続(例のみを示す)

1. 「永遠にあなたを信じる」(モーセ) 出エジプト 19: 9
2. 「永遠に奴隷」 申命記 15: 17、I サムエル 27: 12
3. 「あなたの人生全て」 申命記 23: 6
4. サムエル「永遠にそこにとどまる」 I サムエル 1: 22
5. 王「永遠に生きる」 I 列王記 1: 21、ネヘミヤ 2: 3、詩篇 21: 4
6. 「永遠に主をほめたたえる」 詩篇 115: 18、145: 1-2
7. 「永遠に歌う」 詩篇 89: 1、115: 18、145: 1-2
8. 「永遠の妊婦」(比喩) エレミヤ 20: 17
9. 多分、箴言 10: 25

C. 継続的存在(しかし明らかな制限が付く)

1. 人間は永遠に生きる 創世記 3: 22
2. 地球 詩篇 78: 69、104: 5、148: 6、伝道者の書 1: 4(II ペテロ 3: 10を参照)
3. アロンの司祭 出エジプト 29: 9、40: 15(I サムエル 2: 30を参照)
4. 安息日 出エジプト 31: 16-17
5. 祭日 出エジプト 12: 14と17節と24節、レビ記 16: 29と31節と34節および23: 14と21節と41節
6. 割礼 創世記 17: 13(ローマ 2: 28-29を参照)
7. 約束の地 創世記 13: 15、17: 18、48: 4、出エジプト 32: 13(バビロン捕囚を参照)
8. 荒廃した都市 イザヤ 25: 2、32: 14、34: 10

D. 条件付きの契約

1. アブラハム 創世記 17: 7と8節と13節と19節

2. イスラエル 申命記 5: 29 と 12: 28
3. ダビデ IIサムエル 7: 13 と 16 節と 25 節と 29 節、詩篇 89: 2 と 4 節
4. イスラエル 士師記 2: 1(ガラテヤ3章を参照)

E. 無条件の契約

1. ノア 創世記 9: 12 と 16 節
2. 新しい契約 イザヤ 55: 3、エレミヤ 32: 40 と 50: 5(つまりエレミヤ 31: 31-34、エゼキエル 36: 22-30)

F. 神ご自身

1. ご臨在 創世記 21: 33、申命記 32: 40、詩篇 90: 2 と 93: 2、イザヤ 40: 28、ダニエル 12: 7
2. 御名 出エジプト 3: 15、詩篇 135: 13
3. 統治 出エジプト 15: 18、詩篇 45: 6 と 66: 7、エレミヤ 10: 10、ミカ 4: 7
4. みことば 詩篇 119: 89 と 160 節、イザヤ 40: 8 と 59: 21
5. 愛と親切 詩篇 25: 6 と 89: 2 と 103: 17 と 118: 1-4 と 29 節、エレミヤ 33: 1

G. 救世主

1. 御名 詩篇 72: 17 と 19 節
2. 永遠に祝福される 詩篇 45: 2 と 17 節、89: 52
3. 統治される 詩篇 89: 36 と 37 節、イザヤ 9: 7
4. 祭司 詩篇 110: 4
5. すでに存在されていた ミカ 5: 2

H. 新しい時代の生活

1. 永遠の命 ダニエル 12: 2
2. 永遠の軽蔑 ダニエル 12: 2
3. もう涙はない イザヤ 65: 19(黙示録 21: 4)
4. 太陽はない イザヤ 60: 19-20(黙示録 21: 23)

どれほど多くの英単語が NIV 中のこのヘブル語の単語の訳に用いられているかに注目しなさい。

1. 永遠
2. 昔(の)
3. 永遠に続く
4. 永遠の
5. 続いてゆく
6. いつも
7. 一生
8. 続く
9. いつも通りの

10. 恒久の
11. いつでも
12. 古代(の)
13. 終わりのない
14. 未来永劫に
15. 終わりまで
16. 長い間
17. はるか昔

3: 23「そこで主なる神は彼をエデンの園から追放された」 これは言外に負の意味を持つ強い動詞形(BDB1081、KB1511、*Piel* 未完了形)である。申命記 21: 14 ではそれは離婚のことをいっており、また I 列王記 9: 7 ではイスラエル国家に対する審判のことをいっている。

3: 24「ケルビム」 これらは人間を監視する目的で神の園を警護する、翼を持った天使のような生き物(BDB500)である。それらは後に礼拝堂あるいは聖なる宮の形で現れる。園が警護されているという事実は、それが特別な場所であり、保護された環境であり、そして今は人類にとって立ち入り禁止の場所であることを示している。以下の特別なトピックを見よ。

特別なトピック: ケルビム

- A. 天使のような存在のいくつかのタイプの一つ。この特別なタイプの天使は神聖な場所を警護する(出エジプト 25: 18-22 と I 列王記 8: 6-7 を参照)。
- B. 語源は明らかではない:
 1. アッカド語の原典では神と人間の間「仲裁者」あるいは「仲介者」となっている。
 2. ヘブル語の原典ではこれは言葉遊びかもしれないとされている。つまり「2(4)頭立ての一人乗り2輪馬車」と「ケルブ」(エゼキエル1章、10章)。
 3. それが「輝く姿」を意味するとする原典もある。
- C. 肉体の形 これは、聖書中の様々な記述と古代近東の原典中に見られる様々な半人半獣の形のために、確かめるのが難しい。それらと関連があるものとしては:
 1. メソポタミアの翼を持った雄牛
 2. 「グリフィン」と呼ばれる、エジプトの翼を持った鷲とライオンのハーフのような生き物
 3. ハイラム、つまりツロの王の王座の上の翼を持った生き物
 4. エジプトのスフィンクスと、サマリアのアハブ王の象牙の宮殿に見られる同様の形の生き物
- D. 実体についての記述
 1. ケルビムという形はイザヤ6章のセラフィムと関連がある。
 2. 様々な形の例
 - a. 顔の数

- (1) 2つ エゼキエル 41: 18
 - (2) 4つ エゼキエル 1: 6 と 10 節、10: 14 と 16 節と 21 節と 22 節
 - (3) 1つ 黙示録 4: 7
- b. 翼の数
- (1) 2つ I 列王記 6: 24
 - (2) 4つ エゼキエル 1: 6 と 11 節、2: 23、10: 7、8~21 節
 - (3) 6つ(イザヤ 6: 2 のセラフィムのような) 黙示録 4: 8
3. 他の特徴
- a. 人間の手 エゼキエル 1: 8 と 10 節、10: 8 と 21 節
 - b. 足
 - (1) まっすぐで膝なし エゼキエル 1: 7
 - (2) 子牛の足 エゼキエル 1: 7
4. Flavius Josephus は、ケルビムが何に似ているか誰も知らないことを認めている (*Antiquities of the Jews*, VIII: 3: 3 を参照)。
- E. 聖書中に見られる場所と目的
1. 命の木の番人 創世記 3: 24(エゼキエル 28: 14 と 16 節で多分比喩的にサタンを示して用いられている)
 2. 幕屋の番人
 - a. 契約の箱の上 出エジプト 25: 18-20、民数記 7: 89、I サムエル 4: 4
 - b. 幕とカーテンについての記述 出エジプト 26: 1 と 31 節、36: 8 と 35 節
 3. ソロモンの神殿の番人
 - a. 聖所の2つの巨大なケルブの彫刻 I 列王記 6: 23-28 と 8: 6-7、II 歴代誌 3: 10-14 と 5: 7-9
 - b. 内部の神殿の壁 I 列王記 6: 29 と 35 節、II 歴代誌 3: 7
 - c. 取っ手がいくつか付いたパネルの上 I 列王記 7: 27-39
 4. エゼキエルの神殿の番人
 - a. 壁と扉の上の彫刻 エゼキエル 41: 18-20 と 25 節
 5. 神の移動手段との関連
 - a. 多分、風の比喩 II サムエル 22: 11、詩篇 18: 10 と 104: 3-4、イザヤ 19: 1
 - b. 神の王座の番人 詩篇 80: 1、99: 1、イザヤ 37: 16
 - c. 神の移動式の王座のある2(4)頭立ての一人乗り2輪馬車の番人 エゼキエル 1: 4-28 と 10: 3-22、I 歴代誌 28: 18
 6. ヘロデの神殿
 - a. 壁の絵(つまり番人、タルムード「ヨマ」54a を参照)
 7. 黙示録の王座の光景(つまり番人、黙示録4~5章を参照)

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. これは寓話(訳者注: たとえ話)か、神話か、それとも歴史物語か？
2. 蛇は実在し、言葉を話したのか？
3. 蛇は悪いものによって活力を与えられ所有されていたのか？もしそうなら、どのように、そしてなぜか？
4. 神はアダムとエバが何をしようとしていたか知っておられたのか？もしそうなら、なぜそれを許されたのか？
5. 蛇の誘惑と神に対する特定の反抗の発展の様子をあなた自身の言葉で表現しなさい。
6. 神は霊的存在としてどのように肉体をお持ちになることができたのか？
7. (創世記)3章は、私達の住む世界と人類の心に罪が存在することを説明しているか？もしそうなら、なぜそれは旧約聖書の中でより完全に議論されていないのか？
8. 蛇は人類を試みるために神にしもべとして仕えているのか、それともすでに神への反逆者となっているのか？(ヨブ1～2章とゼカリヤ3章を参照)
9. なぜ神は、サタンに利用されただけの動物を裁かれたのか？
10. 15節は来るべき救世主を暗示しているのか、それともただ女と蛇との間の恐れを暗示しているのか？
11. 男と女の平等を強調する、私達の生きる現代社会が普遍の原理としての16節を受け入れていないことは明らかである。なぜあなたはこの節が正しい、あるいはまだ正しくないことを信じるのか？
12. (創世記3章)20節はアダムの側の悔い改めの行為と信仰か、あるいは彼とエバが自分達でそうした可能性があるという意図的な主張か？
13. 22節において神を言い表すのに用いられている複数形の用法を説明しなさい。これは三位一体あるいはその他の原則の予言なのか？なぜか、あるいはなぜそうではないのか？

創世記4: 1～26

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
カインとアベル	カインがアベルを殺害	カインとアベルとセツ	カインとアベル	カインとアベル
4: 1～8	4: 1～8	4: 1～7	4: 1～7	4: 1～8
		4: 8～16	4: 8	
4: 9～15	4: 9～15		4: 9 前半	4: 9～16
			4: 9 後半	
			4: 10～12	
			4: 13～14	
	カインの家族		4: 15～16	
4: 16	4: 16～18		カインの子孫	
4: 17～22		4: 17～22	4: 17～22	4: 17～22
	4: 19～24			
4: 23～24		4: 23～24	4: 23～24	4: 23～24
(23～24)	(23～24) 新しい息子	(23～24)	(23～24) セツとエノク	(23～24) セツと彼の子孫
4: 25～26	4: 25～26	4: 25～26	4: 25～26	4: 25～26

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落

4. (以下同様)

導入

- A. 多くの解説者達が、4: 1-24 はカインの反逆の種の成長の記録であり、一方 4: 24 から 5: 32 はセツの神に忠実な種の成長の記録であると主張している。この見解はこれらの章を見ていくのに役に立つが、6: 5-6、11-12、13 節に見られる、全ての人間の悪の性質(の解釈)については全く役に立たない。
- B. 多くの解説者達が4章は西洋人の詳細な家系図ではなく、単に最初の方の世代だけを示したヘブル人の家系図であると主張している。4章の年代を調べてみると、それらは 2000 年間の時代区分に相当するようである。従ってそれらは排他的な家系図ではなく代表的な例あるいは象徴的数字(マタイの福音書とルカの福音書に記されているイエスの御生涯に相当する年代)であると私は信じる。
- C. 5章は死の章として記されているが、21-24 節のエノクの翻訳の中には人類の救いの大きな希望がある。同じ用語はⅡ列王記 2: 3、5 節、9 節、10 節のエリヤの言葉に対しても用いられている。
- D. 創世記 3: 8 から 11: 9 までには世代から世代へと続く罪の恐ろしい結果が明らかにされている。
- E. カインの子孫についてはセツの子孫のように記されていない(つまり年代あるいは時代が記されていない)。カインの家系は大洪水で全滅した。多分彼の配偶者のせいだろう。全ての2足歩行の、道具を作る、頭蓋骨の大きな生き物は神のお姿には似ていない。

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 4: 1-8

¹さて、人はその妻エバと関係を持ち、そして彼女は身ごもってカインを産んだ。彼女は言った「主の助けによって私は人の子を産んだ」。²そしてエバはカインの兄弟のアベルを産んだ。アベルは家畜の群れの管理者となり、カインは地を耕す者となった。³やがて時が来てカインは地の産物を主に奉げるために持ってきた。⁴一方でアベルも群れの家畜の初子とその脂肪を持ってきた。そして主はアベルと彼の奉げたものをご覧になった。⁵しかし主はカインと彼の奉げたものはご覧にならなかった。それでカインは激しく怒って顔を伏せた。⁶すると主はカインに言われた「あなたはなぜ怒っているのか？なぜ顔を伏せているのか？」。⁷「もしあなたの行いが良ければ顔を上げていればよいではないか。良くなければ罪は戸に近づいており、その欲望はあなたのもとなる。そしてあなたはそれを支配しなければならぬ」。⁸カインはその兄弟のアベルに声を掛けた。そして彼らが野に来たとき、カインはアベルを襲って殺した。

4: 1「人はその妻エバと関係を持った」 文字通り「アダムはエバを知った」。そのヘブル語の用語「知った」は親密な個人的関係について述べている(BDB393、KB390、*Qal*完了形、エレミヤ 1: 5を参照)。これがアダムとエバの最初の性的結び付きだったかどうかは記されていない。聖書には彼らに子が何人いたか、またその子たちはいつ生まれたかについては述べていない。私達はただ、それら子たちのうち名前の分かっている3人について知っているだけである。これは、その実質的内容だけでなく強調されている個人的関係も示している、神を「知る」という新約聖書の単語の解釈において非常に重要である。基本的に人類の神への応答には(1)信じられるべき真実(2)歓迎されるべき人(3)生きるのにふさわしい人生が関係しているのだ。以下の特別なトピックを見よ。

特別なトピック: 知る(主に申命記の中で理論的枠組として用いられている)

ヘブル語の用語「知る」(BDB393)は *Qal* の中でいくつかの意味(セム語領域)を持つ。

1. 善悪を理解する 創世記 3: 22、申命記 1: 39、イザヤ 7: 14-15、ヨナ 4: 11
2. 理解によって知る 申命記 9: 2 節、3 節、6 節、18: 21
3. 経験によって知る 申命記 3: 19、4: 35、8: 2、3 節、5 節、11: 2、20: 20、31: 13、ヨシュア 23: 14
4. 考える 申命記 4:39、11: 2、29: 16
5. 個人的に知る
 - a. 人 創世記 29: 5、出エジプト 1: 8、申命記 22: 2、28: 35 と 36 節、33: 9
 - b. 神 申命記 11:28、13: 2 と 6 節と 13 節、28: 64、29: 26、32: 17
YHWH 申命記 4: 35 と 39 節、7: 9、29: 6、イザヤ 1: 3、56: 10-11
 - c. 性的 創世記 4: 1 と 17 節と 25 節、24: 16、38: 26
6. 習得された技術あるいは知識 イザヤ 29: 11 と 12 節、アモス 5: 16
7. 賢明である 申命記 29: 4、箴言 1: 2 と 4: 1、イザヤ 29: 24
8. 神の知識
 - a. モーセの 申命記 34: 10
 - b. イスラエルの 申命記 31: 21、27 節、29 節

「カイン」 その名「カイン」(*qayin*、BDB884Ⅲ、KB1097、BDB888-89)はヘブル語の単語「得た(訳者注:過去分詞)」(*qaniti*)の音遊びである。カインは YHWH の助けによる特別な賜物であることは間違いないようだ(多分 3: 15 の成就でもある)。

「主の助けによる人の子」ここでは訳語「人の子」が強調されているようだ。解説者の中には、エバにはすでに(訳者注:カインの前に生まれた、つまりカインの姉にあたる)娘がおり、従ってこの子(カイン)は長男であると主張する者もあるが、この見解は推測である。1節の終わりの成句「主の助けによって」(BDB86)は、この言葉が創世記 3: 15 に基づくエバの信仰から発せられたことを意味する。これは御名 YHWH が単独で用いられた初めての例である。その名が次に単独で用いら

れるのは 4: 26 のセツの家系による礼拝においてである。

4: 2「そしてエバはカインの兄弟のアベルを産んだ」 ユダヤ教の指導者達は、2 節に「そしてアダムはエバを知った」という句が見当たらないのでカインとアベルは双子だった、と言っているが、これはほぼ間違いなくありえないようだ。

「アベル」このヘブル語の用語は「息」、「蒸気」、あるいは「虚無」(BDB211 II、伝道者の書 1: 2 を参照)を意味する。この名には3つの意味があると思われる:(1)この名は(a)エバの、墮落した自分の境遇への失望、あるいは(b)エバの生涯の短かさについての予言を反映しているのかもしれない(2)アッカド語の単語「息子」(*ibil*)と関係があるのかもしれない(3)解説者の中にはその語がエバの多くの子供の呪いについての失望を意味するので単語「弱さ」と関係があると主張する者もいる(創世記 3:16 を参照)。

4: 3「カインは地の産物を主に奉げるために持ってきた」カインが主に奉げ物を持ってきた(BDB97、KB112、*Hiphil* 未完了形)最初の人であることに注意しなさい。本来、穀物の生贄は動物の生贄に劣ってはいない。重要なことは奉げる人の信仰であり、生贄そのものではない。多分彼ら(カインとアベル)はエデンの園の入口に通じる道に奉げ物を持ってきたのだ。

4: 4「一方でアベルも群れの家畜の初子とその脂肪を持ってきた」ここでは用語「初子」(BDB114)が重要である。カインは自分の作った農作物の一部を持ってきたが、アベルは自分の飼っている家畜の中で最良のものを持ってきて、それによって(神への)信仰と尊敬の態度を示した。しかしその原典自体は非常にあいまいで短いことを覚えておかなければならない。私達はこれらの古い記述の読みすぎに注意しなければならない。

NASB	「とそれらの脂肪の部分」
NKJV	「とそれらの脂肪」
NRSV	「それらの脂肪の部分」
TEV	「その最良の部分」
NJB	「とそれらの脂肪の一部」
SEPT	「とそれらの最も脂肪の多い部分の一部」
JPSOA	「優良のもの」
NET	「とそれらの最も脂肪の多い部分」

明らかにここでは、また後の時代のユダヤ教では、小腸とそれに付いた脂肪が祭壇上の奉げものであった:(1)それらは感情のありかとみなされた(2)脂肪は繁栄と健康の象徴であった。

SEPT、JPSOA、NET 聖書は、この聖句は祭壇上に奉げられた小腸の脂肪ではなく家畜の群れの中で最良のものについて述べていると理解している。この見解は原典に最も良く合う。

「そして主はアベルと彼の奉げたものをご覧になった」文字通りこれは積極的な意味で「ご覧になった」(BDB1043、KB1609、*Qal* 未完了形、TEV と NJB を参照)という意味である。多くの推測がなされているにもかかわらず、どのようにかは明らかではない。神が(カインとアベルの奉げものの)一方を喜ばれ他方を喜ばれなかったことは明らかである。神はまずアベルを受け入れられ

て、それから彼の奉げものを受け入れられたと古今の解説者達は記している。これは常にその順番である(ヘブル 11: 4を参照)。カインの問題は彼の態度にあった。神は年長者ではなく年少者を愛することによって御自身の王権を示されているのかもしれない。これは創世記全体に見られる。

4: 5「カインは激しく怒った」 このヘブル語の単語(BDB354、KB351、*Qal* 未完了形と副詞「非常に」、BDB547)はここではカインの感情を(如実に)描写していてとても強烈である。彼は神に対して怒るが、その怒りを(神にではなく)弟にぶつけるつもりであることに注意しなさい。原典のこの箇所では礼拝中の怒りとなっている。多分彼は、奉げものを最初に持ってきたのは自分なのに、弟の奉げものが受け入れられ自分の奉げものは受け入れられなかったことに腹を立てたのだろう。

「彼は顔を伏せた」 5、6節の「伏せる」(BDB656、KB709)と7節の「あなたの顔を挙げようとしなさいのか」の間には言葉の遊びがある。用語「挙げた(訳者注: 過去分詞)」は「受け入れた(訳者注: 過去分詞)」(BDB669、KB724、*Qal* 不定詞構造、NKJV、NRSV、TEVを参照)という意味かもしれない。

4: 6「あなたはなぜ怒っているのか」 ここでも神はいくつかの質問をなさっているが、それは情報を得るためではなく、人がその人自身の感情と動機を理解できるように助けるためである(9節と3: 9と11節と13節を参照)。

4: 7「罪は戸に近づいている」 この節では罪は破壊願望を持つ野生動物の姿に受肉している(Iペテロ 5: 8を参照)。これは、悪魔に対して使われた(相当する)アッカド語の単語「近づいている」(BDB918、KB1181、*Qal* 分詞)と関連があるかもしれない。これは私達の生きる世界の罪の性質を示している。

「その欲望はあなたのものとなる」 これと同じ用語「欲望」(BDB1003、KB1802)が創世記 3: 16に用いられている。それは、悪の目的が私達を破滅させる(つまり「支配する」)ことであることを示している。

「そしてあなたはそれを支配しなければならない」 この動詞(BDB605、KB647)は *Qal* 未完了形である。これは、私達は悪の手の中のあやつり人形ではなく、神の助けによって悪に抵抗し(エペソ 6: 13、ヤコブ 4: 7、Iペテロ 5: 9を参照)、悔い改め、回復する能力を持っていることを示しているのだ！私達はアダムとエバの反逆の影響を受けているが、自分自身の選択に責任を持たなければならない。

6: 8「カインはその兄弟のアベルに声を掛けた」 この聖句については多くの議論がある。解説者の中にはカインは6・7節で神が言われたことをアベルに語ったのだと主張する者もあり、またサマリア五書やセプトゥアギンタや古代シリア語訳聖書やウルガタ聖書やRSVによればカインはアベルを殺すために野に誘ったのだ(つまり故意[予定]殺人)と主張する者もある。

「カインはアベルを襲った」 3章は超自然的誘惑を強調しているが、一方4章はアダムの墮落の性質が(後の世代の)人類に及んだことを強調している。ここには誘惑者はおらず、ただアダムとエバの罪の結果増大し彼らの子孫の全てに広がった罪があるだけである(ローマ 8: 9-18と23

節、Iヨハネ 3: 12を参照)。動詞「襲った」(BDB877、KB1086、*Qal* 未完了形)と「殺した」(BDB246、KB255、*Qal* 未完了形)は進行中の暴力行為を示している。

NASB(改訂版)原典: 4: 9-15

⁹そして主はカインに言われた「あなたの兄弟アベルはどこにいるのか」。カインは答えた「知りません。私は自分の兄弟の番人ですか」。¹⁰主は言われた「あなたは何をしたのか。あなたの兄弟の血が大地から私に叫んでいる」。¹¹今やあなたは地から呪われている。地はあなたの手からあなたの兄弟の血を飲もうと口を開けている。¹²あなたが地を耕しても、それはもうあなたの食物となるものを産み出す力を持たない。あなたは放浪者となり地をさまよう者となるだろう」。¹³カインは主に言った「私への罰は大きすぎて負いきれません！¹⁴ご覧ください。あなた様は今日私を地の面から追放されました。私はあなた様の御顔から隠され、放浪者となり地をさまよう者となり、私を見かけた者は誰でも私を殺すでしょう」。¹⁵そこで主はカインに言われた「であるから、カインを殺す者は誰でも7倍の復讐を受けるであろう」。そして主は、カインを見かけた者が誰も彼を殺すことがないように、カインにしるしをお付けになった。

4: 9「私は自分の兄弟の番人ですか」 カインの大きな問題は彼の悔い改めない心である。用語「番人」は「羊飼ひ」(BDB1036、KB1581、*Qal* 能動態分詞)の意味で用いられ、アベルの職業を表しているかもしれない(2節を参照)。

4: 10「あなたの兄弟の血が大地から私に叫んでいる」 この聖句は非常に重要である(「叫んでいる」BDB858、KB1042、*Qal* 能動態分詞)。ヘブル人にとって、生命力は血の中にあった(レビ 17: 11、黙示録 6: 9と10節を参照)。単語「血」はヘブル語では複数形である。ユダヤ教の指導者達はその複数形はアベルと彼の強い生命力について述べていると言っている。その複数形は強さも示しているのだ。

4: 11「今やあなたは地から呪われている」 これは人に対する直接の呪いである。アダムの罪によって地は呪われた。重要なことは、農民カインがその後これを職業にできないだろうということである。彼は農業上の能力を失なって、悪魔の棲む荒野へと追放される。

4: 12「それはもうあなたの食物となるものを産み出す力を持たない」 これは *Hiphil* 命令形 (BDB414、KB418)である。多くの解説者は、これはカインの家系が田舎での生活を嫌って都会で生活するようになった理由であると主張している(16-24節を参照)。

「あなたは放浪者となり地をさまよう者となるだろう」 これらの2つの意味の類似した用語 (BDB631、KB681とBDB626、KB678 ; 14節を参照)はカインの放浪生活を描写している。それらはノッド(BDB627 II)の地の名についての言葉の遊びである。これらの言葉の遊びは(創世記の)冒頭の章の文体を示している。

4: 13「私への罰は大きすぎて負いきれません！」 カインは自分の行いを恥じるのではなくその結果を残念に感じている。

4: 14「今日私を地の面から追放されました」これはカインの罪の運命的結果であり、一方次の聖句「私はあなた様の御顔から隠されるでしょう」はカインの罪の霊的結果(3: 8を参照)である。

「私を見かけた者は誰でも私を殺すでしょう」カインは自分自身の(これから)生活を心配した。ユダヤ教の指導者達は、彼は動物を恐れたのだと言っている。しかしその文脈は、彼自身の親類、つまりアベルのための「go' els」(血の復讐者)が彼を殺すだろう、ということを意味しているようである。これはアダムとエバに多くの名のない子供たちがいたことを意味しているようである。

アダムとエバの他の前史の人類との関係についてのとても面白い議論が Kidner 著 *The Tyndale Commentary on Genesis* と Bernard Ramm 著 *The Christian's View of Science and Scripture* の中で人類学的考察にある。この節は多くの他の生き物のカインの殺害への関与の可能性を意味している。古代近東地域における人類の職業についての議論については R. K. Harrison 著 *Introduction to the Old Testament* の 147~163 ページと Fazale Rana と Hugh Ross 共著の *Who Was Adam?* を見よ。

もしカインが神の霊なしに人間ではないものと結婚していたら、創世記 6:1-4 には人間と天使との混血ではなく、神の特別な創造物としての人間と二足歩行の動物との混血についての記述があるだろう。

4: 15「7倍の復讐を受けるであろう」用語「7倍」は完璧な復讐(BDB988)を意味しているようだ。「カインにしるしをお付けになった」これは(1)裁きのただ中の神の慈み、あるいは(2)時が来て神が裁きを中断されたこととしるし(BDB16、「印」)であった。ユダヤ教の指導者達は、神がカインの頭部の中央に動物の角を付けられたのだと言っている。しかし、それは額の上の印であったというのがより確実なようだ(エゼキエル 9: 4 と 6 節を参照)。

NASB(改訂版)原典: 4: 16

¹⁶そしてカインは主の御前を去り、エデンの東のノッドの地に住みついた。

4: 16「そしてカインは主の御前を去った」これは霊的結果を象徴する実質的結果であるようだ(「去った」、BDB422、KB425、*Qal* 未完了形)。16-24 節は現実には、人類が追放されて神から離れた世界体系を始めたことを示している。この反 YHWH 世界体系はダニエルの見た王国の中に見られる。それは黙示録中のバビロンの大淫婦やヨハネの用語「世界」の使用に代表される。「ノッドの地」「ノッド」は「放浪」あるいは「放浪者の地」を表すヘブル語の用語(BDB627 II)である。これは明らかにカインの名についての言葉遊びである。私達はこの地の所在を知らないが、明らかにエデンの入口から見てアダムとエバの(追放後に)行った場所よりも東である。

NASB(改訂版)原典: 4: 17-22

¹⁷カインはその妻と関係を持った。妻は身ごもってエノクを産んだ。そして彼は街をつくり、息子の名にちなんで街の名をエノクと呼んだ。¹⁸そしてエノクにはイラドが生まれた。イラドはメフヤ

エルの父となり、メフヤエルはメトシャエルの父となり、メトシャエルはラメクの父となった。¹⁹ラメクは2人の妻をめぐらした。一人は名をアダといい、もう一人は名をツイラといった。²⁰アダはヤバルを産んだ。ヤバルは、幕屋に住んで家畜を飼う者の父となった。²¹彼の弟は名をユバルといい、竖琴と笛を奏でる者全ての父となった。²²ツイラも、青銅と鉄の道具全ての鍛造工であるトゥバルーカインを産んだ。トゥバルーカインの妹は名をナアマといった。

4: 17「カインはその妻と関係を持った」 彼は誰と結婚したのか？大半の保守的な学者達は彼が姉妹の一人と結婚したと確信しているが、これは聖書には書かれていない。創世記 5: 4 はアダムとエバには他に息子達と娘達がいたとはっきり述べている。4: 14 でカインが恐れた、園の外に住む人々について不思議に思う人はいると思う(4: 14 の記述を見よ)。

「妻は身ごもってエノクを産んだ」 これらの名の語源は全て非常に疑わしい。エノクという名は「始めた人」つまり「創始者」を意味しているかもしれない(BDB335)。カインの子供達のリストと5章のセツの子供達のリストとの間には明らかに類似性がみられる(例えばエノクとラメク)。この語源の類似性があることの正確な理由をはっきりしないが、それは(1)その2つの家族の間には多くの社会的つながりがあること、あるいは(2)これらの2人のエノクの霊的相違点を示している。

カインの家系の寿命の長さについては述べられていないことにも注意しなさい。これは、セツの家系の寿命の長さが名声と賞賛の象徴であることを意味しているかもしれない(大洪水の前後に長生きした10人のサマリアの王と同様に。寿命の長さは大洪水の後に短縮したが、それでも現代の標準に比べればとても長い)。

「彼は街をつくった」 これは、放浪者となるようにとの神のご命令に対する直接の反抗であるようだ(12、14 節を参照)。これを、誰かが自分を殺すかもしれないというカインの恐れの一例と見て、だから彼は自分と家族を守るためにとりでを築いたのだ(バベルの塔の建てられた目的と同様だ)と考える人もいる。

4: 18「そしてエノクにはイラドが生まれた」 この用語の語源は多分(1)街の飾り(2)街の人、あるいは(3)俊足(BDB747)である。

「メフヤエル」 この用語の語源は多分(1)「神は命を与える方である」(2)「神は命の泉を与える方である」(3)神に打たれた、あるいは(4)神に造られた(BDB562)である。

「メトシャエル」 この用語の語源は多分(1)「神の人」(2)「力強い若者」、あるいは(3)王(BDB607)である。

4: 19「ラメクは2人の妻をめぐらした」 これは一夫多妻制についての初めての記述であり、それはカインの墮落した家系の始まりとなる。ラメクという名の起源ははっきりしない(BDB541)。

「アダ... ツィラ」 これらの2人の女性の名は肉体美を表す用語についての言葉遊びである。ユダヤ教の指導者達は、一人は彼の子を産む妻であり、もう一人は彼の遊び相手であったのだと言っている。アダという名は「飾り」あるいは「朝」(BDB725)を意味し、ツイラという名は「陰」、「隠れ処」、「鈴の音」、あるいは「奏楽者」(BDB853)を意味するようだ。

4: 20「ヤバルは、幕屋に住んで家畜を飼う者の父となった」この用語は「放浪者」(BDB385 II)を意味し、彼が明らかに営んでいる放浪生活を描写しているようだ。

4: 21「ユバル．．． 豎琴と笛を奏でる者全て」彼の名は「音」を意味すると主張する者もいる。これは音楽のある種の賜物のはじめである。エゼキエル 18: 13 では音楽は悪いものと関係がある。神の賜物の全てと同じように、それは誤用されうる。この部族は弦楽器だけでなく管楽器にも精通していた。

4: 22「青銅と鉄の道具全ての鍛造工であるトゥバルーカイン」この男(BDB1063)は戦い用の武器を作った最初の人であった。21-22 節で述べられている3人は自分達の職業にちなんで名づけられたらしい。

「ナアマ」この名は「喜ばしい」あるいは「美しい」(BDB653 I)を意味する。ユダヤ教の指導者達は彼女はノアと結婚したのだと言っているが、これは絶対にありえない。

NASB(改訂版)原典: 4: 23-24

²³ラメクは妻たちに言った「アダとツィラよ、私の声を聞きなさい。ラメクの妻たちよ、私の話を注意して聞きなさい。私は私に傷を負わせた一人の男と私を打った一人の少年を殺した。カインへの復讐が7倍なら、ラメクには77倍だ」。

4: 23「ラメクは妻たちに言った」これは聖書の記述の中で最初に用いられた詩の一つである(旧約聖書中で用いられているものの約40%が詩の形である)。それは文法的に22節と関係がある。ユダヤ教の指導者達は伝統的に、彼の2人の妻は彼がカインを故意に殺し、そして狩りの途中で息子をも殺したので彼のもとを去ったと言っている。これは絶対にでたらめのようなものだ。それは、ラメクが復讐の難しさを自慢しているほどに罪が深まったことを強調している。彼がトゥバルーカインの作った最初の武器を振り上げてこのように繰り返して自慢したと主張する者もある。解説者達の間でここでの時間的要素(過去と未来)について多くの議論がある。彼らの大半はそれら(時間的要素)が起こったことではなく起こるであろうことについて述べていると確信している。

4: 24「77倍」これはラメクの復讐の難しさを示している(4: 15を参照)。解説者達の中には、これはマタイ 18: 21と22節での赦しについてのイエスのお言葉と対照的であると見る者もある。

NASB(改訂版)原典: 4: 25-26

²⁵アダムは再びその妻と関係を持った。妻は息子を産み、セツと名づけた。なぜなら、彼女が「神は私に、アベルのかわりにもう一人の子供をくださいました。カインがアベルを殺したからです」と言ったからである。セツにも一人の息子が生まれた。セツは息子をエノクと呼んだ。その頃は主の名を呼び始めた。

4: 25-26 これは文脈上5章と調和するべきである。ヘブル語の旧約聖書とギリシャ語の新約聖書

の原典には章と節の分割はなかった。

4: 25 これはヘブル語の用語「与えられた」(*shat*, BDB1011、KB1483、*Qal*完了形)とセツ(*shet*, BDB1011 I)の間のもうひとつの言葉遊びである。創世記 1-11 章に見られる名前についてのこの相次ぐ言葉(音)遊びはその文章の特徴を示している。

4: 26「セツは息子をエノクと呼んだ」これは「男」(BDB60)を表すヘブル語の用語のひとつであり、アダムと同意(義)語である(ヨブ 25: 6、詩篇 8: 4、96: 3、144: 3、イザヤ 51: 12 と 56: 2 を参照)。

「その頃人は主の名を呼び始めた」これは、YHWH の神聖な契約名を用いているので公的な定期礼拝を意味しているようだ。解説者達の多くはこの節は出エジプト記 6: 3 と矛盾するとみる者もある。多分、人々はモーセの時代まで、YHWH の御名をその重要性を完全に知らずに用いていたのだ。これはメシアの家系の始まりである(ルカ 3: 38 を参照)。

創世記5章

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
アダムの子孫	アダムの家族	アダムからノア までの世代	アダムの子孫	大洪水前の家父 長たち
5: 1～2	5: 1～5	5: 1～2	5: 1～5	5: 1～2
5: 3～5		5: 3～5		5: 3～5
5: 6～8	5: 6～8	5: 6～8	5: 6～8	5: 6～8
5: 9～11	5: 9～11	5: 9～11	5: 9～11	5: 9～11
5: 12～14	5: 12～14	5: 12～14	5: 12～14	5: 12～14
5: 15～17	5: 15～17	5: 15～17	5: 15～17	5: 15～17
5: 18～20	5: 18～20	5: 18～20	5: 18～20	5: 18～20
5: 21～24	5: 21～24	5: 21～24	5: 21～24	5: 21～24
5: 25～27	5: 25～27	5: 25～27	5: 25～27	5: 25～27
5: 28～31	5: 28～31	5: 28～31	5: 28～31	5: 28～31
5: 32	5: 32	5: 32	5: 32	5: 32

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上に挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 5: 1-2

¹これはアダムの世代の記録である。神が人を造られた日に、神は人を神に似たものとして造られた。²神は男と女を造られ、彼らを祝福され、彼らが造られた日に彼らを人と名付けられた。

5: 1「の世代」 この用語(BDB410)は創世記の中で10回繰り返し登場する(2: 4、5: 1、6: 9、10: 1、11:10と27節、25:12と19節、36: 1、37: 2を参照)。これは書かれた書類(多分泥の碑文あるいは皮の巻物)を意味しているようだ。古代メソポタミアの楔形文字で書かれた碑文では文章全体(つまり奥付)で用語や聖句がいくつかの泥の碑文と関連して用いられている。私はモーセが(1)口述の伝統(2)家父長の書き残した書類(3)五書を書くきっかけとなった直接の啓示を用いたと信じる。

この成句は創世記の中で多数回繰り返されている。それは常に文の終わりに登場する。それは文の終結マーカーとして機能する。

「神が人を造られた日に」 これは創世記 1-2 章に要約されているので、楔形文字で書かれたもうひとつの別の石碑文のことを言っているのかもしれない。

5: 2「彼らを人と名付けられた」 ここではアダムが一般的に用いられており、3節では特別な使い方がされていることに注意しなさい。この一般的な用法は、1: 26-27に見られるように、もうひとつの平等性の主張である。

「その日に」 ここでは、24時間という期間ではなく、時代あるいは時期として「日」が用いられている。これと同じ用法は創世記 2: 4と詩篇 90: 4に見られる。1: 5の特別なトピックを見よ。

NASB(改訂版)原典: 5: 3-5

³アダムが130年生きたとき、彼は自身の姿に似た一人の息子の父となり、息子をセツと名付けた。⁴そしてアダムがセツの父となってから800年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。⁵アダムは930年生き、そして死んだ。

5: 3「アダム... 自身の姿に似た一人の息子の父となった」 この聖句は2通りの解釈が可能である:(1)他の地上の動物と同様にアダムは子孫を残した(1: 11を参照)あるいは(2)これは、神のお姿が墮落後も人類に表れていることを示している。

機能する。

「アダムは930年生きた」 大洪水前(つまりノアの大洪水以前の時代)と直後の人間の寿命の長さについては多くの議論がある。解説者達の中には(1)それは比喩的だ(2)彼らは各自で寿命を計算した(3)罪は現代のように地上に広がっていなかった(4)大きな数は、サマリアの10人の古代の王のリストに見られるように、過去の指導者達に賞賛を示すために用いられた、と主張してい

る。そのリストでは、聖書の中の家系に見られるのと同様に、大洪水前の王は大洪水後の王よりかなり長生きしている。

NASB(改訂版)原典: 5: 6-8

⁶セツは 150 年生きたときにエノクの父となった。⁷そしてセツがエノクの父となってから 807 年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。⁸セツは 912 年生き、そして死んだ。

これについては以前 4: 26 で述べた。

NASB(改訂版)原典: 5: 9-11

⁹エノクは 90 年生きたときにケナンの父となった。¹⁰そしてエノクがケナンの父となってから 815 年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。⁸エノクは 905 年生き、そして死んだ。

5: 10「ケナン」これには以下に示す意味があるのかもしれない: (1)「所有者」(2)「子供」(3)「造られた者」(4)「若者」(5)「槍兵(槍持ち)」(BDB884)。この用語のように単純にその意味が分からない語には(場合により)多くの意味が考えられることは明らかである。

NASB(改訂版)原典: 5: 12-14

¹²ケナンは 70 年生きたときにマハラレルの父となった。¹³そしてケナンがマハラレルの父となってから 840 年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。¹⁴ケナンは 910 年生き、そして死んだ。

これらが並列した、あるいは標準化された文体であることは明らかである。

NASB(改訂版)原典: 5: 15-17

¹⁵マハラレルは 65 年生きたときにヤレドの父となった。¹⁶そしてマハラレルがヤレドの父となってから 830 年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。¹⁷マハラレルは 895 年生き、そして死んだ。

5: 15「マハラレル」これは「神の賞賛」(BDB239)を意味する。

「ヤレド」これは「家系」(BDB434)を意味する。

NASB(改訂版)原典: 5: 18-20

¹⁸ヤレドは 162 年生きたときにエノクの父となった。¹⁹そしてヤレドがエノクの父となってから 800 年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。²⁰ヤレドは 895 年生き、そして死んだ。

5: 18「エノク」これには以下に示す意味があるのかもしれない：(1)「創始者」(2)「献身者」(3)「始める者」(BDB335)。カインの家系(つまり4章)とセツの家系(つまり5章)間の名前の類似性については4:17 後半の解説を見よ。

NASB(改訂版)原典: 5: 21-24

²¹エノクは65年生きたときにメセラの父となった。²²そしてエノクはメセラの父となった後に300年間神とともに歩み、彼には他に息子達と娘達が生まれた。²³エノクは365年生きた。²⁴エノクは神とともに歩んだ。そして彼はいなくなった。神が彼を取られたからである。

5: 21「メセラ」これは(1)「槍兵」あるいは(2)「兵士」(BDB607)を意味する。彼は聖書中の他の人より長生きしたといわれているが、この事実には理由がなく、また強調もなされていない。ユダヤ教の指導者達はメセラが死んだ日に大洪水が起こったと言っている。

5: 22「エノクは神とともに歩んだ」このヘブル語の用語(BDB229、KB246)はおおよそ「ともに生きる」という点で親密な関係を表す *Hithpael* 語幹である。これら全ての古代ヘブル人の名前について、私達にはそれらの正確な意味(BDB335)は容易には分からない。ヘブル 11:5 はエノクの信仰による歩みについて述べている。この聖句で用いられている唯一の他の名前は6: 9 のノアである。

「神が彼を取られたからである」これらと同じ言葉(BDB542、KB534、*Qal* 完了形)がⅡ列王記の2: 3、5節、9節、10節のエリヤについての記述に用いられている。これは肉体の死を体験することなく神のおられる所に移されたことを意味している。エノクの神との関係は親密な個人的関係となった。この章には「そして彼は死んだ」という成句が数多くみられるが、これは(1)神の愛の、あるいは(2)神を信頼する全ての人への希望の新鮮な例である。

NASB(改訂版)原典: 5: 25-27

²⁵メセラは187年生きたときにラメクの父となった。²⁶そしてメセラがラメクの父となってから782年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。²⁷メセラは969年生き、そして死んだ。

5: 26「ラメク」この名は多分(1)「強い」(2)「若者」(3)「戦士」(4)「征服者」(BDB541)という意味であろう。KBは「とても力強い男」を意味するアラビア語幹について述べている。この名はカインの家系にも見られる(4: 18 以降を参照)。これは(1)その名が一般的であること、あるいは(2)2つの家系の間には何らかの関係があることを意味している。

NASB(改訂版)原典: 5: 28-31

²⁸ラメクは182年生きたときに一人の息子の父となった。²⁹そして息子をノアと呼んで、言った「この子は私達の仕事、神が呪われた地で私達が行う苦役の中に休息を与えてくれるだろう」。

³⁰そしてラメクがノアの父となってから 595 年経って、彼には他に息子達と娘達が生まれた。³¹ラメクは 777 年生き、そして死んだ。

5: 28 2人のラメクは何と対照的なのだろう。一人は暴力による復讐を自慢し(カインの家系)、もう一人は神の慈みに希望を抱いている(セツの家系)！

5: 29「ノア... 休息」これは用語「休息」(BDB629)の一般的な、言語学的ではない語源である。これは、ノアを通して創世記 3: 17 の呪いと正反対の出来事が起こるだろうと期待する、ラメクの信仰を表現しているようだ。これはラメクの信仰に基づく発言である。

NASB(改訂版)原典: 5: 32

³²ノアは 500 歳のときにシェム、ハム、そしてヤベテの父となった。

5: 32「シェム」この用語は「名声」あるいは「名前」(BDB1028)という意味であろう。

「ハム」この用語は「熱い」あるいは「暗い」(BDB325)という意味であろう。

「ヤベテ」この用語は「美」あるいは「繁栄」(BDB834)という意味であろう。

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. 創世記4章と5章の神学的関係は何か？
2. カインの家系はなぜ続き、そして聖書から欠落したのか？
3. カインの家系にある名とセツの家系にある名とはなぜとてもよく似ているのか？
4. エノクに何が起こったのか？

創世記6:1－22

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
人類の墮落	人の邪悪さと裁き	ネフィリムの誕生	人間の邪悪さ	神の息子たちと女たち
6: 1～4	6: 1～4	6: 1～4	6: 1～4	6: 1～4
		大洪水		人類の墮落
		(6: 5－8: 22)		
6: 5～8	6: 5～8	6: 5～8	6: 5～8	6: 5～8
	ノアが神に喜ばれる		ノア	
6: 9～10	6: 9～10	6: 9～10	6: 9～12	6: 9 前半
				6: 9 後半～12
6: 11～12	6: 11～13	6: 11～22		大洪水への備え
				(6: 13－7: 16)
6: 13～22	箱船が建造される		6: 13～22	6: 13～16
	6: 14～21			
				6: 17～22
	6: 22			

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 6: 1-4

¹さて、人々が地の面に殖えはじめ、そして彼らに娘たちが生まれたとき、²神の息子たちは人々の娘たちを見て美しいと思い、好きな娘を選んで妻とした。³すると主は言われた「私の霊は永遠に人のうちにとどまるべきではない。なぜなら彼も肉だからだ。やはり人の一生は 120 年となるべきだ」。⁴ネフィリムはその頃もその後も地上にいた。つまり、神の息子たちが人々の娘たちのところに入り、彼らの間に産まれた子供たちがネフィリムである。彼らは大昔の有名な強者たちであった。

6: 1「人々」 ここでは相当する用語が一般的に用いられている(5: 2を参照)。2節でそれが一般的に用いられているのは、多分天使の権限が強められることを意味しているのであろう。

「そして彼らに娘たちが生まれた」 これは、生まれた娘たちが初子だった(5: 4を参照)という意味ではなく、人種の多様化(BDB408、KB411、*Qal* 受動態完了形)を一般的に述べているのである。

6: 2「神の息子たち」 以下の特別なトピックを見よ。

特別なトピック:創世記6章の「神の息子たち」

A. この成句「神の息子たち」の正体を明らかにするうえで大論争がある。これには3つの大きな解釈がある。

1. この成句は神によるセツの家系について述べている(創世記5章を参照。4: 14の解説を見よ)。
2. この成句は天使的な存在の集団について述べている。
3. この成句は王あるいは暴君つまりカインの家系について述べている(創世記4章を参照)。

B. この成句がセツの家系について述べていることの証拠

1. 創世記4・5章の文脈自体が、反逆的なカインの家系と(神に)選ばれたセツの家系の展開を示している。従って、それら文脈はこの成句が神によるセツの家系について述べている証拠となっていると考えられる。
2. ユダヤ教の指導者達の間でこの成句の解釈についての見解が分かれている。彼らの中には、それがセツについて述べていると主張する者もある(しかし大半の者は、それが天使について述べていると主張している)。
3. この複数形の成句「神の息子たち」は、大抵は天使的な存在について用いられるが、まれに人間について述べることもある。
 - a. 申命記 14: 1 あなたの神 YHWH の息子たち
 - b. 申命記 32: 5 神の息子たち
 - c. 出エジプト 22: 8-9、21: 6 (多分レビ人の士師)

- d. 詩篇 73: 15 「あなたの子供たち」
 - e. ホセア 1: 10 「生ける神の息子たち」
- C. この成句が天使的な存在について述べていることの証拠
1. これはこの成句の最も一般的で伝統的な解釈である。創世記のこれより大きな文脈が、神の人類に対するご意志をくじこう(妨げよう)と試みる超自然的悪(ユダヤ教の指導者達はこれを嫉妬と言っている)のもうひとつの例としてこの見解を支持しているようだ。
 2. この複数形の成句(「神の息子たち」)は旧約聖書中できわめて頻繁に、天使について用いられる。
 - a. ヨブ 1: 6
 - b. ヨブ 2: 1
 - c. ヨブ 38: 7
 - d. 詩篇 29: 1
 - e. 詩篇 89: 6 と 7 節
 - f. ダニエル 89: 6
 3. 新約聖書の時代に信者達の間でとても一般的に読まれていた聖書外典の I エノク(I エノクの 6: 1-8: 4、12: 4-6、19: 1-3、21: 1-10 を参照)と大歓喜(ヨブ 5: 1 を参照)、そして死海文書の *The Genesis Apocryphon* はこれらを反逆の天使と訳している。
 4. 6章の直後の文脈は、「大昔の有名な強者たち」は被造物の秩序をこのように不適切に混乱させたことに由来すると暗示しているようだ。
 5. セプトゥアギンタはこの成句「神の息子たち」を「神の天使たち」と訳している。
 6. I エノクはまた、ノアの洪水は、YHWH と創造のご計画に敵対する、この天使と人間の混血の集団を滅ぼすために来たのだと主張している(I エノク 7: 1 以降、15: 1 以降、86: 1 以降を参照)。
 7. ウルガタ聖書では「神の息子たち」はパンテオンのメンバー(つまり下等な霊的存在)について述べている。
- D. この成句が王あるいは暴君つまりカインの家系について述べていることの証拠
1. この見解を支持するいくつかの古代訳聖書がある。
 - a. オンケロスのタルガム(紀元2世紀)は「神の息子たち」を「高貴な人々の息子たち」と訳している。
 - b. 旧約聖書のギリシャ語訳のシマクスは「神の息子たち」を「王達の息子たち」と訳している。
 - c. NIV と NET に見られる用語「*elohim*」はイスラエルの指導者達(出エジプト 21: 6、22: 8、詩篇 82: 1 と 6 節を参照)について用いられている。
 - d. *Nephilim* は創世記 6: 4 の *Gibborim* と関連がある。*Gibborim* は「勇気、力、富、権力を持つ力強い男」を意味する *Gibbor* に由来する。

e. この解釈とその証拠は *Hard Sayings of the Bible* 106–108 ページから引用した。

E. 2つの用法の支持者達による歴史的証拠

1. この成句はセツの家系について述べている。

- a. アレキサンダーのシリル
- b. テオドレ
- c. アウグスティヌス
- d. ジェローム
- e. カルヴァン
- f. カイル
- g. グリーソン・アーチャー
- h. ワッツ

2. この成句は天使的な存在について述べている。

- a. セプトゥアギンタの著者
- b. フィロ
- c. ジョセフス (*Antiquities* 1 :3 :1)
- d. 殉教者ユスティヌス
- e. イレネウス
- f. アレキサンドリアのクレメンス
- g. テルトウリアン
- h. オリゲン
- i. ルター
- j. エヴァルト
- k. デリッシュ
- l. ヘングステンベルク
- m. ウェンハム
- n. NET 聖書

F. 創世記 6: 4 の「ネフィリム」は創世記 6: 1–2 の「神の息子たち」と「人々の娘たち」とどのような関係があるのか？これらの理論に注目せよ。

- 1. 彼らは天使達と人間の女達の交わりの結果生まれた巨人達 (民数記 13: 33) である。
- 2. 彼らは全く関係がない。彼らはただ、創世記 6: 1–2 の出来事の起こった時代とその後に地上にいたといわれているだけである。
- 3. R. K. Harrison 著 *Introduction to the Old Testament* 557 ページには以下のような謎の一節がある: 「文脈から想定され、またそうしたことを探求しうるだけの素養を身に付けたそれら学者達に受け入れられやすい、ヒトとアダム以前の人種との相関についての全く無意味な人類学的洞察を無視するため」。

これは、彼がこれら2つのグループをそれぞれ異なる人類を代表するグループと見ていることを私に暗示している。これはアダムとエバの後の特別な被造物だけでなく、直立猿人が進化論的に発達したものを意味しているのだろう。

G. ここで、この論争の的になっている聖句についての私自身の見解を明らかにしておくのが公平だろう。まず私達は皆、創世記中のこの聖句が短かくあいまいであることを覚えておかなければならないだろう。モーセの言葉を初めて聞いた人々はさらに歴史的な洞察を深めたに違いない。というのは、モーセが彼自身完全には理解していなかった家父長の時代以来の口述と筆記の伝統を用いたからである。この話題は神学的主題としては重要ではない。私達はしばしば、聖句が単純に示してはいるがあいまいなことに興味を持つ。このことと聖書の中にある類似の情報を抜きにして洗練された神学をつくりあげることとはとても不幸なことだといってよいだろう。私達がこの情報を必要としたならば、神はより明快で完全な形でそれを与えてくださっただろう。以下に示す理由で私はそれが天使達と人類であったと個人的に信じている：

1. 旧約聖書では成句「神の息子たち」は首尾一貫して、排他的にではなく天使達について用いられている。
2. セプトゥアギンタ(アレキサンドリアで発見されたもの)はこの成句「神の息子たち」を「神の天使たち」と訳している。
3. イラスト入りの黙示的書の I エノク(多分紀元前 200 年頃書かれた)にはそれが天使達について述べていると非常に明確に記されている(6-7 章を参照)。
4. 罪を犯して正当な居場所を失った天使達についての記述における II ペテロ2章とユダの手紙の神学的関連性

これが部分的にマタイ 22: 30 と矛盾しているらしいことは私にも分かるが、これらの特殊な天使達は天にも地にもおらず、特別な監獄(*Tartarus*)にいる。

5. 創世記 1~11 章の出来事の多くが他の文化にも見られる(つまり創造についての類似の記述、大洪水についての類似の記述、女達を娶った天使達についての類似の記述)理由のひとつは、この時代に全ての人間が一緒にいて YHWH についてのある程度の知識を持っていたが、バベルの塔の人類離散の出来事の後にこの知識が徐々に失われて様々な神への崇拝に適用されるようになったからだと思ふ。

この良い例はギリシャ神話のタイタンと呼ばれる半人半超人の巨人達が *Tartarus* に投獄された話である。この監獄の名自体は聖書中にただ一度、正当な居場所を失った天使達の拘留場所として用いられている(II ペテロ2章を参照)。ユダヤ教の指導者達の神学では、ハデスは義の区域(天国)と悪の区域(*Tartarus*)とに分割されている。

「人々の娘たちは美しかった」この用語「美しい」は文字通り「素敵な」あるいは「魅力的な」(BDB373)である。これは1章(特に 1:31)からの重要な神学的概念である。神がご覧になって良し

とされたものをここでは神がご覧になって悪とされている(5~6節を参照)。

「彼らは好きな娘を選んで妻とした」この最初の句は、彼らが天使であるという見解に不利な影響を及ぼす結婚を意味する(BDB542、KB534、*Qal* 未完了形)。しかし次の句は彼らが結婚歴のある女達あるいは未婚の女達の中で好きな女を選んで妻としたことを意味している(BDB103、KB119、*Qal* 完了形)。これは(1)天使的な存在、あるいは(2)一夫多妻制を実行したカインの家系(つまり暴君)の強力な指導者達を意味しているようだ。

6: 3「私の霊は永遠に人のうちにとどまるべきではない」用語「とどまる」は「残る」(BDB192、KB220、*Qal* 未完了形、NRSV の「住む」を参照)と訳せるかもしれない。これは(1)神のご忍耐(神は箱船が完成するまで大洪水を延期された。I ペテロ 3:20 を参照)、あるいは(2)人類の寿命が短くなったことを述べている。

6: 3 は 6: 1-2 および 6: 4 とどのような関係があるのか? この文脈に関しては原著者の意図に従うことはとても難しい。多分人間は天使達と混血してもまだ死なないだろう。エバが「見て」そして取ったように、ここでは「神の息子たち」が「見て」そして取った(娶った)。これは同種の反逆(多分永遠の命あるいは独立)を意味している。

「なぜなら彼も肉だからだ」これは、文中で語られているその他の人々は、死ぬ運命にある人間と対比されている天使達であるという解釈に重みをつけているようだ。現代英語訳聖書は「彼らは死ぬ運命にある」と訳している。

「やはり人の一生は 120 年となるべきだ」これは、大洪水が来るまでの時期であるとノアが説いた恵みの時期を意味しているようだ。それはまた、来るべき大洪水の後に人間の寿命が短くなることを述べていたのかもしれない。

「ネフィリム」これは「墮落した人々」(ヘブル語の *naphal* に由来、BDB658、KB709)を意味する。私にはそれらは巨人と類似しているように思える(民数記 13: 33、申命記 2: 10-11 と 9: 2、セプトウアギンタ、ウルガタ聖書、ベシッタを参照)。しかし、マルティン・ルターや H. C. ロイポルドら他の解釈者達は、この用語はカインの家系の大きな後宮を持つ強力な王達を意味する「暴君」と訳されるべきだと主張している。

J. Wash Watts 著 *Old Testament Teaching* の 28-30 ページにはこのように記されている:「ネフィリムとは、近親婚姻したカインの家系とセツの家系の人々から分離したノアとその家族のことをいう。この解釈ではネフィリムは『ただお一人の神』(『神』、5: 22 と 24 節、6: 9 を参照)の息子達である」。以下の特別なトピックを見よ。

特別なトピック：背の高い力強い戦士達あるいは人々のグループに対して用いられる用語

これらの背の高い力強い戦士達あるいは人々のグループはいくつかの名で呼ばれている:

1. ネフィリム(BDB658) 創世記 6: 4、民数記 13: 33

2. レファイム(BDB952 あるいは BDB952 II) 創世記 14: 5、申命記 2: 11 と 20 節、3: 11 と 13 節、ヨシュア 12: 4、13: 12、II サムエル 21: 16 と 18 節と 20 節と 22 節、I 歴代誌 20: 4 と 6 節と 8 節
3. ザムズミン(BDB273)、ズジム(BDB265) 創世記 14: 5、申命記 2: 20
4. エミム(BDB34) 創世記 14: 5、申命記 2: 10-11
5. アナキム(アナクの息子達、BDB778 I) 民数記 13: 33、申命記 1: 28、2: 10-11 と 21 節、9: 2、ヨシュア 11: 21-22、14: 12 と 15 節

「その頃地上にいた」天使達と人間の女達の同棲を信じる人々は、巨人達がこの関係から生まれたことを示すために 4 節後半をその証拠として用いる。しかし、巨人達がこの時代にすでに地上に存在していたと主張するために 4 節前半を用いる人々もいる。

黙示的聖書外典である I エノクは、これらの巨人達は天使達と人間の女達の交わりの結果生まれ、そして彼らが被造物の秩序をこのように不適切に混乱させたので神が大洪水を起こされたのだと主張している。I エノクはまた、大洪水で肉体を失ったこれらの巨人達は、自身の自己中心的な理由によって人間の体に宿ろうとする悪魔達となったと主張している。

NASB、NKJV 「強者たち」

NRSV、NJB 「英雄たち」

TEV 「偉大な英雄たち」

これはヘブル語の用語 *gibbor*(BDB150) で、特に力を与えられた人物、動物、あるいは物を意味する。この語は(1)創世記 10: 8-9 に登場するニムロド(2)詩篇 52: 1 とエゼキエル 32: 27 に登場する暴君達(3)詩篇 104: 20(そして 8: 11 の感謝の歌と死海文書に由来する 20: 34)に登場する天使達について用いられている。

NASB、NKJV、NJB、NIV 「有名な人々」

NRSV 「有名な戦士たち」

TEV 「有名人たち」

最初に挙げた成句は大半の現代語訳聖書とセプトウアギンタの訳語である。しかし、文字通りそれは「有名な人々」(BDB1027)である。これから3つの理論が生まれた:

- (1)それは YHWH(つまり神の御名、J. Wash Watts を参照)を礼拝する、神に忠実なセツの家系について述べている。
- (2)それは天使と人間の強力な子孫であるネフィリム(つまり巨人、TEV を参照)について述べている。
- (3)それは神を無視する王達つまり暴君達のカインの家系について述べている(NRSV を参照)。彼らは多くの女達を妻に娶った(王家の一夫多妻制、NJB を参照)。

これはとても短くあいまいな段落である。ここで述べられているのは、神の突然の裁きの場を設定させることになる、被造物の継続的で進行的な邪悪さである。しかし、邪悪さはノアとその家族にも続く。

NASB(改訂版)原典: 6: 5-8

⁵主は人の悪が地上に満ち、人が心の中でいつも悪いことばかり考えているのをご覧になった。

⁶主は地上に人を造られたことを残念に思われ、お心を痛められた。⁷主は言われた「私は自分の造った人を地の面から取り去ろう。人も動物も這うものも空の鳥も。なぜなら私はそれらを造ったことを残念に思うからだ」。⁸しかしノアは主の御目に好ましいものとされた。

6: 5「主は人の悪が地上に満ちているのをご覧になった」この節の聖句は、創世記 1: 31にある被造物の良さとは明らかに逆説的な、人の心の中の悪の増大(BDB906、KB1157、*Qal* 未完了形、創世記 6: 11-12、13 節後半、8: 21、詩篇 14: 3、51: 5 を参照)を強調している。

「人が心の中でいつも悪いことばかり考えているのを」この、アダムとエバの墮落の結果は普遍的になった。6人以外の全ての人は絶望的なほどに悪の影響を受けた。彼らは夜も昼も悪いことばかり考えて暮らしたのだ！

「悪い意思」(*ysr*, BDB428)の概念はユダヤ教の指導者にとって人類の道徳的性質についての見解となった。彼らは人類が2つの意思(善と悪)の一つを実行したのだとみている。この有名な格言「どの人の心の中にも黒い犬と白い犬がいる。最も多く餌をもらった犬が最も大きく育つ」は人類を描写している。人類についてのこの見解は 4: 7 により支持される。ユダヤ人の神学者達は世界の悪の根源として創世記3章ではなく創世記6章を強調している。子供は生まれたときは悪くない。なぜなら道徳的責任は知識(*bar mitzvah*, *bat mitzvah*)によつてのみ生じるものだからである。悪は選択からできているのだ！

6: 6「主は地上に人を造られたことを残念に思われ、お心を痛められた」これらは神人同形説(擬人観[論]的)成句である。前半は「主はため息を吐かれた」(BDB636、KB688、*Niphal* 未完了形)と解釈される。後半は「主は心から嘆かれた」(BDB780、KB864、*Hithpael* 未完了形)と解釈される。これらはヘブル語の強意の成句である(34: 7、45: 5、I サムエル 2: 33、20: 34、II サムエル 19: 2、詩篇 78: 40、イザヤ 54: 6 を参照)。聖書には神が残念に思われた、あるいは神が後悔されたという記述がしばしばみられる(創世記 6: 6-7、出エジプト 32: 14、I サムエル 15: 11、II サムエルの 24: 16、エレミヤ 18: 7 と 8 節、26: 13 と 19 節、ヨナ 3: 10 を参照)。しかし、他の聖書箇所は神は決して後悔されたりお心をええられたりなさらないと主張している(民数記 23: 19、I サムエル 15 章 29 節、エレミヤ 4: 28、詩篇 132: 11 を参照)。これは私達が人間用の用語を用いて神を描写するときに常に生じる緊張である。神は人ではいらつしやらないが、私達は人間用の用語だけを用いて神と神のお気持ちを描写しなければならない。神は気まぐれな方ではいらつしやらないと主張されなければならない。神は人間の救いの目的のために確固たる信念を持たれ長く苦しめられているが、人類の罪の悔い改めにおける応答はしばしば神の特別な状況におけるご行動を決めている(詩篇 106: 45 とヨナ書を参照)。

神学的に、変わるのは神であり人類ではない。神は罪深い人類とともに働くことを選ばれた。神の目的は同じ、つまり神のご性質を反映した義なる人々である。これは新しい心と新しい契約によ

り達成される(エレミヤ 31: 31-34、エゼキエル 36: 26-38 を参照)。神は裁きを通した恵みを選ばれるのだ!

6: 7「私は自分の造った人を取り去ろう」 この用語「取り去る」は「洗い流す」(BDB562、KB567、*Qal* 未完了形、つまり大洪水)を意味している。動物達は人類の罪のため苦しむ(ローマ 8: 19-22 を参照)。魚はこの裁きには含まれない。この裁きはメソポタミアの文献にあるような神の気まぐれなご行動ではなく、人類の道徳的悪に基づく。この悪は義なるノアの家族のうちにもある(8章 21-22 節を参照)が神は恵みによって、相次ぐ人間の悪をキリストがこの世に来られるまで覆い隠すことを選ばれた(ガラテヤ3章を参照)。

6: 8「主の御目に」 これは神を描写した神人同形説(擬人観[論的]成句)のもうひとつの例である。神は眼を持っておられない。神は霊でいらっしゃる。これは神が全てをご存じでいらっしゃる(つまり全知)の比喩である。

NASB(改訂版)原典: 6: 9-10

⁹これらはノアの世代の記録である。ノアは義なる人で、生存中に非難されることがなかった。ノアは神とともに歩んだ。¹⁰ノアは3人の息子達、シテム、ハム、そしてヤペテ、の父となった。

6: 9「ノアは義なる人で、生存中に非難されることがなかった」 これらの2つの叙述語はとても重要である。最初の語は、ノアが神の御意志についての自身の理解の水準に従ったことを意味している。「特別なトピック:義」を見よ。次の語(BDB1070)は、彼の主への思いが完全であったことを意味している(例えば 17: 1、詩篇 18: 23)。2番目の用語は後にけがれのないいけにえに対して用いられる。これらの2つの用語は、9: 21 が示しているように、ノアの罪なき性質を暗示してはいない。

特別なトピック:義

「義」はとても重要なトピックであるので、聖書研究者達はその概念をより詳しく研究してゆかなければならない。

旧約聖書では神のご性質は「公正な」つまり「正しい」(BDB843)と表現されている。メソポタミアの(公用)言語での用語はそれ自体は、壁や塀の水平度の測定用の建築用具として用いられた葦に由来する。神はご自身のご性質の比喩的表現のための語としてこの用語を選ばれたのだ。神は万物を正確に評価するためのものさし(定規)でいらっしゃる。この概念は神の義とともに、神が裁く権限をお持ちであることをはっきりと言い表している。

人は神のお姿に似せて造られた(創世記 1: 26-27、5: 1 と 3 節、9: 6 を参照)。人類は神との交わりのために造られた。全ての被造物は神と人類の交わりのある場あるいは背景である。神は、ご自分の最高の被造物である人類に、ご自分を知り、愛し、仕え、そしてご自分に似たものとなってほしいと願っておられるのだ! 人類の忠実さは試され(創世記3章を参照)、そして最初の夫婦はそ

の試みに失敗した。このことによって神と人類の関係は崩壊した(創世記3章とローマ 5: 12-21 を参照)。

神はその関係を修復し回復させると約束された(創世記 3: 15 を参照)。神はご自分の意志と息子を通してこのことをなさる。人類はこの神との仲を回復させることはできなかった(ローマ 1: 18-3: 20 を参照)。

大洪水の後、神の回復への最初のステップは、ご自分による召しと人類の信仰に基づく従順な悔い改めの応答に基づく契約をなさることであった。大洪水のために人類は適切な行動がとれなくなった(ローマ 3: 21-31 と創世記3章を参照)。契約に違反した人類との関係の回復においては神ご自身が主導権を握らなければならなかった。神はこれを、以下に示すことによって実行された:

- A. 罪深い人類の義を、キリストの御業を通して宣言すること(弁論上の義)
- B. キリストの御業を通して人類に義を自由に与えること(与えられた義)
- C. 義を生み出す聖霊を人類のうちに住ませること(倫理上の義)
- D. キリストが信者達に神のお姿(創世記 1: 26-27 を参照)を回復なさることによってエデンの園の交わりを回復すること(関係上の義)

しかし神は契約に基づく応答を必要とされる。神は布告され(つまり自由に与えられ)備えられたが、人類は以下に示す応答をし続けなければならない:

- A. 悔い改め
- B. 信仰
- C. 生活様式における従順
- D. 忍耐

従って、義は神とご自分の最高の被造物との契約に基づく相互作用である。それは神のご性質、キリストの御業、そして人が各自個人的かつ継続的に適切な応答ができるようにする聖霊のお力に基づく。その概念は「信仰による義認」と呼ばれる。この概念は福音書によって明らかにされているが、これらの用語によってではない。これは、ギリシャ語の用語「義」を様々な形で 100 回以上も用いたパウロによって最初に定義された。

訓練された教師であるパウロは用語 *dikaïosunē* を、ギリシャ語の文献由来の用語ではなくセプトアギンタの中で用いられている用語 *SDQ* のヘブル語的意味で用いている。ギリシャ語の文献ではこの用語は神と社会の期待にかなった者と関係がある。ヘブル語的意味ではそれは常に契約用語を構成する。YHWH は公正で、倫理的で、道徳的な神である。神はご自分の人々にご自分の性質を反映してほしいと思っておられる。救われた人類は新しく生まれたものとなる。この新しさによって、神に従う新しい生活に入る(ローマカトリック教会の義認の中心)。イスラエルは神政国家なので、俗(社会の規範)と聖(神の御意志)の間に明確な境界線はない。この違いは、英語で「正義」(社会に關係)と「義」(宗教に關係)と訳されているヘブル語とギリシャ語の用語で表現されている。

イエスの福音(良い知らせ)は、墮落した人類と神との交わりが回復されるということである。パウロの逆説では神がキリストを通して罪を宣告される。これは父なる神の愛と慈みと恵み、御子のご生涯と死と復活、聖霊の福音へのご説得とお導きによって達成されてきた。義認は神の自由なご行動であるが、それは神への忠実さにつながるものでなければならない(福音の自由性を強調する宗教改革運動家達の見解と、愛と神への忠実さに基づく生活への変化を強調するローマカトリック教会の見解の両方を反映するアウグスティヌスの見解)。宗教改革運動家達にとって、用語「神の義」は目的所有格(つまり、罪深い人類が神に受け入れられるようにする行為[立場上の聖別])であり、一方ローマカトリック教会にとってそれは主格所有格、つまりより神に似たものとなる過程(経験的かつ進歩的聖別)である。現実にはそれは確かにそれら両方だ。

私の見解では、聖書全般、特に創世記4章から黙示録 20 章までは神による、エデンの園でかつて行なわれていたご自分と人類との交わりの回復の記録である。聖書は地上という設定での神と人類との交わりについて書き始められ、同じ設定で書き終わられている(黙示録 21-22 章を参照)。神のお姿とご目的は回復されることになっているのだ!

上述の議論を立証するために、ギリシャ語の語群で描写された、特に選んだ下記の新約聖書の聖句に注目しなさい。

A. 神は義なるお方である(しばしば、裁く方としての神に関係する)

1. ローマ 3: 26
2. IIテサロニケ 1: 5-6
3. IIテモテ 4: 8
4. 黙示録 16: 5

B. イエスは義なるお方である

1. 使徒行伝 3: 14、7: 52、22: 14(メシアの肩書)
2. マタイ 27: 19
3. Iヨハネ 2: 1 と 29 節、3: 7

C. 神の被造物に対するご意志は正しい

1. レビ記 19: 2
2. マタイ 5: 48(5: 17-20 を参照)

D. 神が義を与えられ造られる目的

1. ローマ 3: 21-31
2. ローマ 4章
3. ローマ 5: 6-11
4. ガラテヤ 3: 6-14
5. 神により与えられる
 - a. ローマ 3: 24、6: 23
 - b. Iコリント 1: 30

- c. エペソ 2: 8-9
- 6. 信仰により受ける
 - a. ローマ 1: 17、3: 22 と 24 節、4: 3 と 5 節と 13 節、9: 30、10: 4 と 6 節と 10 節
 - b. I コリント 5: 21
- 7. 御子の御業を通して
 - a. ローマ 5: 21-31
 - b. II コリント 5: 21
 - c. ピリピ 2: 6-11
- E. 神のご意志は、ご自分に従う者達が義となることである。
 - 1. マタイ 5: 3-48、7: 24-27
 - 2. ローマ 2: 13、5: 1-5、6: 1-23
 - 3. II コリント 6: 14
 - 4. I テモテ 6: 11
 - 5. II テモテ 2: 22、3: 16
 - 6. I ヨハネ 3: 7
 - 7. I ペテロ 2:24
- F. 神は義によって世界を裁くおつもりである
 - 1. 使徒行伝 17: 31
 - 2. II テモテ 4: 8

義は神のご性質であり、キリストを通して罪深い人類に自由に与えられる。それは

- A. 神の布告
- B. 神の賜物
- C. キリストの御業

である。しかしそれはまた、精力的かつ断固として追い求められなければならない義なる状態になる過程でもある。それはいつの日かキリストの再来されるときに完成する予定である。神との交わりは救いのときに回復されるが、生涯を通じて深まり、そして死つまりキリストの再臨のときに顔と顔を見合わせた出会いとなるのだ！

ここに IVP の *Dictionary of Paul and His Letters* からのよい引用を示す。

「カルヴァンはルターよりもはっきりと神の義の关系的側面を強調している。神の義についてのルターの見解は無罪評決という一面を含むようだ。カルヴァンは、神の義を私達に伝え知らせることの素晴らしい本質を強調している」(834 ページ)。

私の見解では信者と神の関係には3つの局面がある：

- A. 福音は一人の人物である(東方教会とカルヴァンが強調)
- B. 福音は真理である(アウグスティヌスとルターが強調)
- C. 福音は変化した生活である(カトリックが強調)

それらは全て正しく、健康的で健全な聖書的キリスト教の中になければならないことである。もしどれかひとつが強調あるいは軽視されれば問題が起こる。

私達はイエスを歓迎しなければならない！

私達は福音を信じなければならない！

私達はキリストのようになることを追い求めなければならない！

「ノアは神とともに歩んだ」これ(BDB229、KB246、*Hithpael* 完了形)は、この聖句がエノクについて用いられている 5: 21-22(*Hithpael* 未完了形)ととてもよく似た聖句である。

NASB(改訂版)原典: 6: 11-12

¹¹地は神の御前に墮落し、暴力に満ちていた。¹²神は地をご覧になった。見よ、それは墮落していた。全ての肉なる者が地上で墮落の道を歩んでいたからである。

6: 11-12 神のご意志は人類と動物が地に満ちることであったが、暴力と悪によって罪が地に満ちた(BDB569、KB583、*Niphal* 未完了形、13 節、詩篇 14: 1-3、ローマ 3: 10-18 を参照)。創世記 1: 31 の「とてもよかった」という表現はもはや適切ではない。その世界は神がそうなるように意図されたものではない！

NASB(改訂版)原典: 6: 13-22

¹³主はノアに言われた「全ての肉なるものの終わりが私の前に来ようとしている。なぜならそれらによって地が暴力に満ちたからだ。見よ、私は今から地とともにそれらを滅ぼす。¹⁴あなたはゴフェルの木の箱船を造りなさい。箱船にはいくつかの部屋を造り、内と外にピッチ(訳者注: 木材用の塗料として用いられる瀝青[れきせい]物質)を塗りなさい。¹⁵箱船は次のように造りなさい。箱船の長さは300キュビト、幅は50キュビト、高さは30キュビトとしなさい。¹⁶箱船には窓を設け、上から1キュビトのところを仕上げなさい。また、箱船の側面に戸口を造りなさい。そして、箱船に一階、二階、三階を造りなさい。¹⁷見よ、私は地の上に洪水をもたらし、全ての生ける肉なるものを天の下から滅ぼす。地の上にいる全てのものは息絶えるであろう。¹⁸しかし私はあなたと契約を立てよう。あなたは息子達と妻と息子の妻達とともに箱船に入りなさい。¹⁹また全ての生ける肉なるものの中から各種二つを箱船に入れ、それらがあなたとともに生き延びるようにしなさい。それらは雄と雌でなければならない。²⁰鳥とその子孫の中で、動物とその子孫の中で、あらゆる地を這うものとその子孫の中で、各種二つがあなたのところへ来て生き延びるようにしなさい。²²そして、食べられるものは全てあなたのところに集め、あなたとそれらの食糧としなさい。²³ノアは神が彼にお命じになった全てのことを行った。

6: 14「あなたは箱船を造りなさい」この動詞(BDB793 I、KB889)は *Qal* 命令形である。これは、

「胸」あるいは「箱」(BDB1061)を意味するエジプトの公用言語からの借用語かもしれない。この用語は他にもただ一度、モーセがその中に置かれた籠に対して用いられている(出エジプト記 2: 3 と 4 節を参照)。

「ゴフェルの木」この語(BDB781 と 172)の語源については明らかではない。様々な解釈のうちのいくつかは次のようなものである:(1)セプトウアギンタでは「角材」(2)ウルガタ聖書では「滑らかな木材」(3)大半の解説者達はそれがある種の木、たぶん糸杉だろうと信じている(NRSV、REB)。その理由は、古代近東の大半の船がその木から造られ、その木の樹脂で船体の表面が塗装されていたからである。

「箱船にはいくつかの部屋を造りなさい」これは明らかに、載せる動物達の仕分けと箱船の構造補強(3つの階とも)のためである。

6: 15「キュビト」 聖書には2種類のキュビトが登場する。通常のキュビトは平均的な人の最も長い指から肘までの距離であり、普通は約 18 インチである(申命記 3: 11、II 歴代誌 2: 3 を参照)。もうひとつのキュビトは建築(つまりソロモンの神殿)に用いられたそれより長いもの(王定キュビト)で、エジプト、パレスチナ、時々バビロンでも一般的であった。それは 21 インチの長さであった(エゼキエル 40: 5、43: 13 を参照)。箱船の実際の寸法は多分約 450 フィート X 75 フィート X 45 フィートであったと考えられる。これはクイーンエリザベス II 世号の約半分の大きさである。箱船(の断面)は正方形だが、多分船体に受ける波の圧力を制御するために側面に傾斜があっただろうと推測される。

古代の人々は人体の一部を測量に用いた。古代近東の人々が用いたのは:

1. いっぱいに伸ばした両腕の幅
2. 肘から中指までの長さ(キュビト)
3. 親指と小指をいっぱい伸ばした幅(スパン; 訳者注: 約 9 インチ [23cm])
4. 握りこぶしの4本の指の幅の合計(手幅; 訳者注: 約 4 インチ)

ここでのキュビト(BDB52、KB61)は完全には標準的ではなかったが、2種類の基本的長さがあった。

- a. 一般男性の肘から中指までの長さ(約 18 インチ; 申命記 3: 11 を参照)
- b. 王定キュビトはそれ(a.)より少しだけ長かった(約 21 インチ; II 歴代誌 3: 3、エゼキエル 40: 5、43: 13 を参照)

6: 16「箱船には窓を設けなさい」 これは、8: 6 に用いられている、窓を表す語と同じ語ではない。多くの解説者達は、それは箱船の頂部付近、つまり屋根のすぐ下にある、採光と換気のためのシステムのことだと推測している。

6: 17「洪水」 この用語(BDB550)がアッシリア語の用語「破壊する」と関係するという推測がなされてきた。

ノアの洪水は世界規模で起こったのか、それとも古代近東地域だけで起こったのか? 用語「地」(*eres*)はしばしば局所的な意味で「陸」と訳されている(創世記 41: 57 を参照)。もし人類が、

10-11 章のバベルの塔の出来事にはっきりと暗示されているように地の全ての地域に散らばることがなかったら、局所的な洪水は起こった意義がなかっただろう。私が今まで読んだ本で局所的な洪水の合理的な証拠を最もよく示しているものは Bernard Ramm 著 *The Christian View of Science and Scripture* である。

「命の息」これはヘブル語の用語 *ruach* である。それは風、生命、息、霊に対して用いられる。人間と獣はどちらも *nephesh* を持つといわれているが、神のお姿に造られ(1: 26-27 を参照)「特別な」被造物であるのは人間だけである(2: 7 を参照)。この文脈では**全ての**息あるものは死ぬのだ(7: 22 を参照、人間と動物)。

6: 18

NASB、NKJV、NRSV 「私は立てよう」

TEV 「私は作ろう」

NET 「私は定めよう」

この動詞(BDB877、KB1086、*Hiphil*完了形)の基本的意味は「上げる」あるいは「立てる」である。*Hiphil* 語幹は「設立する」、「承認する」の意味で用いられる(6: 18、9: 9 と 11 節と 17 節、17: 7 と 19 節と 21 節、出エジプト 6: 4、エゼキエル 16: 62 を参照)。

これがどの約束あるいは契約のことを言っているのかは明らかではない。多分それは 9: 9 と 11 節と 17 節の予言である。重要なことは、神ご自身が、墮落し反逆した人類との間に確かな約束をされその約束を守られるおつもりだということである。人類の邪悪さのただ中でさえ神の永遠の変わりのご計画は存在し続けるのだ！

「あなたとの私の契約」ここでこの用語 *berith*(BDB136)が初めて使われた。それは創世記 9 章 8-17 節で説明されさらに詳しく述べられる。それは神と人類との関係を旧・新約聖書から理解することにおいて中心的な主題となる。双方には相互責任と義務と約束とがある。このことは私達が神の側の無条件の契約と人類の各世代の応答の条件的側面との間にある論理的難点を理解する場を設定する。以下の特別なトピックを見よ。

特別なトピック：契約

旧約聖書の用語 *berith*(BDB136)、つまり契約は定義が容易ではない。ヘブル語にはこの語に適合する動詞がない。語源から定義しようとしても全て不確実な結果に終わる。しかし、その概念の中心がはっきりしているので、学者達はその機能的意味を明らかにしようとその語の用法を懸命に調べている。

契約は、ただおひとりの神が被造物である人間を取り扱われる手段である。契約、約束、あるいは合意の概念は聖書的黙示の理解において重要である。神の主権(統治権)と人間の自由意志との間の緊張は契約の概念の中にはっきりと見られる。契約の中には排他的に神のご性質と御業に基づくものがある：

1. 被造物自体(創世記 1-2 章を参照)

2. アブラハムの召し(創世記 12 章を参照)
3. アブラハムとの契約(創世記 1-2 章を参照)
4. ノアを生かすこととノアへの約束(創世記 6-9 章を参照)

しかし、契約の真の本質は応答を要求する:

1. 信仰によってアダムは神に従わなければならず、またエデンの中央の木から実を取って食べてはいけなかった。
2. 信仰によってアブラハムは家族のもとを去って神に従い、未来の子孫についてのこと(訳者注: 神の約束)を信じなければならなかった。
3. 信仰によってノアは洪水から生き延びるための巨大な船を造り、動物達を船に集めなければならなかった。
4. 信仰によってモーセはイスラエルの民をエジプトからシナイ山に連れ出し、祝福と呪いの約束によって信仰生活と社会生活に関する特別な導きを受けた(申命記 27-28 章を参照)。

神と人間の関係に関するこれと同じ緊張が「新しい契約」の中で述べられている。その緊張はエゼキエル 18 章とエゼキエル 36: 27-37 (YHWH の御業) の中に明らかに見られる。その契約は神の恵みの御業に基づいているのか、それとも人間の応答の義務に基づいているのか? これは、古い契約と新しい契約について盛んに議論されている問題である。両者の目標は同じである: (1) 創世記 3 章で失われた、YHWH との交わりの回復 (2) 神のご性質を反映する義なる人々の育成。

エレミヤ 31: 31-34 の新しい契約は、(神に)受け入れられる手段としての人間の行いをなくすことによって緊張を解く。神の律法は外なる法の条文の代わりに内なる希望となる。神に忠実な義なる人々の目標もそれと同じだが、方法論が異なる。墮落した人類は自分達が神のお姿を反映する者としてふさわしくないことを証明している。問題は神の契約ではなく、人間の罪深さと弱さである(ローマ 7 章とガラテヤ 3 章を参照)。

旧約聖書の無条件の契約と条件付き契約の間にあるのと同じ緊張が新約聖書にもある。救いはイエス・キリストの成し遂げられた御業において絶対的に自由であるが、それは悔い改めと信仰を必要とする(最初に、そして継続的に)。それは法的な宣告であり、またキリストのようになることへの召しであり、そして神に受け入れられたことを示す発言であり聖化への命令である! 信者は行いによってではなく従順を通して救われる(エペソ 2: 8-10 を参照)。神に忠実な生活は救いの証拠となるが、救いの手段とはならない。しかし、永遠の命は目に見える特徴をもつのだ! この緊張はヘブル人に明らかに見られる。

「あなたは息子達と妻と息子の妻達とともに箱船に入りなさい」 ノアだけでなく彼の家族も神の責めを免れた(I コリント 7: 14 を参照)。

6: 19「連れてきなさい」 これは、動物達(特定の場所に住んでいたものか世界中に住んでいたものかは明らかではない)がノアのところに来て、ノアがそれらを箱船の中に入れたことを意味して

いるのだろう。多分彼は(洪水が来る前の)最後の週にこれをし始めたのだ。動物達が箱船の上でどのように一緒に暮らし食糧を食べていたのかは謎だが、そこでは(超)自然的設定の存在の可能性は考慮されていない。

6: 21 箱船の上にはノアと動物達の食糧があった(BDB542、KB534、*Qa*/命令形)。しかし、その詳細は記録されていない。記述は単なる情報以上に神学的である。

6: 22「そしてノアは行った」重要な主題はノアが神に従ったことであり(7: 5 と 9 節と 16 節を参照)、これは適切な応答であった。しかしアダムとエバと他の人類はそうしなかった(例えば 6 章 5 節、11-12 節、13 節を参照)。

創世記7章

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
大洪水	大洪水	大洪水	大洪水	大洪水への備え
		(6: 5—8: 22)		(6: 13—7: 16)
7: 1～5	7: 1～12	7: 1～5	7: 1～5	7: 1～5
7: 6～12		7: 6～10	7: 6～10	7: 6
				7: 7～10
		7: 11～16	7: 11～16	7: 11～12
7: 13～16	7: 13～16			7: 13～16 前半 7: 16 後半
				大洪水
7: 17～24	7: 17～24	7: 17～24	7: 17～24	7: 17～24

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上に掲げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 7: 1-5

¹そして主はノアに言われた「あなたとあなたの家族は箱船に入りなさい。なぜならこの時代にあなただけが私の前に義であると私は見ているからだ。²あなたはあらゆる清い動物を7つがい

ずつと清くない動物を1つがいずつ取りなさい。³また空の鳥も、全地の面に子孫が生き続けるために7つがいずつ取りなさい。⁴さらに7日の後、私は地に40日40夜雨を降らせ、私が造ったあらゆる生けるものを地の面から取り去ることにした。⁵ノアは神が彼にお命じになった全てのことを行った。

7: 1「主はノアに言われた」 ここではそれは神の契約名 YHWH であるが、16 節では神は *Elohim* と呼ばれている。ユダヤ教の指導者達はこれらの用語が救い主なる神 (YHWH) と創造主なる神 (*Elohim*) について述べていると理解しているが、この見解はモーセ五書の用法に適合しているようだ。「特別なトピック: 2: 4 における神の名」を見よ。

「箱船に入りなさい」 この動詞 (BDB92、KB112) は *Qal* 命令形である。

「なぜならこの時代にあなただけが私の前に義であると私は見ているからだ」 用語「義である」はここではヨブが「責められることがなかった」と言われているのと同じ意味で用いられている (6 章 9 節を参照)。これは罪がないことを意味しているのではなく、自分達で理解していること、つまり神との関係において文化的に表現されていることの全てに忠実でその通りに行動している人を意味しているのである。ノアの義が彼の家族にも影響したことに注目しなさい。これは聖書的真理である。これは誰かが他者の長所に基ついて神により義とされるという意味ではなく、霊的祝福は神を知る人々から彼らの知人達と親類に流れることを意味しているのである (申命記 5: 9-10 と 7 章 9 節、および I コリント 7: 14 と比較しなさい)。

7: 2「清い動物を7つがいずつ」 この文脈での清いものと清くないものの区別は、それがモーセ以前の時代のいけにえのしきたり (レビ記 1-7 章を参照) であるので、注意が必要である。清い動物達の (判断・評価の) 基準あるいは方法については何も述べられていない。モーセが後の時代にレビ人に対して、食物に関する律法といけにえのしきたりに伴うこの区別の規則を取り決めたことは明らかである。7組のつがいについては多くの議論がある (NRSV、NJB、JPSOA を参照)。それは7体の動物達という意味なのか、それとも7つがいの動物達という意味なのか？

7: 4「7日の後、私は地に雨を降らせることにした」 ユダヤ教の指導者達は、これは死去したばかりの義なる人メセウのための服喪の時期であったと言っている。彼らは、神はメセウが死ぬまで大洪水を起こすことを延期されたと信じているのだ。

7日と1週間とするきまりは大昔に始まったのでその起源は一度も確認されていない。月と年とは月 (天体) の齢と季節の変化からその長さが割り出されるが、週についてはこのようなことは行なわれていない。信者達に対しては創世記1章がそのパターンを決めている。

「40日40夜」 用語「40」は聖書の中でかなり頻繁に用いられている (コンコードダンスを見よ)。ある時代にはそれは文字通りの意味で解釈されるが、別の時代にはそれは単に定めのない長い期間 (月の周期つまり29日半より長い季節の変化よりは短い) を意味する。7件のメソポタミアの文献では大洪水の時間枠は7日間である。

NASB(改訂版)原典: 7: 6-12

⁶ノアが 600 歳のとき、地に洪水が起こった。⁷ノアと息子達と妻と息子の妻達は洪水から身を避けるために箱船に入った。⁸清い動物と清くない動物と鳥と地を這うものすべては、⁹神がノアにお命じになった通りに二体ずつ、雄と雌のつがいで箱船に入り、ノアのところに来た。¹⁰7日の後、地に洪水が起こった。¹¹ノアの生涯の第 600 年の第二の月の 17 日に大いなる深淵の源が急に裂け、空の水門が開かれた。¹²雨は40日40夜地に降り続いた。

7: 11「大いなる深淵の源が急に裂け、空の水門が開かれた」 11 節の日付は、地に起こった実際の大災害を描写する動詞達(2つの *Niphal*完了形、BDB131、KB149とBDB834、KB986)とともに、この(歴史的出来事を暗示する)聖句の中でとても特殊である。ヘブル語の原典の 18・19 節には洪水による破壊の規模を見ることができる。地形の多くは特に近東で変化した。2つの水の源がある:(1)深淵の源(2)空の水門(つまり窓、78: 23 以降とマラキ 3: 10 を参照)。これは明らかに創世記1章の神の御業と逆である。水の混沌が再び現れたのだ。

NASB(改訂版)原典: 7: 13-16

¹³まさにこの同じ日に洪水が起こった。⁷ノアとノアの3人の息子達、つまりシテムとハムとヤベテ、とノアの妻と彼の息子達の3人の妻達は箱船に入った。¹⁴彼らとあらゆる獣、全ての家畜、あらゆる地を這うもの、あらゆる鳥と全ての種類の鳥、¹⁵命の霊のある肉なるもの全ては二体ずつ箱船に入り、ノアのところに来た。¹⁶全ての肉なるものの雄と雌は、神が彼にお命じになった通りに箱船に入った。そして神は彼の後で戸を閉ざされた。

7: 14 これには、創世記1章で述べられている、海の生き物以外の全ての種類の陸の動物が含まれる。

7: 16「そして神は彼の後で戸を閉ざされた」 YHWH(つまり契約の、救い主なる神)はご自身で戸を閉ざされた。ユダヤ教の指導者達は、神は箱船から邪悪なものをしめ出すためにこうされたのだと言っている。彼らはまた、人々が箱船に近づかないように、ライオンと獣が箱船の周りを取り囲むようにされたと過度に主張している。私は、箱船はメシアの家系を存続させるための、YHWHの人類への慈みのもうひとつの御業であり、裁きのただ中に行なわれたとはいえ、最終的に救いをもたらすもの(創世記 3: 15 を参照)であると思う。

NASB(改訂版)原典: 7: 17-24

¹⁷洪水は40日間地を覆い、水かさが増して箱船を押し上げ、箱船は地の面を離れて浮かんだ。¹⁸水は勢いを増して地の上に大いに増え、箱船は水の面に浮かんだ。¹⁹水はますます地の面に広がり、天の下のあらゆるところの高い山々は全て覆われた。²⁰水は勢いを増して15キュビトの高さに達し、山々は覆われた。²¹地の上で動いていた全ての肉なるものは死に絶えた。鳥と

家畜と獣とあらゆる地を這うものと全ての人間、²²乾いた地の上にいるもののなかで鼻の中に命の霊の息のあるものは全て死んだ。²³こうして神は人から動物、這うもの、空の鳥に至るまであらゆる生けるものを地の面から取り去られた。それらは大地から取り去られ、ノアと、彼とともに箱船にいたものたちだけが残った。²⁴水は 150 日間地の上で勢いがあった。

7: 19 この聖句の内容は確かに世界的洪水を暗示している(8: 21 とⅡペテロ 3: 6 を参照)。しかしそうなのか？用語「地」(*eres*、BDB75)は「陸」という意味なのかもしれない(41: 57 を参照)。それはルカ 2: 1 とコロサイ 1: 23 にあるのと似た熟語かもしれない(*Hard Sayings of the Bible*, IVP の 112~114 ページを参照)。洪水の神学にはその規模は無関係である。全世界は言うに及ばず、メソポタミアにおいてさえ洪水の際の堆積物は異なっているのだ！メソポタミアでは2つの大河の水系が河口において合流しているために洪水がよく起こる。これについての良い議論が Bernard Ramm 著 *The Christian View of Science and Scripture* にあるので見なさい。

7: 22「命の霊の息」(1: 30 の解説を参照) 水に棲む生き物は生き残った。

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. 成句「神の息子たち」をあなたはどのように理解するか？そしてそれはなぜか？
2. なぜあなたは、天使達が人間の女達を娶ろうとしたと思うのか？
3. ネフィリムは誰だったか？
4. 神はどのように後悔されたか？
5. 神とともに歩むことは何を意味するか？
6. なぜ魚は陸の生き物とともに裁かれなかったのか？
7. ノアの時代の清い動物と清くない動物は何か？
8. 洪水は局所的だったのか、それとも世界規模のものだったのか？それはなぜか？

創世記8:1-22

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
大洪水がひく	ノアの救出	大洪水 (6: 5-8: 22)	大洪水の終わり	大洪水がひく
8: 1~5	8: 1~5	8: 1~5	8: 1~5	8: 1~5
8: 6~12	8: 6~12	8: 6~12	8: 6~12	8: 6~12
8: 13~19	8: 13~14	8: 13~19	8: 13~14	8: 13
				8: 14
				彼らの下船
	8: 15~19		8: 15~19	8: 15~19
	神の被造物との契約		ノアがいけにえを捧げる	
	(8:20~9:17)			
8: 20~22 (22)	8: 20~22 (22)	8: 20~22 (22)	8: 20~22 (22)	8: 20~22 (22)

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

文脈の洞察

- A. 創世記7章で水の混沌が再び現れたことから、この章と創世記1章には明らかに内容の並列が見られる。
- B. 創世記8章で神が生命を維持する地を回復されたことから、この章と創世記1章には明らかに内容の並列が見られる。
 - 1. 1: 2 と 8:1 を比較しなさい。
 - 2. 1: 6-7 と 8: 2 を比較しなさい。
 - 3. 1: 22 と 24 節、および 8:17 を比較しなさい。
 - 4. 1: 28 と 9:1-2 を比較しなさい。
- C. 8: 1-19 は 7: 11-24 の逆である。これは確かに文章構造の構築である。

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 8: 1-5

¹しかし神はノアと、彼とともに箱船にいた全ての獣と全ての家畜を御心に留められ、地の上に風を起こされた。すると水はひき始めた。²そして深淵の源と空の水門は閉じられ、天からの雨は降り止んだ。³水は地の上から徐々にひいてゆき、150日の後には水は減った。⁴第7の月の17日に箱船はアララト連峰の上に止まった。⁵水は第10の月まで徐々にひいてゆき、第10の月の最初の日には山々の頂上が見えるようになった。

8: 1「神」これは用語 *Elohim* である。創世記 1: 1 の解説あるいは 2: 4 の特別なトピックを見よ。「御心に留められた」この用語(BDB269、KB269、*Qal* 未完了形)は神が人に対して適切で個人的な御業をなされたという意味で用いられている(8: 1、9: 15 と 16 節、19: 29、30: 22 を参照)。契約の神は御自身のご性質に対応する御業をなされようとしている。ノアは新しい人類の祖先となるだろう。

「ノア」この名(BDB629)は「休息」を意味するかもしれない。その一般的な語源は言語学ではなく音に基づく。

「神は風を起こされた」この動詞(BDB716、KB778)は *Hiphal* 未完了形である。神は 2 節で、出エジプトの際にされたのと同じように(出エジプト記 14: 21 を参照)、大洪水の水を急いで乾かすために自然な方法を用いられた。

1章の神の御業と並列する内容は 8-9 章の神の御業にも見られる。これは人類にとっての新たな始まりである。もしそうなら、ここで登場する風は 1: 2 の「聖霊が動き回っておられた」と並列する。

「ひいた」これと同じ用語(BDB1013、KB1491、*Qal* 未完了形)がエステル記 2: 1 で王の怒りについて用いられている。

「アララト連峰」これは3通りに説明されている：(1)トルコとロシアの国境の山(2)バン湖の北に隣接する山(3)この用語自体は特定の山ではなく連峰全体(アッシリア語の *urartu*、BDB76)のことを述べている(連峰という複数形に注意)。

NASB(改訂版)原典: 8: 6-12

⁶40日たって、ノアは自分の造った箱船の窓を開き、⁷鳥を放った。鳥は地の上の水が乾くまであちこち飛び回った。⁸次に彼は地の面から水がひいたかどうか確かめるために鳩を放った。⁹しかし鳩は足を着けて止まる場所が見つからなかったので、箱船にいるノアのところに戻ってきた。水が全地の面にあったからである。そこで彼は手を伸ばして鳩を捉え、箱船の自分の手元に戻した。¹⁰そして彼はさらに7日待って、再び箱船から鳩を放った。¹¹鳩は夕方になって彼のところに戻ってきた。見よ、鳩はくちばしに摘んだばかりのみずみずしいオリーブの葉をくわえていた。それでノアは地の面から水がひいたことを知った。¹²彼はさらに7日待って、鳩を放った。しかし鳩はもう彼のところには戻ってこなかった。

8: 6「40日」この成句は通常は「長い、定めのない期間」を意味する。この文脈では、日付がとてもはっきり記されているので、その「40日」は正確に40日を意味するのであろう。

「窓」これは6: 16にあるあいまいな用語達(文字通り「屋根」の意味、BDB844 I)とは異なる用語(BDB319)である。その大きさと位置は不確かであるが、多分屋根自体の中に収まるものだろう。

8: 6-12 これらの鳥を寓意的に解釈しないように注意なさい！メソポタミアの文献の中にこれと正確に並列する記述(つまりギルガメシュ物語 11: 145-155)があるが、それには非常に一致する記述があるようだ。聖書(つまり創世記 1-11章)とメソポタミアの文献とは文学的に関係がある。

NASB(改訂版)原典: 8: 13-19

¹³ノアの生涯の第601年の第1の月の第1日に水は地の面から乾いた。ノアは箱船の覆いを取って外を見た。見よ、地の面は乾いていた。¹⁴第2の月の第27日に地の面は乾いた。¹⁵そこで神はノアに呼び掛けて言われた¹⁶「あなたとあなたの妻と息子達と息子達の妻達は箱船から出なさい。¹⁷箱船の中であなたとともにいた、全ての肉なるもののあらゆる生けるもの、鳥と動物とあらゆる地を這うものも連れて出なさい。そして彼らが地の上で十分に食物を得て、産み殖えてゆくようにしなさい」。¹⁸そこでノアは息子達と妻と息子達の妻達とともに箱船から出た。¹⁹あらゆる獣、あらゆる這うもの、あらゆる鳥、あらゆる地を動くものは自分達の家族とともに箱船から出た。

8: 13「ノアは覆いを取った」これは彼が屋根(BDB492)の一部を取り除いたことを意味しているようだ。後でこれと同じ用語が聖堂を覆う動物の皮のことを述べることになるが、ここではその意味で用いられていると断言するのは難しい。

8: 15「神はノアに呼び掛けられた」この聖句全体はノアの忍耐と従順とを明らかにしている。神

のご命令(つまり 8: 15-19)は 7: 1-5 と並列する。

8: 16「出なさい」 これは 16-17 節の神のご命令のいくつかのうちの最初のものである。

1. 「出なさい」 *Qal* 命令形(BDB422、KB425) 16 節
2. 「連れ出しなさい」 *Hiphil* 命令形(BDB422、KB425) 17 節
3. 「十分に食物を得よ」 命令の意味で用いられる *Qal* 完了形(BDB1056、KB1655) 17 節
4. 「子を産みなさい」 命令の意味で用いられる *Qal* 完了形(9: 1 と 7 節を参照、BDB862、KB953)、17 節
5. 「殖えなさい」 命令の意味で用いられる *Qal* 完了形(9: 1 と 7 節を参照、BDB915、KB1176)、17 節

これらのご命令は創世記 1: 22 と 24 節と並列する。ある意味で神は事を始められている。混沌の水は箱船の上にいるもの以外の地の生き物全てを滅ぼした。神の初めの目的は続けられる(6 章 18 節を参照)。

8: 17 これらの神のご命令(9: 1 も)は創世記 1: 22 と 24 節と並列する。この章の冒頭の文脈の洞察を見よ。

NASB(改訂版)原典: 8: 20-22

²⁰そしてノアは主のために祭壇を築き、あらゆる清い動物とあらゆる清い鳥のなかから取って焼き尽くす奉げものとして祭壇の上にささげた。²¹主はなだめの香りを嗅がれて、御自身に言われた「私は人の問題で地を呪うことを二度としないことにする。人の心の思いは若いときから悪いのだ。私は今回したようなあらゆる生けるものを滅ぼすことを二度としないことにする。²²地の続くうちは、種播くときと刈り入れのとき、寒さと暑さ、夏と冬、そして昼と夜はやむことはないであろう」。

8: 20「ノアは祭壇を築いた」 彼の(箱船下船後の)最初の行為は礼拝と(神に)感謝を示すことだった。いけにえは古代の慣習であった(4: 3、12: 7 と 8 節、13: 18、22: 19 を参照)。これはまた、洪水後のギルガメシュ物語の中のギルガメシュの最初の行為でもある(11: 156-158 を参照)。

「あらゆる清い動物」 清いか清くないかを定める判断基準は明らかではない(7: 2 を参照)が、明らかにそれは食餌の指針ではなく、いけにえに関係がある(レビ記 11 章と申命記 14 章を参照)。

8: 21「主はなだめの香りを嗅がれた」 この聖句は聖書の中で神が奉げものを受け入れられたという意味で用いられている(特にレビ記と民数記で)。それは、ギルガメシュ物語にあるように(11 章 159-161 を参照)肉が神の食物だったという意味ではない。聖書は決して、周辺諸国のように、いけにえの奉げものを神なるご存在の食物とは見ていない。

「私は地を呪うことを二度としないことにする... 私はあらゆる生けるものを滅ぼすことを二度としないことにする」 これらの並列する発言は神のお心の中の被造物への愛(イザヤ 54: 9)と裁きの間の緊張を示している。人類は悪く堕落しているが、神は私達とともに同時に働かれ、終末

(つまり終りの日々)の中で人類を矯正されることを選ばれている。この裁きの中で、罪深い人類に対する神のご態度は変わった。人類は未だに悪い。神のご態度は、御自分の民がモーセの契約を実行できなかったときに再び変わった。神は新しい契約を立てられるおつもりである(エレミヤ 31: 31-34 とエゼキエル 36: 27-38 を参照)。人類はメシアの御業と犠牲的な死を通して神により義とされる予定なのだ。

神が決して新たな洪水を起こさないと約束されたのは確かに真実であるが、Ⅱペテロ 3: 10 は神は火で地を聖められるだろうと主張している。神は罪深い人類とともに働かれるが、御自分の目的は義である(レビ記 19: 2 とマタイ 5: 48 を参照)。

「人の心の思いは若いときから悪いのだ」大洪水の前に明らかであった悪(6: 5、11 節、12 節、13 節を参照)は、後の章でノアと彼の家族がはっきりと示すことになっているように、未だに墮落した人類のうちにあるのだ!

8: 22 このような自然の恒常性から現代西洋科学が生まれた。神は齊一観論を確立された(つまり自然の恒常的で単一形式的な活動)。しかし、最初の成句「地の続くうちは」に注意しなさい。22 節は英訳聖書では詩的な文章として記されている。

創世記9:1-29

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
虹の契約	神の被造物との契約	神のノアとの契約	神のノアとの契約	新しい世界の秩序
	(8: 20-9: 17)			
9: 1~7	9: 1~7	9: 1~7	9: 1~6	9: 1~7
(6~7)	(6~7)	(6)	9: 7	(6)
9: 8~17	9: 8~17	9: 8~17	9: 8~17	9: 8~11
				9: 12~16
				9: 17
9: 18~19	ノアと彼の息子達 9: 18~19	カナンでのノアの呪い 9: 18~19	ノアと彼の息子達 9: 18~19	ノアと彼の息子達 9: 18~19
9: 20~27	9: 20~23	9: 20~27	9: 20~27	9: 20~27
(25~27)	9: 24~27 (25~27)	(25~27)	(25~27)	(25~27)
9: 28~29	9: 28~29	9: 28~29	9: 28~29	9: 28~29

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 9: 1-7

¹神はノアと彼の息子達を祝福して言われた「産み殖えて、地に満ちよ。²あらゆる地の獣とあらゆる空の鳥、地を這う全てのもの、そして海の魚全てはあなたたちの前に恐れおののき、あなたたちの手に与えられるだろう。³生きて動くあらゆるものはあなたたちの食べ物となるだろう。私はそれら全てを、緑の植物と同じようにあなたたちに与える。⁴肉は命、つまり血のついたままで食べてはいけない。⁵私はあなたたちの命の血を流させるあらゆる獣に対してその命の血のつぐないを求める。また、ある人の命の血を流させるあらゆる他の人とその兄弟に対してその命の血のつぐないを求める。⁶人に血を流させる者は皆、人によって自らの血を流すだろう。なぜなら人は神の姿に似せて造られたからだ。⁷あなたたちは産み殖えて、地に満ち、地に増えよ」。

9: 1「産み殖えて、地に満ちよ」 3つの *Qal* 命令形、「産めよ」(BDB826、KB963)、「殖えよ」(BDB915、KB1176)、「地に満ちよ」(BDB569、KB583)に注意しなさい。これは人類の第二の始まりである(1: 28を参照)が、罪がそのご命令の中に変化をもたらし、「従わせ、支配せよ」が除外されていることに注意しなさい。

9: 2「恐れ... おののく」 人類は動物達との新たな関係を持った。エデンと終末のとき(イザヤ11章)のような平和的で友好的な関係ではなく、恐れ(BDB432)とおののき(BDB369)を伴う関係を。セプトゥアギンタは「しかし家畜には影響はなかった」という節に「家畜」を加えている。

9: 3「生きて動くあらゆるものはあなたたちの食べ物となるだろう」 人類は元々植物を食用としていた(少なくともエデンの園では)。しかし、墮落と、しばらくの間穀物を作ることができなかったので、肉が食用とされた。消費に関しては清い動物と清くない動物との間に区別はなく(レビ記11章と大きく異なる)、いけにえに関して区別があること(7: 2以降を参照)にも注意しなさい。

9: 4「肉は命、つまり血のついたままで食べてはいけない」 これはいけにえのしきたり(レビ記17章10-16節、申命記12: 16と23節、使徒行伝15: 29を参照)とキリストの死の重要性の神学的基礎である。罪はひとつの命を犠牲にした。神は慈みによってひとつの動物の命を置き換えられた。

9: 5-6「人によって自らの血を流すだろう」 これは「目には目を」という正義に関する最初の発言である。それは神の定められた、極刑を宣告する命令と権利を示している。旧約聖書では、これは「go'el」(同族の救い主)により成し遂げられる。新約聖書で参照すべき箇所は使徒行伝25: 11とローマ13: 4である。

5節は韻文であり、6節は詩的な並列文として記されている。

血(*dam*)と人(*adam*)との間の語源にも影響するかもしれないヘブル語の言葉遊びがありそうだ。アッシリア語では人に対応する用語(*adamu*)は聖所(*adman*)に関係がある。従って、血と礼拝と人類の間にはつながりがあるかもしれない(Robert B. Girdlestone 著 *Synonyms of the Old Testament* の45ページを参照)。

「なぜなら人は神の姿に似せて造られたからだ」これは人類の優越性を示している(1: 26と27節、5: 1と3節を参照)。何と畏れ多い特権と責任であろうか。

9: 7「地に満ちよ」これは1: 22と24節と28節と並行している。8～9章は1章で神の表されたご意志と御業が再び始まったことを記している。1節では3つだった *Qal* 命令形はこの節では4つである。ユダヤ教の指導者達は、殺人に関する聖句(5-6節)のために、子供を持つことを拒否する人々もこの命令に違反していると言っている。

NASB(改訂版)原典: 9: 8-17

⁸神はノアと彼の息子達に呼び掛けて言われた⁹「見よ、私はあなたたちと後に続く子孫との間に契約を立てる。¹⁰そして、あなたたちとともにいるあらゆる生き物、鳥、家畜、あらゆる地の獣、箱船から出たもの全てだけでなく地の獣全てとの間に契約を立てる。¹¹私はあなたたちとの間に契約を立てる。全ての肉なるものは二度と再び洪水によって取り去られることはなく、また地は二度と再び洪水によって滅ぼされることはないであろう。¹²神は言われた「これは、私が自分とあなたたちとあなたたちとともにいるあらゆる生き物、そして後に続く全ての世代との間に立てる契約のしるしである。¹³私は雲の中に弓を置く。それは私と地との間の契約のしるしである。¹⁴私が地の上に雲を来たらせ、弓が雲の中に現れるとき、¹⁵私は自分とあなたたちと全ての肉なる生けるものとの間に立てる、二度と再び洪水によって全ての肉なるものを滅ぼさないという契約を思い出そう。¹⁶弓が雲の中に現れるとき、私はそれを見て、自分と地にいる全ての肉なる生けるものとの間の永遠の契約を思い出すことにする。¹⁷そして神はノアに言われた「これは、私が自分と地にいる全ての肉なるものとの間に立てた契約のしるしである」。

9: 9「私は立てる」この契約は無条件であり全て神の恵みによるものである(9節、11節、12節、17節を参照)。アダムとの契約とアブラハムとの契約を含む他の契約には条件があった。6: 18の「特別なトピック: 契約」を見よ。

9: 12「後に続く全ての世代」「全て」(*olam*)は16節と同じく「永遠の」を意味する。3: 22の「特別なトピック」を見よ。また、ユダヤ教の指導者は、「世代」がヘブル語の原典では誤って綴られていると言っている。彼はその契約が誤った信仰を持つ世代との間のものであるという意味で解釈している。

9: 13「弓...しるし」虹が現れたのはここが初めてのようだ。創世記2: 5-6は、最初の降水が雨とは違う形(つまり地からの霧)で起こったことを暗示している。弓(BDB905)は神が(裁きによって人類を滅ぼさないために)置かれた武器であるようだ。古代には弓を立て懸けておくことは平和の象徴であった。それはまた、神が一般に起こる出来事に新たな意味を付け加えられたということでもあるようだ。

9: 15「私は思い出そう」弓は神と人類のためのしるしであった。これは神が忘れておられないという事実を象徴する実在の物品である(「命の書」と「行いの書」の概念と同様に)。

「二度と再び洪水によって全ての肉なるものを滅ぼさない」これは洪水が全く起きないという意味ではなく、全ての人類と全種類の動物を滅ぼすような全世界的な洪水は二度と再び起きないという意味である。

NASB(改訂版)原典: 9: 18-19

¹⁸箱船から出たノアの息子達はシエム、ハム、ヤペテであった。ハムはカナンの子であった。

¹⁹彼ら3人はノアの息子であり、彼らから出た人々は全地に広がった。

9: 18「シエム」この名前の語源は「名声」あるいは「名前」であろう(BDB1028 II)。

「ハム」この名前は「熱い」(BDB325 II)という意味かもしれない。それはエジプトの古代名(つまり「熱い地」)を反映しているようだ。

「ヤペテ」この名前の語源は「広げる人」あるいは「広がった」であろう(BDB834、22 節のヘブル語の遊びを見よ)。

「カナン」彼(BDB488)は多分2つの理由から述べられている:(1)ノアの泥酔とその結果の呪いはカナンに影響を与えるだろう(2)カナンの子孫は後の時代(つまりモーセの生きた時代)にイスラエルの主な神学的問題となった。

9: 19 これは繰り返し述べられた神のご目的(つまり地を満たすこと)である。バベルの塔はこれの直接的逸脱である。

現代のミトコンドリア DNA の研究の結論が原始の人類は北アフリカから出たということで、一方現代の言語学が人間の話す全ての言語は北部インド発祥であると結論しているのは面白い。これが聖書の記述と地理的にいかに近いか注目しなさい。

明らかに様々な人種の全てはこれら3兄弟の直接の子孫である。現代の DNA の研究は全ての人種は遺伝学的に同じであることを示している！

NASB(改訂版)原典: 9: 20-27

²⁰さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作った。²¹あるとき彼はぶどう酒を飲んで泥酔し、天幕の中で裸になっていた。²²カナンの子ハムは自分の父が裸であるのを見て、天幕の外にいた2人の兄弟達にそのことを告げた。²³シエムとヤペテは着物を取って自分達の肩に掛け、後ろ向きに歩いて行って父の裸を覆った。彼らは父の裸を見まいと顔をそむけていた。²⁴ノアはぶどう酒の酔いからさめたときに末の息子が自分に何をしたかを知った。²⁵そこで彼は言った「カナンは呪われよ。自分の兄弟達の奴隷達の奴隷となれ」。²⁶また彼は言った「シエムの神なる主をたたえよ。カナンは彼(訳者注:シエム)の奴隷となれ」。²⁷神がヤペテを大いなる者とし、シエムの天幕の中に住まわせてくださいますように。カナンは彼(訳者注:ヤペテ)の奴隷となれ」。

9: 20「ノアは農夫となった」 NASB と RSV の訳はヘブル語の意味を読み取り過ぎているようだ。ノ

アは最初の農夫ではない—カイン(4: 2)やラメク(5: 29)はどうか? NRXV では「土の人ノア」となっている。

9: 21「泥酔した」 泥酔(BDB1016 I、KB1500)は聖句の中で繰り返し非難されている(箴言 23 章 29-35 節を参照)。しかし問題はワインではなく、人類がそれを誤用することにある(申命記 14 章 26 節、詩篇 104: 15、箴言 31: 6-7 を参照)。

特別なトピック:ワインと強い飲み物

1. 聖書の用語

A. 旧約聖書

1. *Yayin* これは「ワイン」を表す一般的用語であり、141 回用いられている(BDB406)。この語はヘブル語幹に由来しないのでその語源は明らかではない。この語は常に果実、通常はぶどう、の果汁を発酵させた飲み物を意味する。この語は特に創世記 9: 21、出エジプト記 29: 40、民数記 15: 5 と 10 節で述べられている。
2. *Tirosh* これは「新しいワイン」(BDB440)である。しかし、近東地域の気象条件のために、発酵は果汁を搾った後少なくとも6時間経たなければ始まらなかった。この用語は発酵中のワインを表している。この語は特に申命記 12: 17 と 18: 4、イザヤ 62: 8-9、ホセア 4: 11 で述べられている。
3. *Asis* ヨエル 1: 5 とイザヤ 46: 26 はそれが明らかにアルコール性の飲み物(BDB779)であることを示している。
4. *Sekar* これは用語「強い飲み物」(BDB1016、イザヤ 5: 1 を参照)である。それには酔いを深めるために何かが加えられる。同じヘブル語幹が用語「酔った人」つまり「大酒飲み」の中で用いられている。

B. 新約聖書

1. *Oinos* ギリシャ語で *Yayin* に相当する語(箴言 20: 1 と 31: 6、イザヤ 28: 7 を参照)
2. *Neos oinos* (新しいワイン) ギリシャ語で *Tirosh* に相当する語(マルコ 2: 22 を参照)
3. *Gleuchos vinos* (甘いワイン) 発酵の初期段階にあるワイン(使徒行伝 2: 13 を参照)

II. 発酵

- A. 発酵はごく初期、しばしば第1日目に始まる(果汁を搾ってから6時間後)。
- B. (果汁の)表面に泡が出てくると、ユダヤの伝統ではそれを10分の1税として納めるべきワインであると言っている(*Ma asereth* 1: 7)。
- C. 第1の発酵は1週間で終わる。
- D. 第2の発酵は約40日かかる。この段階でワインは熟成したと考えられ、祭壇への奉げものとしてふさわしいものとなる(*Edhuyyoth* 6: 1)。
- E. 「滓」(熟成沈殿物)があるワインは良いと考えられているが、使用前にはよく濾過(滓を漉し取る)しなければならぬ。

F. ワインの貯蔵可能な期間は最大3年である。それは「古いワイン」と呼ばれる。通常は発酵後1年経ったワインが最も良いと考えられている。

G. 過去100年以内に滅菌処理や化学物質の添加を行えば、発酵過程を延長することができる。

Ⅲ. 聖書での用法

A. 旧約聖書

1. ワインは神の賜物である(創世記 27: 28、詩篇 104: 14-15、伝道者の書 9: 7、ホセア 2: 8-9、ヨエル 2: 19 と 24 節、アモス 9: 13、ゼカリア 10: 7 を参照)。
2. ワインはいけにえの奉げ物である(出エジプト記 29: 40、レビ記 23: 13、民数記 15: 7 と 10 節、28: 14、士師記 9: 13 を参照)。
3. ワインはイスラエルの宴で用いられた(申命記 14: 26 を参照)。
4. ワインは薬として用いられる(Ⅱサムエル 16: 2、箴言 31: 6-7 を参照)。
5. ワインは現実問題となりうる(ノア: 創世記 9: 21、ロト: 創世記 19: 33 と 35 節、サムソン: 士師記 16: 19、ナバル: Ⅰサムエル 25: 36、ウリヤ: Ⅱサムエル 11: 13、アンモン: Ⅱサムエル 13 章 28 節、エラ: Ⅰ列王記 20: 12、統治者達: アモス 6: 6、女性達: アモス4章を参照)。
6. ワインは濫用に対する警告を伴う(箴言 20: 1、23: 20-21 と 29-35、31: 4-5、イザヤ 5: 11 と 22 節、19: 14、28: 7-8、ホセア 4: 11 を参照)。
7. ワインはある集団では禁じられていた(勤務中の祭司: レビ記 10: 9 とエゼキエル 44: 21、ナジール人[訳者注: 禁欲の誓いを立てたヘブル人]: 民数記6章、統治者達: 箴言 31: 4-5 とイザヤ 56: 11-12 とホセア 7: 5 を参照)。
8. ワインは終末論的状况の中で用いられる(アモス 9: 13、ヨエル 3: 18、ゼカリア 9: 17 を参照)。

B. 聖書外典

1. ワインを適量飲むことはとても有用である(伝道者の書 31: 27-30)。
2. ユダヤ教の指導者達は「ワインは全ての薬の中で最も大なるものである。ワインが不足するところでは薬が必要となる」と言っている(BB58b)。
3. ワインを水と混ぜると有害とはならず、味がよくなり、そして人の楽しみを増す(Ⅱマカバイ 15:39)。

C. 新約聖書

1. イエスは水をワインに変えられた(ヨハネ 2: 1-11 を参照)。
2. イエスはワインを用いられた(マタイ 11: 16 と 18-19 節、ルカ 7: 33-34 と 22: 17 以降を参照)。
3. ペテロはペンテコステのときに「新しいワイン」で泥酔することを非難した(使徒行伝 2: 13 を参照)。
4. 薬として用いられたワイン(マルコ 15: 23、ルカ 10: 34、Ⅰテモテ 5: 23 を参照)。
5. 指導者達は(ワインの)濫用者となるべきではない。これは全く禁欲的になれという意味では

ない(I テモテ 3: 3 と 8 節、テトス 1: 7 と 2: 3、I ペテロ 4: 3 を参照)。

6. 終末論的状况の中で用いられたワイン(マタイ 22: 1 以降、黙示録 19: 9 を参照)。
7. 泥酔は非難される(マタイ 24: 49、ルカ 11: 45 と 21: 34、I コリント 5: 11-13 と 6: 10、ガラテヤ 5: 21、I ペテロ 4: 3、ローマ 13: 1-14 を参照)。

IV. 神学的洞察

A. 論理的緊張

1. ワインは神の賜物である。
2. 泥酔は大きな問題である。
3. キリストは私達の模範である(マタイ 15: 1-20、マルコ 7: 1-23、ローマ 14 章、I コリント 8: 7-13 を参照)。

B. 神の定められた境界線を越える傾向

1. 神は全ての良いものの源でいらっしゃる。
2. 人は神の賜物全てを、それらの境界線を越えて利用することにより濫用してきた。

C. 濫用の問題は私達のうちにあり、もののうちにはない。被造物自体には悪はない(ローマ 14: 14 と 20 節を参照)。

9: 22「自分の父が裸であるのを見て、天幕の外にいた2人の兄弟達にそのことを告げた」 ハムの罪は(1)自分の父への不敬、あるいは(2)ある種の性行為(レビ 18: 6 と 7 節を参照)であった。ヘブル人は裸であることをとても意識していた。

神学的意味では、これは墮落への継続的な後退的誘惑を示している。ノアは泥酔した！ハムは自分の父の愚行と裸をはっきりと見たのだ！この、不敬と性欲の濫用の傾向はカナンの子孫において明らかとなった！それらの傾向は、ハムではなくカナンを呪うノアにおいて明らかであったに違いない。

さらに言えば、この話は黒色人種への聖書的非難とは全く無関係である。アフリカの人々は確かにハムから出た(ハムの子孫である)が、カナンの子孫は黒人ではなかった(エジプトの壁画を見ればわかるように)！

9: 24「ノア... 知った」 彼は多分知ろうと求めて知ったのだろうが、おそらくそれは、シエムとヤベテが彼にかぶせた覆い(着物)によってであろう。

「末の息子」 ハムはノアの息子達の中でいつも2番目にその名が挙げられる人である。このヘブル語の単語は最上級「最も若い」あるいは比較級「より若い」かもしれない。

9: 25「そこで彼は言った」 創世記1章にあるヘブル語の語られた言葉の力の概念、そして創世記49章にある両親の祝福の重要性を思い出そう。

「カナンは呪われよ」 この動詞(BDB76、KB91)は *Qal* 受動分詞である。ユダヤ教の指導者達は、カナンが最初にノアの裸を見て父ハムにそのことを告げたが、ノアは多分この事実をハムの末の息子カナンの軽蔑すべき性質として見て、それがハムの子孫全員に及ぶと考えたのだと言って

いる。この呪いは神によるものではなく酒におぼれたノアによるものであることに注意しなさい！

イスラエルの後の時代の歴史から、カナンの子孫は完全に滅ぼされなければならない悪い偶像崇拝の民とみなされたことは明らかである。それは巨人達がまだ生きている彼らの土地においてである。それはレビ記で禁じられている繁殖力崇拝である。

特別なトピック:人種主義

I. 導入

- A. これは墮落した人類による、彼らの社会の実情の普遍的表現である。これは、他者に依存しようとする人類のエゴ(わがまま)である。人種主義はあらゆる点で現代の現象であると言える。また、国家主義(つまり部族[民族]主義)はそれよりも古い表現である。
- B. 国家主義はバベルの塔で始まり(創世記11章)、元々はいわゆる人種の始祖となった(創世記10章)ノアの3人の息子達に関連がある。しかし聖句から、人類がひとつの源(始祖)から出たことは明らかである(創世記1~3章と使徒行伝 17: 24-26 を参照)。
- C. 人種主義は数多い偏見のひとつに過ぎない。その他の偏見としては(1)学歴自慢(2)社会的・経済的傲慢(3)自己正当化的な宗教的律法尊重主義(4)原理主義的な政治協力主義、などがある。

II. 聖書中の資料

A. 旧約聖書

1. 創世記 1: 27 人類、つまり男性と女性は神のお姿に似せて造られたので、その点で彼らは特別である。それはまた個人の価値と尊厳も表している(ヨハネ 3:16 を参照)。
2. 創世記 1: 11-25 ここでは成句「その種類に応じて」が10回も用いられている。これは人種差別を支持するために用いられてきた。しかし文脈から、これが人間ではなく動植物について述べていることは明らかである。
3. 創世記 9: 18-27 これは人種的優越性を支持するために用いられてきた。神がカナンを呪われなかったことを覚えておかなければならない。彼の父ノアは泥酔し昏睡した状態から目覚めた後に彼を呪った。聖書には神が確かにこの神名濫用を見過ごされカナンを呪われたという記述は全くない。神がそうされたときでさえ、このことは黒色人種に影響を及ぼさなかった。カナンはパレスティナに住む人々の父であった。そしてエジプトの壁画は彼らが黒人ではなかったことを示している。
4. ヨシヤ 9: 23 これはある人種が他の人種に仕える宿命にあることを示すために用いられてきた。しかし文脈によれば、ギベオン人はユダヤ人と同人種である。
5. エズラ 9-10 章とネヘミヤ13章 これは人種の意味で用いられてきた。しかし文脈によれば、結婚は人種(の違い)ではなく宗教的理由によって禁止された(彼らはノアと同じ息子から出た。創世記10章)。

B. 新約聖書

1. 福音書

a. イエスはユダヤ人とサマリア人との憎しみを何度も挙げられ、人種的な憎しみがふさわしくないことを示された。

(1) 良きサマリア人のたとえ話(ルカ 10: 25-37)

(2) 井戸端の女(ヨハネ 4: 4)

(3) とても感謝している重い皮膚病の人(ルカ 17: 7-19)

b. 福音は全ての人のためのものである。

(1) ヨハネ 3: 16

(2) ルカ 24: 46-47

(3) ヘブル 2: 9

(4) 黙示録 14: 6

c. 天の御国には全ての人がいるであろう。

(1) ルカ 13: 29

(2) 黙示録 5章

2. 使徒行伝

a. 使徒行伝 10章は神の普遍的愛と福音の普遍的メッセージをはっきりと述べている。

b. ペテロは使徒行伝 11章で自分の行動を非難されたが、この問題は使徒行伝 15章のエルサレムの集会が行なわれるまでは解決されなかった。紀元1世紀にはユダヤ人と異邦人との対立はとても激しかった。

3. パウロの手紙

a. キリストのうちには妨げがない。

(1) ガラテヤ 3: 26-28

(2) エペソ 2: 11-22

(3) コロサイ 3: 11

b. 神は人に対してえこひいきをなさない。

(1) ローマ 2: 11

(2) エペソ 6: 9

4. ペテロの手紙とヤコブの手紙

a. 神は人に対してえこひいきをなさない。I ペテロ 1: 17

b. 神は分け隔てをなさないので、御自分の人々に対してもえこひいきをなさない。ヤコブ 2: 1

5. ヨハネの手紙

信者の責任についての力強い発言のひとつは I ヨハネ 4: 20に見られる。

III. 結論

A. 人種主義はそれ自体があらゆる種への偏見であるので、神の子供には全くふさわしくない。ここに、1964年にニューメキシコ州グロリエタで開催されたクリスチャンいのち委員会のフォーラムで

のヘンリー・バーネットのスピーチの引用を挙げる。

「人種主義は遺伝する。なぜならそれは非科学的であることは言うまでもなく、非聖書的で非クリスチャン的であるからだ。」

B. この問題はクリスチャンに、自らのキリストに似た愛と赦しと失なわれた世界への理解を示す機会を与える。クリスチャンがこれを拒むと自らの未熟さをさらすことになり、悪いものが信者の信仰と確信と成長を遅らせる機会を与えることになる。それはまた、キリストのもとに来る失なわれた人々にとっての妨げとなりうるだろう。

C. 私に何ができるだろうか？（クリスチャンいのち委員会配布用冊子「人種関係」からの抜粋）

個人レベルで

人種に関する問題の解決におけるあなた自身の責任を受け入れなさい。

祈り、聖書の学び、他人種の人々との交わりを通して、あなたの生活からの人種差別の撤廃に努めなさい。

人種についてのあなたの信念、特に人種差別の気持ちを起こさせる考え方に同調しないという決意を表明しなさい。

家族生活で:

他人種の人々への態度作りが家族に及ぼす影響の重大性を認識しなさい。

子供達と親達が人種問題について家庭外で聞いたことを話し合うことによって、クリスチャン的な態度作りを試みなさい。

親達は他人種の人々へのクリスチャン的な態度の模範を示すように注意すべきである。

人種の家系間の家族の友好的関係を作る機会を持つように試みなさい。

教会で:

人種に関する聖書的真理を説教あるいは教えることによって、教会は社会全体に模範を示す良い場所となりえます。

新約聖書に登場する教会に人種的な障壁が見られなかった（エペソ 2: 11-12 とガラテヤ 3 章 26-29 節）のと同様に、礼拝、交わり、教会を通した奉仕は全ての人に開放されていることをはっきりと認識しなさい。

日々の生活で:

職場で全ての人種差別が克服されるように援助しなさい。

権利と機会の平等を守るあらゆる種類の共同体組織を通して活動しなさい。そのとき、非難の対象は人ではなく人種問題であるということ覚えておきなさい。その目的は理解を促すことであり、気まずさを生むことではありません。

賢明だと思えるなら、一般の公教育機関内に交わりの場を設けるためと人種関係の向上のための特別な行動のために、有識者で特別委員会を結成しなさい。

立法府とその構成議員達が、人種の正義を全うし、政治的圧力による偏見の助長に反対する法律を制定できるように助ける。

差別的な内容のない法律の制定に努めている官吏を推挙する。

暴力を避け、法律に敬意を払い、法構造が差別を助長する人々にとって人種差別の道具とならないように、クリスチャン市民としてできることは全てしなさい。

全ての人々との関係においてキリストのご精神とお心を模範としなさい。

「奴隷達の奴隷」これは「最も身分の低い奴隷」を意味するヘブル語の最上級である。これはヨシュアのパレスティナ征服の中で実現した！

9: 26-27 これら2つの節の「神が～なさいますように」は命令法であり、3つは特別な形で、1つは文脈からその意味が分かる。

9: 26「主」 「YHWH」は、シエムがメシアの家系の人であると分かるようにするための、神の契約の名(2: 4の解説を見よ)の特別な用法であるようだ(ルカ 3: 36を参照)。

「シエムの神」シエムは「名前」を意味するが、これは神の特別な名 YHWH(BDB1028 II)の言葉遊びかもしれない。シエムの家系はメシアの家系である。これは 11: 4と逆だ！

9: 27「彼をシエムの天幕の中に住まわせる」解説者達の中にはこれを(1)ローマやヨーロッパの文化の支配のような政治的意味を含む発言、あるいは(2)アブラハムへの契約の一部でもあった(12: 3、エペソ 2: 11-3: 13を参照)、ユダヤ人だけでなく異邦人も祝福されるという霊的意味を含む発言と見る者もいる。

NASB(改訂版)原典: 9: 28-29

²⁸ノアは洪水の後 350 年生きた。²⁹ノアは 950 年生き、そして死んだ。

9: 29 死の支配は続いた(5章を参照)！

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. 墮落は神とノアとの間の契約にどのように影響したのか？
2. 極刑は聖書の教えか？(6節を参照)
3. ノアは黒色人種を呪ったか？
4. 27節は何を述べているか？

創世記10:1－32

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
ノアの子孫	ノアの子孫の国々	国々の表	ノアの息子達の子孫	地の人口増加
10: 1	10: 1	10: 1	10: 1	10: 1
10: 2～5		10: 2～5	10: 2～5	10: 2～5 前半
				10: 5 後半
10: 6～14	10: 6～14	10: 6～14	10: 6～12	10: 6～7
				10: 8～12
			10: 13～14	10: 13～14
10: 15～20	10: 15～20	10: 15～20	10: 15～20	10: 15～19
				10: 20
10: 21～31	10: 21～31	10: 21～31	10: 21～31	10: 21
				10: 22～23
				10: 24～30
				10: 31
10: 32	10: 32	10: 32	10: 32	10: 32

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引き的注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題を上挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

導入

A. 10章に記された詳細な内容の持つ神学的意味は何か？

1. それは神が全ての国々に関心を持っておられることを示している。11章では記された出来事の順番が年代順となっていない。これは、10章の記述が単なる裁き(11: 1-9を参照)についてだけでなく、主に1: 28と9: 1と7節(つまり産み殖えて地を満たせという神のご命令)の成就についても述べていることを示しているようだ。
2. これらの国々の名は、神が裁かれる国々のグループとして預言(イザヤ7~23章、エレミヤ46~51章、エゼキエル27~30章と38~39章を参照)の中にもしばしば登場する。
3. それはアブラハムと彼の子孫に、全世界にYHWHの栄光をもたらすための祭司の王国を築け(12: 3と出エジプト記19: 5-6を参照)という召しの場を設ける。
4. それはメシアの家系に特に注目するという創世記の記述様式に従っている(9: 26を参照)。
5. この章では約70の部族について述べられているようだ。ユダヤ教の指導者達は、申命記32章5節によれば世界には多分約70の言語が存在したのだと言っている。ルカ10: 1には、世界的な福音宣教の必要を説くための、このことの手がかりが数多くある。

B. それは現代の民俗学研究の結果とどのように、そしてなぜ調和しないのか？

1. 聖書の記述が地理学的データに注目しているのに対して、現代の(民俗学)研究は言語学の原則に基づいている。この地理学的情報は(1)年代、そして(2)移住と戦争による人々の移動(エゼキエル16: 3とホセア12: 7を参照)の影響を受ける。
2. この記述の神学的性質を考慮しなければならない。
 - a. 選択的保護
 - b. 人類の統一(アダムとノア)
 - c. イスラエルとの血縁が最も遠い部族についての記述は最低限にとどめられている(あるいは全くない)。
3. この章には複数形の名が多く見られる。これはしばしば祖先がその部族を代表することを示している。複数の部族がしばしば一つ以上の地理学的場所を占めることがある。
4. これは西洋の詳細で科学的な記述ではない。私達はしばしば、これがこの種の内容のリストにおける最初の試みであることを忘れている。その正確さは私達が前提として認めている聖句によって確認されている。しかしこのことは、それが全ての分野についての完全な情報を私達に与えたり、私達の西洋的な考え方に順応することを意図しているという意味ではない。その時代にそれは驚くほど正確なのだ！
5. このリストは、トーラ全体と同じように、手書きで改訂・更新される。このリストの中の名のいくつか(キムメリオス人、スキタイ人、ペリシテ人、メディア人)は紀元前1500~1000年代の古代近東の他の文献には見られない。
6. アジアとポリネシアと(南北アメリカ大陸と)アフリカの多くの地域の人々については述べられていないので、このリストは現在見ることのできる様々な人種のほんの一部だけを挙げているの

だろう。もしこのことが本当なら、全ての人種はノアの3人の息子達から直接に出たのだと言うのは神学的に言いすぎである。

このことは(DNA 研究によって確認され)創世記1・2章の最初の人間の夫婦の中にはっきりと主張された、人間の単一性(訳者注:同一人種であること)を否定する意図からの見解ではない。

C. その構造

1. 2～5節に登場するヤペテはスペインからカスピ海までのメソポタミア北部の地域を占める。
2. 6～20節に登場するハムはアフリカからインドまでのメソポタミア南部の地域を占める。
3. 21節以降に登場するシェムは地中海からインドまでのメソポタミア地域を占めるセム族の土地である。

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 10: 1

¹これらはノアの息子達であるシェムとハムとヤペテの世代の記録である。洪水の後、彼らに息子達が生まれた。

10: 1「これらは世代の記録である」この成句は10章と11章の文脈中で3回繰り返されている(10: 1と11: 10と27節)。これは、著者がその書あるいはバビロニアの奥付を要約して、記述の対応する楔形文字の泥板碑文に注目させる方法であったようだ。

「シェムとハムとヤペテ」彼らの名のこの列举の順番は彼らの年齢にはあまり関係がなく、メシアの家系の人々を最初に挙げて、メシアの家系から血縁的に最も遠い人々を最後に挙げるという神学的な配列である。

NASB(改訂版)原典: 10: 2-5

²ヤペテの息子達はゴメル、マゴグ、メディア、ヤワン、トゥバル、メシク、ティラスであった。³ゴメルの息子達はアシュケナズ、リファト、トガルマであった。⁴ヤワンの息子達はエリシャ、タルシシュ、キティム、ドダニムであった。⁵これらから海沿いの国々が分かれ出て、人々はその言語や氏族に従ってそれぞれの国に住むようになった。

10: 2「ゴメル」これはホメロスの「イリアド」11章13-19節に登場するキムメリオス人(BDB170)のことを述べているようだ。彼らは小アジア北部に住んだ。彼らは多分北方へ移動しヨーロッパの部族となったのであろう。これは彼らを表す同様の用語、例えばドイツ北部の「キムビ」やウェールズの「シムリ」にも見られる。

「マゴグ」この名はエゼキエル38～39章と終末の出来事に関係があるので多くの議論の主題

とされてきた。しかし、マゴグ(BDB156)は同じく2節で挙げられているメシェクとトゥバルとともに小アジアや黒海沿岸の国々と関係のある主要な部族であると言わなければならない。彼らが北方へ移動し現在のロシアの部族群となった可能性はきわめて高い。しかし古代には彼らは約束の地にとても近いところに住んでいた。解説者の大半は、マゴグが黒海南東に住んでいたスキタイ人と関係があると主張している。この情報はジョセファスに由来する。

「メディア」 解説者の大半はこれが、カスピ海南部と南西部に住み、バビロニア新帝国(ネブカドネツアル)の打倒のためのペルシャとの提携においてイスラエルにとって重要な部族であったメディア人(BDB552)のことを述べていると主張している。

「ヤワン」 これ(BDB402)はイオニア地方(南部)のギリシャ人のことを述べているようだ(ダニエル 8: 21、10: 20、11: 2 を参照)。この部族はサンスクリット語では「ヤワナ」、古ペルシャ語では「ユナ」、ロゼッタストーンでは「ヨウナン」と表記される。彼らは後にギリシャ王国だけでなく、エーゲ海沿岸の海洋民族群(つまりフェニキア人やペリシテ人)のひとつとなったようだ。

「トゥバル」 解説者の大半は、これ(BDB1063)は小アジアの中央に住むティベレニア人のことを述べていると主張している。トゥバルとメシェクはどちらも小アジアに住む民としてエゼキエル38～39章に登場する。

「メシェク」 解説者の大半はこれは黒海南部と南西部に住んでいた部族(BDB604)のことを述べていると主張している(エゼキエル 27: 13、32: 26、38: 2、39: 1 を参照)。この情報はヘロドトスに由来する。

「ティラス」 解説者達の間で一般的であるように、この部族(BDB1066)に相当すると考えられる民族がある。これらの名と居住地の多くは不確かであるというほかはない。候補になっているものとしては(1)エトルリア人(2)ペラスギア人と呼ばれるエーゲ海の家賊集団(3)トラキア人[ジョセファスの見解](4)ペルシャ[ユダヤ教の指導者達の見解]がある。

10: 3「アシュケナズ」 これは後にヨーロッパ(特にドイツ)のユダヤ人に与えられた名(BDB79)である。現代ではこれは(1)現在のドイツ付近に住んでいたスキタイ人(2)ウルミア湖付近に住んでいた民(3)小アジアのビティニアの部族のいずれかと考えられている。

「リファト」 これはレバス川流域に住んでいた部族(BDB937)あるいはボスポラス海峡付近に住んでいた部族であるといわれている。

「トガルマ」 これら(BDB1062)は(1)小アジアのカッパドキア付近に住んでいた部族(2)カルケミシュの古代都市に住んでいた部族(3)フリジアの部族のいずれかである。これら3つの可能性のある地域は全て現在のトルコ内に存在する。

10: 4「エリシャ」 解説者の大半はこれ(BDB47)はキプロス島の原住民のことを述べていると主張している。その民はエゼキエル 27: 7 に述べられている。

「タルシシュ」 オルブライトはこれがサルディニアにあったと主張したが、現代の研究者の大半はこれがスペイン南部(タルテッソス)にあったと主張している。その地はⅡ歴代誌 9: 21、詩篇 48: 7、72: 10、ヨナ 1: 3、4: 2 に述べられている。

「キティム」これ(BDB1076Ⅱ)はキプロス島東岸に住んでいた民のことを述べているといわれている。

「ドダニム」解説者の大半は、ヘブル語の文字D(眼鏡の意味)とR(本の意味)は似ているので紛らわしいこと、またこれはロードス島に住んでいた部族(NIVを参照)のことを述べているのだと主張している。しかし、それはギリシャ北部あるいはイタリア南部だと主張する者もある。これ(BDB187)がはっきりしていないのは明らかである。

10: 5「これらから海沿いの国々が」この成句は遠方に住む人々のことを比喩的に表すために用いられるが、ここではヤペテの子供達とともに移住した、地中海と黒海の沿岸に住んでいた民のことを述べているようだ。

「それぞれの領地．．言語．．氏族．．国」これはこの章の4通りの分割方法を表しているようだ：(1)地理的(2)言語的(3)民族的(4)政治的。

NASB(改訂版)原典: 10: 6-14

⁶ハムの息子達はクシュ、ミツライム、プト、カナンであった。⁷クシュの息子達はセバ、ハビラ、サブタ、ラマ、サブテカであり、ラマの息子達はシェバとデダンであった。⁸クシュはニムロドの父となった。ニムロドは地上で勇者となった。⁹ニムロドは主の御前に勇敢な狩人となった。それで、「主の御前に勇敢な狩人ニムロドのような」という言い方がある。¹⁰彼の王国の初めはバベル、エレク、アッカド、カルネであり、全てシナルの地にあった。¹¹彼はその地からアッシリアへ進み、ニネヴェ、レホボト-イル、カラ、¹²そしてニネヴェとカラの間に大都市レセンを建てた。¹³ミツライムはルディム、アナミム、レハビム、ナフトウヒム、¹⁴パトルシム、カスルヒム(この人からペリシテ人が出た)、カフトリムの父となった。

10: 6「クシュ、ミツライム、プト、カナン」これらのハムの息子達は以降の節でより詳しく述べられている：クシュ(BDB468)は7-12節で、ミツライム(BDB595)は13-14節で、カナン(BDB488)は15-19節で。プト(BDB806)については述べられていないが、東アフリカ(ソマリア)かアラビア南部カリビアかキレネのいずれかのことを述べているようだ。これらの多くの可能性のある位置については不確かであることは明らかである。

10: 7「セバ」これ(BDB685)は、現在得られている情報に基づいて言えば、ナイル川上流域である。その地はイザヤ 43: 3 に述べられている。

「ハビラ」これは文字通り「砂地」(BDB296)であり、多分エジプトの中のどこかに位置していたと思われる。

「サブタ」これ(BDB688)は東アフリカの現在のエチオピア付近あるいはアラビアの一都市かもしれない。

「ラマ」これ(BDB947)はアラビア南西部のサバテア人であるようだ。

「サブテカ」これ(BDB688)もエチオピアのことを述べている。

「**シェバ**」これ(BDB985)はアラビア南西部の有名なシェバの女王の領地であるようだ(Ⅰ列王記 10: 1-10、ヨブ 1: 15 と 6: 19、詩篇 72: 10 と 15 節、イザヤ 60: 6、エレミヤ 6: 20 を参照)。

「**デダン**」これ(BDB186)はアラビアのどこかであるようだ。クシュの息子達が東アフリカとアラビア半島に住みついたことは明らかである。その地はイザヤ 21: 13、エレミヤ 25: 23 と 49: 8、エゼキエル 25: 13 と 27: 20 に述べられている。

10: 8「ニムロドの父」ニムロド(BDB650)は最初の大文明の始祖であったので特別にその名がつけられている。これはハムの子孫がバビロンを建てたことを意味している。彼はその名がカッシート人の名と言語学的に似ているのでクシュの息子達と関係がある。クシュ由来の2つの部族があり、ひとつは7節に登場する紅海東岸の部族で、もうひとつのここで該当すると思われる部族は8節に登場する紅海西岸の部族である。

「**ニムロド**」ラシとリュールポルトによればこの用語は「反逆」を意味しているようだ。この語に留意すると、次の2つの主な成句「勇者」と「勇敢な狩人」は「暴君」や「征服者」や「人殺し」のような悪い意味で解釈される。しかし、私達にはこれが言外の意味かどうかははっきりしないが、文脈には合っているようだ。この男はメソポタミアの大都市のいくつかを建て、明らかに史上初めて世界に権力をふるおうとしている。解説者の大半はこれはトウクリ-ニヌルタ1世のことを言っているのだと主張しているが、彼は紀元前13世紀にアッシリアとバビロンを支配した人物で、この時代にはまだ存在していなかった。彼はニヌスと呼ばれたが、彼が生きた時代はニムロドの生きた時代よりかなり後であった。解説者の中には、これはアッカドという都市の支配者であったサルゴン1世のことを言っているのだと主張する者もある。

10: 9「主の御前に勇敢な狩人」解説者の中には、神がご自分の尊厳の下に一人の狩人に目を留められたのだと主張する者もあるが、もしこの成句が最初の征服者と人間世界の体系の樹立者のことを言っているなら(ミカ 5: 6 を参照)、神が彼に目を留められたというのは理解できる。

10: 10「バベル」バビロニア人はこの用語(*bab-ili*)は「神々の門」を意味すると言っている。しかし、創世記11章でユダヤ人はその意味を *balil* (彼は混乱した[BDB93])と解釈した。この節に挙げられた全都市はシニアルの地に次々と現れては消えた大都市である。

「**カルネ**」解説者の中には、これ(BDB484)はニップルの一都市のことを言っているのだと主張する者もあれば、これを再動詞化して「彼ら全員」の意味だと主張する者もある。

「**シニアルの地**」これは言語学的に用語「スメル」あるいは「スメリア」(BDB1042)と関連がある。それはメソポタミアの南部地域のことを言っている。

10: 11「彼はその地からアッシリアへ進んだ」解説者の中には、これはニムロドのことを言っていて、文脈に最も良く合うと言う者もある(ミカ 5: 6 を参照)。しかしその他の者や文献、つまりセプトゥアギンタ、ウルガタ聖書、古代シリア語聖書、マルティン・ルター、ジャン・カルヴァンらはこれはアッシュルのことだと言っている。

「**ニネヴェ**」これ(BDB644)はティグリス川上に位置するアッシリア帝国の首都である(Ⅱ列王記 19: 36、イザヤ 37: 37、ヨナ 1: 2 と 3: 2-7 と 4: 11、ナホム 1: 1 と 2: 8 と 3: 7、ゼパニア 2: 13 を参照)。

「レホボト-イル」これは文字通り「幅の広い通りのある都市」あるいは「都市の広場」を意味し、多分ニネヴェの街の様子を言い表したものである(BDB944 II)。

「カラ」これはアッシリアの大都市である(BDB480 II)。その現在の名はニムルドで、明らかにニムロドという名に関係がある。

10: 13「ミツライム」解説者の多くはこれは南北エジプトのことを言っているのだと主張している(BDB595)。

「ルディム」これは小アジアのリディア人のことを言っているのだろう(BDB530)。

「アナミム」これはエジプトのオアシス西部を領地としていた部族であろう(BDB777)。

「レハビム」これは北アフリカ沿岸を領地としていた砂漠の部族のことを言っているようだ(BDB529)。

「ナフトウヒム」これはメンフィスという都市近郊に住んでいた部族であろう(BDB661)。13 節に挙げられた名は全て明らかにエジプトとその周辺の地域に関係がある。

10: 14「パトルシム」これは砂地を意味し、多分エジプト北部のことを言っている(BDB837)。

「カスルヒム(この人からペリシテ人が出た)」この成句については、アモス 9: 7 からこれがペリシテ人がクレタ島から出たことを暗示していると思われることから、多くの議論がある。これは地理的に推定されている場所のひとつである。エーゲ海の海の民の相続く侵略と移住は、エジプトとパレスティナを含む地中海世界の海沿いの国々の大半に影響を与えた。カスルヒムについては BDB493 を見よ。

「カフトリム」これはカフトルと呼ばれるクレタ島の住民のことを言っているようだ(BDB499)。

NASB(改訂版)原典: 10: 15-20

¹⁵カナンは長男となるシドン、ヘト、¹⁶エブス人、アモリ人、ギルガシュ人、¹⁷ヒビ人、アルキ人、シニ人、¹⁸アルワド人、ツェマリ人、ハマト人の父となった。そして後にカナン人の諸氏族が広がった。¹⁹カナン人の領土はシドンから進んでゲラル、そしてガザにまで広がり、さらにゾドム、ゴモラ、アドマ、ツェボイム、そしてラシャにまで広がった。²⁰これらは、氏族、言語、地域、民族に従って分類されたハムの息子たちである。

10: 15「シドン」これはパレスティナ北部にあった有名なフェニキアの港であり、元々は首都であった(BDB850)。

「ヘト」これ(BDB366)はセム族以外の名であるようだ。これは多分ヒッタイト族の起源であろう。聖書では彼らは2つの場所に定住していた:(1)ヘブロンという都市の周辺(2)中央トルコのパレスティナ北部。彼らは紀元前 1800-1200 年代にこの地域全体を支配していた。ヒビ人と呼ばれる部族も用語ヘトと関係があるかもしれない。

10: 16「エブス人」これらは、後にエルサレム(BDB101)と呼ばれるようになったサレムあるいはエブスという都市の住民であった。

「アモリ人」 この用語「アモリ人」(BDB57)は用語「カナン人」と同様に集合的な用語かもしれない(創世記 15: 16 を参照)。この語は、カナン人が「低地人」(文字通り「紫の地」を意味する名)の意味を持つと同様に、「高地人」(文字通り「西方の人」を意味する名)の意味を持つと思われる。聖書ではカナンの住民はいくつかの箇所で挙げられている:(1)創世記 13: 7 と 34: 30 と士師記 1 章 4 節と 5 節に登場する2つの部族(2)申命記 7: 1 とヨシュア 3: 10 と 24: 11 に登場する7つの国(3)創世記 15: 19-20 に登場する10の国(4)なかでも最も一般的なものはモーセ5書に多数回登場する6番目の国である。

「ギルガシュ人」 これはカナンの様々な部族の中にその名が挙げられているカナン人の部族である(BDB173、創世記 10: 16 と 15: 21、申命記 7: 11 とヨシュア 3: 10 と 24: 11、ネヘミヤ 9: 8、I 歴代誌 1: 14 を参照)が、居住地域ははっきりしていない。

10: 17「ヒビ人」 これらは中央パレスティナの住民であろう(BDB295)。解説者の中にはこれらをフルリ人(訳者注:紀元前 2000-1200 年代に中東に住んでいた非セム系の古代民族)であると言う者もいる。民数記 13: 29 はパレスティナにおけるこれらの部族の分化を地理的観点からうまく概説している。

「アルキ人」 これはシドンの北方の湾岸都市と島の住民であろう(BDB792)。

「シニ人」 これはアルケ近郊の都市の住民であろう(BDB696)。

10: 18「アルワド人」 これはパレスティナの北岸の沖のとある島の住民のことを言っているようだ(BDB71)。前述の2つの部族と同様に彼らはトリポリスの北に住んでいた。

「ハマト人」 これはオロンテス川上の都市の住民のことを言っている(BDB333)。

10: 19「ソドムとゴモラとアドマとツェボイム」 これらは神が後に滅ばされる平原の都市である。これらは死海の南端に位置している。

「ラシャ」 ジェロームは、これは死海の東にあったと言っている(BDB546)。

10: 20 これは 5 節と同様の(部族の)分化の概説である。

NASB(改訂版)原典: 10: 21-31

²¹エベルの全ての子供達の父でありヤペテの兄であるシエムにも子供達が生まれた。²²シエムの息子達はエラム、アシュル、アルパクシャド、ルド、アラムであった。²³アラムの息子達はウツ、フル、ゲテル、マシュであった。²⁴アルパクシャドはシェラの父となり、シェラはエベルの父となった。²⁵エベルには2人の息子が生まれた。一人は名をペレグといった。その時代に地が分けられたからである。そして彼の兄弟は名をヨクタンといった。²⁶ヨクタンはアルモダド、シェレブ、ハツアルマヴェト、イエラ、²⁷ハドラム、ウツアル、ディクラ、²⁸オバル、アビマエル、シェバ、²⁹オフィル、ハヴィラ、ヨバブの父となった。これらは皆ヨクタンの息子達であった。³⁰彼らの領土はメシャから進んで東の高原地帯のセファルにまで広がった。³¹これらは、氏族、言語、地域、民族に従って分類されたシエムの息子たちである。

10: 21「シェム」 これはヘブル語の用語「名前」(BDB1028 II)である。彼についてはこの箇所と11章 10-26 節に述べられているので彼は重要人物とみられている。10~11章の反逆の民は自分達のために「名前」をうちたてようとする。彼の名は 4: 26 と関連がある(つまり YHWH の御名は栄光を受けた)。彼は選ばれた祝福の家系を代表する者となるだろう(12: 2 を参照)。

「エベル」 この名の語源は、ユダヤ人のみの部族よりはるかに大きな部族を表す用語「ヘブル人」(BDB720 II)と非常によく似ている。エベルと、エジプトの多くの文書や「ハビルブ」(創世記 14 章 13 節を参照)と呼ばれる石碑に見られる一節との関係については多くの推測がある。エベルという名の語源は「過ぎ去る」で、これは放浪の部族を意味すると思われる。

「ヤペテの兄」 ラシは、ヘブル人の間では兄弟の年齢の上下についてはあいまいにされていたと主張している。

10: 22「エラム」 これは、シュシヤンを首都とする、ティグリス川の東にあった大王国である。これはこの章で挙げられている部族の中で最も東に住んでいた部族であろう(BDB743)。

「アシュル」 これ(BDB78)は(1)人物(2)都市(3)国(つまりアッシリア)のことを言っているようだ。

「アルバクシャド」 これ(BDB75)はニネヴェ(アッシリアのもうひとつの首都)の北方の部族であるようだ。NIV ではアルファクシャドとなっている。

「ルド」 これ(BDB530)は小アジアのリディア人の国のことを言っているようだ。ヘロドトスは、**彼らはセム人の都市ニネヴェの起源について述べていると主張している。**

「アラム」 これ(BDB74)は現在のシリアに相当する地域のことを言っている。

10:25「ペレグ」 これは後にアブラハムが出ることになる特別な家系であり、11: 18-27 で完全に議論される。これは「分かれた」(BDB811 II)という意味かもしれない。

「彼の時代に地が分けられたからである」 このヘブル語の用語は文字通りメソポタミア南部に整備されていたと思われる「排水路」を意味しているが、一般的な語源は「分岐」(BDB811、KB928、*Niphal* 完了形)である。ペレグと「分かれた」(ニプレガ)の間には音の遊びがある。これは11章で述べられている言語の分化のことを言っているようだ。従って、10章の(部族の)分散は、11章と比較すると年代順ではない。

10:26-29 これはアラビアの部族の描写である。

10:28「シェバ...ハヴィラ」 これは 22 節のアシュルとともにハム族とセム族の両方に含まれるようだ。これは(1)地理的な移住(2)戦争の勝利(3)結婚による2つの部族の結びつき、のためである。この家系は多くの点で特別ではない。

NASB(改訂版)原典: 10: 32

³²これらは家系と民族に従って分類されたノアの息子達の氏族群である。洪水の後、地上でこれらから諸民族が分かれ出た。

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. 創世記10章の目的は何か？
2. なぜニムロドだけが特別な取り扱いから除外されたのか？
3. イスラエル、モアブ、エドムがこの国々のリストに述べられていないのはなぜか？

創世記11:1-32

現代語訳聖書の段落分割

NASB	NKJV	NRSV	TEV	NJB
世界の言語、 バベル、混乱	バベルの塔	バベルの塔	バベルの塔	バベルの塔
11: 1-9	11: 1-9	11: 1-9	11: 1-9	11: 1-4
				11: 5-9
シェムの子孫	シェムの子孫	アブラハムの 家系	シェムの子孫	洪水後の家父長達
11: 10-11	11: 10-11	11: 10-11	11: 10-11	11: 10
				11: 10 後半-11
11: 12-13	11: 12-13	11: 12-13	11: 12-13	11: 12-13
11: 14-15	11: 14-15	11: 14-15	11: 14-15	11: 14-15
11: 16-17	11: 16-17	11: 16-17	11: 16-17	11: 16-17
11: 18-19	11: 18-19	11: 18-19	11: 18-19	11: 18-19
11: 20-21	11: 20-21	11: 20-21	11: 20-21	11: 20-21
11: 22-23	11: 22-23	11: 22-23	11: 22-23	11: 22-23
11: 24-25	11: 24-25	11: 24-25	11: 24-25	11: 24-25
11: 26	11: 26	11: 26	11: 26	11: 26
	テラの子孫		テラの子孫	テラの子孫
	11: 27-30	11: 27-30	11: 27-30	11: 27
11: 27-30				11: 27 後半-30
11: 31-32	11: 31-32	11: 31-32	11: 31-32	11: 31
				11: 32

第三読書サイクル(viiページを見よ)

原著者の意図に段落レベルで従う

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

(解釈を試みようとしている)章を一通り読みなさい。その章の主題を明らかにしなさい。主題

を上に挙げた5つの現代語訳聖書の間で比較しなさい。段落分割は神の啓示により行うことではないが、原著者の意図に従うために重要なことであり、それは解釈の中心である。各段落は一つで唯一の主題を持つ。

1. 第一段落
2. 第二段落
3. 第三段落
4. (以下同様)

文脈の洞察

A. 10～11章は逆年代順で書かれている。

B. 言語の混乱とその結果として起こった人々の分散は(神による)裁きの行為のようであるが、それはこの点でひとつの世界政府を目指した政治運動を推進した国家主義の発展であったことを覚えておきなさい。従って、これはある意味で神のもうひとつの祝福である。

クリスチャンにとって五旬節(ペンテコステ)は神学的にバベルの塔の逆なのだ!

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 11: 1-9

¹全地は同じ言語と同じ言葉を用いていた。²人々は東の方に移動してきて、シナルの地に平原を見つけてそこに住みついた。³彼らは互いに言った「さあ、煉瓦を作って、それらをよく焼こう」。彼らは石の代わりに煉瓦を、漆喰の代わりにタールを用いた。⁴彼らは言った「さあ、我々自身のために町と、先端が天に届くほどの高い塔を建てて、我々が全地の面に散らされることのないようにしよう」。⁵主は天から降られて、人の子らが建てていた町と塔を御覧になった。⁶主は言われた「見よ、彼らは一つの民であり、皆同じ言語を用いている。このようなことを彼らはやり始めたが、今や彼らのたくらみを止められるものは何もない。⁷さあ、我々は降りて行って彼らの言語を混乱させて、互いに相手の言っている言葉が理解できないようにさせよう」。⁸そして主は彼らをそこから全地の面に散らされたので、彼らは町の建設を止めた。⁹このようなわけで、その町はバベルと呼ばれた。なぜなら主がそこで全地の言語を混乱させ、そこから彼らを全地の面に散らされたからである。

11:1「全地は同じ言語を用いていた」 10章に記されている(民族の)分散を11章が説明しているのは明らかである。

この一つの言語は明らかにエデンにその起源を持つものであるが、ヘブル語ではない。現在知られている最古の書き言葉は紀元前 3000 年頃(ABD、第一巻、1213 ページ)のサマリアの楔形文字と紀元前 10000～8000 年頃の文化で用いられていた言語である。

11:2「人々は東の方に移動した」これは箱船が洪水の終わりに流れ着いた場所、つまりアララト山からの遠方への移動を意味しているようだ。成句「移動した」は文字通り「転居した」(BDB652、KB704、*Qal* 不定詞構造)の意味である。メソポタミアはアララト山の南東にある(現在のトルコからイランに至る地域)。

「シニアルの地」これはメソポタミア南部、あるいはカルデア(BDB11042)とも呼ばれるバビロンのことを言っている。

11:3 この節には1つの *Qal* 命令形と2つの関連する軍事用語形がある。これは歴史的に正確なメソポタミア(編み髪をしない人々の国)の建築技術である。この地域には岩がなかったので煉瓦が焼かれた。KJVでは「軟泥」となっているが、それは明らかにこの地域に噴出する黒い粘性物質のことを言っている。それは私達がタール、アスファルト、あるいはピッチ(BDB330、6: 14を参照)と呼んでいるものである。

11:4 この節には1つの *Qal* 命令形と、軍事用語として用いられている2つの関連する未完了形がある。この記述には関連する4つの事柄があるようだ:(1)町と塔の建設(2)その時代の他の建築物に匹敵する、その塔の大きさ(3)人々は名声を得ようとした(4)人々は外地(つまり全地)に散らされることを望まなかった。この塔の正体は明らかではない。解説者の多くはそれはバビロニアのジグurat(訳者注:古代バビロニアなどのピラミッド形寺院)に関連すると主張しているが、相当するヘブル語の単語は、「塔形要塞」と訳される「ミグダル」である(BDB153、士師記 8: 9-17を参照)。それは明らかに、神から離れて生き、それによって神の御意志を妨げようとする人類の試みである。フィロも、人々は互いに離れ離れにならないように煉瓦の一つ一つに自分達の名前を書いたと言っている。これは神から離れて生きようとする人間のプライド(ダニエル書と黙示録の18章と19章を参照)の最初の例である。

「先端が天に届くほどの高い塔」メソポタミアの人々は星を崇拜していた(彼らにとって天の光は神であった)。これらの塔は夜空の観察のための天文台であった。それらは人々が神を崇拜し、神に出会う場であった。

11:5 これはとても擬人的である(18:21 あるいは出エジプト 3: 8を参照)。

11:7「我々は降りて行こう」この節にも1つの *Qal* 命令形と2つの関連する軍事用語がある。これは 1: 26 と 3: 22 と同様に複数形である。この節の文章表現は英語では擬人的であるように見えるが、それは神の側の弱さではなく、罪深い人類に墮落した人生を送るのを止めさせる、神の恵みの御業について述べている(ローマ1~3章を参照)。

「~しよう」という神の御業は「~しよう」という人間の反逆を挫折させる(3、4、7 節を参照)。

11:9「バベル」この時代に全ての人々が一つの言語を話していたと主張する、メソポタミアのサマリア人の文化に関する文書が考古学によって明らかにされているのは興味深い(アメリカ東洋学会誌 88 巻 108-111 ページの Samuel Noah Kramer の記事「言語の混乱: サマリア人の場合」を参照)。ヘブル語の一般的語源は「混乱」(つまり *balal*、BDB93)であり、これは神が人々の一つの言語を混乱させようとしたことを述べているようだ。バベルは文字通り「神の門」(アッカド語の

bab-ilani)の意味であるが、その頂部で星の神々を崇拝するための神殿のある大きな建物であったジグuratの名のいくつかととてもよく似ている。バビロンは、ニムロドとその後のネブカドネツアル、そして黙示録に登場する海の獣の例にみられるように、墮落した世界権力の象徴となる。

NASB(改訂版)原典: 11: 10-11

¹⁰これらはシエムの世代の記録である。シエムは100歳になったとき、つまり洪水の2年後にアルパクシャドの父となった。¹¹そしてシエムには、アルパクシャドの父となってから500年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

シエムの子孫は、創世記 5: 3-32 と 10: 21-31 に登場するセツからメシアの家系に続いている。この家系は 11: 10-25 でテラとアブラハムに続くことになる(ルカ 3: 23-38 を参照)。

NASB(改訂版)原典: 11: 12-13

¹²アルパクシャドは35歳のときにシェラの父となった。¹¹そしてアルパクシャドには、シェラの父となってから403年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

マソラ原典では 13 節でカイナンが除外されているが、セプトウアギンタではルカ 3:36 と同じくその名が含まれている。

「シェラ」 BDB1019 II を見よ。

NASB(改訂版)原典: 11: 14-15

¹⁴シェラは30歳のときにエベルの父となった。¹¹シェラには、エベルの父となってから403年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

「エベル」 BDB720 を見よ。

NASB(改訂版)原典: 11: 16-17

¹⁶エベルは34歳のときにペレグの父となった。¹⁷エベルには、ペレグの父となってから403年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

「ペレグ」 BDB811 II を見よ。

NASB(改訂版)原典: 11: 18-19

¹⁸ペレグは30歳のときにレウの父となった。¹⁹ペレグには、レウの父となってから209年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

「レウ」 BDB946 を見よ。

NASB(改訂版)原典: 11: 20-21

²⁰レウは32歳のときにセルグの父となった。²¹レウには、セルグの父となってから207年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

「セルグ」 BDB974 を見よ。

NASB(改訂版)原典: 11: 22-23

²²セルグは30歳のときにナホルの父となった。²³セルグには、ナホルの父となってから200年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

「ナホル」 BDB637 を見よ。

ディスカッションのための質問

本書は学習の手引きの注解書であるから、あなたは自分自身の聖書解釈に責任を負わなければならない。私達は各自、自分の目の前にある光の中を歩まなければならない。あなた、聖書、そして聖霊が解釈において優先される。あなたはこれ(優先事項)を解説者に譲渡してはならない。

ディスカッションのためのこれらの質問はあなたが聖書のこの箇所の主題について考えるのを助けるため与えられる。これらは(ある特定の概念を)定義することではなく考えを喚起することを意図している。

1. バベルの塔とは何か？
2. 創世記11章で人は神に逆らって何をしようとしたのか？

創世記 11: 24-13: 18 への導入

- A. この創世記の箇所はアブラハムへ続くメシアの家系についてのより深い議論で始まっている。
- B. 創世記の50の章は神の契約の民の救いと関係があり、被造物とは無関係である。全ての章の内容を理解するのにひとつの章に注目することがこの書の目的である。
- C. アブラムには信仰深さとともに弱さもみられる。選びと慈みの神は彼(アブラム)の救いの目的のために彼を召し出される。
- D. 神は世界を選び取るためにアブラハムを召された(12: 3 前半、出エジプト 19: 4-6、II ペテロ 2 章 5 節と 9 節、黙示録 1: 6 を参照)。神は、ご自分に似せて造られた全ての人々が救われることを望んでおられる(創世記 3: 15、エゼキエル 18: 23 と 32 節、I テモテ 2: 4 と 9 節、II ペテロ 3: 9 を参照)。
- E. タルムードは召しの7つの祝福について特記している。

1. アブラムは大いなる国家の父となる。
2. 彼は生涯を通じて祝福される。
3. 彼は有名な人となる。
4. 彼は他の人々の祝福となる。
5. 彼をたたえる人々は祝福される。
6. 彼を拒む人々は呪われる。
7. 彼は全世界に影響を与える。

単語と聖句の研究

NASB(改訂版)原典: 11: 24-25

²⁴ナホルは29歳のときにテラの父となった。²⁵ナホルには、テラの父となってから119年後に新たに息子達と娘達が生まれた。

11: 24「テラ」「テラ」は「とどまる」、「遅れる」、あるいは「移動する」(BDB1076)という意味であるようだ。ヨシュア 24: 2 から彼と彼の家族が多くの神を崇拝していたことは明らかである。彼の家族の各人の名は主に、彼らが月の女神「ツィン」を崇拝していたことを示している。その女神はウル、テマ、ハランで崇拝されていた。しかし、創世記 31: 53 は彼が YHWH を知っていたことを暗示している。

NASB(改訂版)原典: 11: 26

²⁶テラは70歳のときにアブラムとナホルとハランの父となった。

11: 26「アブラムとナホルとハラン」このような名前の枚挙の順番は重要度の順番であり、年齢の順番ではない。アブラムという名は(1)「あがめられる父」(2)「父をあがめる者」(3)「あがめられる方は私の父」(BDB4)という意味であるようだ。ナホルという名は「熱望」という意味で、アッシリアの地名(BDB637)であり、ハランは「山の住人」(BDB248)という意味である。

NASB(改訂版)原典: 11: 27-30

²⁷これらはテラの世代の記録である。テラはアブラムとナホルとハランの父となり、ハランはロトの父となった。²⁸ハランは自分の父テラがまだ生きているときに、自分の生まれた地のカルデアのウルで死んだ。²⁹アブラムとナホルはそれぞれ妻をめぐらした。アブラムの妻の名はサラといい、ナホルの妻の名はミルカといい、ハランの娘であった。ハランはミルカとイスカの父であった。³⁰サラは不妊のために子がなかった。

11: 27「ロト」 BDB532 II を見よ。

11: 28「ハランは自分の父テラがまだ生きているときに死んだ」 これはハランが自分の父よりも先に死んだことを表す熟語である。

「カルデアのウル」 カルデアの文化は発展し(サマリア人の強大な文化の上に打ち立てられ)、アブラムの時代(BDB505)以降に栄えた。

11: 29「サラ」 BDB979 を見よ。

「ミルカ」 BDB574 を見よ。

「トイスカ」 この節でのこの人物(BDB414)とその存在理由は明らかではない。ユダヤ教の指導者達(そしてジョセファス、ジェローム、アウグスティヌス)はその人物はサラだと言っているが、原典には彼女ら(ミルカとイスカ)は父が異なる(異父姉妹である)ことが明記されている。

11: 30「サラは不妊であった」 サラ、ラケル、そしてリベカが不妊であること(BDB785)は、神が人間の歴史と家系をご自分の権力で支配するために用いられる方法のひとつである。人間の世代の性的側面はメシアの家系にとって重要ではない。

このイスラエルの歴史の神学的側面と同じようなことは、メシアの家系の中に初子がないという事実の中にも見られる。文化的に初子は一族のかしらであったが、YHWH の人々の間ではそうではなかった。それは神のご選択であったのだ！

NASB(改訂版)原典: 11: 31-32

³¹テラは息子アブラムと、ハランの息子で自分の孫であるロトと、義理の娘でアブラムの妻であるサラを連れて、カナン地に入るためにカルデアのウルを出発した。彼らはハランまで来るとそこに住みついた。³²テラは 205 年生き、ハランで死んだ。

11: 31「彼らは出発した」 自分の家族を連れ出したのがテラかアブラムかについては多くの議論がある。解説者の中には、テラには神の召しがあったのに彼は墮落して偶像崇拜を再開したのだと仮定する者もいる。この節全体の中心はアブラムであってテラではないと私には思われる。ウルを去ることによってアブラムは彼の親族から去っただけでなく、(それまで崇拝していた)自然の神々からも離れた。彼は快適な定住生活を捨てて、極秘に自分に語られた新しい神に従ったのである。

11: 32「テラは 205 年生きた」 11: 26 と 12: 4 に登場する年数を足すと 145 年となり、これを 205 年から引くと、テラはアブラムがハランを去った後 60 年生きたことが明らかとなる。これは使徒行伝 7: 4 のステパノの説教と矛盾する。ステパノの歴史回顧のいくつかの側面は、旧約聖書に記された歴史について私達が現在理解していることと矛盾する。多分彼はユダヤ教の指導者達の用いた解釈方法を採用したのだろう。研究者の中には、アブラムは 11: 26 で最初に名が挙げられているが生まれたのはかなり後で、従ってステパノは正しいと主張する者もいる。サマリアのモーセ五書では(11: 26 と 12: 4 に登場する年数の合計が)「144」となっているのは興味深い。

学説についてのコメント

私は信仰あるいは信条に関するコメントを特には厭わない。私は聖書自体についての発言を好む。しかし私は、信仰に関するコメントが、私と面識のない人々に私の学説的見解を明らかにする方法を示すであろうことはわかっている。神学的な誤りや詐欺があまりにも多い現代において、私の神学的見解を短くまとめると以下ようになる。

1. 聖書は新・旧約ともに、神により啓示された、誤りのない、権威ある、永遠の神のお言葉である。それは超自然的導きのもとに人類によって記された神の自己啓示である。それは私達にとって、神と神のご目的についての明白な真理の源である。それはまた信仰と神の教会の実践の源である。
2. ただおひとりの、永遠で創造主で救い主でいらっしゃる神がおられる。神は全ての見えるものと見えないものの創造主でいらっしゃる。神は公平で義なる方でもいらっしゃるが、愛し慈む存在としてご自身を現わされた。神は3つの異なる人格、つまり父なる神と御子と聖霊、現実には互いに別な存在であるが本質的には同じ存在、としてご自身を現わされた。
3. 神はご自分の世界を積極的に支配しておられる。ご自分の造られたものについての永遠で不変の計画と、人間ひとりひとりに自由意志を許すという計画がある。神の知識とお許しがなければ何事も起きないが、神は天使と人間に個人的な選択をお許しになった。イエスは「父」に選ばれた方で、万物はイエスによって確実に選ばれる。神による出来事の予知は、人間が予め決めた計画とそんなに違うものではない。私達は皆、自分達の考えと行動に責任がある。
4. 人類は、神のお姿に造られて罪のないものであったにもかかわらず、神に対して反逆することを選んだ。超自然的な代理者によって誘惑されたとはいえ、アダムとエバは自分達の意図的な自己中心さに責任があった。彼らの反逆は人類と被造物に影響を与えている。私達は皆、自分達アダムと同じ境遇にあることと自分達の意図的な反逆に対して、神の慈みと恵みを必要としている。
5. 墮落した人類に、神は赦しと(ご自分との関係の)回復の手段を与えられた。神の一人子イエス・キリストは人間となられ、罪なき人生を送られ、私達の身代わりとなって死ぬことによって、人類の罪を贖われた。イエスは神との交わりの回復のための唯一の方法でいらっしゃる。イエスの成し遂げられた御業に基づく信仰を通しての手段以外に救いの手段はない。
6. 私達ひとりひとは個人的に、イエスによる神の赦しと回復のお申し出を受けなければならない。これはイエスを通した神のお約束を自分の意志で信じることと、自分の意志で既知の罪から離れることにより達成される。
7. 私達は皆、キリストへの信仰と罪からの悔い改めに基づいて、完全に赦され回復されている。しかし、この新しい関係の事実は、変わった、そして変わりつつある生活の中に見られる。人類についての神の最終目的は、いつの日か来る天国であるだけでなく、今私達がキリストのようになることでもある。本当に救われた人々は、時々罪を犯してしまうとはいえ、生涯を通じ

て信仰を持ち続け、悔い改め続ける。

8. 聖霊は「もう一人のイエス」でいらっしやる。聖霊は、失なわれた人々をキリストのもとに導き、救われた人々がキリストのようになってゆくのを助けるために世に存在される。聖霊の賜物は救いのときに与えられる。その賜物はイエスのお体の中で分けられたイエスの命と(神の子としての)権威、そして教会である。本質的にイエスのご態度とご意志であるこれらの賜物は御霊の実によって与えられる必要がある。聖霊は聖書の時代と同じように私達の生きるこの時代にも生きておられるのだ。
9. 父なる神は、復活されたイエス・キリストに万物の裁きを任されている。イエスは全ての人を裁くために地上に戻ってこられることになっている。イエスを信じ、子羊の書にその名が記されている人々は、イエスの再来のときに永遠に栄光を受ける体を頂くことになる。彼らはイエスとともに永遠に生きるだろう。しかし、神の真理への応答を拒む人々は三位一体の神との交わり of 楽しみから永遠に引き離されることになる。彼らは悪魔とその天使達とともに懲らしめられるだろう。

これは確かに完全ではないし一貫していないが、私はそれがあなた(読者各位)に、私の心にある神学的想いを伝えることを望んでいる。私はこのような言い方を好む:

「本質には統一を、外辺には自由を、万物に愛を」